

# 講義概要

2010年度



新潟国際情報大学



# 平成22年度（2010年度）授 業 暦

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	事 項
4月				1	2	3		1日 入学式 2日 1年ブレースメントテスト等 5日～7日 新入生合宿研修 7日 2・3・4年次ガイダンス 8日 前期授業開始（全学年）
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
5月	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
							1	
6月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	21日 スポーツ大会（休業日）
7月	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
			1	2	3	4	5	
8月	6	7	8	9	10	11	12	8日 開学記念日(休業日)授業実施
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
9月	27	28	29	30				
					1	2	3	3日・10日・17日 補講日
	4	5	6	7	8	9	10	
10月	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	22日 月曜日授業振替、前期授業終了 23日～29日 前期定期試験
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	1日～9月20日 夏期休業 2日～12日 集中講義
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
12月	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
				1	2	3	4	
1月	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20						
前期授業日数		15	15	15	15	15		

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	事 項
9月			21	22	23	24	25	21日 後期ガイダンス（全学年） 22日 後期授業開始（全学年）
	26	27	28	29	30			
						1	2	
10月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	22日 学園祭準備（休業日） 23日・24日 学園祭
11月	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
		1	2	3	4	5	6	
12月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
1月	28	29	30					
				1	2	3	4	4日・11日・18日 補講日
	5	6	7	8	9	10	11	
2月	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	25日～1月5日 冬期休業
	26	27	28	29	30	31		
3月						1		
	2	3	4	5	6	7	8	6日 授業再開
	9	10	11	12	13	14	15	14日 センター試験準備（休業日） 15日・16日 大学入試センター試験 19日 月曜日授業振替、後期授業終了 20日～26日 後期定期試験
4月	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
5月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
6月	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28						
7月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
8月	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28						
9月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	15日～ 春期休業
10月	20	21	22	23	24	25	26	20日 卒業式
	27	28	29	30	31			
後期授業日数		15	15	15	15	15		



# 目 次

## <前期科目>

### 基礎科目

1年基礎科目	5
2年基礎科目	27
3年基礎科目	49

### 共通科目

1年共通科目	57
2年共通科目	69
3年共通科目	75

### 情報文化学科専門科目

2年専門科目	83
3年専門科目	105
4年専門科目	133

### 情報システム学科専門科目

1年専門科目	139
2年専門科目	141
3・4年専門科目	153

## <後期科目>

### 基礎科目

1年基礎科目	173
2年基礎科目	195
3年基礎科目	211

### 共通科目

1年共通科目	219
2年共通科目	225
3年共通科目	227

### 情報文化学科専門科目

1年専門科目	231
2年専門科目	247
3年専門科目	267
4年専門科目	291

### 情報システム学科専門科目

1年専門科目	295
2年専門科目	305
3・4年専門科目	319

文化演習・ゼミナール	331
------------	-----

システム演習	379
システム卒業研究	395



# 履修登録手続き

## 1. カリキュラムと履修登録

カリキュラムとは、教育目的にしたがって科目を編成したものです。履修登録とはカリキュラムにしたがい個々の学生が履修したい授業科目を前期と後期に登録する手続きです。大学はこの登録に基づき、各授業の受講者名簿を作成して、授業担当の教員に知らせるとともに各種事務手続きを進めます。履修登録されていない科目は単位修得資格がありませんので、登録の際には記入漏れや誤記入などがないよう注意して下さい。

平成21年度履修登録日程

前期

月	日	曜日	日 程	備 考
4	15	木	履修登録締切り	
	20	火	確認訂正期間	
	21	水	確認訂正期間・訂正分再交付	
	22	木	確認訂正期間・訂正分再交付	
	23	金	訂正分再交付	※最終日での訂正等はありません

後期

月	日	曜日	日 程	備 考
9	30	木	履修登録締切り	
10	5	火	確認訂正期間	
	6	水	確認訂正期間・訂正分再交付	
	7	木	確認訂正期間・訂正分再交付	
	8	金	訂正分再交付	※最終日での訂正等はありません

※平成22年度以降の履修登録日程については当該年度の「講義概要」で確認してください。

## 2. 履修登録用紙提出期限

全ての記入が終わりましたら、学務課教務係窓口にて前期は4月15日(木)、後期は9月30日(木)までに提出してください。期限までに提出がない場合、その学期での履修は認められません。

## 3. 履修確認・訂正の期間

今年度前期は4月20日(火)から4月22日(木)の3日間、後期は10月5日(火)から10月7日(木)の3日間に学務課教務係窓口で「学生授業時間割表」を配布します。それを確認の上、誤り・訂正・追加・削除等があった場合は、学務課教務係窓口で手続きをしてください。

- ※1 この「学生授業時間割表」の確認を行わない場合、登録したつもり科目が登録されず、履修できなくなる場合もありますので、指定の期日までに必ず確認してください。
- ※2 確認訂正期間終了後は、いかなる理由でも「訂正・追加・削除」は認められません。必ず確認訂正期間中に行ってください。
- ※3 電話や代理者による訂正等は一切受け付けません。必ず本人が窓口で確認・訂正を行ってください。



- ※ 4 履修登録の訂正を行った場合、訂正日の翌日（金曜日の場合は月曜日）に訂正後の「学生授業時間割表」を再交付しますので、学務課教務係窓口で受領・確認してください。前期は4月23日(金)、後期は10月8日(金)までとなります。ただし、この両日は訂正等を行うことはできません。
- ※ 5 「学生授業時間割表」は大切に保管してください。万が一紛失した場合および確認訂正期間中に受領しなかった場合は、学務課教務係窓口で再発行を願い出ることができます。ただし、再発行は1通につき200円の手数料がかかります。

# 定期試験

## 1. 試 験

前期定期試験は7月末、後期定期試験は1月末に行われます。

授業最終日に実施される試験も含まれます。

試験の時間割は掲示によって発表されます。

試験の方法は授業科目により異なり、筆記・レポート・口述・実技等により実施されます。担当教員の指示および掲示に従い受験してください。

なお、次のような場合、受験資格はありません（学則第29・30・31条）。

- 1) 履修登録を行っていない場合
- 2) 授業回数の1／3以上欠席している場合（成績評価はFになります）。

## 2. 受験上の注意

試験に際しては、学生証を机上に明示し、次の事項に注意してください。

- 1) 定期試験の時間は、平常の授業時間表（曜日・教室・時限）とは違う場合があります。担当教員の指示および掲示をよく確認してください。
- 2) レポートの場合は、大学指定の「レポート提出票」を学務課で受領し、記載のうえ、指定された期限までに提出してください。レポート提出の際に「レポート受領書」を受け取り、成績が確定するまで保管してください。
- 3) 口述試験・実技試験の場合は、集合場所と実施場所が異なる場合があります。担当教員の指示および掲示をよく確認してください。
- 4) 受験の際は不正行為のないように真面目にとりくんでください。不正行為の事実が確認された場合は、学則に定める懲戒処分に加えて、演習・実習を除き、その学期の全科目の単位取得を認めません。
- 5) 定期試験期間中に、悪天候による交通機関不通等の事態が発生した場合の処置を次のようにします。
  - ①試験開始定刻後30分以内に教員が到着できない場合、試験を延期します。
  - ②試験開始定刻後30分の時点で受験予定者が半数に満たない場合、試験を延期します。
  - ③試験開始定刻後30分以内に、受験予定者が半数を超えた場合は試験を実施し、受験できなかった学生には別途試験・レポート等で採点します。
  - ④当日、すべての試験を中止する場合は、決定時点で本学のホームページに掲載します。

## 3. 課題レポート

授業中の課題として授業担当教員からレポート提示の指示があった場合は、次の事項に注意し



てください。

- 1) 特に指定のない限り A4版の用紙を使用し、科目名、担当教員名、提出者の氏名及び学籍番号を明記した表紙をつけ、必ず綴じてください。
- 2) 提出の方法、日時（締め切り）、場所等については、担当教員の指示にしたがってください。
- 3) 一度提出されたレポートの変更・訂正は認められません。

## 4. 追試験

追試験とは、病気・就職試験・忌引・災害等の真にやむを得ない理由により定期試験を受験できなかった者に対して行われる試験です。

※追試験願が提出されなかった場合には、試験放棄と見なされ単位は認定されません。

※追試験が不合格となった場合、再試験は行いません。

・追試験願の申請手順は次のとおりです。

当該授業科目の試験実施日の翌日までに行ってください（来学出来ない場合は電話で連絡のこと）。大学指定の「追試験願」に、記載のうえ、その理由を証明するもの（交通機関遅延証明書・医師の診断書・就職試験受験票など）を添えて、学務課教務係へ願い出てください。

欠席の理由が正当と判断された場合、追試験の受験が認められます。

追試験は、前期にあっては8月上旬に、後期にあっては2月上旬に一定の期間を定めて実施されます。それぞれの学期の追試験期間については、当該学期の定期試験期日・時間割が公示される際に、併せて公示されます。公示された追試験期間に追試験を受験しない場合は、追試験の受験資格を失います。

## 5. 再試験

卒業見込の学生がその学期に履修した科目のうち不合格（D）となった授業科目について1回に限り、再試験を願い出ることができます。再試験は前期・後期とも行われます。なお、次の科目については再試験を願い出ることができません。

- ・情報処理演習
- ・情報文化学科専門科目「ゼミナール関連」（卒業論文を含む）科目
- ・情報システム学科専門科目「演習」「卒業研究」（卒業論文を含む）科目
- ・当該年度に不正行為を行ったため不合格となった科目

※ 再試験願が提出されなかった場合は不合格が確定し、単位は認定されません。

・再試験願いの申請手順は次のとおりです。

### 〈前期〉

学期末の学業成績通知書送付

8月下旬に送付された「学業成績通知書」を確認し、不合格となった授業科目があった場合、願い出ることができます。

↓  
再試験願提出

大学指定の「再試験願」に、所要事項記載のうえ、学務課教務係へ願い出てください。再試験の願い出にあたっては、受験料（1科目につき2000円）が必要になります。また、必ず印鑑を持参してください。

↓  
再試験日時連絡

再試験の日時が確定した段階で再試験日時を連絡します。



再試験実施	通常前期は9月上旬に実施されます。
<b>〈後期〉</b>	
再試験該当連絡	定期試験終了後、卒業要件不足学生に対し「卒業要件不足」を連絡します。「卒業要件不足学生」は不合格（D）となった授業科目について再試験を願い出ることができます。
↓	
再試験願提出	大学指定の「再試験願」に、所要事項記載のうえ、学務課教務係へ願い出てください。再試験の願い出にあたっては、受験料（1科目につき2000円）が必要になります。また、必ず印鑑を持参してください。
↓	
再試験日時連絡	再試験の日時が確定した段階で再試験日時を連絡します。
↓	
再試験実施	通常後期は2月上旬に実施されます。

## 6. 成績評価

成績の評価は次のとおりです。

- A (80～100点)
- B (70～79点)
- C (60～69点)
- D (59点以下)
- E 試験欠席
- F 受験資格なし

試験を欠席した者、出席不足等により受験資格がない者については、EあるいはFが「学業成績通知書」に記載されます。

「学業成績通知書」は保証人宛に郵送します。郵送時期は次のとおりです。なお、「学業成績通知書」の再発行は1通につき200円の手数料がかかります。紛失しないよう注意してください。

- 前期：1～4年：8月下旬
- 後期：1～3年：3月下旬
- 4年：3月上旬

## 集中講義日程（予定）

科 目 名	配当年次	教 員 名	開 講 日
日本政治論	1年次	椎橋 勝信	8月9日（月）～8月12日（木）
民 法	2年次	関 武志	8月2日（月）～8月6日（金）
日本の思想	2年次	今井 修	8月2日（月）～8月6日（金）
現代ロシア論	2年次	池田 嘉郎	8月9日（月）～8月12日（木）
情報と法	3年次	浜田 良樹	8月2日（月）～8月5日（木）

※集中講義を履修する場合は、前期履修登録期間に手続きをしてください。

※講義日程は変更する場合がありますので、必ず開講前に掲示板を確認してください。



平成22年度 情報文化学科開講科目一覧

		1 年 次				2 年 次				3 年 次				4 年 次					
		前 期		後 期		前 期		後期在校		留 学		前 期		後 期		前 期		後 期	
		科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名		科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ
基礎科目	講義科目	政治学 経済学（マクロ） 哲学 世界地誌 法学 コミュニケーション論 論理と数理 統計と情報1 数学基礎	6 7 8 9 10 11 12 13 14	経済学（ミクロ） 社会学 歴史学 地球環境論 科学と技術 コミュニケーション技術 線形数学	174 175 176 177 178 179 180	社会思想史 文化人類学 憲法 民法 金融論 情報文化 言語学 ジェンダー論 文章表現	28 29 30 31 32 33 34 35 36	比較宗教論 新潟研究(自然と文化) 財政学 ジャーナリズム論 心理と行動	196 197 198 199 200			社会調査 倫理学	50 51	市民社会論 新潟研究(政治と経済) 福祉社会論 地域経営論	212 213 214 215				
	CEP	◎CEP1	15	◎CEP2	181														
	保健 体育	体力診断と運動処方1	25	体力診断と運動処方2	193	フィットネス理論及び実習	48												
	就職 関連							キャリア開発1	210			キャリア開発2 インターンシップ	52 53						
共通科目	国際 関連	◎地域研究概論 アジアと日本 日本政治論 日本経済論 国際研究概論 国際交流インストラクター演習1	58 59 60 61 62 63	ワークショップ実践論1 国際政治学	220 221	異文化理解 平和学 国際経済学	70 71 72					国際法	76						
	情報 関連	情報システム コンピュータシステム 人間情報システム ◎情報処理演習1	64 65 66 67	経営と組織 ネットワークコンピューティング 社会情報システム	222 223 224	情報検索 マーケティング	73 74	企業と経済	226			情報社会論 情報と法 情報メディア論	77 78 79	◎情報処理演習2	228				
専門科目	演習・ ゼミ ナール	◎基礎演習1	332	◎基礎演習2	332	◎国際研究ゼミナール1	343	◎国際研究ゼミナール2	343	◎ロシア研究ゼミナール ◎中国研究ゼミナール ◎韓国研究ゼミナール ◎アメリカ研究ゼミナール		◎国際研究ゼミナール3	353	◎国際研究ゼミナール4	353	◎国際研究ゼミナール5	353	◎国際研究ゼミナール6 ◎卒業論文	353
	地域 言語			◎ロシア語1 ◎中国語1 ◎韓国語1 ◎アメリカ英語1	232 233 236 238	◎ロシア語2 ◎中国語2 ◎韓国語2 ◎アメリカ英語2	84 85 88 90	◎ロシア語3 ◎中国語3 ◎韓国語3 ◎アメリカ英語3	248 250 252 254	◎留学ロシア語1～4 ◎留学中国語1～4 ◎留学韓国語1～4 ◎留学アメリカ英語1～4		◎ロシア語4 ◎中国語4 ◎韓国語4 ◎アメリカ英語4	106 109 113 117	◎ロシア語5 ◎中国語5 ◎韓国語5 ◎アメリカ英語5	268 271 275 278	ロシア語6 中国語6 韓国語6 アメリカ英語6	134 135 136 137	中国語7 韓国語7 アメリカ英語7	292 293 294
	地域 研究			◎ロシア史概説 ◎中国史概説 ◎韓国朝鮮史概説 ◎アメリカ史概説	242 243 244 245	◎現代ロシア論 ◎現代中国論 ◎現代韓国朝鮮論 ◎現代アメリカ論	95 96 97 98	◎ロシア文化論 ◎中国文化論 ◎韓国朝鮮文化論 ◎アメリカ文化論	258 259 260 261	◎ロシアの文化と歴史 ◎留学ロシア特論1.2 ◎現代ロシア研究 ◎現代ロシア事情 ◎中国の文化と歴史 ◎留学中国特論1.2 ◎現代中国研究 ◎現代中国事情 ◎韓国の文化と歴史 ◎留学韓国特論1.2 ◎現代韓国研究 ◎現代韓国事情 ◎アメリカの文化と社会 ◎留学アメリカ特論1.2 ◎現代アメリカ研究 ◎現代アメリカ事情		◎日ロ関係論 ◎日中関係論 ◎日韓関係論 ◎日米関係論	121 122 123 124						
	日本 研究					日本政治史 日本の思想	99 100	日本経済史	262			日本語学	125	地方自治論	282				
	国際 研究					現代東南アジア論 国際政治史 国際経済史 Advanced CEP3	101 102 103 104	東南アジア文化論 現代ヨーロッパ論 Advanced CEP4	263 264 265			地球社会と人権 現代エネルギー論 国際協力論 EU論 国際組織論 N G O 論 環日本海交流論 地域統合論 外国語文献講読1	126 127 128 129 130 131	東アジア関係論 現代イスラーム論 南北問題 国際経済法 N G O 論 環日本海交流論 地域統合論 外国語文献講読2	283 284 285 286 287 288 289 290				

平成22年度 情報システム学科開講科目一覧

		1 年 次				2 年 次				3・4 年 次				4 年 次			
		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期		前 期		後 期	
		科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ	科 目 名	ページ
基礎科目	講義科目	政治学	6	経済学（ミクロ）	174	社会思想史	28	比較宗教論	196	社会調査	50	市民社会論	212				
		経済学（マクロ）	7	社会学	175	文化人類学	29	新潟研究（自然と文化）	197	倫理学	51	新潟研究（政治と経済）	213				
		哲学	8	歴史学	176	憲法	30	財政学	198			福祉社会論	214				
		世界地誌	9	地球環境論	177	民法	31	ジャーナリズム論	199			地域経営論	215				
		法学	10	科学と技術	178	金融論	32	心理と行動	200								
基礎科目		コミュニケーション論	11	コミュニケーション技術	179	情報文化	33										
		論理と数理	12	線形数学	180	言語学	34										
		◎統計と情報1	13			ジェンダー論	35										
		数学基礎	14			文章表現	36										
基礎科目	英学	◎英語1 A,B,C	16	◎英語2 A,B,C	182	◎英語3 A,B,C	37	◎英語4 A,B,C	201								
	保健体育	体力診断と運動処方1	25	体力診断と運動処方2	193	フィットネス理論及び実習	48										
	就職関連							キャリア開発1	210	キャリア開発2 インターンシップ	52 53						
共通科目	国際関連	地域研究概論	58	ワークショップ実践論1	220	異文化理解	70			国際法	76						
		アジアと日本	59	国際政治学	221	平和学	71										
共通科目		日本政治論	60			国際経済学	72										
		日本経済論	61														
		国際研究概論	62														
		国際交流インストラクター演習1	63														
共通科目	情報関連	◎情報システム	64	◎経営と組織	222	◎情報検索	73	企業と経済	226	情報社会論	77						
		◎コンピュータシステム	65	◎ネットワークコンピューティング	223	◎マーケティング	74			情報と法	78						
		◎人間情報システム	66	◎社会情報システム	224					情報メディア論	79						
専門科目	演習	◎基礎演習1	380	◎基礎演習2	380	◎情報システム演習1	388	◎情報システム演習2	388	◎専門演習A	391	◎卒業研究1	396	◎卒業研究2	396	◎卒業研究3	396
		○情報処理演習F	382	○情報処理演習U1	383	○情報処理演習U1	383	○情報処理演習U1	383	○専門演習B	392					◎卒業論文	
		○情報処理演習U2	383	○情報処理演習U2	384	○情報処理演習U2	384	○情報処理演習U2	384	○専門演習C	393						
		○情報処理演習C1	385	○情報処理演習C1	385	○情報処理演習C1	385	○情報処理演習C1	385	○専門演習D	394						
		○情報処理演習W	387	○情報処理演習C2	386	○情報処理演習C2	386	○情報処理演習C2	386								
				○情報処理演習W	387	○情報処理演習W	387	○情報処理演習W	387								
	A			情報産業 情報リテラシーと倫理	296 297	システム論 情報システムモデル	142 143	情報論	306	情報システム特論 情報システム設計 経営情報システム	154 155 156	情報システム開発 情報セキュリティ	320 321				
	B			人間情報工学1	298	人間情報工学2 地域統計	144 145	生理機能と情報 生活統計 行動科学	307 308 309	認知科学	157	地域情報システム 社会理論と調査法 生活と法律	322 323 324				
	C			ビジネスモデル	299	経営と情報 財務会計	146 147	生産企画と管理 流通と物流 管理会計	310 311 312	生産情報システム 企業と国際化 商品企画 経営と法律	158 159 160 161	ベンチャービジネス	325				
	D			コンピュータソフトウェア	300	テレコミュニケーション	148	プログラミング技術特論 アルゴリズム プログラミング環境 ソフトウェアエンジニアリング	313 314 315 316	知識情報処理 マルチメディア情報処理	162 163	人工知能 データベース コンピュータビジョン	326 327 328				
	E			情報論理 システム数学 統計と情報2	301 302 303	モデリング数学	149	オペレーションズリサーチ1	317	多変量解析 オペレーションズリサーチ2	164 165	シミュレーション	329				
	他	基本情報処理特論1	140	基本情報処理特論2	304	北米社会と情報 情報英語	150 151			学外実習 ビジネス英語入門1	166 167						



# 前期科目



# 基礎科目





# 1 年基礎科目（前期）

政治学  
経済学（マクロ）  
哲学  
世界地誌  
法学  
コミュニケーション論  
論理と数理  
統計と情報 1  
数学基礎  
CEP 1  
英語 1  
体力診断と運動処方 1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	政治学	2	前	越智敏夫（情報文化）
16年度以前	基 礎	2 年	現代の政治			

選択

#### <授業目的>

政治を人間によって繰り返される行動のひとつとして理解し、その政治の網の目の中で私たちはどのように認識し行動するべきか、その基本的な方法について考える。現実政治のなかの時事的な出来事についても言及しながら、「市民」概念の現代的意義を特に議論したい。

#### <各回毎の授業内容>

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 1 はじめに    | 1-1 日常世界の認識方法:主体としての市民  |
| 2 政治とは何か  | 2-1 政治の定義               |
|           | 2-2 政治秩序                |
| 3 政治の認識方法 | 3-1 政治理論                |
|           | 3-2 状況・制度・組織            |
|           | 3-3 権力と支配               |
|           | 3-4 権威とリーダーシップ          |
|           | 3-5 シンボルとイデオロギー         |
| 4 国家とは何か  | 4-1 国家の概念               |
|           | 4-2 ヨーロッパにおける古代と中世      |
|           | 4-3 近代社会                |
|           | 4-4 近代国民国家の変容:夜警国家と福祉国家 |
| 5 政治体制    | 5-1 民主主義と独裁             |
|           | 5-2 政治システム              |
| 6 まとめ     | 6-1 市民の政治とは何か           |

#### <成績評価方法>

- ・学期末筆記試験（持ち込み不可）のみで採点。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書なし。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義ノートを本学のウェブページ上で公開する予定なので、受講前に各自でプリントアウトして教室に持参すること。URL → <http://www.nuis.ac.jp/~tochi/>

また、本講義は全カリキュラムにおいて政治的現象を学ぶための基礎となるものである。「日本政治論」「日本政治史」「国際政治学」「国際政治史」などを受講予定の学生は履修しておくことが望ましい。

#### <学習到達目標>

政治学の基礎を身につけると同時に、市民としての自覚をもつこと。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	経済学（マクロ）	2	前	安藤 潤（情報文化）
16年度以前	基 礎	1 年	現代の経済			

選択

#### <授業目的>

この講義の目的は①マクロ経済学の重要用語の概念を理解すること、②マクロ経済学の中から国民所得理論の基礎を学ぶこと、③深刻な不況時における財政政策と金融政策の役割を理解することである。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 オリエンテーション
- 2 市場メカニズム:需要と供給、需要曲線と供給曲線、資源の効率的配分、マクロ経済における3つの市場
- 3 市場メカニズムの限界:古典派経済学、自由放任主義、世界大恐慌とニューディール政策
- 4 GDP(国内総生産)の概念:閉鎖経済と開放経済、マクロ経済における3つの経済主体と金融機関、GDP、三面等価の原則
- 5 家計の消費と貯蓄①:ケインズ型消費関数、45度線、所得水準と平均消費性向、長期の消費関数
- 6 家計の消費と貯蓄②:貯蓄の定義、ケインズ型貯蓄関数、所得水準の平均貯蓄性向
- 7 企業の投資:投資の決定要因、有効需要、二部門経済における有効需要
- 8 均衡国民所得:均衡国民所得とは、二部門経済における均衡国民所得
- 9 政府部門とその活動①:政府の歳入と歳出、租税の種類、均衡予算
- 10 政府部門とその活動②:赤字予算、2種類の公債、財政赤字の現状、三部門経済における有効需要と均衡国民所得
- 11 乗数理論:「乗数」とは、投資乗数、政府支出乗数、租税乗数、均衡予算乗数
- 12 金融①:金融とは、様々な金融機関、金融市場の構造
- 13 金融②:中央銀行の役割、金融政策の手段
- 14 金融③:割引現在価値、貨幣需要曲線、貨幣供給曲線、利子率の決定、金融政策と均衡国民所得
- 15 定期試験(範囲:全体)

(注) なお以下の教科書はこの講義概要作成時にはまだ完成していない。そのため、講義内容に関しては教科書のマクロ経済学の各章に合わせながら若干の修正を行う。詳細は第1回目の授業で説明する。

#### <成績評価方法>

定期試験の結果で評価する。

#### <教科書・参考文献>

青木孝子・安藤潤・鍵田亨・塚原康博『入門現代経済学要論』白桃書房（2010年3月末発行予定）

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・過去の履修学生の理解度や試験の成績を考慮し、IS-LM分析は含めない。
- ・私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。以上のことを守れない学生は退出を願うこともある。また、教員の注意にもかかわらず繰り返す場合にはその場で定期試験受験資格をはく奪することもある。以上の点を踏まえて履修登録をすること。
- ・講義で数学（1次関数、等差数列とその和の公式）及びグラフの使用は避けられない。
- ・本来ならIS-LM分析まで講義するべきだろうが、過去の経験から学生がそこまでをわずか半期で理解し、試験でその理解度を示すのは明らかに困難であると判断し、IS-LM分析は削除している。

#### <学習到達目標>

国民所得決定理論の基礎を理解し、IS-LM分析に進むための基礎を作ること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	哲学	2	前	阿部ふく子
16年度以前	基 礎	1 年	哲学			

選択

#### <授業目的>

西洋哲学の基本的な主題と方法を、教科書に即して講義します。授業内容は、大まかな哲学史の構成をとります。哲学の営みとは、一自然、知、信仰、幸福、道徳、科学、心身、自我、経験、生、等々一人間が生きていく中で直面する様々な普遍的な事柄について、自らきめ細かく考えてみることにほかなりません。しかしこの営みは決して独りよがりなものであってはならず、私たちの前には2600年に及ぶ哲学の歴史の中ですでに営まれてきた様々な思考の足跡が残されており、これらの所産とも対峙してみる中ではじめて私たちは自ら考える力を養うことができるのです。答えのない問いとの格闘は喜びも苦しみも伴うものですが、そうした過程の中でこそ論理的思考力、批判的思考力が鍛えられ、豊かな人間観が形成されてゆくことになります。

#### <各回毎の授業内容>

01. イントロダクション、ソクラテス以前の哲学者たち
02. ソクラテス、プラトン
03. アリストテレス、ヘレニズムの哲学
04. 中世キリスト教哲学
05. ルネサンス、宗教改革、近代科学のはじまり
06. デカルト
07. 大陸合理論とイギリス経験論
08. カント、ドイツ観念論
09. ロマン主義、ヘーゲル
10. ニーチェ、生の哲学
11. プラグマティズム、19世紀の諸科学
12. 現象学と解釈学、実存思想
13. 言語分析哲学
14. 心の哲学
15. 定期試験

#### <成績評価方法>

中間レポート（50%）、定期試験（50%）による。

ただし、中間レポートを提出することが定期試験の受験資格となる。

#### <教科書・参考文献>

教科書（※必ず購入の上、初回授業に臨むこと。）:

村松茂美・他編集『はじめて学ぶ西洋思想——思想家たちとの対話』、ミネルヴァ書房、2005年

#### <受講に当たっての留意事項>

教科書の他、図書館に配架されている「指定図書」などを積極的に利用して下さい。

#### <学習到達目標>

哲学の基本的知識を習得するとともに、個人的・日常的レベルでも哲学的な感じ方、考え方、生き方を深める。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	世界地誌	2	前	澤口晋一（情報文化）
16年度以前	基 礎	1 年	世界地誌			

選択

#### <授業目的>

この授業は「地球環境論」と1セットとして考えてください。地球環境論を履修する予定の人は、なるべくこの世界地誌を最初に履修しておいてください。地球環境論ではいわゆる地球環境問題を扱いますが、この世界地誌では純粋に地球の「自然環境」そのものを、地球誕生からとりあげることで惑星地球とその環境の特徴を理解することを目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

1. カリキュラム上の位置づけと目的
2. 太陽系の中の地球、太陽系惑星の特徴と比較
3. 地球を知る①
4. 地球を知る②
5. 地球の誕生と進化①
6. 地球の誕生と進化②
7. 地圏の成り立ち①（地殻の特徴と形成）
8. 地圏の成り立ち②（大陸と海洋の形成とその変遷—プレートテクトニクスの視点から）
9. 地圏の成り立ち③（プレートと地形：ヒマラヤ山脈、サンアンドレアス断層、伊豆半島、新潟平野を例に）
10. 大気の大循環（その成因と分布）
11. 大気の大循環と気候帯の形成（ケッペンの気候区分を用いて）
12. 大気の大循環と気候帯の形成（モンスーンと日本の梅雨、降雪）
13. 地球史と気候変動
14. 地球史と気候変動
15. まとめ（試験）

#### <成績評価方法>

中間レポート（10％）、定期試験（90％）

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しません。講義時に資料を配布します。参考文献は講義時に紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中は私語・飲食（持ち込み）、ゲームは厳禁！

携帯電話については、毎回授業の最初に電源を（みなさんが）切ったことを確認してから始めます。

#### <学習到達目標>

この講義では、上記の授業内容を通じて地球という惑星の特徴を理解することを目標としています。（関連する学習・教育目標：A）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	法学	2	前	熊谷 卓（情報文化）
16年度以前	基 礎	1 年	法学			

選択

<授業目的>

人は、この世に生を受けてから死ぬまで、「法」と隣り合わせの関係にある。親から名前を授けられ、学校へ入学、卒業してからの就職、結婚や離婚といった事項についていえば、「法」がたいへん密接な関係を有しているということがいえる。本講義では、「法」というものがどのように機能していくのか、このことについて、具体例を交えながら考察する。

<各回毎の授業内容>

1 オリエンテーション

2 法との遭遇—日常生活は「法」であふれている！

3 法とは何か

4 刑法とはなにか？－1

5 刑法とはなにか？－2

6 刑事責任論－1

7 刑事責任論－2

8 刑事責任論－3

9 犯罪とはなにか？－1

10 犯罪とはなにか？－2

11 量刑論－1

12 量刑論－2

13 犯罪者処遇論－3

14 残された問題—民事法も視野に入れて

15 まとめ

<成績評価方法>

主として試験による成績評価

<教科書・参考文献>

三省堂『新六法』を指定テキストとする。

<受講に当たっての留意事項>

プリントを配布することがある。欠席者には与えない。

<学習到達目標>

法学的思考の習得



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	コミュニケーション論	2	前	逸見龍生
16年度以前	基 礎	1 年	コミュニケーション論			

選択

<授業目的>

コミュニケーションとは何か。情報化やグローバル化と言われる現代社会において、それはどのような意味をもっているのだろうか。この授業では、多様な広がりをもつコミュニケーションという言葉の軸に、われわれが日常世界のなかで無意識におこなっている様々なコミュニケーション行為を考察していく。

<各回毎の授業内容>

主に三つの観点からコミュニケーションを論じていく。

第一部:コミュニケーションの原点～パーソナルコミュニケーションを考える

第1回:授業オリエンテーション

第2回:日本語と欧米語におけるコミュニケーションの定義

第3回:情報共有態としてのコミュニケーション

第4回:アイデンティティの構築としてのコミュニケーション

第二部:記号論としてのコミュニケーション

第5回:記号論の考え方（ソシュール、ロラン・バルトの議論の紹介）

第6回:記号論②

第7回:記号論③

第8回:メディア広告の分析

第9回:メディア広告の分析②

第10回:メディア広告の分析とその応用

第11回:レポート講評

第三部:ハイパーメディア社会の中のコミュニケーションの諸相

第12回:メディア・リテラシーとは何か

第13回:ハイパー・メディア社会におけるコミュニケーション分析

第14回:まとめ

第15回:試験

<成績評価方法>

平常点（出席＋アチーブメント・テスト＋授業後コメント）、小レポート、期末試験の総合

<教科書・参考文献>

授業で使用するテキストはコピーを配付する。参考文献は授業において指示。

<受講に当たっての留意事項>

・授業中の私語は禁止とする。開始20分以後の途中入室、および無断での途中退室は認めない。

・毎回出席を取る。公休ないしやむを得ない事情（就職活動、クラブ活動の大会、ゼミ等の特別授業）で欠席の際にはその旨届けること。講義全体の3分の1（おおよそ4回以上）を超えて無断欠席した場合には、期末試験受験資格をえられないものとする。

・毎回授業終了後に書くコメントカードは、評価の対象とする。また、公的な出席票の替わりとする。そのため、他人のコメントカードを代理記入するような行為は重大な不正行為と見なし、以後の講義・試験への出欠は、記入を依頼した者、実際に記入した者の双方ともに差し止める。

<学習到達目標>

現代社会におけるコミュニケーション概念の重要性を理解し、コミュニケーション学の基礎的な考え方をを用いて、実際の社会分析に応用する力を養うこと。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	論理と数理	2	前	石井忠雄 （情報システム）
16年度以前	基 礎	1 年	論理と数理			

20年度以降選択

17年度以降情報文化学科選択 情報システム学科必修

16年度以前選択

<授業目的>

論理学は古代ギリシャのアリストテレス以来受け継がれて来た歴史の古い学問であるが、これに数学の中で用いられている記号を用いた形式化の手法を導入することにより、現代的な数理（記号）論理学が誕生した。本講義では、数理論理学の基礎を情報文化との関連を考慮しつつ解説する。

<各回毎の授業内容>

1. 論理学の入門（情報文化と論理、講義の位置付け）

2. 論理式と真偽（命題の表現、真偽表、同値な命題）

3. 否定命題と連言命題（命題関数と集合の入門）

4. 選言命題と双対原理

5. 基本的なトートロジー

6. 論理式の標準形

7. 含意命題と直観主義論理

8. 推論と推論規則

9～11. 自然的推論（NK、NJ）

12. 一階の述語論理（量化記号、束縛変数と自由変数）

13. 血族関係の表現

14. NKとNJの述語論理

15. まとめと試験

<成績評価方法>

毎回の小問が10点、レポート2回の合計が30点、および期末試験が60点の合計点で評価する。

<教科書・参考文献>

田村三朗、荒金憲一、平井崇晴共著：論理と思考（大阪教育図書、1999年）1,600円

<受講に当たっての留意事項>

(1)数学を学ぶ時と同じように、内容を理解するには自分でいくつかの演習問題を解くのが良い。  
よって、学習の便宜を図るために、数回の小問題を課す。

(2)教科書に沿って授業を進めるので、早めに教科書を購入しておくのが望ましい。

(3)基礎自由科目「数学基礎」の内容を修得していることが望ましい。

<学習到達目標>

論理的思考の基礎となる命題の組み立て方（30%）および論理式を用いた記号による表現（40%）を理解し、また、日常生活での正しい判断能力（30%）を習得する。  
(関連する学習・教育目標:D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	統計と情報 1	2	前	二瀬由理 (情報システム)
21年度以前	基 礎	1 年	統計と情報			

17年度以降情報文化学科選択 情報システム学科必修  
16年度以前選択

<授業目的>  
現代は、さまざまな情報であふれている。これらの情報から、有用な見解を得るためには、統計的な知識や技術が必要とされる。  
本講義では統計学の基礎を習得し、基本的な概念と方法について理解することを全般的な目標とする。具体的には、有効なデータの収集方法、確率モデルの基本的なもの、データのもつ情報と情報量、確率モデルと結びつかない情報と統計処理の問題点などを、身の回りにある具体的な情報例の中で理解する。

<各回毎の授業内容>  
1. 資料の整理(1):成績、人口、家計調査、物価指数、成長率、ローレンツ曲線  
2. 資料の整理(2):度数分布表、ヒストグラム、人口ピラミッド、パレード図  
3. 資料の整理(3):全体調査と一部調査、算術平均  
4. 資料の整理(4):中央値、最頻値、バラツキ  
5. 資料の整理(5):偏差平方和、分散、標準偏差、範囲、外れ値  
6. 資料の整理(6):度数分布表からの平均値、分散、標準偏差  
7. 情報の確からしさ(1):散布図、相関分析  
8. 確率の基礎知識(1):順列・組み合わせ  
9. 確率の基礎知識(1):集合、確率、確率変数  
10. いろいろな分布(1):母集団、標本、ランダムサンプリング  
11. いろいろな分布(2):二項分布、正規分布、t分布、 $\chi^2$ 分布  
12. 母数を推定する(1):母平均の推定、点推定、区間推定  
13. 母数を推定する(2):母分散の推定、不偏分散  
14. 情報の確からしさ(3):信頼係数、信頼限界、信頼区間  
15. まとめ:テスト

<成績評価方法>  
成績評価は、随時授業中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題（20％）および中間テスト（20％）、学期末のテスト（60％）にもとづいて行う。

<教科書・参考文献>  
初歩からの統計学」 馬場 裕著 牧野書店

<受講に当たっての留意事項>  
予習・復習を積極的に行うこと。講義で分からないことは、積極的に質問すること。  
基礎自由科目「数学リテラシー」の内容を習得していることが望ましい。

<学習到達目標>  
日常生活における問題点を把握し、解決策を見出すための調査方法を理解し、活用できる。  
(関連する学習・教育目標:D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
21年度以降	基 礎	1 年	数学基礎	2	前	玉木賢志 水谷 浩
20年度以前	基 礎	1 年	数学リテラシー			

自由（卒業要件には含まれない科目）

<授業目的>

「数学」というのは、物事を論理的に考える力を養う為にあります。その物事が数学的なことであろうと日常的なことであろうとすべてに共通することです。数学を学習することにより、「どこで」「なぜ」「なにを」間違えたから問題が解けなかったのか、「どのように」考えれば問題が解けるのかを意識できるようにすることを目的とします。すなわち、結果よりも結果に至るまでのプロセスの方が大事であることを認識してもらいたいと考えています。その理由は、プロセスがしっかりしていれば、たとえ結果が間違えていてもすぐに修正が利くからです。

<各回毎の授業内容>

1～2. 割合・分数の計算・因数分解

3～4. 数と式

5～6. 方程式と不等式・連立方程式・2次関数

7～8. 三角比・三角関数

9～10. 点と直線

11～12. 指数・対数関数

13～14. 補充問題

15. 補充問題・期末試験

<成績評価方法>

出席時の演習 80%、期末試験 20%

<教科書・参考文献>

指定の教科書は使用しない。講義時にオリジナルプリント（レジュメ）を配布する。

<受講に当たっての留意事項>

高校までの数学が苦手、嫌いな人でもこの授業でやることは、これから先で学ぶ専門科目の理解に必ず役立つものなので、短期間ですが集中して取り組んで下さい。授業ではノートをきちんと取って、その後必ず復習するようにして下さい。

<学習到達目標>

① 各単元の1つ1つの公式、定理をよく理解してそれらを応用する力を身に付けること。50%

② 確実な計算力を養い、さらに順序を立てて論理的に考えることができるようになること。50%



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	C E P 1	3	前	G.Hadley, P.Nadasdy, M.Ruddick
16年度以前	基 礎	1 年	C E P 1			

必修

#### <授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっています。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

CEP プレイスメント・テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Fクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Fクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるといったことはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取り組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が20%を超えた場合、集中コースをとらなければ合格できません。また、欠席時数が30%を超えると不合格となります。CEPでは、授業活動への参加に関してポイント・システムを採用しています。英語で質問をしたり、英語の授業活動を積極的に行ったり、教員の質問に英語で答えたりした学生は、そのつどコインがもらえます。白いコインは1ポイント、青いコインは2ポイント、赤いコインは3ポイントです。1回の授業につき最高ひとり5ポイントまで集めることができます。コインは授業終了時に教卓の箱に返却します。そのとき、自分の名前とポイントの数を教員に伝えてください。CEPには、スピーキング・リスニングの授業とリーディングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

#### <成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取り組みなどから総合的に判定されます。

#### <教科書・参考文献>

New Interchange (1, 2, 3) Students Book, Students Video Book (Jack Richards, Cambridge University Press.)

#### <受講に当たっての留意事項>

以下は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員が説明しているときに、友達と大きな声で話さないこと。居眠りはしないこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語 1A (話す英語 1) P1P2	1	前	イザベラ青木
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I (P 1 ・ P 2)			

必修

#### <授業目的>

英語コミュニケーション能力の向上を目指します。 英語の聞く力と話す力をつけながら、英語を国際言葉として活用できるような楽しい授業を目指します。

#### <各回毎の授業内容>

1. Introduction to the course
2. Hobbies and free time activities
3. Hobbies and free time activities/Classroom verbs, letters, and numbers
4. Classroom verbs, letters, and numbers
5. Video and/or other material
6. Things at school, home, work and things you carry
7. Things at school, home, work and things you carry/Time words, daily actions
8. Time words, daily actions/Family members, personality adjectives
9. Family members, personality adjectives
10. Video and/or other material
11. Video and/or other material
12. Clothing and accessories, colours, patterns, material
13. Clothing and accessories, colours, patterns, material/What's the word? vocabulary game
14. What's the word? vocabulary game
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

成績評価内訳: 平常点 (70%)、定期試験 (30%)

#### <教科書・参考文献>

Firsthand Access, Marc Helgesen 他 (Pearson/Longman)

参考文献: テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

#### <受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

#### <学習到達目標>

今まで習った英語を復習しながら、実際にしゃべる言葉として使える自信をつける事。

(関連する学習・教育目標: B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1A（話す英語1）Q1Q2	1	前	ステファン ドュルカ
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I （Q 1 ・ Q 2）			

必修

＜授業目的＞

This course is designed to help students improve their English-language communicative skills, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.

＜各回毎の授業内容＞

- 1 Class introduction 1: It's nice to meet you.
- 2 Asking for names and phone numbers.
- 3 What's this? Naming objects.
- 4 Where are you from? Cities and countries.
- 5 Clothing, colours, seasons of the year, weather.
- 6 Audio-Visual training. "Casablanca".
- 7 What are you doing?
- 8 Writing about what people are doing.
- 9 Mid-Term Test.
- 10 We live in the suburbs. Simple present.
- 11 Houses and apartments, rooms, furniture.
- 12 What do you do? Occupations and workplaces.
- 13 Personal pronouns. Contractions.
- 14 Food pyramid, basic foods, desserts, meals.
- 15 REVIEW AND FINAL TEST.

＜成績評価方法＞

Students will be graded on the basis of their performance on a mid-term (50%) and a final test of knowledge (50%).

＜教科書・参考文献＞

Relevant handouts (correctly known as photocopies, not "prints") will be supplied by the instructor, sourced from texts, print media and original material.

＜受講に当たっての留意事項＞

Students must not sleep in class.  
Students must be attentive.  
Students must turn off cell-phones.

＜学習到達目標＞

- 1) The students will be able to communicate with people from around the world in plain English, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.
- 2) The students will be able to pronounce words correctly and read basic English passages with a certain degree of fluency.
- 3) The students will gain proficiency in writing simple daily schedules, lists of telephone numbers and addresses and the location of objects.
- 4) The students will learn to use possessive adjectives, prepositions of place, articles and adverbs of frequency in a fluid and natural manner.
- 5) The students will learn a modicum of geographical and topographical names in their English forms.

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1A（話す英語1）R1R2	1	前	イザベラ青木
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅰ（R 1・R 2）			

必修

<授業目的>

英語コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の聞く力と話す力をつけながら、英語を国際言葉として活用できるような楽しい授業を目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction to course

2. Hobbies and interests

3. Hobbies and interests /Appearance adjectives

4. Appearance adjectives

5. Video and/or other material

6. Video and/or other material

7. Daily activities and routines

8. Daily activities and routines /Furniture, household furnishings and locations

9. Furniture, household furnishings and locations

10. Video and/or other material

11. Giving directions; stores and services

12. Giving directions; stores and services/ Important life events, past activities

13. Important life events, past activities

14. Review and/or other material

15. まとめと試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点（70%）、定期試験（30%）

<教科書・参考文献>

English Firsthand 1, Marc Helgesen 他（Pearson/Longman）

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

今まで習った英語を活かしながら、簡単な会話と意見交換が出来るようになる事。

(関連する学習・教育目標:B)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1B (CALL 英語1) P1P2	1	前	金沢泰子
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I （P 1 ・ P 2）			

必修

#### <授業目的>

- ① CALL システムを活用し国際標準語である英語の運用力を養成する。  
Listening、Speaking 練習に加え、講義支援システムを使用した語彙・文法復習を通して TOEIC 受験にも対応できるバランスのとれた英語力養成をめざす。
- ② PC (Word、Excel) を活用した自律学習法を習得する。

#### <各回毎の授業内容>

- ① Dictation と講義支援システムによる復習
- ② TOEIC 形式の Listening 練習、解答、解説
- ③ 重要事項のまとめ。(Word、Excel を使用)
- ④ 音読対話練習、録音 (WMA ファイル形式で保存、提出)
- ⑤ 学習ノート を E-mail で提出。
  1. 講義概要、CALL 及び講義支援システムの使用法
  2. Lesson 1. Going to London
  3. Lesson 2. Staying at a hotel
  4. Lesson 3. Going to see a musical
  5. Review (1)
  6. Lesson 4. Going shopping
  7. Lesson 5. In trouble
  8. Lesson 6. Taking a summer course
  9. Review (2)
  10. Lesson 7. Eating out
  11. Lesson 8. Going to a post office and a bank!
  12. Lesson 9. Going to a night zoo!
  13. Lesson 10. Taking a sightseeing tour
  14. Review (3)
  15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

毎授業時の Listening テスト 20%、復習確認 20%、音読 20%、学習ノート 20%、期末テスト 20%

#### <教科書・参考文献>

Masashi Negishi : Welcome to the Listening World (KINSEIDO)

#### <受講に当たっての留意事項>

四回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。

#### <学習到達目標>

- ① TOEIC 形式の問題と音読対話練習を通じ、英語基礎力を養成する。
- ② PC 活用自律学習の基礎であるブラインドタッチでの英文入力を習得する。  
(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1B (CALL 英語1) Q1Q2	1	前	茅野潤一郎
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I （Q 1 ・ Q 2）			

必修

<授業目的>

この授業では、CALL システムやマルチメディアを活用し総合的な英語コミュニケーションに必要な英語力の伸長を図ります。基本的な会話表現を身につけ、国際標準語としての英語を使った円滑なコミュニケーションをおこなうことを目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction: 講義概要, PC@LL 操作法 / Introduce someone / Occupations
2. Exchange personal information / Marital status
3. Discuss likes and dislikes / Entertainment events
4. Give and get directions / Prepositions of time and place
5. Discuss families / Family relationships
6. Describe people / Similarities and differences
7. Quiz 1 / Review activity
8. Express frustration / Electronics and machines
9. Make suggestions / The present continuous
10. State preferences in food / Food categories
11. Give advice / Adjectives to describe food
12. Quiz 2 / Project: The place we'd like to visit (1), Pair discussion
13. Project: The place we'd like to visit (2), Pair discussion
14. Project: The place we'd like to visit (3), Pair discussion, Rehearsal
15. Project: The place we'd like to visit (4), Presentation / Review & Test

<成績評価方法>

毎授業時に適宜実施される以下の観点について評価する。（いわゆる「学期末試験」は実施しない）  
Quiz 40% + 言語活動への取り組み 60%

<教科書・参考文献>

- ・ Saslow, J.& Ascher, A. (2008) . *Top Notch TV 1*. Pearson Longman.
- ・ その他、音声教材、web コンテンツ、ハンドアウト等を随時配布、紹介する

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 5 回を超えて欠席した場合は不合格とする。また、出席確認後の入室は出席とは認めない。
- ・ 毎回の活動等への取り組みが重要である。
- ・ iPod などのデジタルオーディオプレーヤーを常時携帯することを勧めます。

<学習到達目標>

- ・ スピーキング活動を通して、英語のプロソディに慣れ、日本語に影響されないリズムで話すことができる。
- ・ 比較的平易な英語の概要を聞いて理解することが出来る。

(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1B (CALL 英語1) R1R2	1	前	金沢泰子
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I （R 1 ・ R 2）			

必修

<授業目的>

①CALL システムを活用し国際標準語である英語の運用力を養成する。  
Listening、Speaking練習に加え、講義支援システムを使用した語彙・文法復習を通してTOEIC 受験にも対応できるバランスのとれた英語力養成をめざす。

②PC (Word、Excel) を活用した自律学習法を習得する。

<各回毎の授業内容>

① Dictation と講義支援システムによる復習

② TOEIC 形式のListening練習、解答、解説

③ 重要事項のまとめ。(Word、Excelを使用)

④ 音読対話練習、録音（WMA ファイル形式で保存、提出）

⑤ 学習ノートをE-mailで提出。

1. 講義概要、CALL 及び講義支援システムの使用法

2. Unit 1. <Are you ready to order?>

3. Unit 2. <Is this to go?>

4. Unit 3. <May I help you?>

5. Unit 4 <Cash or charge?>

6. Unit 5. <Go for it!>

7. Review 1

8. Unit 6. <Breathe in, breathe out>

9. Unit 7 <What seems to be the problem?>

10. Unit 8. <Take this medicine twice a day>

11. Unit 9. <Sing along!>

12. Unit 10. <The acting is excellent!>

13. Review 2

14. 学習記録・単語集作成

15. まとめと試験

<成績評価方法>

毎授業時のListeningテスト20%、復習確認20%、音読20%、学習ノート20%、期末テスト20%

<教科書・参考文献>

K.Shiomi et al : Tune up for the TOEIC Test Listening（SEIBIDO）

<受講に当たっての留意事項>

四回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。

<学習到達目標>

①TOEIC 形式の問題と音読対話練習を通じ、英語基礎力を養成する。

②PC 活用自律学習の基礎であるブラインドタッチでの英文入力を習得する。  
（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語 1C（総合英語 1）P1P2	1	前	阿部 聡
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I （ P 1 ・ P 2 ）			

必修

<授業目的>

国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につけることを目指し、文法知識を活用して自力で英文を読み通す力を養うこと、そして論理的に文章を読み解く習慣をつけることを目的とする。

<各回毎の授業内容>

第1週:1. Reading 1 Is English the world's most common language?

第2週:1. Reading 1 Is English the world's most common language?

第3週:1. Reading 1 Should smoking be banned in public places?

第4週:2. Reading 1 The Comic Cafe

第5週:2. Reading 1 The Comic Cafe

第6週:2. Reading 2 Green tea is booming

第7週:3. Reading 1 Mobile Phones may affect your fertility

第8週:3. Reading 1 Mobile Phones may affect your fertility

第9週:3. Reading 2 "Hunger Hormone"

第10週:4. Reading 1 Euthanasia

第11週:5. Reading 1 Sociology and Anthropology

第12週:5. Reading 2 Japanese and Western Employment Systems

第13週:6. Reading 1 Holy Europe

第14週:6. Reading 2 Religious Worlds

第15週:まとめと試験

<成績評価方法>

授業態度（10%）、毎回のワークシート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（60%）

<教科書・参考文献>

石谷由美子他:Skills for Better Reading: 構造で読む英文エッセイ（改訂版）（南雲堂）

<受講に当たっての留意事項>

語学は実技科目でもある。できるだけ毎日英語に触れるようにすることと、積極的に授業に参加することを期待する。

<学習到達目標>

論理的な英文エッセイを、文法知識を活用してできる限り正確に読めるようになることを本授業の到達目標とする。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1C(総合英語1) Q1Q2	1	前	笹川壽昭 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I (Q 1・Q 2)			

必修

#### <授業目的>

この授業では、ニューヨークで出版されている「英語を母語としない人を対象」とした新聞の記事を読みながら、メディア英語に慣れ、親しむことを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

1. Unit 1 The Euro: Still Strong After 10 years
2. Unit 1 The Euro: Still Strong After 10 years
3. Unit 2 New Rules Require Truckers to Speak Better English
4. Unit 2 New Rules Require Truckers to Speak Better English
5. Unit 3 A Journey from the Streets to the Nobel Prize
6. Unit 3 A Journey from the Streets to the Nobel Prize
7. Unit 4 Britain Warns Public to Prepare for Worldwide Food Crisis
8. Unit 4 Britain Warns Public to Prepare for Worldwide Food Crisis
9. Unit 5 U. S. Judges Study Science in Court
10. Unit 6 A Gold Medal for the Man Who Saved a Billion Lives
11. Unit 7 Russia's President Threatens to Fire Officials Who Lack Computer Skills
12. Unit 8 Germany and Poland Fight Over Manuscripts
13. Unit 9 Saudi Women Ready to Take the Wheel
14. Unit 10 Richardson's Death Brings Awareness to Brain Injuries
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

Minoru Ohtsuki: News for You 2010/2011 Edition (成美堂) 1,900円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

政治、経済、社会、科学など色々な英字新聞の記事を読みながら、英字新聞に特徴的な表現法を学び、新聞英語を容易に理解できるようになること。

(関連する学習・教育目標:B)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語1C（総合英語1）R1R2	1	前	高橋正平
16年度以前	基 礎	1 年	英語 I （ R 1 ・ R 2 ）			

必修

<授業目的>

アメリカ人から見た日本社会の多様性を描いた英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

第1週:第1章 NOT ALL THE SAME

第2週:第2章 THE DIFFERENT FACES OF DIVERSITY

第3週:第3章 NOT YOUR USUAL COLLEGE STUDENT

第4週:第4章 A MODERN DAY MASUO-SAN

第5週:第5章 MYANMAR REFUGEE IS ONE OF FIRST TO ENTER A JAPAN UNIVERSITY

第6週:第6章 PAST THE PAIN AND LANGUAGE BARRIERS

第7週:中間試験

第8週:第7章 MARTIAL ARTS WITH A SMILE

第9週:第8章 SPINNING LOVE WITH FINGERTIPS

第10週:第9章 LIFE BEGINS AT 6 5

第11週:第10章 A CHEERFUL, OPTIMISTIC CHATTERBOX

第12週:第11章 JUST A COUNTRY BOY

第13週:第12章 THE COMFORTS OF DIVERSITY

第14週:第12章続き

第15週:まとめと試験

<成績評価方法>

中間試験と定期試験及び出席状況を考慮して総合的に評価する。

<教科書・参考文献>

内田パメラ・岩淵デボラ:Diversity in Japan - A Reader（金星堂）

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習なので受講生には十分な予習が望まれる。積極的に授業に参加されることを期待したい。テキストは第一週目までに必ず購入しておくこと。

<学習到達目標>

辞書の助けを借りて英文を読めるようになることを本授業の到達目標とする。英文を正しく読むためには多読が必要である。授業ではできるだけ多くの英文を読み、読解力の強化をはかり、併せて基礎的な文法力の習得をも目指す。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 1 (スポーツコース①)	1	前	藤瀬武彦 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 1			

18年度以降選択 17年度以前必修

#### <授業目的>

日本は近い将来に3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（現在は5人に1人）、医療費や介護費が高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（医療費は年間約33兆円でその半分近くが高齢者分）。従って、各個人が健康体力づくりに関する知識をもつことが必要であり、またそのための適度な運動の実践が重要であることは言うまでもない。この授業では、主に屋外スポーツ種目のルールや技術を習得し、ゲームの実践により運動不足を解消するとともに、生涯にわたって健康体力を保持増進させるために日常生活に適度な運動を積極的に取り入れる能力の養成を目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

（受講学生の人数などにより変更もあり得る）

各クラスの主な種目 1) 水曜3限（担当:計良）・・・サッカー・テニス

2) 木曜2限（担当:藤瀬）・・・サッカー・ソフトボール

3) 木曜4限（担当:藤瀬）・・・ソフトボール・テニス

1. ガイダンス①・・・授業内容・評価方法・スポーツ施設の利用方法

2. ガイダンス②・・・トレーニング機器及びフリーウエイトの扱い方

3. ガイダンス③・・・チーム分け・ルール説明・基本練習・チーム練習など

4～7. スポーツ①～④・・・ゲーム①～④（毎回チームや個人の結果を記録したり、カロリーカウンターにより運動量を把握することもある）

8. フィットネス・・・エアロビック・ウエイトトレーニング

9～12. スポーツ⑤～⑧・・・ゲーム⑤～⑧（毎回チームや個人の結果を記録するとともに、数回はカロリーカウンターにより運動量を把握する）

13. スポーツ⑨・・・決勝トーナメント①（チーム数により変更あり）

14. スポーツ⑩・・・決勝トーナメント②（チーム数により変更あり）

15. まとめ

#### <成績評価方法>

この授業では、出席して積極的に運動を実践することが重視される。従って、評価（100点満点）については欠席1回につき10点減点とし、遅刻・見学・早退は計3回で1回欠席分の減点とする。また、規則やマナーの違反、あるいは教員の指示に従わなかったときには減点することがある。

#### <受講に当たっての留意事項>

運動専用のウェアとシューズ（下履き・上履き）が必要であり、上履きの紐は情報文化学科が赤色、情報システム学科が青色のものを着用すること。なお、体育館の更衣室は盗難が起りやすいので、貴重品の管理は自己の責任においてしっかり行うこと（コインロッカーあり）。

#### <学習到達目標>

競技や楽しみのための「スポーツ」と健康体力づくりのための「フィットネス」の内容を理解し、それぞれの運動を体験・実践するとともに技能を向上させる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 1 （フィットネス基本コース①）	1	前	藤瀬武彦 （情報システム）
16年度以前	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 1			

18年度以降選択 17年度以前必修

<授業目的>

日本は近い将来に3人に1人が高齢者という極端な少子高齢化社会を迎え（現在は5人に1人）、医療費や介護費などが高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される。従って、各個人が健康体力づくりに関する知識をもつことが必要であり、またそのための適度な運動の実践が重要であることは言うまでもない。この授業では、主に「フィットネス（健康体力作りのための運動）」を体験することにより、エアロビクトレーニング及びウエイトトレーニングの基本的な種目と理論を習得し、生涯にわたって健康体力を保持増進させるために日常生活に適切な運動を積極的に取り入れる能力を養成することを目的とする。

<各回毎の授業内容>

1. ガイダンス①… 授業内容、評価方法、スポーツ施設の利用方法

2. ガイダンス②… トレーニング機器及びフリーウエイトの扱い方

3. 体力診断の方法（肥満度の判定、体力診断テストなど）

4. トレーニングマシン及びフリーウエイトを用いた基本種目の紹介

5. ウエイトトレーニングの三大基本種目の体験①

6. ウエイトトレーニングの三大基本種目の体験②

7. スポーツ活動①（屋外スポーツ種目）

8. スポーツ活動②（屋内スポーツ種目）

9. エアロビクトレーニングの理論と実際①

10. エアロビクトレーニングの理論と実際②

11. ウエイトトレーニングの理論とセット法の体験①

12. ウエイトトレーニングの理論とセット法の体験②

13. 三大基本種目における 1 RM の測定

14. 三大基本種目における最高反復回数数の測定

15. まとめ

<成績評価方法>

この授業は、出席して積極的に運動を実践することが重視される。従って、評価（100点満点）については欠席1回につき10点減点とし、遅刻・見学・早退は計3回で1回欠席分の減点とする。また、規則やマナーの違反、あるいは教員の指示に従わなかったときには減点することがある。

<受講に当たっての留意事項>

運動専用のウエアとシューズ（下履き・上履き）が必要であり、上履きの紐は情報文化学科が赤色、情報システム学科が青色のものを着用すること。なお、体育館の更衣室は盗難が起りやすいので、貴重品の管理は自己の責任においてしっかり行うこと（コインロッカーあり）。

<学習到達目標>

筋力や全身持久力などの基礎体力向上、あるいはシェイプアップや肥満解消などの目的に応じた運動・トレーニング方法について理解するとともに、種々の運動技能を身に付ける。

# 2 年基礎科目（前期）

社会思想史  
文化人類学  
憲法  
民法  
金融論  
情報文化  
言語学  
ジェンダー論  
文章表現  
英語 3  
フィットネス理論及び実習

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	社会思想史	2	前	向山恭一
16年度以前	基 礎	2 年	社会思想史			

選択

#### <授業目的>

冷戦後しばらく社会主義には「独裁」のイメージがつきまとっていたが、近年、小林多喜二の『蟹工船』やマルクスの『資本論』のブームとともに、その思想がにわかに注目されている。グローバル資本主義のもとでの貧困、搾取、不平等などの社会問題化が、そうした再評価の動きを促している一因ともいわれている。そもそも社会主義は資本主義の「非人間化」に対抗する思想であったのだ。しかし、歴史は社会主義それ自体が抑圧的な体制を生み出したことも証明している。そこで、この講義では、19世紀以後の社会主義の歴史をふりかえり、その思想の可能性と限界をつきとめながら、社会主義が今日なおも生き延びうるとすれば、いかなる視座に立たなければならないのかを考察することにした。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス:社会主義とは何か?
- 2 社会主義の起源と展開
- 3 社会主義の基本概念(1):平等と連帯
- 4 社会主義の基本概念(2):階級と所有
- 5 社会主義への道(1):革命的社會主義
- 6 社会主義への道(2):進化的社会主義
- 7 マルクス主義の思想(1):古典的マルクス主義
- 8 マルクス主義の思想(2):正統派共産主義
- 9 マルクス主義の思想(3):西欧マルクス主義
- 10 社会民主主義の思想(1):修正主義論争
- 11 社会民主主義の思想(2):ケインズ主義
- 12 社会民主主義の思想(3):「第三の道」へ
- 13 グローバル時代の社会主義
- 14 まとめと質疑応答
- 15 期末試験

#### <成績評価方法>

出席20パーセント、試験80パーセントで総合評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は指定せず、毎回講義プリントを配布する。また、参考文献については適宜紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義後に毎回コメントの記述・提出を求めるので、わからないこと、疑問に感じたことがあれば積極的に書いてもらいたい。なお、それらについては次回の講義の冒頭で回答することにした。

#### <学習到達目標>

- ・特定のイデオロギー（ここでは社会主義）をイメージとしてとらえるのではなく、その思想に内在して理解することによって、現代史の体系的な位置づけができるようになること。
- ・過去のものとされる社会思想の古典をつうじて、現代のさまざまな問題をとらえ、それらについての各自の見解を言語化することができるようになること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	文化人類学	2	前	松尾瑞穂（情報文化）
16年度以前	基 礎	2 年	文化人類学			

選択

#### <授業目的>

「なぜ?」「どうして?」と不思議に思う人や物事に出会ったことはありませんか? その不可解さは、自分とはまったく異なるように思われる外国人や、言葉の通じない外国での経験であれば、なおさらです。そのような「他者」を、われわれはどのように理解すればよいのでしょうか。本講義では、文化人類学の理論的系譜をたどりながら、異文化理解、他者理解の学問である文化人類学の視点と思想について学びます。前半では、人類学の誕生した歴史的背景から、社会・文化を分析するための主要な理論やトピックを学びます。後半以降では、ジェンダーやセクシュアリティ、医療など人類学が扱う現代的課題について学びます。また、講義を補足、展開するために、映画やドキュメンタリーなどの映像資料、写真も多用しながら授業を進めていきたいと思っています。

#### <各回毎の授業内容>

1. イントロダクションー文化人類学とは
2. 文化人類学の手法ーフィールドワークと民族誌
3. 文化人類学前史ー探検家、宗教家と「他者」
4. 植民地主義と「野蛮人」
5. 未開から文明へー社会進化論
6. 文化相対主義
7. 親族と家族ーヌアー
8. 婚姻ー南インド・ナーヤル
9. 社会的つながりの多様性ーヘアー・インディアン
10. 現代の家族ー生殖医療と代理母
11. ジェンダーと文化
12. 第3の性ーインドのヒジュラ
13. 身体の医療化ー出産と女子割礼
14. 異文化表象の政治性
15. 試験

#### <成績評価方法>

授業貢献度（10％）、コメントペーパー（20％）、期末試験（70％）

#### <教科書・参考文献>

特になし。授業中に必要な資料は配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

毎時間コメントペーパーを提出するだけでなく、授業中には積極的な質問や発言を求めます。そのかわり私語は厳禁で、他の受講生の迷惑になる場合には退席してもらいますので気をつけること（当然その日の出席点はつきません）。

#### <学習到達目標>

文化人類学の基本概念を理解し、他者理解の方法と視点についての自分の考えを説明できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	憲法	2	前	熊谷 卓（情報文化）
16年度以前	基 礎	2 年	憲法			

選択

#### <授業目的>

日本国憲法というと、中学校で学んでいらい、見たこともないという人もいるだろう。しかし、私たちが生活していく上で、国や地方公共団体とかかわることも多く、日本国憲法の出番となることも少なくないはずである。この講義では、私たちの人生と日本国憲法がどのようにかかわっているのか、この点を中核にすえて具体的に検討していく。このような観点から、可能な限り具体的な事例を通じて日本国憲法の重要事項、とりわけ、「基本的人権の保障」に重点をおいて講義をすすめていく。

#### <各回毎の授業内容>

1. オリエンテーション－憲法とは
2. 立憲主義
3. 国民主権
4. 平和主義
5. 人権総論
6. 人身の自由
7. 判例研究
8. 平等権
9. 判例研究
10. 民法規定の再婚禁止期間違憲性
11. 判例研究
12. 新しい人権
13. 信教の自由
14. 判例研究
15. 総括

#### <成績評価方法>

レポートもしくは筆記試験の成績および講義への参加度（質問・コメントなど）などを総合的に勘案。

#### <教科書・参考文献>

指定されたテキストをテキスト販売週間に買うこと。

#### <受講に当たっての留意事項>

なし。

#### <学習到達目標>

憲法学に関する一般的知識・理論を習得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	民法	2	集 中	関 武志
16年度以前	基 礎	2 年	民法			

選択

#### <授業目的>

私たちは小さい頃から様々な取引を経験しています。たとえば、子供の頃にオモチャを買ってもらったり、お小遣いでお菓子を買ったりすれば、それは立派に取引を行ったことになります。そして、民法という法律は、こうした取引を契約と呼び、この契約に関するルールを定めています。ところが、たとえば購入した商品に欠陥があったなどが原因で、取引をした相手方との間でトラブルが起こることは少なくありません。また、商品を購入することで、私たちは、知らず知らずのうちに、「自分のモノ」という観念を身に付けます。この観念を民法は「所有」と称して規定していますが、この「所有」の意味をきちんと理解しようとしても、なかなか困難です。たとえば、車の所有者が車に乗るという行為は、車の泥棒が乗り回す行為とどう異なるのか、泥棒に対して所有者はどんな請求ができるのか、購入した商品はいつから使えることになるか、自分の家を放火されたらどんな法的処理が可能か、購入した建物に欠陥があったら、買主としては、どのような責任を追及できるのか、などです。こうしたトラブルをどう処理するかについてのルールを定めた法律が民法です。だから、この法律は、私たちの生活に最も密接に関係しています。本講義はこうした民法について解説します。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 民法が定めている内容の対象
- 2 物とは
- 3 契約による所有権の移転①（契約とは）
- 4 契約による所有権の移転②（契約の成立と契約違反の責任）
- 5 債権の種類
- 6 物権の変動
- 7 契約の無効及び取消し
- 8 担保制度①（物的担保）
- 9 担保制度②（人的担保）
- 10 権利の取得と消滅（時効制度）
- 11 売買以外の重要な契約①（賃貸借）
- 12 売買以外の重要な契約②（請負）
- 13 不法行為
- 14 親族・相続①
- 15 親族・相続②

#### <成績評価方法>

成績は講義の最後に実施する試験の成績で評価します。試験は講義において説明した内容から出題しますが、試験についての注意事項については、講義の進捗状況を踏まえて適切な時期に説明します。

#### <教科書・参考文献>

教科書は指定しません。やや詳細なレジメを初回の講義で配付します。このほか、必携の教材資料として『ビジュアル民法教材』（開講時に1冊1,000円で販売）を用います。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義内容をこまめにノートしてください。また、上記の教材資料については、参照した箇所の説明もメモしておくことを勧めます。なお、当然ながら私語は厳禁です。

#### <学習到達目標>

民法上の基本的な用語、概念、制度を理解し、民法学を通して法的思考を習得してもらう。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	金融論	2	前	伊藤隆康

選択

#### <授業目的>

金融論を学ぶ重要性がますます増加している。個人や企業の活動において、金融とのかかわり合いが強まっているためだ。この講義では貨幣の機能や金融制度、金融機関などを解説することから始める。その後、金融市場や金融政策、国際金融を講義する。金融の世界は動きが激しいため、日本経済新聞や東洋経済、エコノミストなどを読んで時事問題に関心を持つことが必要である。そのためにTVの経済番組等を授業中に見てもらい、金融問題に慣れ親しんでもらう予定である。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス
- 2 貨幣と金融(1)
- 3 貨幣と金融(2)
- 4 金融機関(1)
- 5 金融機関(2)
- 6 金融市場(1)
- 7 金融市場(2)
- 8 金融市場(3)
- 9 金融政策(1)
- 10 金融政策(2)
- 11 金融政策(3)
- 12 国際金融(1)
- 13 国際金融(2)
- 14 金融の未来
- 15 試験

#### <成績評価方法>

期末試験で評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書 日経文庫ベーシック 金融入門 日本経済新聞社編 1000円 + 税

参考文献 家森信善「図解 これだけでわかる日本の金融」(東洋経済新報社)

池尾和人「入門金融論」(ダイヤモンド社)

岡部光明「現代金融の基礎理論」(日本評論社)

#### <受講に当たっての留意事項>

私語は厳禁である。使用テキストだけでなく、参考文献も参照して理解を深めることが望ましい。

#### <学習到達目標>

金融に関する理論だけでなく、実際に生じている問題について理解できるようになることを目標とする。

具体的には

(1)用語を理解する

(2)実際の金融問題を理解する

の2点に関して、目標に達していない場合は不合格にする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	情報文化	2	前	高木義和 （情報システム）
16年度以前	基 礎	2 年	情報文化			

選択

#### <授業目的>

情報文化は、民族、国民、社会、組織が持つ、情報に関する意識・感性・関心・価値観と定義することができる。また、情報の収集・処理・活用など各種の情報行動の重要性に関する認識や態度、あるいは、情報処理や行動に関する能力・技術・実践、情報行動に関する様式・しきたり・習慣と定義することができる。授業ではこれらの定義に対応する3つの側面から情報文化をとりあげ、情報が民族、国民、社会、組織に対してどのような影響を与えたり、変革を要請したりしているかを、自分の視点で考えることができるようになる。また多面的に情報文化の理解を深めることにより、情報に向き合う基本的な態度を学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

##### (1)情報技術の社会・個人への影響（社会・個人と情報技術）

- 1 情報文化の枠組み
- 2 情報通信技術の人間への影響
- 3 情報技術とコミュニティ 1
- 4 情報技術とコミュニティ 2
- 5 情報に対する感性

##### (2)グローバル化と地域化（社会と情報）

- 6 グローバル化の概念
- 7 経済のグローバル化
- 8 デジタルデバイドと社会の分断
- 9 文化のグローバル化
- 10 英語による情報と文化の支配 1
- 11 英語による情報と文化の支配 2

##### (3)情報社会と個人（個人と情報）

- 12 情報社会の光と影 1
- 13 情報社会の光と影 2
- 14 アイデンティティとグローバルコミュニケーション
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

成績は定期試験の結果で評価する。学期末に行う筆記試験は、(1) 情報技術の社会・個人への影響、(2) グローバル化と地域、(3) 情報社会と個人の3分野から1問ずつ、計3問を出題する。試験は資料の持ち込みは禁止で、講義に基づいた問題を出題する。授業に1/3以上欠席した場合は受験資格を認めません。

#### <教科書・参考文献>

必要に応じて配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノートを良く整理すること。大教室のため特に教室の後方で受講する場合に私語を慎むこと。

#### <学習到達目標>

- (1)情報技術が社会・個人へ大きな影響をあたえていることを理解する 30%
- (2)グローバル化が情報技術と密接な関係を持って進展するとともに、地域を分断する影響も生じさせていることを理解する 30%
- (3)情報社会の光と影を理解しグローバルな視点で情報に向きあうことの重要性を理解する 40%



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	言語学	2	前	三ツ井正孝

選択

#### <授業目的>

言語学―我々が日々用いていることばがもつありのままの姿を見つめ、その背後にある仕組みをうかがい上げらせることを目的とする学問分野―の基本、すなわち、言語学上重要な概念と、その概念を用いて言語を分析する際の基本的な方法を学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- 1) イントロダクション
- 2) 言語とは:ミツバチの「ことば」も言葉?
- 3) 言語学とは:言葉にはいくつかの力がある。
- 4) 世界の言語:日本語の「名前」は英語で「name」。音も発音も似てるけど……。
- 5) 音の問題(1):「さんまい (3枚)」と「さんかい (3回)」、ふたつの「ん」は発音が違う!
- 6)     〃 (2):そうはいっても、「ん」は「ん」。
- 7) 語の問題(1):「本」は1語。「箱」も1語。だったら、「本箱」は2語?
- 8)     〃 (2):「NASA」「JAL」「NUIS」、共通点は何?
- 9) 意味の問題(1):「上がる」の意味を聞かれたら? 「上へ行く」? では「登る」は?
- 10)    〃 (2):単語にも「ネットワーク」がある!
- 11) 文法の問題(1):「品詞」「活用」「5文型」だけが文法じゃない!
- 12)    〃 (2):「殴られだろうた」ってどうして言わないの?
- 13) 文をこえた文法:「この部屋暑いね」「そうだね」「……それだけ?」
- 14) 言語と社会:「俺が読むよ。」「私が読むわ。」「おらが読むだ。」「いや、わしが読むのじゃ!」
- 15) 試 験

#### <成績評価方法>

学期末試験の成績、出席、受講態度、授業中に課す（場合がある）小テストの成績を総合して評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、石黒昭博 他『現代の言語学』（金星堂）。参考文献は授業時に指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

データは基本的に日本語。したがって、受講するにあたって外国語に堪能である必要はない。むしろ、日本語に対して敏感であって欲しい。ただし、「言葉の乱れ」や「美的な言葉」に敏感であれと言っているのではない。この講義は「言葉の乱れ」の矯正や「美的センスのある言い回し」の習得を目的にはしていない。

一方で、「言葉は生きているのだから変わるのは当然」というステレオタイプなものの見方もしない。この表現は思考停止でしかない。

日本語に敏感であれ、というのは、「言葉の乱れ」や何の変哲もない日常の表現にひそむシステムを見出せる、「言葉は生きているというのなら、どのように生きているのか」を問える、そのような態度であれ、ということである。

「授業目的」のとおり、この授業の（そして言語学の）目的は、言葉がもつありのままの姿を見つめ、その背後にある仕組みをうかがい上げらせることにある。この点を十分に念頭に置いておいてほしい。

#### <学習到達目標>

言語学の基本的な考え方を理解し、基礎的な知識を習得すること。さらに、実際の言語分析に応用できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	ジェンダー論	2	前	矢口裕子（情報文化）
16年度以前	基 礎	3 年	ジェンダー論			

選択

#### <授業目的>

ジェンダーの一般的な定義は、生物学的・肉体的性差（セックス）と別に、文化的・社会的に作られた性差のことをいう。わかりやすくいうと「男らしさ／女らしさ」と呼ばれたり「女性的／男性的」と分類される諸現象、その周辺の問題群を扱う学問である。ジェンダー論は1980年代以降一般化した比較的新しい学問領域だが、人として生まれた者であれば、性別・年齢・洋の東西を問わず誰もが関わらずにはいられない問題を多く含んでいる。本講義では、ジェンダー論とは何かをできるだけわかりやすく、自分たち自身の問題として受け止め、考えてもらえるような授業を行いたい。最新の学問的傾向にも触れつつ、理論一辺倒にならないよう、理解の一助をして映像資料も使う予定。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 イントロダクション
- 2-3 ジェンダー論の基礎知識
- 4-6 表層文化とジェンダー
- 7-9 セクシュアリティの諸問題
- 10-12 女性への暴力
- 13-14 ジェンダー論の理論的展開
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

学期末試験あるいはレポートで評価する。

#### <教科書・参考文献>

授業中に指示する

#### <受講に当たっての留意事項>

私語はくれぐれも謹んでほしい。出席のための出席は意味がない。自分が欠席した授業のなかで試験・レポートその他に関する指示が伝えられた場合、自分の責任で情報を収集すること。尚、授業内容は一部変更もありうる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	文章表現	2	前	小林 弘
16年度以前	基 礎	2 年	文章表現			

選択

#### <授業目的>

文章表現とは、語句を選び組み合わせ、ある考えやテーマを相手に的確に伝達する作業である。現代では、電子メールやインターネットのホームページ、ブログなど文章表現の場が新たに加わった。文章表現の場は驚くほど広がり量的な拡大をみせている。短く要点をまとめ、的確で分かりやすい文章がますます求められている。

講義では、文章の書き方や論文・実用文の具体的な約束事などを学習する。実際に文章を書く作業を最も重視し、文章表現の技術を学ぶ。提出された文章は寸評したものを配布する。

#### <各回毎の授業内容>

- ①抗議のガイダンス
- ②分かりやすい文章とは
- ③原稿用紙の書き方の基礎
- ④5W1H
- ⑤起承転結
- ⑥取材(1)
- ⑦取材(2)
- ⑧事実のとらえ方と見方(1)
- ⑨事実のとらえ方と見方(2)
- ⑩インタビュー
- ⑪レポート、ビジネス文書
- ⑫コラム、エッセー
- ⑬推敲の重要性
- ⑭インターネット時代の落とし穴
- ⑮レポート提出（まとめ）

#### <成績評価方法>

授業中に提出を求めた数回の作文（70％）と期末レポート（30％）による採点。

#### <教科書・参考文献>

なし。参考文献は講義時に示す。

#### <受講に当たっての留意事項>

受講時は必ず400字詰め原稿用紙と2B以上の濃い鉛筆を必ず用意すること。

#### <学習到達目標>

的確で分かりやすい文章が書けるようになり、文章の目的に合った表現ができるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3A (表現英語1) X1X2	1	前	グレゴリー デイック
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ (X 1・X 2)			

必修

#### <授業目的>

この授業では日常的な事柄に基づいて意見を交わすことを目的としています。英語でのコミュニケーションを高めるために読解力や表現力を高めます。

#### <各回毎の授業内容>

1. Guidance
2. Welcome Unit
3. Unit 1: Personal Information
4. Unit 1
5. Unit 2: At School
6. Unit 2
7. Review 1
8. Unit 3: Friends and Family
9. Unit 3
10. Unit 4: Health
11. Unit 4
12. Review 2
13. Unit 5: Around Town
14. Unit 5
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

授業態度・課題（40％）、プレゼンテーション（30％）、定期試験（30％）

#### <教科書・参考文献>

Ventures 1, Gretchen Bitterlin et al. (Cambridge University Press)

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中の私語やクラス不参加、欠席などの行為は評価に影響します。

#### <学習到達目標>

英文の読解やネイティブスピードでのリスニングに重点を置き、個人の意見を英語で述べるができるようにします。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3A（表現英語1）Y1Y2	1	前	イザベラ青木
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（Y 1 ・ Y 2）			

必修

＜授業目的＞

第1学年より積み上げてきた英語コミュニケーション能力の一層の向上を目指します。 英語で意見交換をできる様に英語の表現力をたかめます。

＜各回毎の授業内容＞

1. Introduction to course

2. Keeping in Touch

3. Keeping in Touch / Feeling nostalgic

4. Feeling Nostalgic/ School and Beyond

5. School and Beyond

6. Review 1

7. Video and/or other materials

8. Video and/or other materials

9. Below the Surface

10. Below the Surface / Going on Vacation

11. Going on Vacation / Keeping Up to Date

12. Keeping Up to Date

13. Review 2

14. Video and/or other materials

15. まとめと試験

＜成績評価方法＞

成績評価内訳:平常点（70％）、定期試験（30％）

＜教科書・参考文献＞

Gear Up 2, Steve Gershon and Chris Mares（Macmillan Languagehouse）

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

＜受講に当たっての留意事項＞

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

＜学習到達目標＞

昨年に習った英語をベースにして、英語の会話において、個人が意見を発信できる様になる事。  
（関連する学習・教育目標:B）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 3A（表現英語 1）Z1Z2	1	前	マーク スーマ
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（Z 1・Z 2）			

必修

#### <授業目的>

このコースの目的は、英語の母語話者によって使われる実際的な表現をマスターすることです。各週において、学生は10の新しいイディオムを習得した後、それらをディスカッションや討論で、どのように使うかを学びます。

また、話したり聴いたりするいろいろな活動に積極的に参加することが求められます。学生は、どんな場合でも、英語を使うことに自信を持つでしょう。

#### <各回毎の授業内容>

1. Intorduction
2. Lesson1.Home-stay
3. Lesson2.Studying for Examinations
4. Lesson3.Driving
5. Lesson4.Staying slim
6. Lesson5.Neighbours
7. Review Test
8. Lesson6.Vacation Abroad
9. Lesson7.Junk Mail
10. Lesson8.The Writer
11. Lesson9.Return from Ecuadombia
12. Lesson10.Let' s Have a Party
13. Lesson10.Let' s Have a Party2
14. Review Week
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

Mid Test 30 %

Final Test 50 %

Participation 20 %

#### <教科書・参考文献>

"IDIOMS FROM SQUARE ONE" by Barry Ward. Macmillan Language house. 1900円

#### <受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

#### <学習到達目標>

日常生活において使用される英語表現を数多く知り、理解できるようになること。  
（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3B(TOEIC英語1) X1X2	1	前	本間多香子
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（X 1 ・ X 2）			

必修

#### <授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストとして現在幅広く活用されている。この授業ではTOEIC形式の問題を解くことにより、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着を図る。特にリスニング問題では話の内容を理解する能力を高め、リーディング問題では、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につける。

#### <各回毎の授業内容>

1. TOEIC 試験について Chapter 1
2. Chapter 1, 2
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 3, 4
6. Chapter 4
7. Chapter 5
8. Chapter 5, 6
9. Chapter 6
10. Chapter 7
11. Chapter 7, 8
12. Chapter 8
13. Chapter 9
14. Chapter 10
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

定期試験50％ 授業中の小テスト20％ 授業への取り組み状況等30％

#### <教科書・参考文献>

松岡昇 著 Kick Off for the TOEIC Test （金星堂1950 円）

#### <受講に当たっての留意事項>

遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。

#### <学習到達目標>

基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる。  
（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3B (TOEIC英語1) Y1Y2	1	前	辻 照彦
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（Y 1・Y 2）			

必修

#### <授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を評価する標準試験である。この授業では、TOEICテスト受験のための入門的演習を通して、グローバルなネットワーク社会で活躍するために欠かせない英語によるコミュニケーション能力、特に、リスニング力と速読能力の基礎を育成する。

#### <各回毎の授業内容>

- Unit 1 (Arts and Amusement)
- Unit 1, Reading Part
- Unit 2 (Lunch and Parties)
- Unit 2, Reading Part
- Unit 3 (Medicine and Health)
- Unit 3, Reading Part
- Unit 4 (Traffic and Travel)
- Unit 4, Reading Part
- Unit 5 (Ordering and Shipping)
- Unit 5, Reading Part
- Unit 6 (Factories and Production)
- Unit 6, Reading Part
- Unit 7 (Research and Development)
- Unit 7, Reading Part
- Unit 1-7のまとめと定期試験

#### <成績評価方法>

発表・課題等40%、定期試験60%。

#### <教科書・参考文献>

Essential Approach for the TOEIC Test（著者）Naoko Osuka（出版社）成美堂

#### <受講に当たっての留意事項>

注意すべき事項については最初の授業の時に説明する。

#### <学習到達目標>

日常的な英会話を聞いて話のポイントを理解することができる。日常的な英文文書を読みポイントを理解することができる。ビジネス関係の基本的なボキャブラリーを習得する。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3B (TOEIC 英語1) Z1Z2	1	前	秋 孝道
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ (Z 1・Z 2)			

必修

#### <授業目的>

TOEICとはTest of English for International Communication の略称であり、このテストは英語によるコミュニケーション能力を評価するテストとして日本国内の多くの企業などでも採用されています。この授業では、TOEIC対策用テキストを用いて、TOEIC受験の準備をすると同時に、英語コミュニケーション能力を高める演習を行います。復習小テスト（毎時間）と期末テストを行います。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス、TOEICの説明
- 2 品詞1
- 3 生活関連
- 4 品詞2
- 5 買い物
- 6 品詞3
- 7 レストラン
- 8 主語動詞の一致
- 9 旅行
- 10 動詞形1
- 11 さまざまな職種
- 12 動詞形2
- 13 会社
- 14 動詞形3
- 15 まとめと試験

#### <成績評価方法>

小テスト（50％）と期末テスト（50％）に基づき成績評価を行う。但し、授業の取り組みに問題がある場合には、合計で最大20点の減点を行う（特に問題がない場合には減点を行わない）

#### <教科書・参考文献>

Mizumoto, A. *Target on the TOEIC Test: Starter* 金星堂（2,000円 税別）

#### <受講に当たっての留意事項>

テキスト、辞書、ノートを持参すること。

#### <学習到達目標>

TOEIC受験のための基礎的英語力を身につける。基礎的な英語コミュニケーション能力を身につける。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 3C（読む英語 1）X1X2	1	前	笹川壽昭 （情報システム）
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（X 1・X 2）			

必修

#### <授業目的>

この授業では、アメリカのポップカルチャー（食文化、娯楽、スポーツ）について、日本のポップカルチャーと比較しながら、理解を深めるとともに、英文の読解力および聴解力を養成する。

#### <各回毎の授業内容>

1. Ch. 1 The Hamburger Icon
2. Ch. 1 The Hamburger Icon
3. Ch. 2 Southern USA Cuisine
4. Ch. 2 Southern USA Cuisine
5. Ch. 3 Coffee Drinks for the Planet
6. Ch. 3 Coffee Drinks for the Planet
7. Ch. 4 The Quick Snack
8. Ch. 4 The Quick Snack
9. Ch. 5 A Modern Lifestyle
10. Ch. 5 A Modern Lifestyle
11. Ch. 6 The Great White Way
12. Ch. 6 The Great White Way
13. Ch. 7 America's Dream Factory
14. Ch. 7 America's Dream Factory
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

Edward Hoffman: Enjoying American Pop Culture（朝日出版社）1,800円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

英文の精読、および読解練習問題などに取り組むことにより、Scanning（必要な情報を素早く探す読み方）が容易にできるようになること。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3C（読む英語1）Y1Y2	1	前	笹川壽昭 （情報システム）
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（Y 1・Y 2）			

必修

＜授業目的＞

この授業では、新しい経済学の分野、行動経済学の観点からの人間の行動について学ぶとともに、英文の読解力、および聴解力を養成する。

＜各回毎の授業内容＞

1. Ch. 1 Economics and Human Nature
2. Ch. 1 Economics and Human Nature
3. Ch. 2 Day-Care Centers in Israel
4. Ch. 2 Day-Care Centers in Israel
5. Ch. 3 Tipping
6. Ch. 3 Tipping
7. Ch. 4 Coffee
8. Ch. 4 Coffee
9. Ch. 5 Convenience Stores
10. Ch. 5 Convenience Stores
11. Ch. 6 Luxury Products
12. Ch. 6 Luxury Products
13. Ch. 7 Women and Men’s Prices
14. Ch. 7 Women and Men’s Prices
15. Review & Test

＜成績評価方法＞

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

＜教科書・参考文献＞

Paul Stapleton: Econosense?Economics and Human Nature（センゲージ ラーニング）1,700円

＜受講に当たっての留意事項＞

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

＜学習到達目標＞

英文を精読することにより、批判的に文章を読むことができるようになること。  
（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語3C（読む英語1）Z1Z2	1	前	大竹芳夫
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅲ（Z 1・Z 2）			

必修

#### <授業目的>

日本とアメリカの生活、文化、教育、習慣、思考様式の共通点や相違点について取り上げる英語教科書を読み、英文の読解力を高める。あわせて、教科書の付属CDや、日常生活を場面ごとに取り上げるビデオ教材を活用しながらリスニング能力の向上も目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. オリエンテーション:教材の特徴・意義と使用方法、授業の進め方、評価方法などについて
2. Lesson 1 Physical Education
3. Lesson 2 Sports Clubs
4. Lesson 3 Cultural Differences
5. Lesson 4 Haircuts
6. Lesson 5 Music
7. Lesson 6 Money
8. 第2週から7週までのまとめ、効果的な英語学習について
9. Lesson 7 Safety
10. Lesson 8 Life Expectancy
11. Lesson 9 The Metric System
12. Lesson 10 Police
13. Lesson 11 Seasons
14. Lesson 12 TV Sports
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

発表内容（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

George Truscott et al.: Eye on America and Japan（南雲堂）1,800円＋税

#### <受講に当たっての留意事項>

英和辞典（電子辞書も可）を授業時に持参すること。

#### <学習到達目標>

英語文章の内容を正確に読み解くことができると同時に、日英語話者の文化や発想の相違を理解することができる。

（関連する学習・教育目標:B）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 3（再履修）	1	前	笹川壽昭 （情報システム）

必修

#### <授業目的>

この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマとしたテキストを読んで、現代の食を考えると同時に、会話文や論説文に取り組むことにより会話力および英文読解力を養成する。

#### <各回毎の授業内容>

1. Unit 1 Counting Calories
2. Unit 1 Counting Calories
3. Unit 2 A New Sports Tradition
4. Unit 2 A New Sports Tradition
5. Unit 3 As American as Apple Pie
6. Unit 3 As American as Apple Pie
7. Unit 4 Use as Directed
8. Unit 4 Use as Directed
9. Unit 5 The End of Home Cooking?
10. Unit 6 Just Follow the Recipe
11. Unit 7 Supplemental Health
12. Unit 8 Time for Tea
13. Unit 9 Fresh from the Garden
14. Unit 10 Local Delicacies
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

Shinobu Sunaga et al.: Food for Thought（南雲堂）1,785円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

食事や食文化などについて、英語を通じて、外国の人と情報交換やコミュニケーションができるようになること。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 3（再履修）	1	前	高橋正平

必修

#### <授業目的>

この授業は基本的な英語力の向上を目指す授業である。テキストは平易な英文で興味深い、意外性のある実話を扱っている。テキストには読解用の英文の他に読解の助けとなる練習問題が付いている。

#### <各回毎の授業内容>

第1週: 1 章 THE REAL ALICE IN WONDERLAND PART 1  
 第2週: 1 章 THE REAL ALICE IN WONDERLAND PART 2  
 第3週: 2 章 THE LADY ENTERED A UFO PART 1  
 第4週: 2 章 THE LADY ENTERED A UFO PART 2  
 第5週: 3 章 THE DEAD WOMAN'S VOICE PART 1  
 第6週: 3 章 THE DEAD WOMAN'S VOICE PART 2  
 第7週: 中間試験  
 第8週: 4 章 THE DEATH OF POMPEII PART 1  
 第9週: 4 章 THE DEATH OF POMPEII PART 2  
 第10週: 5 章 THE BERMUDA TRIANGLE PART 1  
 第11週: 5 章 THE BERMUDA TRIANGLE PART 2  
 第12週: 6 章 THE \$50,000 WALLPAPER PART 1  
 第13週: 6 章 THE \$50,000 WALLPAPER PART 2  
 第14週: 7 章 THE TITANIC DISASTER PART 1  
 第15週: まとめと試験

#### <成績評価方法>

中間試験、期末試験及び出席状況を考慮し、総合的に評価する。

#### <教科書・参考文献>

ブライアン・ポール他編注: *What a Story! - Readings in Easy English* (南雲堂)

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回1レッスンを読み終える。授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。5回以上の欠席で試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

#### <学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指す。

(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	フィットネス理論及び実習	1	前	藤瀬武彦 (情報システム)
16年度以前	基 礎	2 年	フィットネス理論及び実習			

選択

<授業目的>

(受講対象は、両学科の2年、3年、及び4年生)

この授業では、各個人の目的（シェイプアップ・ビルドアップ・競技力向上など）に応じた運動トレーニングの理論と方法を習得し、実際にトレーニングプログラムを作成・実践できるようにすることを目的とする。なお、受講学生には半期15回の授業と週1回の自主トレーニングによってトレーニング効果を獲得していただくことが目標である。

<各回毎の授業内容>

この授業は、1年生配当の「体力診断と運動処方1・2（フィットネス）」のアドバンスコースである。履修学生は、まず各個人の希望により「シェイプアップ」「ビルドアップ」「競技力向上」の3つのコースから1つを選択し、具体的な数値目標などを設定する。

1)「シェイプアップ」・・・身体を引き締め、基礎体力を向上させる。

2)「ビルドアップ」・・・筋肉量を増やし、筋力やパワーを向上させる。

3)「競技力向上」・・・スポーツ種目の特性に応じた基礎体力を向上させる。

1. ガイダンス … 授業内容と評価方法、コース選択と体力診断など

2～14. 毎回の授業は、前半がW-upとトレーニングの一環としてのバスケットボールを行い、後半がトレーニングを実践する。トレーニング理論（生活習慣、食事など）については、資料を適時配布するので必ず目を通して理解しておくこと。

各学生のトレーニング内容については、選択したコースや個人によって異なるが、まずは基本メニューを実践していき、その後の状況や本人の希望に応じて少しずつ個別対応していきたい。なお、主なトレーニング方法については以下に示した。

1) エアロビクトレーニング(1)トレッドミルウォーキング（30分）

(2)エアロバイクペダリング（30分）

(3)サーキットトレーニング（10種目）、など

2) ウエイトトレーニング

(1)ピラミッドセット（7セット）

(2)コンパウンドセット（2セット）

(3)マルチパウンデッジ（2セット）

(4)パワートレーニング ①フライングスプリット

②ハイクリーン・スナッチ

15. 体力診断とまとめ

<成績評価方法>

週2回のトレーニング頻度（授業1回と自主トレ1回）の達成度とトレーニング効果を総合的に判断するとともに（60点）、筆記試験（40点）の合計100点満点で評価する。

<受講に当たっての留意事項>

適切なトレーニングプログラムを作成し、トレーニング効果を客観的に把握するために、体力診断として形態や基礎体力の測定を行うことがある。

<学習到達目標>

各個人の目的に応じたトレーニングプログラムを作成できるようにすること、またトレーニングを実践してその効果を習得・体験する。

# 3 年基礎科目（前期）

社会調査  
倫理学  
キャリア開発2  
インターンシップ

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	社会調査	2	前	松尾瑞穂（情報文化）
16年度以前	基 礎	2 年	社会調査			

選択

#### <授業目的>

私たちは日々の生活において、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどから発信される様々な情報に取り囲まれています。また、情報の受け手であるだけでなく、ブログなどを通して、自らが情報の発信源となることも一般的になりつつあります。今日では、人文・社会科学分野だけでなく、メディアや企業活動にとっても、情報を適切に収集、分析・検討し、提示することが重要な課題となっており、その比重は今後ますます高まるでしょう。しかし、多種多様な情報を適切に取捨選択することは容易なことではありません。社会調査は、現象に対する問いを立て、なるべく「正しい」情報を提示することを目的とするものです。本授業では、受講生が課題に取り組みながら基本的な社会調査の手法を習得することを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 イントロダクション:授業の進め方と概要についての説明
- 第2回 社会調査の歴史とその必要性
- 第3回 社会調査の技法と調査倫理
- 第4回 テーマの設定と文献調査
- 第5回 質問票の作成
- 第6回 データ収集の方法(1)サンプリング
- 第7回 データ収集の方法(2)アンケート実施
- 第8回 データ入力と分析
- 第9回 フィールドワーク(1)聞き取り調査
- 第10回 フィールドワーク(2)ライフストーリー
- 第11回 フィールドワーク(3)参与観察
- 第12回 フィールドワークの成果と分析
- 第13回 民族誌記述
- 第14回 民族誌を読む
- 第15回 まとめ

#### <成績評価方法>

小課題（30％）およびレポート（70％）

#### <教科書・参考文献>

佐藤郁哉2008『質的データ分析法－原理・方法・実践』、新曜社。  
その他、必要な資料は配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中に出された課題をこなすことが求められる。また、授業中にディスカッションや聞き取りの予行練習などを実施するため、受講生は積極的に授業に参加することが期待される。

#### <学習到達目標>

社会調査の概要と手順、方法に関する基礎内容を理解し、受講生が卒業論文等で必要な調査に活用できるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	倫理学	2	前	阿部ふく子
16年度以前	基 礎	3 年	倫理と価値			

選択

<授業目的>

この講義では、伝統的な倫理思想に加え、応用倫理学のうち生命倫理・環境倫理といった二つの分野を取り上げ、倫理学の基本的な問題関心を通観します。「倫理」という漢語自体は、「なかま（倫）」の「ことわり（理）」という意味を表しています。共同体の中に生きる人間の理を考えていく以上、受け身姿勢で授業に臨むのではなく、自らの考えを述べたり、他の人々と議論を交わすという開かれた態度が求められます。授業では随時アンケートを実施し、各人あるいはグループ単位で倫理的諸問題について主体的に考える過程を取り入れていきたいと思っています。

<各回毎の授業内容>

01. 基本概念①:倫理（学）とは何か

02. 基本概念②:義務論（カント）

03. 基本概念③:功利主義（ベンサム、ミル、シンガー）

04. 生命倫理①:生命の尊厳とは何か——QOL 倫理と SOL 倫理

05. 生命倫理②:インフォームド・コンセント

06. 生命倫理③:安楽死問題

07. 生命倫理④:障害新生児の治療停止問題

08. 生命倫理⑤:脳死・臓器移植問題

09. 環境倫理①:環境問題の基本理解（視聴覚資料による）

10. 環境倫理②:環境倫理学の理念、持続可能性

11. 環境倫理③:環境問題をめぐる国際協力（京都議定書など）

12. 環境倫理④:環境問題をめぐる個人の自由と責任

13. 環境倫理⑤:景観論と倫理

14. まとめ

15. 定期試験

<成績評価方法>

アンケート（随時実施、30%）、定期試験（70%）による。

※アンケートは出席評価も兼ねています。極端に出席日数の少ない場合は成績評価の対象となりません。

<教科書・参考文献>

取り扱う分野が多岐にわたるため、毎回プリントを配布します。

<受講に当たっての留意事項>

授業プリントの他、図書館に配架されている「指定図書」などを積極的に利用して下さい。

<学習到達目標>

倫理学の基本的知識を習得するとともに、倫理的な思考と判断力を磨く。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	キャリア開発 2	1	前	就職指導委員長
16年度以前	基 礎	3 年	キャリア開発 2			

選択

<授業目的>

1. 就職環境が非常に厳しい中で、「入りやすさ」や「選考対策」に終始せず、「卒業後を楽しみにできる、主体的な進路選択」に向けた準備をする。

2. ワークや討論、意見交換などを通じて、社会で活かせる自分の力や可能性を多面的にとらえる。同時にその裏付けとなる経験の振り返りや、将来像のイメージ作りを進め、「自分らしさ」の具体的な把握をめざす。

3. 対人コミュニケーションの演習やゲストスピーカーのスピーチ、視覚教材などを利用し、「客観的な視点による自己像や自らの考え・意見」について考察し、表現できるようにする。

4. 県内外の企業等の採用・ビジネスの視点や先輩モデルの話、事例、データなどに触れ、雇用の現場で何が起きているのかを理解し、インターンシップ・学外実習への参加、および就職活動や進路選択に役立てる。

<各回毎の授業内容>

講 師： 外部からの招聘および本学教員

第1回 学生から社会人へ <オリエンテーション、就職活動と採用選考の基本>

第2回 「私」を活かす 1 <強み、適性の発掘と将来の進路の探索>

第3回 「私」を活かす 2 <やりがい、価値観、動機づけ>

第4回 集団と「自分らしさ」<他者との比較やコミュニケーションの中に見出す「私」>

第5回 採用選考と人材に求めるもの <企業の新卒採用への期待、採用選考の視点>

第6回 モデルに聞く「学生生活と就職活動」 <先輩をゲストに招いて>

第7回 「私のライフスタイル」 <ワークライフバランス、仕事の人生における意味>

第8回 「今の私」を将来に活かす <「なりたい自分」の把握とそのための計画作り>

第9回 まとめ

※グループワークまたは、小レポートの作成を授業時間内で実施する。ゲスト教員などのミニ講義を適宜、取り入れ、視野の拡大や気づきの獲得を図る。

<成績評価方法>

・課題レポート（進路選択に向けた課題の発掘、計画策定、自己理解、モデルに学ぶ仕事と人生などのテーマから選択）点:40点

・演習（毎回のワークシートまたは、レポート（出欠状況含む）、合計9回）点:60点

<教科書・参考文献>

教科書は特に定めない。講師の推薦する図書・資料を参考にすること。

<受講に当たっての留意事項>

1. 17年度以降入学生（4年次生）がこの講義の単位を取得した場合、その単位は卒業要件の単位に算入される。

2. 16年度以前の入学生のカリキュラムでは、この講義は、自由科目なので、16年度以前の入学生がこの講義の単位を取得した場合、その単位は成績として記録されるが、卒業要件の単位に算入されない。

3. この科目は本学の就職指導の基礎的な役割を占める。今後の就職指導ガイダンス・就職サポート（適性検査・就職体験講座・模擬面接等）を、あなたがあなたの人生の選択に有効に役立てるため、就職・進学にかかわらず、全員受講することが望ましい。

<学習到達目標>

1. 多様な意見や考えに触れながら、自らの人生に活かすためのコミュニケーション力を磨く。

2. 採用選考の一番のポイントである「自己理解と表現」の意味を理解し、伝えるものと技術を身につける。

3. 就職活動そして就職および人生設計に必要な視点、自己分析の手法、雇用を巡る現場の基礎知識を獲得する。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	インターンシップ	1	前	情報文化教員
16年度以前	基 礎	3 年	インターンシップ			

選択

#### <授業目的>

企業その他の団体で実際に就業体験を積んでみるのは、学生にとって重要な学習機会になる。それはなによりも、社会の“現場”の一角に実際に身を置くことを意味する。それによって、大学での学習内容をいったん相対化するとともに、社会人として自己に足りない部分を自覚してそれを正すため何が必要かを身をもって体験すること、これがこの授業の学習内容である。こうした学習の基本となる目的は、自己のキャリア実現方向を自己自身において熟議しつつ展望する構想力を実践的に体得すること、これである。

#### <各回毎の授業内容>

就業体験は平均して一週間程度である。体験内容は受入先に応じて異なる。決して、アルバイト的な就業内容ではない。むしろ、受入機関の新人研修的な色彩が強い。

それゆえ、大学内での事前研修が重要になる。最低3回程度行う。内容は、ソーシャル・エチケットやマナーおよび民間企業の一般的な組織・業務内容に関するものになる。受講学生は、受入機関について調査し、就業体験から何を学ぶべきか、レポートにまとめる。また就業体験中に作成する実習日誌の書き方もあわせて学ぶ。なお、新潟インターンシップ協議会その他の外部研修に出席してもらうこともある。

就業体験を終えた後は、体験内容を参加者が相互に報告しあうワークショップを行う。また実習日誌を最終的に仕上げ、大学に提出する。その日誌は受入先機関の守秘事項チェックを受ける。指摘された部分があった場合、それを修正して再提出する。以上の後、参加学生が各自受入機関へ礼状を出して、授業が終了する。

#### <成績評価方法>

成績評価は、事前研修の出席状況、受入先企業の評価、実習日誌の内容の三点から総合的に判断する。なお、受入企業・団体数は限られており、希望者全員が履修できない場合がある。受入企業・団体が決まらなかった場合、履修登録そのものが取り消される（成績上の記録は何も残らない）。ただし、受入先機関が決まった後、事前研修において著しい問題が見られる場合、その段階でD評価がつけられることもある。さらに実習日誌を期日までに提出しなかった場合、特段の理由がないかぎりE評価とはせず、D評価とする。内容が（誤字脱字も含めて）一定水準以下の場合、同じくD評価となることがある。


#### <受講に当たっての留意事項>

この授業科目は、3年前期のキャリア開発2の学習を前提とする。受入企業・団体と履修学生の希望を調整する（マッチングの）際、同科目を履修し出席状況も問題のない学生を優先することがある。ぜひ、キャリア開発2を受講しておいてもらいたい。また過去の実習日誌は就職課で随時閲覧できる。まずは先輩の体験に目を通して見るように。受講に当たって迷いがある場合、ぜひ遠慮せずに、担当の教員もしくは就職課職員に相談してもらいたい。

# 共通科目



# 1 年共通科目（前期）



地域研究論  
アジアと日本  
日本政治論  
日本経済論  
国際研究概論  
国際交流インストラクター演習1  
情報システム  
コンピュータシステム  
人間情報システム  
情報処理演習1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	地域研究概論	2	前	コーディネーター 小山田紀子(情報文化)
16年度以前	共 通	1 年	地域研究概論			

情報文化学科必修 情報システム学科選択

#### <授業目的>

情報文化学科の1年生の皆さんは、1年後期から、ロシア、中国、韓国、アメリカのうち1つの地域を選択し、その地域の言語を中心に歴史、文化、社会、政治経済等について学ぶことになります。この授業はその準備として、地域研究というものの方法論的性格と、一通り各地域についての基礎的知識を学び、皆さんが自分の専門地域を選択する際の判断材料を提供することを目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

1. イントロダクションー地域研究入門ー(小山田紀子)
2. 世界の中のロシア (小澤治子)
3. ロシアの歴史 (小澤治子)
4. 日本とロシア (小澤治子)
5. 中国の概況ー国土・自然・人口・民族ー(區建英)
6. 中国語という言語 (區建英)
7. 地域研究における中国 (區建英)
8. 現代韓国・北朝鮮ー解放後から現在までー (申銀珠)
9. 日韓文化の比較 (申銀珠)
10. 韓国語とは (申銀珠)
11. アメリカ社会の歴史的構成 (越智敏夫)
12. アメリカ経済の特長 (安藤潤)
13. 現代アメリカ文化 (矢口裕子)
14. 世界の中の日本 (小山田紀子)
15. まとめ (小山田紀子)

#### <成績評価方法>

各地域担当者が各2問出題し、その全問あるいは一部を選択して（どちらになるかは未定）解答する。おそらく全問とも論述式。

#### <教科書・参考文献>

各地域担当者が授業中に指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

大人数の授業になるので、私語はくれぐれも慎むこと。

#### <学習到達目標>

地域研究の分析視点を獲得し、各地域の基礎的知識を得ること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	アジアと日本	2	前	吉澤文寿・高橋正樹・ 小林元裕（情報文化）
16年度以前	共 通	1 年	総合講座「アジアと日本」			

選択

#### <授業目的>

この講義は日本の近隣地域、すなわち台湾、朝鮮、中国、さらには東南アジアに対する侵略の歴史とそれをめぐる今日の議論を考察し、日本と近隣諸国との建設的な将来を構想することを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

1. 講義の概要
2. 朝鮮と日本(1)
3. 朝鮮と日本(2)
4. 朝鮮と日本(3)
5. 朝鮮と日本(4)
6. 中国と日本(1)
7. 中国と日本(2)
8. 中国と日本(3)
9. 中国と日本(4)
10. 東南アジアと日本(1)
11. 東南アジアと日本(2)
12. 東南アジアと日本(3)
13. 東南アジアと日本(4)
14. 沖縄と日本（やまと）
15. まとめ

「朝鮮と日本」は吉澤、「中国と日本」は小林、「東南アジアと日本」及び「沖縄と日本（やまと）」は高橋が担当する。

#### <成績評価方法>

定期試験及び小テストによって成績評価をする。

#### <教科書・参考文献>

小林英夫『日本のアジア侵略』山川出版社、2001年、729円＋税。

#### <受講に当たっての留意事項>

受講にあたり、当該の講義内容を予習することを勧める。学科を問わず、受講を勧める。

#### <学習到達目標>

私たち日本人々にとって「アジア」とは何か。そもそも日本は「アジア」ではないのか。本講義の主題である「歴史問題」をめぐる今日の議論を通じて、近隣諸国との関係を考える中で、先の問いに対する答えを見つけ出すヒントが得られることを期待したい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	日本政治論	2	集 中	椎橋勝信
16年度以前	共 通	1 年	日本の政治			

選択

#### <授業目的>

昨夏の第45回衆院選で民主党が圧勝、政権に就いた。1955年の結党から一時期を除き政権の中心にいた自民党が野に下り、戦後初めての二大政党間の政権交代となった。なぜ自民党は国民の信を失ったのか。期待を受けた民主党はこの国のかたち、政治の仕組み、私たちの生活をどう変えようとしているか。その実情を政治ジャーナリスト（元毎日新聞政治記者、論説委員）の講師がデータに基づいてレポート、新政権の可能性と限界を示しながら、政権交代の意味を考え、同時に日本政治の特質に迫りたい。

#### <各回毎の授業内容>

1. 「政権」とは、「政権交代とは」＝首相指名選挙、それをめぐる様々な動きを報告し、憲法など制度の仕組みから説明するとともに、これまでの政権交代と比較してから今回の特徴などを見る。
2. 連立政権17年（上）＝1993年に始まった連立政治を振り返り、その総括を試みるとともに政権交代の背景を探る。政界再編とは何かを実例をあげて考えたい。（上）では「あの手この手」で政権の中心を維持してきた自民党。
3. 連立政権17年（下）＝民主党はなぜ生まれたか。自民党分裂、新進党分裂、自由党との合流――民主党のルーツを明らかにする。
4. 民主党大勝・自民党惨敗の原因＝昨年8月末の衆院選結果、世論調査結果などのデータをもとに分析。
5. 小選挙区制の効果と限界＝リクルート事件、冷戦終結、万年与党・万年野党体質→政権交代可能な体制による緊張感ある政治の必要性（第8次選挙制度審議会）。94年導入され5回実施された小選挙区制の評価も。
6. 有権者の政治意識の変化＝結果責任より説明責任、政治の透明性を求める傾向。合わせて選挙結果のカギを握る無党派層の分析も。
7. マニフェスト（上）＝マニフェストとは。選挙公約とどこが違うのか。導入のきっかけと歴史。選挙に契約概念導入したことの意味。
8. マニフェスト（下）＝民主党が衆議院で発表したマニフェストの実現状況。「マニフェスト選挙」は日本の政治に定着するのか。
9. 事業仕分けとは＝官の無駄をなくす有効な手段ではあったが――成果と今後
10. 政治主導と官僚制主導＝主導する「政治」とは、政党？ 内閣？ 議会？ 政治の仕組みをかえる天皇会見問題
11. 借金大国＝史上最大の10年度予算と膨れ上がった借金
12. 「新聞将軍・小沢一郎」研究＝①資金管理団体「陸山会」の土地取得問題②西松建設の違法献金。実権を握る小沢一郎民主党幹事長に対する様々な評価。
13. 連立与党のアキレス腱 外交問題＝普天間基地移転問題②4つの密約問題
14. 新政権の課題と日本の政治＝自民党政治が忘れてきたもの「当たり前の政治」。①一人別枠制度（1票の格差）②先進国最少の女性議員③世界の9割近くは18歳選挙権
15. 試験

#### <成績評価方法>

最終回に講義内容の理解度を把握する試験を実施する。

#### <教科書・参考文献>

「論憲の時代」(2003年、日本評論社)「自治体の構想 第5巻 自治」(2002年、岩波書店)  
「高島通敏集 第3巻 現代日本の選挙」(2009年、岩波書店)

#### <受講に当たっての留意事項>

講義内容は日々の政治の動きと密接に関係しています。新聞の内政面に目を通すようにしてください。

#### <学習到達目標>

主権者である国民(有権者)が政治をチェックしなければ、政治はどんどん内輪のためのものになって国民から離れる。つまり政治は私たちのものであり、そのために関心を持つことの大切さを理解すること。幸い昨年私たちの一票によって政権交代が起きた。国民から離れた政治を行ったら野党に転落することを示したのである。同時に、新政権は私たちの期待に沿った政治を行って、政治を変えることができるのかを、日々の政治の動きから評価する眼力を養いたい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	日本経済論	2	前	安藤 潤（情報文化）
16年度以前	共 通	1 年	日本の経済			

選択

#### <授業目的>

この授業の目的は、戦後日本経済の発展をたどりながら、現在日本経済が抱える課題を、主に家計という観点から理解を深めることである。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 オリエンテーション:この科目で学ぶこと、授業の受け方と勉強の仕方
- 2 高度経済成長①:日本の戦時経済、戦後復興と市場機構の回復
- 3 高度経済成長②:景気循環の概念と指標、高度経済成長期の景気循環
- 4 高度経済成長③:高度成長の終わり
- 5 バブル経済の発生と崩壊①:財政危機、対外不均衡、日本経済のストック化とその帰結
- 6 バブル経済の発生と崩壊②:バブル経済、バブルの発生、バブルの崩壊
- 7 平成不況と構造改革①:平成不況と財政金融政策、不良債権問題と金融システムの危機
- 8 平成不況と構造改革②:日本的経済システムの変化、日本経済の構造改革
- 9 日本の所得格差:ジニ係数から見た日本の所得格差、所得格差拡大の要因、政府の役割
- 10 日本の男女間経済格差:雇用の格差、賃金格差、家事・育児分担の格差、政府の役割
- 11 日本のフードシステム:食料自給率、食糧安全保障、食料輸入増加の問題点、フードシステム、女性の社会進出と外食・中食産業の発展、「食の乱れ」と「食育」
- 12 日本の少子高齢化①:「結婚の経済学」、「出生の経済学」、日本の少子化現象の背景、政府の役割
- 13 日本の少子高齢化②:国民医療費の推移、公的医療保険制度の仕組み、なぜ医療費を抑制しないといけないのか、アメリカ型医療保険システム、政府の役割
- 14 日本の少子高齢化③:公的介護保険制度の仕組み、介護サービス市場と外国人労働者受入れ問題
- 15 定期試験

(注) 講義計画は若干修正されることもある。

#### <成績評価方法>

- ・成績はリザーブブックによるレポート（20％）と定期試験の結果（80％）で評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

教科書:長谷川啓之〔編〕『経済政策の理論と現実』学文社、2009年。

参考文献:松本保美〔編〕『平成不況』文眞堂、2010年。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・教科書は必ず購入し、授業の際に必ず持ってくる。各回の授業のタイトルと教科書の章題は必ずしも一致していないが、授業内容は教科書に準じるので、必ず予習してから臨むこと。
- ・参考文献は高度に専門的な内容が含まれており、使用するのはごく一部なので、購入は義務付けない。
- ・「経済学（マクロ）」と同時に履修することが望ましい。
- ・1年前期配当科目ということを考慮し、できるだけ平易に講義し、ある程度は用語の説明を行うが、基本的には経済用語辞典や指定図書などを用いて自分で調べ、学ぶこと。
- ・リザーブブックによるレポートは自筆のみ受け取る（ワープロは不可）。
- ・どの授業でも同じだが、無遅刻・全出席が大原則である。

#### <学習到達目標>

授業終了時点で、残りの学生生活を過ごすにあたり、もって臨むべき問題意識を1つでも持っているようになること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	国際研究概論	2	前	高橋正樹（情報文化）
16年度以前	共 通	1 年	国際研究概論			

選択

#### <授業目的>

この授業の目的は、世界の見方についての基礎的な枠組を具体的な問題に関連付けながら考察して行くことです。世界は国家同士が軍事対立しているのか、あるいは企業による国境を越えた経済活動によって世界がひとつになったのか、さらには民間の国際援助団体（NGO）が国境を越えて自由に活動しているのか。実際の世界はこれらすべての側面がありますが、人によっていずれを重視するかは異なります。その相異はどのような考え方の違いから生じるのかを授業を通じて考えて行きましょう。学生が理解しやすいように、時事的な国際問題を絡めながら授業を進めたいと考えています。また、この授業はこれから4年間、皆さんが学ぶ国際的な諸科目についての道案内的な役割をもちます。

#### <各回毎の授業内容>

- 1～2. 世界の見方。自分の先入観を点検しよう。
- 3～6. 主権国家間の外交戦略関係として世界を理解する見方を考察する。これは、「現実主義」的国際政治理論といわれています。
- 7～10. 世界をとくに経済的相互依存を重視し諸国家間の協調関係に注目するリベラリズム論を考察します。
- 11～14. 世界を不平等な関係として理解する。この考えはリベラリズム論のように相互依存性や協調性は重視せず、むしろそこにある格差や不平等性に注目します。最近のグローバリゼーションにもふれつつ考察する。
15. 以上を見方を参考にして、学生自身の世界像を点検する。

#### <成績評価方法>

特別な場合を除いた授業への全出席が最低条件になります。さらに、中間テスト・学期末テストによって評価します。

#### <教科書・参考文献>

参考文献

田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年

鈴木基史『国際関係』東大出版会、2000年

吉川元編『国際関係論を超えて』山川出版社、2003年

#### <受講に当たっての留意事項>

講義ではなく、学生の主体的な参加を求める授業にします。学生は毎日、新聞を読み、テレビの報道・ドキュメンタリー番組を観てもらいます。

#### <学習到達目標>

新聞やニュース番組によって国際的な事象を知り、その背景を自分なりに分析できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
20年度以降	共 通	1 年	国際交流インストラクター演習 1	1	前	小林、佐々木 （情報文化）
19年度以前	共 通	1 年	国際交流インストラクター演習 1			

20年度以降選択 19年度以前自由（卒業要件には含まれない科目）

#### <授業目的>

21世紀に要求されるのは、他者と共に、臨機応変に創造的な活動を展開することができる、総合的な人間力である。単に前例を倣い、知識や指示を一方的に受容・伝達するだけの生き方や学習方法は、あらゆる分野で行き詰まりを見せている。本演習では、「ワークショップ」および「ファシリテーター」という新しい手法を用い、参加者が実際に身体を動かしながら、自ら主体的に学ぶことを第一義とする。本演習を経験することで、さまざまな<他者>の中で、さまざまな議題やテーマを柔軟に「コーディネート」する能力や、民主的なリーダーシップを発揮する真の知的・社会的能力を養うことができる。演習1では、主に「世界の開発および貧困問題」をテーマとし、国際理解を深める。

演習の合格者は、同年度の9月と2月に県内の小中学校・高等学校でワークショップを実践することになる。なおこの試みは、2007年度に文部科学省により、本学初の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」として採択されている。

#### <各回毎の授業内容>

1. ガイダンス（受講に際して）
2. イントロダクション－「新しい学」とワークショップ
3. ワークショップ体験－「ファシリテーター」との遭遇 ※ 招聘講師による講演（予定）
4. グローバルな格差社会のしくみ
5. 開発と貧困
6. グループ分けと課題の分担設定
7. リサーチ方法論
8. リサーチ実践
9. プレゼンテーション方法論
10. プレゼンテーション準備
11. プレゼンテーション実践①
12. プレゼンテーション実践②
13. 問題点の確認とワークショップの見直し
14. ワークショップの実践問題 ※ 招聘講師による講演（予定）
15. まとめ－私たちにとっての貧困問題

#### <成績評価方法>

基本的に出席回数と、授業参加態度による。参加者が発表する個々のワークショップも評価の対象とする。

#### <教科書・参考文献>

ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店 2004年

ロバート・チェンバース『第三世界の農村開発－貧困の解決 私たちにできること』明石書店 1995年

#### <受講に当たっての留意事項>

この科目は、単に授業に出席するだけでなく、その準備のために多くのエネルギーを要する。

#### <学習到達目標>

基本的に、自分ひとりでも国際理解に関するワークショップを運営展開できる能力を身につけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	情報システム	2	前	竹並輝之 （情報システム）
16年度以前	共 通	1 年	情報システム			

情報文化学科選択 情報システム学科必修

#### <授業目的>

情報システムを理解するうえで必要な基本的考え方と基本技術、応用分野について解説し、情報システムについて深く学ぶための導入とする。情報システムとは、情報を収集し、加工、分析、蓄積し、活用する仕組みのことである。われわれの生活に身近な事例を取り上げて、情報システムの開発者、利用者、サービス提供者それぞれの立場から、情報システムについて考える。特に、社会や企業などの人間活動とのかかわりを重視し、情報システムが必ずしもコンピュータ中心のシステムではないことを認識し、情報システムを考えるとときには広い視野に立ったものの見方が必要であることを学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 1 情報システムとは                   | 情報、情報処理、情報システム、情報化社会                        |
| 2 情報システムとコンピュータ              | ハードウェア、ソフトウェア、プログラム                         |
| 3 流通業の情報システム                 | POS、クレジットカード、情報の収集と活用                       |
| 4 サービス業の情報システム               | 座席予約、オンラインデータベースシステム                        |
| 5 事例研究                       | ビデオによる運送業の事例                                |
| 6 公共的情報システム                  | 病院システム、住民情報システム、気象予報                        |
| 7 金融業の情報システム                 | 銀行オンラインシステム、電子マネー                           |
| 8 製造業の情報システム                 | 生産管理、在庫管理、プロセス制御                            |
| 9 家庭における情報システム               | マルチメディア情報処理、インターネット                         |
| 10 ネットワークビジネス                | インターネット販売、オークション、SCM                        |
| 11 情報システムと倫理                 | ネットワーク社会、セキュリティ、インターネット犯罪                   |
| 12 情報システムの開発と運用              | システム企画、分析、設計、製造、テスト、運用                      |
| 13 事例研究                      | ビデオによる情報システム開発事例                            |
| 14 システムエンジニアの役割<br>と育成カリキュラム | システムエンジニア、プログラマ、プロジェクト管理<br>情報システム学科のカリキュラム |
| 15 まとめと試験                    |   |

#### <成績評価方法>

- ・情報システム学の体系と情報システムを取り巻く環境についての理解度を、期末レポートで評価する。期末レポートの提出がない場合は不合格とする。
- ・プリント資料を適宜配布する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書： 神沼靖子編著 「情報システム基礎」 オーム社 2625円

#### <学習到達目標>

- ・情報システムを、人間活動を含む社会的システムであると捉える情報システム学の体系を理解するとともに、情報化社会の中でどのように情報システムと関わっていくべきかを考えることができるようになる。（50％）
  - ・情報システムのさまざまな事例を理解し、説明できるようになる。（30％）
  - ・情報システム学科カリキュラムの授業科目間の関連と意味付けが理解できるようになり、専門科目の履修選択に役立てることができるようになる。（20％）
- （関連する学習・教育目標:E）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	コンピュータシステム	2	前	石川 洋 （情報システム）
16年度以前	共 通	1 年	コンピュータシステム			

情報文化学科選択 情報システム学科必修

#### <授業目的>

コンピュータシステムを理解するために、コンピュータ全体とその構成要素について学習する。ハードウェアに重点を置き、コンピュータ上で使う情報の表現、入出力装置、主記憶、演算、制御などの基本装置を学習する。主に基本情報技術者試験の午前に出題される内容を学習する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 データ表現 2進数
- 2 データ表現 2進数から10進数、16進数への変換
- 3 データ表現 浮動小数点数、文字表現
- 4 情報と論理、情報素子
- 5 プロセッサアーキテクチャ
- 6 制御装置の動作原理、レジスタ
- 7 演算の仕組み、演算回路
- 8 メモリアーキテクチャ
- 9 補助記憶装置1
- 10 補助記憶装置2
- 11 入出力アーキテクチャと装置
- 12 コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴
- 13 オペレーティングシステムとその種類
- 14 言語処理系、マルチメディアとは、マルチメディア応用システム
- 15 まとめと試験

#### <成績評価方法>

- ・成績は期末試験（70%）と宿題レポート（30%）により評価する。
- ・試験では講義に沿った問題を出題する。持ち込みは不可とする。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書 2010年版 基本情報技術者テキスト No.1 コンピュータシステム  
日本情報処理開発協会監修、増進堂（2010）
- ・参考文献 随時紹介

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・情報処理技術者試験（基本情報技術者やITパスポート）をめざす学生には有意義である。

#### <学習到達目標>

- ・コンピュータ内部のデータ表現やデータ操作を理解するために、基数変換、命題論理、論理演算について学習する（試験20%、レポート10%）。
  - ・コンピュータの五大装置を中心に、それぞれの装置の仕組みや役割について理解する（試験30%、レポート10%）。
  - ・オペレーティングシステムの仕組みと基本的な機能を理解する（試験20%、レポート10%）。
- （関連する学習・教育目標:E）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	人間情報システム	2	前	上西園武良 (情報システム)

情報文化学科選択 情報システム学科必修

#### <授業目的>

人間理解の一側面として、人間を入力系・情報処理系・出力系を備えた「情報システム」として捉えることができる。入力系としての感覚機能の構造・特性を解説する。次に、情報処理系としての脳神経系を概説し、さらに、出力系としての筋肉の構造・特性を解説する。最後に、この情報システムのパフォーマンスに影響する主要な因子について解説する。講義の位置づけとしては、「人間情報工学」へ進むための基礎を習得する講義とする。

#### <各回毎の授業内容>

1. 基礎知識:情報システムとしての人間の概要
2. 入力系(1):感覚の種類と一般的性質
3. 入力系(2):視覚
4. 入力系(3):聴覚
5. 入力系(4):味覚と嗅覚
6. 入力系(5):体性感覚① 触覚・圧覚
7. 入力系(6):体性感覚② 深部感覚
8. 情報処理系(1):脳神経系
9. 情報処理系(2):自律神経系
10. 出力系:筋肉
11. 人間情報システムへの影響因子(1):生体リズム
12. 人間情報システムへの影響因子(2):睡眠
13. 人間情報システムへの影響因子(3):温熱環境
14. 人間情報システムへの影響因子(4):音・光環境
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

期末試験の結果で評価する（100％）。ノートのみ持込み可。

#### <教科書・参考文献>

特定の教科書は使用しない。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノート持込み可の試験を行うので、やさしい問題は出さない。毎回出席し、自分のノートをしっかり作ること。

#### <学習到達目標>

情報システムとしての人間のしくみ・特性を説明できるようになること。自分のノートを参考にしながら説明できれば良い。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	情報処理演習 1（文化）	2	前	佐々木桐子・山本瑞恵 佐藤徳子・伊藤尚
16年度以前	共 通	1 年	情報処理演習 1（文化）			

必修

#### <授業目的>

本学の情報センターの使用環境を理解し、コンピュータの基本的な知識と技術の習得を目的としている。具体的には、インターネット、メール、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、ウェブページ作成などコンピュータの活用技術を習得する。

#### <各回毎の授業内容>

1. ガイダンス（情報センター利用方法、インターネット、メール等）
2. 統一テストとアンケート（習熟度クラス編成のためのテストおよびアンケート）
3. ワードプロソフトウェア（Word）の活用①
4. ワードプロソフトウェア（Word）の活用②
5. ワードプロソフトウェア（Word）の活用③
6. 表計算ソフトウェア（Excel）の活用①
7. 表計算ソフトウェア（Excel）の活用②
8. 表計算ソフトウェア（Excel）の活用③
9. 複合文書（文書、図表、画像等）の編集
10. プレゼンテーションソフトウェア（PowerPoint）の活用①
11. プレゼンテーションソフトウェア（PowerPoint）の活用②
12. 発表会
13. ウェブページの作成（HTML）①
14. ウェブページの作成（HTML）②
15. まとめ

#### <成績評価方法>

毎回の小レポート（50点）と数回のレポート（50点）により評価する。

#### <教科書・参考文献>

- ・ 『情報システムガイド』
- ・ その他必要な資料は、授業中に適宜配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・ 情報センターの利用規則を守ること。
- ・ クラスは能力別に編成する。
- ・ 授業内容および、進捗度はクラスにより異なる。

#### <学習到達目標>

- ・ 本学の情報センターの使用環境を十分に理解し、ルールに則った演習室の使用ができる。
- ・ コンピュータにおける基本的な知識と技術（インターネット、メール、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、ウェブページ作成など）を習得し、利活用できる。

# 2年共通科目（前期）



異文化理解  
平和学  
国際経済学  
情報検索  
マーケティング



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	2 年	異文化理解	2	前	小山田紀子 （情報文化）
16年度以前	共 通	2 年	異文化理解			

選択

#### <授業目的>

いま日本では「ヒト、モノ、カネ、情報」の国境を越えた往来が活発に行われ、国際化が急速に進んでいる。この国際化の波は私たちの生活にさまざまな影響を与えている。われわれの身のまわりでも外国人の姿が目立つようになったし、また私たちが海外に出て行くチャンス—海外旅行、留学、ビジネスなど—も増えてきている。そしてそれは多かれ少なかれわれわれに異文化接触の機会を提供することになる。このような国際化の時代にあって、「異文化理解」の必要性が声高に唱えられるようになってきたのだといえよう。しかし、異文化への理解というと、とかくそれ自体がよいことであるようなニュアンスがあるが過去には植民地支配のための異文化理解もあったし、市場獲得を目的にした異文化理解もありうるわけで、そう考えると、何のためのどのような異文化理解かが問われなければならないであろう。また、異文化というと何も国際間のことだけではなくて、国内の異文化もあるわけで、国内の文化を単一的なものと捉える感覚が、異なった文化の拒否や排除につながっていくケースも見られるのである。

本講義では、私の海外生活の経験を踏まえて、異文化接触の諸相をさまざまな事例から紹介していきたい。ヨーロッパにおける移民問題、日本における在日韓国朝鮮人問題や外国人労働者問題、国際交流や教育の国際化がもたらす問題、あるいは個人のレベルでは国際結婚というテーマもあるであろう。さまざまな角度から異文化理解の問題を考えていきたい。さらに国際化時代から地球時代へと移り変わりつつある今日、われわれは異文化理解を通して、自分の国の利益だけにとらわれずより広い普遍的な発想を持つ地球市民としての生き方が求められているといえよう。

#### <各回毎の授業内容>

- |                               |                     |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 序論—私の異文化体験                 | 9. 日本の外国人労働者問題(3)   |
| 2. 異文化接触の諸相—ヨーロッパの移民問題（総論）    | 10. 国際社会での活動        |
| 3.       "       (1)フランスの移民問題 | 11. 「異文化理解」の試み      |
| 4.       "       (2)ドイツの移民問題  | 12. 自己表現力をつける       |
| 5.       "       (3)イギリスの移民問題 | 13. 主体的に学ぶ          |
| 6. ヨーロッパ市民の誕生                 | 14. 行動する            |
| 7. 日本の外国人労働者問題(1)             | 15. まとめ—地球市民としての生き方 |
| 8. 日本の外国人労働者問題(2)             |                     |

#### <成績評価方法>

レポート・試験・出席状況

#### <教科書・参考文献>

教科書 渡部淳『国際感覚ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2004年  
参考書は授業時間中、適宜指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業への出席を重視します。

#### <学習到達目標>

2年次後期の海外留学や今後の異文化接触に機会の役立つ視点を獲得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	2 年	平和学	2	前	佐々木寛（情報文化）
16年度以前	共 通	2 年	平和学			

選択

#### <授業目的>

平和学は「ジェノサイド」や「世界戦争」といった、20世紀の暴力をめぐるさまざまな人間の経験から生成し、展開を遂げてきた学問運動である。それゆえ平和学は、一貫して、既存の社会構造や世界秩序を批判的に見つめ、その代案（オルタナティブ）を模索しつづけてきた。そしてまた、既存の政治学・社会学・経済学などの社会科学のみならず、時には自然科学をも横断した包括的な認識枠組みから問題の核心に肉迫し、むしろ既存の知識体系自体に重大なインパクトを与えてきた。講義の前半では、戦争と平和、あるいは暴力の問題そのものに関する知の蓄積を広く「平和学」の中に位置づけ、それら一連の思想や理念、理論などを、それらが生成してくる歴史的な背景とリンクさせながらふりかえってみたい。さらに後半では、現在の「グローバル化」にともなう新しい問題群が平和学につぎつける挑戦の意味を明らかにしたい。平和学がこれら問題群といかに格闘してゆくのか、またなぜ平和学という広い枠組みでなければこれらの問題に対応できないのか、つまり平和学の<批判的構想力>を今後どのように鍛え上げてゆくべきなのかについて、共に考えてみたい。

#### <各回毎の授業内容>

新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。

1. 「平和」とは何か —— 平和学前史 [3回]
2. 平和学の生成 —— 20世紀の時代経験Ⅰ（ジェノサイド）[2回]
3. 平和学の展開 —— 20世紀の時代経験Ⅱ（構造的暴力）[2回]
4. 世界秩序の構造変動と平和学の新地平 [2回]
5. 新世紀の平和学 —— 21世紀「平和秩序」形成のために [3回]
6. 日本の平和主義の課題と平和学 [1回]
7. 地球環境問題と平和学 [1回]

※ +1回分は、招聘講師による講演に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

教科書 高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）

AERA Mook『平和学がわかる』（朝日新聞社）

参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、高嶋通敏『平和研究講義』（岩波書店）、日本平和学会編『平和研究第26号——新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）、君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』（世界思想社）、岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）、J. ガルトゥング『構造的暴力と平和』（中央大学出版部）、U. ベック『危険社会』（法政大学出版局）、P. ハースト『戦争と権力』（岩波書店）などを挙げておく。

#### <受講に当たっての留意事項>

平和学のアジェンダは常に展開するのであり、参加者は最終的には自分なりの「平和学」を構築してほしい。その意味でも参加者からの質問および討論は大歓迎である。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	2 年	国際経済学	2	前	安藤 潤（情報文化）
16年度以前	共 通	2 年	国際経済学			

選択

#### <授業目的>

この科目の目的は、国際経済学の基礎理論及び国際経済の歴史を学び、グローバル化が進む国際経済の現状を認識し、その背景及び問題点について理解を深めることである。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 オリエンテーション
- 2 国際経済取引とその仕組み①:様々な国際経済取引、国際経済取引と資金移動
- 3 国際経済取引とその仕組み②:外国為替市場と外国為替相場、国際収支表
- 4 第2次世界大戦後の国際貿易・金融体制①:ブレトンウッズ体制とその崩壊
- 5 2次世界大戦後の国際貿易・金融体制②:レーガノミクスと「双子の赤字」、1980年代後半以降のドル安と国際政策協調
- 6 第2次世界大戦後の国際貿易・金融体制③:アメリカの経常収支赤字と「強いドル」、新興国の台頭とG8の限界
- 7 現代の国際貿易①:日本と世界の貿易、比較優位と国際貿易
- 8 現代の国際貿易②:WTOにおける対立構造、WTOの課題－自由貿易と環境問題、反グローバリズム運動の展開
- 7 外国為替相場①:外国為替相場の変動要因、外国為替相場変動の影響
- 8 外国為替相場②:市場介入、固定相場制度と市場介入
- 9 外国為替相場③:バスケット通貨制度、ドル・ペッグ制度
- 10 国際収支:経常収支の決定要因、貿易収支赤字と貿易摩擦、対中貿易赤字と「人民元改革」
- 11 国際金融①:資本の自由化と国際金融市場
- 12 国際金融②:金融のグローバル化、1990年代の通貨危機、国際経済危機
- 13 地域経済統合①:地域経済統合のメリット、世界の地域経済統合
- 14 地域経済統合②:ヨーロッパにおける地域経済統合の歴史、FTAとEPA
- 15 定期試験

(注) 講義内容に関しては若干の修正を行う場合がある。

#### <成績評価方法>

- ・リザーブブックを用いたレポート（20％）、定期試験の成績（80％）で判定する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書は指定しない。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・「現代アメリカ論」と同時履修するのが望ましい。
- ・私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。授業中は歩き回らないこと。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。数式は極力避けるが、グラフは講義内容の理解を深めるために複雑でないものを用いる。
- ・全出席・無遅刻が大原則。

#### <学習到達目標>

経済のグローバル化という点から世界で起こっている経済事象を理解できるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	2 年	情報検索	2	前	高木義和 （情報システム）
16年度以前	共 通	2 年	情報検索			

17年度以降情報文化学科選択 情報システム学科必修  
16年度以前選択

**<授業目的>**  
学問や社会活動を行う場合、既に存在する情報を活用して行動することにより効率良く目標や目的に到達することができる。情報検索の目的は、開始時点において過去の情報を収集し、入手した情報を整理・加工・分析することにより、実行計画を作成したり、的確な判断（意思決定）や理解を可能にしたりすることである。朝日新聞DNA、日経テレコン21、日外WEB、E B S C O hostデータベースなど、実際に社会で使用されている有料データベースと、日常使用しているWeb検索エンジンを使用し論理式を使った情報検索方法を学ぶとともに、現実社会に存在している膨大な情報源から目的に合った情報の収集/選択/加工/分析を行うことにより情報の活用能力を身に着ける。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 情報検索の概要
- 2 検索主題－新聞記事とキーワード
- 3 検索課題の設定と検索式（論理式）
- 4 Web情報の検索 ① 日本語Web情報の検索
- 5 ② 英語Web情報の検索
- 6 情報の種類と情報の利用
- 7 新聞記事情報の検索 ① 朝日新聞記事検索、日経新聞記事検索
- 8 ② 新聞記事情報と時系列変化
- 9 図書・雑誌記事情報の検索 ① 雑誌記事情報検索（日外WEB）
- 10 ② 図書情報検索
- 11 原文の入手と大学内/外図書館の利用
- 12 世界の情報の検索（学術・雑誌・新聞英語情報等） ① E B S C Oを使用した情報検索
- 13 ② 同一課題による全データベースを対象にした情報検索
- 14 情報源の体系的な利用（学内におけるデータベースの利用方法）
- 15 まとめと試験

**<成績評価方法>**  
検索主題とキーワード、インターネット情報の検索、新聞記事情報の検索、図書・雑誌記事情報の検索、世界の情報検索の、計5つのレポート（80%）と定期試験（20%）により評価する。

**<教科書・参考文献>**  
必要な資料はその都度プリントまたはWebで配布する。教科書準備中

**<受講に当たっての留意事項>**  
この授業で学ぶ内容を理解できれば個人の情報活用能力が大きく向上することが期待できます。有料のデータベースを使用するため例年受講態度の良くない人ほどコストがかかって困っています。指示に従わない操作をして作成したレポートは提出されても評価しない場合があります。受講者が240名を越す場合受講者数を制限する場合があります。

**<学習到達目標>**  
検索主題をキーワードで表現できるようになる20%  
インターネットWeb情報の特性を理解しその情報を利用することができる20%  
新聞記事情報の特性を理解しその情報を利用することができる20%  
図書・雑誌記事情報の特性を理解しその情報を利用することができる20%  
利用できる情報源の種類と特性を理解し英語情報を含めた世界の情報を利用することができる20%  
（関連する学習・教育目標:E）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	2 年	マーケティング	2	前	吉田 博 （情報システム）
16年度以前	専 門	1 年	マーケティング			

17年度以降情報文化学科選択 情報システム学科必修

16年度以前選択

#### <授業目的>

マーケティングは、商品やサービスの企画・販売・広告等を通じて、顧客のニーズを充足するとともに、顧客と良好な関係を築き、企業・組織が持続的に発展・成長していくための活動である。

マーケティングの基礎的な知識を修得するとともに、さまざまなタイプの企業・組織が行っている事例を通じて、マーケティング活動を具体的に理解するとともに、マーケティング活動の対象となる顧客・市場情報の収集及び情報発信におけるインターネットの活用等について学習する。

また、商品・サービスを購入・使用する消費者の立場から、マーケティング活動を正しく評価する上で大切な法律・規制・消費者保護等を理解し、賢い消費者・生活者となるよう学習する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 マーケティングとは
- 2 顧客・市場のとらえ方と情報収集方法
- 3 マーケティングに影響を及ぼす顧客・市場・競争・環境等の動向
- 4 製品の企画・開発
- 5 広告・販売促進
- 6 流通・販売、価格
- 7 製造業（大企業）のケース
- 8 製造業（中小企業、地場企業）のケース
- 9 流通業（スーパー、CVS）のケース
- 10 流通業（通販・インターネット）のケース
- 11 情報産業のケース
- 12 サービス業（飲食・福祉系）のケース
- 13 起業・ベンチャーのケース
- 14 地域・行政・NPOのケース
- 15 まとめと試験

#### <成績評価方法>

成績は①毎回出席時のレポート（基礎知識・理解力）を60％、②試験（基礎知識・理解力）を20％、③課題レポート（情報収集・分析力）を20％。

#### <教科書・参考文献>

毎回資料を配布する。ビデオ・インターネット・図書を使って具体的な事例を紹介する。

事例やテーマに応じて、参考となる文献・図書、テレビ等の情報源を紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

取上げる事例について、インターネット、新聞・雑誌等で自主的に情報を収集し、理解するように。

#### <学習到達目標>

企業・組織で実践しているマーケティング活動や顧客・市場の情報収集・発信の考え方・仕組みを理解できる基本的な知識を身につける（毎回出席時レポート：40％、試験）。企業・市場に関する情報を集め、分析する情報収集・分析力を身につける（課題レポート）。さらに、企業・組織のマーケティング活動、企業・組織や取り巻く社会・経済・法律・環境等についての理解・知識を深め、将来の進路を判断する力をつける（毎回出席時レポート：20％）。

# 3 年共通科目（前期）



国際法  
情報社会論  
情報と法  
情報メディア論

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	3 年	国際法	2	前	熊谷 卓（情報文化）
16年度以前	共 通	3 年	国際法			

選択

#### <授業目的>

地球という「惑星」にはおよそ200の主権国家が存在し、そこには50億人をこえる人々が日々の生活を送っている。国際法というのは主としてこれらの国家関係を規律する法規範の総体をいう。今日の国際事象をみていると、国際社会において守られるべきルールとは何かあらためて問われているようにも思われる。本講義では、現代の諸問題について国際法がないうること、それについて検討する。

#### <各回毎の授業内容>

講義全体を通じてのテーマ：「国際法から世界を見る」

- 1 オリエンテーション
- 2 国際法はどのように発展してきたのか？—伝統的国際法の性格
- 3 現代国際法はどのような特徴を持っているか？—1
- 4 現代国際法はどのような特徴を持っているか？—2
- 5 国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか？—条約と国際慣習法—1
- 6 国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか？—条約と国際慣習法—2
- 7 人権の国際的な保護の発展—1
- 8 人権の国際的な保護の発展—2
- 9 国際法で個人を裁く—1
- 10 国際法で個人を裁く—2
- 11 国際社会の司法権？—国際紛争の平和的解決と国際裁判—1
- 12 国際社会の司法権？—国際紛争の平和的解決と国際裁判—2
- 13 世界の中で日本はどうする？—国際法と日本の立場—1
- 14 世界の中で日本はどうする？—国際法と日本の立場—2
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

主として試験による成績評価

#### <教科書・参考文献>

開講時に指示

#### <受講に当たっての留意事項>

法律学関係科目を既に履修していることを前提。プリントを配布することがある。欠席者には与えない。

#### <学習到達目標>

国際法学のアウトラインの習得

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	3 年	情報社会論	2	前	小宮山智志 (情報システム)
16年度以前	共 通	3 年	情報社会論			

選択

#### <授業目的>

行動科学ではひとり一人が真剣に意思決定する方法を学びましたが、この講義では他者のこと、そして自分のことさえ真剣に考えずに行動することでどのような社会が生じるのかを考えます。

消費化社会の最たるもの（のひとつ）が「情報化社会」です。ユニクロやヴィトンや、景気や戦争といったものは、一見関係ないようですが、「情報化社会」と大変、密接な関連があります。そして「情報化社会」は、世界にとって、大きな光（経済的効果）を与えています。

「情報化社会」は、大きな光を放つために、影（私たちの生活を脅かすマイナスの効果）も作ります。国内に環境問題をおこし、さらに公害を輸出します。それは南の国々に貧困を作ると同時に我々「北の国々の貧困」を作ります。

三菱ふそうは、自分たちのリコール隠しのために、事故で亡くなったトラック運転手の遺族に、「ドライバーが整備を怠ったからだ」と言い続けました。あなたは、会社に命令されたら、同様のことができますか。自分働いている昭和電工鹿瀬工場の廃液が、阿賀野川流域の人々を、殺していることを知っていて、何年も黙っていられますか。とてもできそうも無い気がします、それをさせてしまうのも、「情報化社会」の大きな影です（他人事ではありません）。

影を作らず、光を失わない「情報化社会」の条件を考え、さらに具体的に我々の社会、暮らしに、そして大学の授業にも活かすことを考えます。

#### <各回毎の授業内容>

\*講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの問いについて個人またはグループで考え、2回目は皆さんの考えと著者の考え、そして私の考えを紹介します。

第1回:本講義の射程とスケジュール等について

第2～9回:情報化社会と消費社会の関連

1) 情報化/消費化社会の展開 (第2回:グループワーク編・第3回:解説編)

2) 環境の臨界/資源の臨界 (第4回:グループワーク編・第5回:解説編)

3) 南の貧困/北の貧困 (第6回:グループワーク編・第7回:解説編)

4) 情報化/消費化社会の転回 (第8回:グループワーク編・第9回:解説編)

第10～13回:楽しみの社会学～新しい情報化社会に向けて

1) 理論編 (第10回:グループワーク編・第11回:解説編)

2) 実証編 (第12回:グループワーク編・第13回:解説編)

第14～15回:最終レポートについてのグループワーク (第14回)まとめ (第15回)

#### <成績評価方法>

成績は、グループワーク・個人ワーク (35%) と最終レポート (65%) によって評価します (旧態依然とした減点法の試験は行いません)。オリジナリティを高く評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書:見田宗介 1996『現代社会の理論～情報化・消費社会の現在と未来～』岩波新書 (465)

参考文献:M・チクセントミハイ[著]; 今村浩明訳『楽しむということ』思索社, 1991年

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。グループワーク・個人ワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達の意外なアイデアを楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

資料はホームページ (<http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/>) で公開します。

#### <学習到達目標>

成績は、グループワーク・個人ワーク (35%) と最終レポート (65%) によって評価します (旧態依然とした減点法の試験は行いません)。オリジナリティを高く評価します。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	3 年	情報と法	2	集 中	浜田良樹
16年度以前	共 通	3 年	情報と法			

選択

#### <授業目的>

インターネットは社会の重要なインフラです。皆さんは、社会人として、インターネットを用いる際に当然に守らなければならないルールがあり、注意しなければならないということを知る必要があります。この講義では、法的な観点から、インターネットをめぐる問題点を講義します。目的は、インターネットをめぐるリスクを正しく理解し、それを踏まえて委縮せずに行動できる人材を作ることです。

法律の問題とは、ひとつの明快な答えが存在するというものではありません。例えば、音楽をコピーすることは、違法になることもあります。常に違法であるということもあります。あなたは黒だと考えていても、相手は白だと考えているかもしれませんから、決めつけてはいけません。このような思考方法に慣れることも重要な目標です。

#### <各回毎の授業内容>

第1回 情報と社会生活と法～法律、倫理の違い、法律研究者の考え方、法律と情報の境界領域について

第2回 情報に関する法制度の概要(1)～契約、ライセンス

第3回 情報に関する法制度の概要(2)～民事訴訟、民事執行、刑事訴訟

第4回 知的財産権法(1)～著作権概要

第5回 知的財産権法(2)～著作物の利用

第6回 知的財産権法(3)～著作権をめぐる訴訟

第7回 知的財産権法(4)～特許法、不正競争防止法

第8回 電子商取引と法律(1)～特定商取引法～オークション、ショッピングサイトなど

第9回 電子商取引と法律(2)～消費者契約法～クーリングオフ、迷惑メール規制など

第10回 情報の流通とプロバイダの責任～情報仲介者の責任、プロバイダ責任制限法

第11回 個人情報情報の有用性と保護～プライバシーと個人情報保護、個人情報保護法

第12回 企業法務概論～雇用、ソフトウェア開発、守秘義務

第13回 インターネット犯罪～不正アクセス、テロ対策、サイバー犯罪条約

第14回 キャンパスライフとトラブルシューティング～具体的な演習を実施する

第15回 まとめと試験

#### <成績評価方法>

試験（60点）と授業に際して毎回配付するレポート（40点）

試験・レポートいずれも50%以上の得点がなければならない。

#### <教科書・参考文献>

オリジナルテキストを配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

私語、飲食は禁止です。

集中講義形式となるので掲示に注意して下さい。

著作権の侵害、電子掲示板等での名誉毀損などを行ってはなりません。このような場合は学則によって厳重に処分されます。

#### <学習到達目標>

・IT社会において新たに生じる社会問題の存在を認識し、萎縮することなく情報ネットワークを活用できること。

・法的な問題には単一の正解がなく、ある考え方があればその反対の考え方もあることを踏まえて行動できること

（関連する学習・教育目標:E）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	3 年	情報メディア論	2	前	本間正一郎
16年度以前	共 通	4 年	メディア論			

選択

#### <授業目的>

現代は情報化社会だといわれ、その代名詞のようにメディアという用語が乱用されている。しかし、人類の長い歴史を振り返れば、そこには常にメディアがあり、メディアによって人間社会が円滑に運営されてきた。いま、多様化する技術と流動化する価値観とによって、メディアの立ち位置を見極めることが難しくなっているように見える。正しいメディア理解を深め、その延長線上において過去、現在および将来のメディアのあり方を多面的に検証する。

#### <各回毎の授業内容>

- ①メディアとはなにか
- ②新聞メディアの歴史
- ③世界の新聞メディア
- ④日本の新聞メディア
- ⑤ラジオ・テレビメディアの歴史
- ⑥ラジオ・テレビメディアの現状
- ⑦政治とメディア
- ⑧戦争とメディア
- ⑨広告とメディア
- ⑩流行とメディア
- ⑪団塊とメディア
- ⑫若者とメディア
- ⑬webメディアの歴史
- ⑭webメディアの誤解
- ⑮まとめとテスト

#### <成績評価方法>

小論文か小テスト（随時）40%、定期試験60%。出席状況も評価に加味する。

#### <教科書・参考文献>

特にないが、授業の中で随時紹介する。講義資料は毎回配布し、学内webにも掲出する。

#### <受講に当たっての留意事項>

本授業は「試験のための丸暗記」を求めない。大学生らしく自律的に思索を広め、深めることを期待し、そのためのヒントを豊富に提示する。授業中の私語や携帯電話は周囲の学習者の迷惑となるので慎むこと。

#### <学習到達目標>

さまざまなメディアに理性的に接し、メディアに振り回されず使いこなす知識を身につける。あるべき人間社会とメディアの関係を理解する。

# 専門科目



# 2 年文化専門科目（前期）



ロシア語 2  
中国語 2  
韓国語 2  
アメリカ英語 2  
現代ロシア論  
現代中国論  
現代韓国朝鮮論  
現代アメリカ論  
日本政治史  
日本の思想  
現代東南アジア論  
国際政治史  
国際経済史  
Advanced CEP3

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	ロシア語 2		前	A. プラーソル （情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	ロシア語 2			

選択必修

<授業目的>

ロシア語1 基礎文法の導入部に引き続き、名詞の格変化、動詞の定・不定・時制などに対する理解を深める。「話す」、「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。

<各回毎の授業内容>

1－4

テキスト第13課

名詞の生格・3人称所有代名詞

5－8

テキスト第14課

名詞の与格と造格と与格

6－9

テキスト第15課

生格と体格の等しい名詞・人称代名詞の体格

10

中間テスト

11－14

テキスト第16課

所有の表現とその否定

15－18

テキスト第17課

命令法

19－22

テキスト第18課

過去時称

23

中間テスト

24－27

テキスト第19課

БЫТЬ動詞の未来形と合成未来

28－31

テキスト第20課

–СЯ動詞の変化と意味

32－35

テキスト第21課

定動詞と不定動詞(1)

36

中間テスト

37－40

テキスト第22課

定動詞と不定動詞(2)

41－44

テキスト第23課

数詞–時間の表現

45

末期テスト

<成績評価方法>

出席率と学期末試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版、1999年

<受講に当たっての留意事項>

毎回宿題あり

<学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、文章の読解能力を身につけることを目標とする。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	中国語 2 A・B		前	區 建英（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	中国語 2 A・B			

選択必修

#### <授業目的>

中国語 1 の基礎の上で、単語の量を蓄積していき、より高いレベルの文法知識を学び、文章の解体と再構成の方法によって中国語の理解力と会話能力を向上させます。とくに活用による理解を重視し、パートナー或いはグループでの作文練習や会話活動を行い、現地留学に実用できる会話能力を身に付けるよう指導します。

#### <各回毎の授業内容>

各回ではそれぞれの話題をめぐって会話を行います。文法は下記のポイントを教える予定です。

- 1、動作の頻度、全面否定と部分否定、頻度と常態
- 2、助動詞—「應該…」 「必須…」 「得…」 「不得不…」
- 3、副詞—「只好」「最好」、空間と時間を限定する表現
- 4、起動相—「開始…」 「起来…」 「…上」、動作の始点と開始後の状態
- 5、方向補語—単一方向補語、目的語の位置、複合方向補語
- 6、残存相—「…着」「…了」、存在文—静態・動態・単純存在、場所語句
- 7、「是…的」構文、述語動詞を修飾する三要素—時間状語、場所状語、方式状語
- 8、可能補語—「…得了」「…得動」「…得成」「…得到」、可能助動詞と可能補語
- 9、可能補語の否定—「動詞+不+可能補語」「没+動詞+可能補語」
- 10、程度補語—文型、主述構造の程度補語、程度補語と状況語の相違
- 11、可能補語のまとめ—肯定形・否定形・目的語の位置、可能補語と能願動詞並行動作
- 12、「把」構文と「被」構文、結果補語
- 13、時間と関係のある常用の副詞
- 14、主従複文—因果関係、逆接関係、条件関係、仮定関係、譲歩関係
- 15、総合練習

#### <成績評価方法>

成績は定期試験で評価するが、出席の状況、授業での作文・会話の状況も成績判断の参考になる。

#### <教科書・参考文献>

教科書: 朱繼征著『速問即答中国語Ⅱ』好朋友（採用予定）

#### <受講に当たっての留意事項>

授業の時、辞書を携帯すること、予習・復習をすること  
積極的に作文や会話に取り組むこと

#### <学習到達目標>

単語の量を蓄積しながら、より内容豊かで生き生きとした会話練習を行い、多くの表現形式を身に付け、コミュニケーション能力を発展させることを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	中国語 2 A ・ B		前	寺沢一俊
16年度以前	専 門	2 年	中国語 2 A ・ B			

選択必修

#### <授業目的>

中国語 1 で習得した発音・四声にさらに磨きをかける。既習の単語・慣用表現・文法事項を新しく学ぶ事柄と関連させ、応用発展させる。「朗読する・聞く・話す」の練習にできるだけ多くの時間を充ち、中国語の運用能力を向上させたい。

#### <各回毎の授業内容>

1冊のテキストを複数の教員が分担して講義をするため、実際授業内容とは若干異なる可能性がある。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 程度副詞(1) | 9. 進行相(3)  |
| 2. 程度副詞(2) | 10. 進行相(4) |
| 3. 程度副詞(3) | 11. 経験相(1) |
| 4. 助動詞(1)  | 12. 経験相(2) |
| 5. 助動詞(2)  | 13. 経験相(3) |
| 6. 助動詞(3)  | 14. まとめ    |
| 7. 進行相(1)  | 15. 定期試験   |
| 8. 進行相(2)  |            |

#### <成績評価方法>

出席と発音の正確さ、流暢さを重視する。出席が2／3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト、出席率、定期試験などの結果を総合的に判断する。

#### <教科書・参考文献>

教科書:「速問速答中国語 (Ⅱ)」朱継征著

参考文献:『Why? にこたえる はじめての中国語の文法書』 相原茂著 同学社

#### <受講に当たっての留意事項>

学んだ事柄は理解するだけでなく、正しく発音できるようにすること。正しい発音でテキストが読めることが「聞く・話す」の基礎になる。このため予習・復習ではテキストを反復朗読することが必須である。

#### <学習到達目標>

中国語の動相（アスペクト）の概念を理解し、正しく運用できるようにする。さらに、助動詞・補語の用法に習熟する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	中国語 2 A ・ B		前	笠原ヒロ子
16年度以前	専 門	2 年	中国語 2 A ・ B			

選択必修

#### <授業目的>

中国語 1 で習得した基礎の上に、豊富な語彙及び用例を学んで、語順による文法機能と意味関係を確定して、日常会話と作文の力をつける。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 程度補語、比較
- 2 助動詞、介詞
- 3 近い未来
- 4 完了、数量補語
- 5 処置式
- 6 経験、動量詞
- 7 受身
- 8 謙語式
- 9 使役
- 10 方向補語
- 11 方向補語の派生表現
- 12 “有”の謙語用法
- 13 “是～的”の強調用法
- 14 連合複文
- 15 定期試験

#### <成績評価方法>

授業参加度、小テスト、定期試験を勘案しておこないます。

#### <教科書・参考文献>

「互問互答中国語 会話編」 朱継征著 朝日出版社

#### <受講に当たっての留意事項>

声を出してトレーニングしてください。  
テキストに添付されているCDを普段から利用してください。

#### <学習到達目標>

中国語の話す、聞く、書く、読むの四つの能力を習得します。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	韓国語 2		前	申 銀珠（情報文化） 朴 修禧
16年度以前	専 門	2 年	韓国語 2			

選択必修

#### <授業目的>

一年次に習った初級文法を復習しつつ、中級文法への橋渡しとなる言語運用能力の養成を目的とする。文法面では、用言の活用の学習に重点をおく。用言の活用を体系的に理解し、豊富な練習問題によって実践的に身につけるようにする。基本的な単語と語句を使った和韓作文と口頭表現の練習を行う。

#### <各回毎の授業内容>

1. 제10과 종합 연습
2. 제11과 서점이 몇 층에 있어요?
3. 제12과 아저씨, 이 사전이 얼마예요?
4. 제13과 오늘이 무슨 요일이에요?
5. 제14과 지금 몇 시예요?
6. 제14과 지금 몇 시예요?
7. 제15과 종합 연습
8. 제15과 종합 연습
9. 제16과 학생 식당으로 갈까요?
10. 제17과 뭘 드시겠습니까?
11. 제17과 뭘 드시겠습니까?
12. 제18과 동대문 시장에 같이 갑시다.
13. 제19과 이 운동장 어때요?
14. 제20과 종합 연습
15. 제20과 종합 연습

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

『韓国語初級 I』(国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局)

#### <受講に当たっての留意事項>

外国語の学習はまさに、「継続が力なり」である。毎回課題が与えられ、随時小テストも行われる。しっかりついてきてください。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	韓国語 2		前	吉澤文寿（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	韓国語 2			

選択必修

#### <授業目的>

この授業では、韓国語1に引き続き、慶熙大学校のテキストを用いた2コマの授業を補強するために、日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とする者の特性を生かした言語学習を通して、初級段階前半の語学力の完成を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. 韓国語1の復習
2. 今、何時ですか? 지금 몇 시예요?(その1)
3. 今、何時ですか? 지금 몇 시예요?(その2)
4. 初デートの約束 첫 데이트의 약속 (その1)
5. 初デートの約束 첫 데이트의 약속 (その2)
6. 何が好きですか? 뭘 좋아해요?(その1)
7. 何が好きですか? 뭘 좋아해요?(その2)
8. 週末に何をしましたか? 주말에 뭘 했어요?(その1)
9. 週末に何をしましたか? 주말에 뭘 했어요?(その2)
10. スープが冷たくておいしいです 국물이 시원하고 맛있어요 (その1)
11. スープが冷たくておいしいです 국물이 시원하고 맛있어요 (その2)
12. 一度遊びに来てください 한번 놀러 오세요 (その1)
13. 一度遊びに来て주세요 한번 놀러 오세요 (その2)
14. 今学期の復習
15. まとめ

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子『新・チャレンジ! 韓国語』白水社、2009年、定価:2300円+税

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席しないこと。毎回宿題を与え、随時小テストも行います。

#### <学習到達目標>

言葉に親しみつつ、話す、聞く、書く、読むという基礎的な言語能力の習得を目標とします。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 2 A・B		前	G. ハドリー （情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	英語 2 A・B			

#### 選択必修

##### <授業目的>

授業目標は、初めての海外旅行でコミュニケーションができるようになることです。十分に努力すれば、海外での様々な状況に対応できる基礎的な英語力が身につきます。例えば、派遣留学制度アメリカコース、アメリカ中西部の講義など

##### <各回毎の授業内容>

出席と授業への積極的な取り組みを重視します。毎回出席すること。やむをえず欠席する場合は、その理由をできるだけ早く伝えてください。遅刻は3回で欠席1回とみなします。この授業では、授業活動への参加に関してポイント・システムを採用しています。英語で質問をしたり、英語の授業活動を積極的に行ったり、私の質問に英語で答えたりした学生は、そのつどコインがもらえます。白いコインは1ポイント、青いコインは2ポイント、赤いコインは3ポイントです。1回の授業につき最高ひとり5ポイントまで集めることができます。コインは授業終了時に教卓の箱に返却します。そのとき、自分の名前とポイントの数を私に伝えてください。3ユニットごとに1回、小テストをします。学期末試験は授業の最終回に行います。

- Class 1: Talking about Myself
- Class 2: My Family, My Life
- Class 3: A Typical Day for Me in My Hometown
- Class 4: Tourist Attractions
- Class 5: Holidays and Festivals
- Class 6: Sports in Japan and Abroad
- Class 7: Talking about Pictures and Places
- Class 8: Introducing Japanese Things
- Class 9: Modern Youth Lifestyle in Japan and Abroad
- Class 10: Homestays and Homevisits
- Class 11: Culture and Manners
- Class 12: Safety Abroad
- Class 13: American Fact Files
- Class 14: Music and Relaxation
- Class 15: Food

##### <成績評価方法>

出席と授業活動への積極的な参加は、成績の50%として評価されます。テストは、リスニングとスピーキングやリーディング、単語力などをチェックし、成績の50%として評価されます。

##### <教科書・参考文献>

- Conversations in Class (Richmond & Vannieu), Alma 出版
- Immediate Conversations 1 (Brown & Brewer), Alma 出版

##### <受講に当たっての留意事項>

以下は基本的なルールです。必ず守ってください。

- ・授業中は英語で話すこと。
- ・私が説明しているときに、友達と大きな声で話さないこと。
- ・居眠りはしないこと。
- ・私に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず私の方を向いて、私に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）
- ・ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 2 A		前	デロシェ ジェラルド
16年度以前	専 門	2 年	英語 2 A			

選択必修

#### <授業目的>

The object of this course is to develop the student's English communication skills. the emphasis will focus on everyday English usage as well as listening comprehension. it is hoped that the students will overcome their apprehension of speaking English by being creative, participating in, and enjoying the lecture.

#### <各回毎の授業内容>

1. Course explanation and student/teacher introductions. A small introduction activity.
2. "BLURT" a fast pace action English speaking activity.
3. Listen In #1 "David Nunan" plus reading comprehension and an English grammar exercise.
4. Easy puzzle (homework assignment)
5. "Suspect" an conversation activity to search for 15 items that are missing.
6. "Scattagories" An English vocabulary activity.
7. Listen In #1 "David Nunan" plus reading comprehension and an English Grammar exercise.
8. Easy puzzle (homework assignment)
9. "Outburst" An English activity game based on American culture
10. "Answer Keys" find the correct grammar points to open doors.
11. Listen In #1 "David Nunan" plus reading comprehension and an English Grammar exercise.
12. Easy puzzle (homework assignment)
13. Listen In #1 "David Nunan" plus reading comprehension and an English Grammar exercise
14. Review
15. Final Test-based on Listen In #1 and reading comprehension and grammar exercise

#### <成績評価方法>

Final Test 40% Homework assignment 20% and class participation 40%

#### <教科書・参考文献>

Prints will be supplied

#### <受講に当たっての留意事項>

The students who participate and come to class will be guaranteed to succeed and pass the course

#### <学習到達目標>

I hope the lecture will give the students confidence and joy of trying to speak English. I also would like to see the class tension free and get the students to participate as much as they can.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 2 A		前	本間多香子
16年度以前	専 門	2 年	英語 2 A			

選択必修

#### <授業目的>

この授業ではTOEIC形式の問題を解くことにより、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着をはかる。

#### <各回毎の授業内容>

1. TOEIC 試験について
2. Chapter 1
3. Chapter 1
4. Chapter 2
5. Chapter 2
6. Chapter 3
7. Chapter 3
8. Chapter 4
9. Chapter 4
10. Chapter 5
11. Chapter 5
12. Chapter 6
13. Chapter 7
14. Chapter 7
15. 試験

#### <成績評価方法>

定期試験50％ 授業中の小テスト30％ 授業への取り組み状況等20％

#### <教科書・参考文献>

石井隆之他 著 Complete Tactics for the TOEIC Test（成美堂）  
その他として、授業中に文法のプリントを配り、問題演習を行う。

#### <受講に当たっての留意事項>

一通り教科書の問題を解いてくること。  
遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。  
教科書2章ごとに小テストを行う。

#### <学習到達目標>

基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 2 B		前	金沢泰子
16年度以前	専 門	2 年	英語 2 B			

選択必修

#### <授業目的>

- ① アメリカ英語 1 (B) にひきつづき CALL を活用して TOEIC 受験対策演習をおこなう。  
Listening 練習に加え、文法復習、語彙力増強により Reading Section を強化しスコアアップを目指す。
- ② PC を活用した自律学習定着をめざし Word 英文入力による学習記録作成と Excel によるスコア管理の習熟をはかる。

#### <各回毎の授業内容>

授業は以下の順序で行う。

- ① TOEIC 形式練習問題 解答提出（宿題）
- ② 語彙テスト、Dictation
- ③ 前回の Listening 解答解説
- ④ Reading Section 演習（語彙、イディオム、速読練習）
- ⑤ 文法事項復習
- ⑥ 重要表現自習
- ⑦ 音読対話練習、録音提出
- ⑧ 学習記録メール送信

予習、復習を前提として授業を進める。

①は宿題として課したものを毎回授業冒頭に提出。

英文入力による学習記録作成と Excel によるスコア管理の習熟をはかるため、毎回学習記録を E-mail で提出し、最終授業時に全回分をまとめて添付ファイルで提出する。

随時オンライン Practice Test を行う。

- |              |                       |                |
|--------------|-----------------------|----------------|
| 1. 講義概要      | 6. Practice Test (1)  | 11. Chapter 11 |
| 2. Pre-Test  | 7. Chapter 8          | 12. Chapter 12 |
| 3. Chapter 5 | 8. Chapter 9          | 13. Chapter 13 |
| 4. Chapter 6 | 9. Chapter 10         | 14. Chapter 14 |
| 5. Chapter 7 | 10. Practice Test (2) | 15. 期末テスト      |

#### <成績評価方法>

毎授業時の練習問題 20%、復習確認 20%、音読 20%、学習記録 20%、Test 20%

#### <教科書・参考文献>

T.Ishii et.al: Total Strategy for the TOEIC Test (SEIBIDO) 他

#### <受講に当たっての留意事項>

4 回以上欠席または課題未提出の場合は受講資格を失う。

#### <学習到達目標>

- ① TOEIC 形式練習問題の正解率をあげる。
- ② PC を使用した自律学習の定着をはかる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 2 B		前	アンジェラ オオタ
16年度以前	専 門	2 年	英語 2 B			

選択必修

#### <授業目的>

The aim of this course is to increase student speaking and listening skills. The class will be asked to decide on a movie they would like to view, and short sections will be watched each class. Homework listening dictations will be based on the day's scene. Class time will also be spent doing pair and group task-based speaking activities, aimed at increasing student speaking fluency for describing things. E.g. making tea, using machines, tool descriptions.

#### <各回毎の授業内容>

Week 1 - pre-course test

Week 2 - getting to know each other, and deciding on a movie

Week 3 - phrasal verbs with prepositions

Week 4 - review quiz on phrasal verbs - describing daily activities in the present tense

Week 5 - review quiz on daily activities - asking someone to do something

Week 6 - review quiz on asking someone to do something

- describing what people do in their job

Week 7 - quiz on jobs - describing people

Week 8 - quiz on describing people - describing objects

Week 9 - objects quiz - giving instructions for making tea or an omelette

Week 10 - quiz on giving instructions - comparatives; 2 items

Week 11 - quiz on comparatives - comparatives; 3 or more items

Week 12 - quiz on comparatives - describing differences between pictures

Week 13 - quiz on describing differences between pictures - describing differences part 2

In addition Week 3 to Week 13 will include

- checking the previous week's movie dictation homework .

- movie viewing with English titles, then Japanese titles and finally with English titles again to pick up new vocabulary.

Week 14 - review of materials covered in the class - view any remaining chapters of movie

Week 15 - final exam

#### <成績評価方法>

Weekly quizzes 小テスト 25%

Self evaluation & participation 自己評価及び授業の参加度 25%

Final exam 最終試験 25%

Homework assignments 宿題 25%

Be advised a passing grade in the class can not be achieved, if no assignments have been submitted  
提出のない場合は不合格になるので注意すること

#### <教科書・参考文献>

Text - copiable worksheets will be handed out each week.

Other materials: English/Japanese and Japanese/English Dictionaries

Notepaper

#### <受講に当たっての留意事項>

Please be advised that being late, or missing classes means you miss class marks for quizzes, group work and participation.

1 回授業を欠席すると当日の小テストと出席点の両方を失うことになるので気をつけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	現代ロシア論	2	集 中	池田嘉郎
16年度以前	専 門	2 年	現代ロシア論			

選択必修

#### <授業目的>

私たちの隣国ロシアとはどのような国なのでしょう。ロシアはアジアとヨーロッパにまたがる世界最大の国であり、その文化と社会は多様性に富んでいます。1990年代の混乱を経た後、今日のロシアは政治的な安定を取り戻し、経済の成長にも著しいものがあります。現代ロシアの諸相を学ぶことが、授業の目的です。

#### <各回毎の授業内容>

1. ガイダンス
2. ソ連時代のロシア
3. ペレストロイカとソ連崩壊
4. エリツィン時代
5. プーチン政権の内政
6. プーチン政権のテロ対策
7. プーチン政権の外交
8. 現代ロシアの経済
9. 現代ロシアの生活
10. 現代ロシアの文化
11. 現代ロシアと日本
12. シベリア・極東
13. ウクライナ・ベラルーシ・バルト三国
14. カフカース
15. 中央アジア

#### <成績評価方法>

定期試験で成績評価を行いません。

#### <教科書・参考文献>

授業中に紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

ロシアの知識をもたない学生の参加を歓迎します。

#### <学習到達目標>

ロシアについて、受講前とは違った視点で見つめられるようになることが目標です。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	現代中国論	2	前	區 建英（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	現代中国論			

選択必修

#### <授業目的>

中華人民共和国は建国以来、国民経済の建設と民主化を進める上で、どのような路を辿ってきたのか。広大な領土には異なった言語・文化・宗教・価値観を持つ多くの民族があり、これら様々な民族はどのように共存しているのか。また、東アジア諸国との関係、とくに日本との関係はどのような道を辿ってきたのか。これらの問題を国際的背景、とくに冷戦から冷戦終結後の今日にかけての時代変遷という視野に置いて分析します。

民主化の問題については、中華人民共和国が置かれていた国際的環境、冷戦下に辿った屈折な過程を説明し、国際的な反覇権闘争と国内の民主化とのジレンマを解明します。また、民族の問題については、多様性を重視する多民族社会の伝統と、近代国家の均質化傾向とのジレンマを乗り越えようとする模索を解明します。日中関係および東アジア諸国との関係については、冷戦時代の問題に触れながら現在の問題や課題に重点を置いて語ります。

#### <各回毎の授業内容>

授業は下記のスケジュールで進めますが、授業の状況によって若干変更する場合があります。

- (一) 1、建国初期の国際環境—冷戦構造
- 2、国民経済建設の屈折と文化大革命
- 3、冷戦終結と改革開放
- 4、経済成長と民主化運動
- 5、公民精神の成長と中国の変貌
- (二) 6、統一国家と多民族社会
- 7、政治・経済・文化における民族関係
- 8、民族政策の曲折と原点への復帰
- 9、チベット問題
- 10、西部開発と「扶貧」
- (三) 11、冷戦下の中国と東アジア
- 12、冷戦終結後の全方位外交
- 13、中米関係の新しい模索
- 14、日中関係の新しい模索
- 15、大陸と台湾との两岸関係

#### <成績評価方法>

成績は主に定期試験で評価するが、毎回の授業終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問等）を提出してもらう。これを成績評価の対象に加える。出席状況も評価の参考になる。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、授業のテーマ毎に配るレジュメ。参考文献は、授業時に紹介。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義のメモを取りながらよく思考し、コメントを書くこと。レジュメをよく復習し、参考書をも積極的に読むこと。

#### <学習到達目標>

中華人民共和国の歩みを掴み、現代中国の様々な事象を歴史、伝統、国際関係など複数の視点から捉え、よって中国社会を理解し、日中の新しい協力関係を模索する知を得るよう期待します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	現代韓国朝鮮論	2	前	申 銀珠（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	現代韓国朝鮮論			

選択必修

#### <授業目的>

解放後から現代にいたるまでの韓国社会の変貌と現状について、政治、経済、文化、教育などの各方面から述べる。特に、民主化と統一への動きに焦点を当てて、韓国現代政治史について詳しく述べる。現代韓国が抱える様々な社会問題、人々の人生観・価値観の変化、さらに日韓関係、日朝関係、南北統一問題などを多角的に理解するよう、時事問題も積極的に取り上げる。

#### <各回毎の授業内容>

1. 韓国の最新事情:政治・経済を中心に
2. 韓国人の社会ネットワーク:血縁・地縁・学縁、結束力と排他性
3. 民主化と統一への道
4. 解放後から大韓民国政府樹立まで
5. 朝鮮戦争と韓国社会
6. 離散家族問題
7. 朴正熙政権に対する評価
8. 光州事件から民主化宣言まで
9. 文民政府（金泳三）の登場と金大中の太陽政策
10. 盧武鉉政権と386世代
11. 経済の発展と課題:財閥と労使紛争、IMF時代、貧富の格差、伝統的価値観の崩壊
12. 韓国の教育事情:公教育と私教育、早期留学の実態とその背景
13. 韓国人の家族観 :伝統的な家族制度の変貌、女性と法律
14. 韓国の宗教
15. 韓国の若者文化、韓国社会と徴兵制

#### <成績評価方法>

出席20%、レポート80%(感想文、小テスト、最終レポート)

#### <教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。写真集、ビデオなどを副教材として使う。

#### <受講に当たっての留意事項>

適当なテキストがないため毎回かなりの量の資料を配布する。欠席した者は自己責任で資料をそろえること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	現代アメリカ論	2	前	安藤 潤（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	現代アメリカ論			

選択必修

#### <授業目的>

この講義の目的は、主に1990年代以降のアメリカ経済の特徴、問題点、世界経済に与える影響について理解を深めることである。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 イントロダクション
- 2 アメリカ合衆国経済の基本データ：GDP、人口、人種、産業など
- 3 アメリカの財政①：連邦政府と州政府の財政赤字、民営化策
- 4 アメリカの財政②：ドル不安、連邦財政赤字と日米・米中関係、「強いドル」
- 5 アメリカの産業：経済のグローバル化・企業活動のグローバル化と貿易収支赤字、自由貿易の推進と農産物保護政策
- 6 アメリカの家計①：失業率の推移と雇用の変化、所得格差、「低貯蓄・過剰消費」体質
- 7 アメリカの家計②：結婚行動、夫婦間の家事・育児分担
- 8 所得・資産格差①：所得分配の現状、格差拡大の要因
- 9 現代アメリカ経済に関する映画と解説（前半）
- 10 現代アメリカ経済に関する映画と解説（後半）
- 11 アメリカの軍事経済①：戦争とアメリカ経済、軍産複合体
- 12 アメリカの軍事経済②：対テロ・イラク戦争とアメリカ経済、「オバマの戦争」
- 13 医療保険問題①：医療保険未加入者問題と生命・健康格差
- 14 医療問題②：なぜ医療費は抑制できないかー医師・製薬会社・病院の思惑
- 15 定期試験

#### <成績評価方法>

- ・成績はリザーブブックを用いたレポート（15％）、定期試験の結果（80％）と、ビデオのコメントペーパー（5％）で評価する。試験問題はプリントを含めて講義内容からのみ出題する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書は指定しない。参考文献は講義中に紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・「国際経済学」をすでに履修済みか、そうでない場合は「国際経済学」との同時履修が望ましい。
- ・私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。授業中は歩き回らないこと。ただし病気などでやむをえず一時退出せざるを得ない者は事前に教員に伝えること。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。数式は極力避けるが、グラフは講義内容の理解を深めるために複雑でないものを用いる。
- ・映画はマイケル・ムーア監督『キャピタリズム マネーは踊る』を予定している。ただしDVDの販売が授業に間に合わなければその他のDVDに変更する。

#### <学習到達目標>

新聞やテレビに登場する現代アメリカ経済の記事やニュースを理解できるようになり、「世界最大の経済大国・アメリカ」、「貧困大国アメリカ」の両面について認識を深め、翻って履修学生自身が生きていくであろう今後の日本の経済や社会のあり方について考えることができるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	日本政治史	2	前	中村起一郎
16年度以前	専 門	2 年	日本政治史			

選択

#### <授業目的>

私たちの身の回りにはたくさんの「権力」がありますが、その中でもとびきり強大なのは、国家権力でしょう。中央政府のつくる制度や政策は、私たちの生活に非常に大きな影響を与えます。豊かで安定した暮らしをもたらしてくれることもあれば、理不尽な選択を迫るようなこともあります。

日本において、そのような強大な権力はどのようにして作られるのでしょうか。また、私たちはそれをどのように制御し、あるいは関与することができるのでしょうか。この講義では、日本の統治のあり方を、その時々多くの人間やグループが下した具体的な選択の数々を読み解きながら、考えていきたいと思います。

#### <各回毎の授業内容>

- 1－2. 明治維新と近代国家の形成
- 3－4. 戦前日本の民主主義——憲法・議会・政党
- 5－6. 戦争への道程
- 7－8. 敗戦と占領で何が変わったのか
- 9－10. 自由民主党一党優位体制(1) 戦後政治の対立軸
- 11－12. 自由民主党一党優位体制(2) 自民党政治のダイナミズム
- 13－14. 冷戦後／低成長時代と政治システムの変容
15. 試験

#### <成績評価方法>

学期末試験によって評価する。若干の平常点を加味することがある。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に指定しない。高校の日本史・世界史の教科書はぜひ参考にしてほしい。その他の参考文献は講義中に適宜紹介するが、近現代日本の政治・外交の流れを追うのに有用な概説書として、次のものを挙げておく。

五百旗頭真・編『日米関係史』有斐閣、2008年

北岡伸一『自民党』中公文庫、2008年

#### <受講に当たっての留意事項>

政治学、日本政治論、国際政治学を受講済み、または受講中であることが望ましい。私語は厳禁。質問は授業中でも授業の前後でも歓迎します。

#### <学習到達目標>

現在の政治制度・政治の動態が、どのような歴史的経験から生じているのかを理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	日本の思想	2	集 中	今井 修
16年度以前	専 門	4 年	日本の思想			

選択

#### <授業目的>

「日本の思想」をめぐる諸問題について、主として幕末・明治維新时期から自由民権・明治憲法体制成立期を対象時期としながら、思想史学的方法的アプローチによって考察し、その基礎的理解をもつことを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

1. 今年度集中講義の課題と方法
2. 歴史学研究と思想史研究の歴史
3. 日本近代思想史研究の現在（第1日目確認小テスト）
4. 幕末・明治維新の思想[概観]
5. 吉田松陰の思想(1)
6. 吉田松陰の思想(2)（第2日目確認小テスト）
7. 文明開化の思想[概観]
8. 福沢諭吉の思想(1)
9. 福沢諭吉の思想(2)（第3日目確認小テスト）
10. 自由民権の思想[概観]
11. 植木枝盛の思想
12. 中江兆民の思想（第4日目確認小テスト）
13. 明治憲法体制の思想(1)[概観]
14. 明治憲法体制の思想(2)[展望]
15. 教場試験

#### <成績評価方法>

1日3コマ、5日間の集中講義なので、最終日の最後の授業を教場試験（60％）にあてるとともに、1日3コマごとにその日の内容についての確認小テスト（4回、40％）を実施し、その総合点で評価する。なお、確認小テストを2回欠席した場合は失格とし、教場試験は受験できず、単位認定はしない。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使用しない。板書形式を主とする。場合によっては資料プリントを配布する。

参考文献は適宜言及するが、鹿野政直『近代国家を構想した思想家たち』（岩波ジュニア新書 2005年 740円＋税）を一読しておいて欲しい。

#### <受講に当たっての留意事項>

集中講義でのメリットを最大限実感できるよう、授業・確認小テスト・教授試験に集中してとりこんでほしい。私語等はなはだしく授業の展開を阻害すると判断された場合は退場処置とし、以後の受講を認めないことにする。

#### <学習到達目標>

「日本の思想」、とくに近代日本出発期の思想的特色と主要な思想家についての認識を深め、基礎的資料読解力をつけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	現代東南アジア論	2	前	高橋正樹（情報文化）

選択

#### <授業目的>

東南アジア諸国の政治経済と歴史を日本との関係に留意しながら考察することを目的とします。東南アジアは11カ国によって構成される多様な歴史と文化、政治経済をもつ広い地域ですので、短い授業で触れられることは限られます。地域としては、タイ・ビルマ（ミャンマー）・ベトナム・カンボジア・ラオスといった大陸部東南アジアの戦後の動きを中心に扱います。東南アジアは日本軍が戦時中に占領したたいへん関係の深い地域ですが、戦後もとくに政治経済的に深い関係にあります。現在は開発による経済的格差の拡大や民主化弾圧など様々な問題を抱えています。授業では随時、ビデオなどを観て具体的イメージをつくりながら授業を進めていきたいと思っています。

#### <各回毎の授業内容>

1. 東南アジア認識の方法
2. 戦前の日本と東南アジアとの関係
- 3～4. 戦後のアジア冷戦と日本の東南アジア復帰
- 5～6. ベトナム戦争
- 8～9. ビルマの民主化とアウンサン・スーチー
- 10～12. 日本の経済進出と東南アジア
- 13～15. 東南アジアと東アジア共同体構想

#### <成績評価方法>

特別な場合を除き授業への全出席が最低条件になります。さらに、中間テスト・学期末テストによって評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書はありませんが、毎回、授業内容をレジュメに書いて配ります。

##### 参考文献

サイード『オリエンタリズム』平凡社；矢野暢『南進の系譜』中央公論社、1993年；小林英夫『大東亜共栄圏』岩波書店、1988年；永瀬隆『「戦場」にかけの橋』のウソと真実』岩波書店、1986年；末廣昭『タイ・開発と民主主義』岩波書店、1992年；渡辺利夫編『アジア経済読本第3版』東洋経済、2003年；古田元夫『歴史としてのベトナム戦争』大月書店、1991年；歴史教育者協議会編『知っておきたい東南アジアI』青木書店、1996年；田辺寿夫・根本敬『ビルマ軍事政権とアウンサンスーチー』角川書店、2003年；谷口誠『東アジア共同体』岩波書店、2004年。

#### <受講に当たっての留意事項>

東南アジアにとくに興味がない人でも履修してください。授業を受けることできっと東南アジアへの関心が深まることでしょう。

#### <学習到達目標>

東南アジアへの関心と理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	国際政治史	2	前	小澤治子（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	国際政治史			

選択

#### <授業目的>

この科目のねらいは、第一次世界大戦勃発後、第二次世界大戦勃発にいたる時期（戦間期）の国際政治の歴史を学ぶことである。20世紀に起こったこの2度の世界大戦をなぜ防ぐことができなかったのだろうか。また2度の世界大戦が残した歴史の教訓とはいかなるものであろうか。そのような問題意識をもって二つの世界大戦勃発にいたる過程、また第一次世界大戦の戦後処理の特色と問題点について詳しく考えてみたい。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 戦間期国際政治史研究の意義
- 2 19世紀から20世紀初めの東アジア(1)
- 3 19世紀から20世紀初めの東アジア(2)
- 4 第一次世界大戦勃発と国際政治
- 5 第一次世界大戦とアメリカ
- 6 第一次世界大戦の戦後処理
- 7 ワシントン会議と日本外交
- 8 ワシントン体制と日本外交
- 9 1930年代の東アジア(1)
- 10 1930年代の東アジア(2)
- 11 戦間期のヨーロッパ(1)
- 12 戦間期のヨーロッパ(2)
- 13 第二次世界大戦開始前後のソ連外交
- 14 太平洋戦争勃発と米ソ関係
- 15 戦間期国際政治の特色と問題点

#### <成績評価方法>

学期末試験の結果と授業ごとに提出するコメントペーパーによって、成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に指定せず、授業内容についてのプリントを毎回配布する。

参考文献としては、以下3冊が有用である。

入江昭『二十世紀の戦争と平和（増補版）』、東京大学出版会、2000年。

石井修『国際政治史としての20世紀』、有信堂、2000年。

戸部良一・三輪公忠共編『日本の岐路と松岡外交』、南窓社、1993年。

#### <受講に当たっての留意事項>

主な関連科目として、「国際政治学」、「平和学」がある。

#### <学習到達目標>

戦間期の国際政治の歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治を考える視点を養う。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	国際経済史	2	前	佐藤芳行
16年度以前	専 門	2 年	国際経済史			

選択

#### <授業目的>

20世紀に世界経済はめざましい変化をとげた。第一次世界大戦後、英国にかわり米国が世界経済の中心国となりつつあったが、20年代末の金融バブルは金融恐慌を引き起こし、世界恐慌をもたらした。第二次世界大戦後、1950年代～60年代に日本とヨーロッパ諸国は米国にキャッチ・アップした。この時期は黄金時代と呼ばれ、混合経済体制の下で福祉国家が形成され、所得増加、完全雇用、格差の縮小などが達成された。しかし、1970年代になるとそうした状況は変化し、スタグフレーションをはじめとする困難が現れてきた。そして1980年代に米英を中心として政策の大転換がなされ、金融自由化、労働市場の柔軟化などのネオ・リベラリズムの政策が実施されるようになった。またロシア・中国の市場経済移行などのグローバル化現象が顕著となり、ケインズの福祉国家体制からグローバル市場経済への移行が行われた。しかし、それは社会を不安定化させる様々な問題（金融危機、失業、所得分配の変化、格差社会など）をもたらしてきた。この講義では、そうした変化を理解し、またそれが何故生じたのかを学ぶとともに、人々が安心して暮らせる社会はどのようにしたら実現できるのかを考えることを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 回 はじめに 国際経済史に何を学ぶか
- 2 回 1930年代の世界恐慌は何故生じたのか
- 3 回 1930年代の世界恐慌の教訓
- 4 回 戦後の黄金時代の経済
- 5 回 戦後の黄金時代の要因
- 6 回 黄金時代の黄昏(1) 国際通貨体制の動揺とインフレーション
- 7 回 黄金時代の黄昏(2) 石油危機とスタグフレーションの昂進
- 8 回 1980年代 ネオ・リベラリズムの市場原理主義的政策（小テスト）
- 9 回 1980年代 ネオ・リベラリズムの政策 財政と金融
- 10 回 1980年代 ネオ・リベラリズムの政策 雇用
- 11 回 旧ソ連圏と中国の市場経済移行
- 12 回 1990年代のグローバル金融危機
- 13 回 雇用の柔軟化と所得分配の変化
- 14 回 まとめ
- 15 回 定期試験

#### <成績評価方法>

試験（定期試験80％と小試験20％）

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しない。毎回講義概要・資料を配付する。参考文献については、配布する資料に参考文献の一覧表を付す。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中は私語・飲食厳禁。その他最低限の常識・モラルを守ること。

#### <学習到達目標>

世界の諸地域における現代の国際経済史を学ぶことによって、現在人々がどのような状態に置かれているのかを理解し、考えるための基礎的な力を養う。また国際経済史やそれを理解するための経済学上の知識・考え方を身につけることによって、情報社会の中でマスコミ等によって伝えられる考え方を鵜呑みにする（そのまま無批判的に受け入れる）のではなく、冷静・客観的に判断することが出来るようになることを目標とする。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	Advanced C E P 3	2	前	G.Hadley, P.Nadasdy, M.Ruddick

選択

#### <授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっていきます。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

このクラスの受講を希望する学生には、全員プレイスメント・テストを受けてもらいます。テストの結果が一定の基準に達しない場合は、受講が許可されません。受講が許可された学生は、テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Dクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Dクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるということはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取り組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が30%を超えると不合格となります。CEPには、スピーキング・リスニングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

#### <成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取り組みなどから総合的に判定されます。


#### <教科書・参考文献>

Materials Created by CEP Instructors.

#### <受講に当たっての留意事項>

次は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員が説明しているときに、友達と大きな声で話さないこと。居眠りはしないこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。

# 3 年文化専門科目（前期）



ロシア語 4  
中国語 4  
韓国語 4  
アメリカ英語 4  
日ロ関係論  
日中関係論  
日韓朝関係論  
日米関係論  
日本語学  
地球社会と人権  
現代エネルギー論  
国際協力論  
EU 論  
外国語文献講読 1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3年	ロシア語4 A		前	A. プラーソル （情報文化）
16年度以前	専 門	3年	ロシア語4 A			

選択必修

<授業目的>

ロシア語1・2・3 基礎文法の導入に引き続き、名詞と代名詞の格変化、形容詞の変化・短・長語尾形などに対する理解を深める。「話す」、「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。

<各回毎の授業内容>

- 1－2 テキスト第33課 形容詞変化のまとめ
- 3－4 テキスト第34課 代名詞変化のまとめ
- 5－6 テキスト第35課 形容詞の短語尾形
- 7－8 テキスト第36課 所有の表現とその否定
- 9－10 テキスト第37課 関係代名詞(1)
- 11－12 テキスト第38課 関係代名詞(2)
- 13－14 テキスト第39課 名詞的従属文(1)
- 15 末期テスト

<成績評価方法>

出席率と学期末試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版、1999年

<受講に当たっての留意事項>

毎回宿題あり

<学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、文章の読解能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	ロシア語 4 A		前	R. プラーソル
16年度以前	専 門	3 年	ロシア語 4 A			

選択必修

#### <授業目的>

ロシア語1・2・3 基礎文法の導入に引き続き、名詞と代名詞の格変化、形容詞の変化・短・長語尾形などに対する理解を深める。「話す」「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。授業の目的はロシア語会話能力の育成にある。学習者が外国旅行等の際に必要な応じて簡単な会話ができるように授業を計らうつもりである。テキストだけでなく、ロシア文化の基礎知識を養うために、映画や教材ビデオ等を利用する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1－2 テキスト第33課 形容詞変化のまとめ
- 3－4 テキスト第34課 代名詞変化のまとめ
- 5－6 テキスト第35課 形容詞の短語尾形
- 7－8 テキスト第36課 所有の表現とその否定
- 9－10 テキスト第37課 関係代名詞(1)
- 11－12 テキスト第38課 関係代名詞(2)
- 13－14 テキスト第39課 名詞的従属文(1)
- 15 末期テスト

#### <成績評価方法>

授業出席率は15%、宿題の実施率は15%、中間テストは20%、期末試験は50%という計算で最終評価を与える。

#### <教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版、1999年  
基礎ロシア語コース・会話編等のプリントを教員が配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席率が授業数3部の1を超えると受験資格がなくなる。宿題が毎回出る。

#### <学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、会話能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3年	ロシア語４Ｂ		前	中谷昌弘
16年度以前	専 門	3年	ロシア語４Ｂ			

選択必修

#### <授業目的>

ロシア語3に引き続き同じテキストの29～36課をもって文法、語彙、会話をマスターするように心がける。文法の練習などは教員が用意する。

#### <各回毎の授業内容>

1. Урок 29 «Мой отец был инженером.» 練習[述語と造格]
2. Урок 30 «Сначала весны до конца осени.»[名詞の変化のまとめ (1) ]
3. 同 練習
4. Урок 31 «Листья на деревьях красные и жёлтые.»[名詞の変化のまとめ (2) ]
5. 同 練習
6. Урок 32 «Ему шестьдесят два года.»[代名詞の変化のまとめ (1) ]
7. 同 練習
8. Урок 33 «В булочную вошла маленькая девочка.»[形容詞の変化のまとめ]
9. 同 練習
10. Урок 34 «Как дела у моего сына?»[代名詞の変化のまとめ (2) ]
11. 同 練習
12. Урок 35 «Вы очень похожи на меня.»[形容詞の短語尾系]
13. 同 練習
14. Урок 36 «Один человек пришёл в ресторан.»[動詞の体 (4) ]
15. 同 練習 試験

#### <成績評価方法>

出席率と学期末試験の結果によって成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

佐藤純一著『新ロシア語入門』、NHK出版、2000年

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席が三分の一を超えると受験資格がなくなる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 4 A		前	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	中国語 4 A			

選択必修

#### <授業目的>

2年までに学んだ中国語の基礎を堅固にし、読解能力を中級レベルにまで高める。単に語学だけを学ぶのではなく中国語の学習を通じて中国文化（中国人の考え方、習慣、生活）への理解を深める。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに
2. 教育的公平(1)
3. 教育的公平(2)
4. 就業難(1)
5. 就業難(2)
6. 年轻人婚恋观的变化(1)
7. 年轻人婚恋观的变化(2)
8. 房奴(1)
9. 房奴(2)
10. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習
11. 众多的股民(1)
12. 众多的股民(2)
13. 城市里的消费热(1)
14. 城市里的消费热(2)
15. まとめ

#### <成績評価方法>

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

#### <教科書・参考文献>

孟広学・本間史『変化する中国』白水社（2100円＋税）

#### <受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

#### <学習到達目標>

「読む」「聞く」「話す」のバランスのとれた中国語の習得を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 4 A		前	朱 継征
16年度以前	専 門	3 年	中国語 4 A			

選択必修

#### <授業目的>

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験4～3級合格を目指します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

#### <各回毎の授業内容>

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1. 命令表現                   | 2. 願望表現       |
| 3. 推量表現                   | 4. 比較表現       |
| 5. 否定表現                   | 6. 比喩表現       |
| 7. 可能表現                   | 8. 可能助動詞と可能補語 |
| 9. 受身表現                   | 10. 使役表現      |
| 11. 時量補語                  | 12. 結果補語      |
| 13. 程度補語                  | 14. 方向補語      |
| 15. 総合練習（中国語検定試験とHSKについて） |               |

#### <成績評価方法>

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40％、期末試験60％。

5回以上無断欠席した者は失格。

#### <教科書・参考文献>

教科書:授業中に指示します。

参考書:『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

#### <学習到達目標>

中国語運用の基礎的能力を獲得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 4 B		前	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	中国語 4 B			

選択必修

#### <授業目的>

2 年までに学んだ中国語の基礎を堅固にし、会話と読解を実用的なレベルにまで高める。

#### <各回毎の授業内容>

中国語 3 で使用したテキスト（楊凱栄・張麗群『表現する中国語Ⅱ』）を引き続き使用し、場面ごとの会話練習を行う。

また中国語検定（6 月）対策として過去問題の分析及び練習を行う。

1. はじめに－「中国語 3」の復習(1)
2. 「中国語 3」の復習(2)
3. 买 东西(1)
4. 买 东西(2)
5. 爱好(1)
6. 爱好(2)
7. 坐 火车(1)
8. 坐 火车(2)
9. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(2)
10. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(1)
11. 観光（游 外滩）(1)
12. 観光（游 外滩）(2)
13. 送行(1)
14. 送行(2)
15. まとめ

#### <成績評価方法>

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。3 分の 2 以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

#### <教科書・参考文献>

楊凱栄・張麗群『表現する中国語Ⅱ』白帝社（2 4 0 0 円＋税）

#### <受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

#### <学習到達目標>

実際に「話せる」中国語のマスターを目指す。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 4 B		前	寺沢一俊
16年度以前	専 門	3 年	中国語 4 B			

選択必修

#### <授業目的>

中国語のテキストを中心に市場経済を急ピッチで推し進める中国社会に起きている様々な変化について学び、中国語の新聞・ニュース・報道番組などに対応できる能力を養う。

#### <各回毎の授業内容>

- 1～3. 「北方与南方」
- 4～6. 「語言」
- 7～8. 「少数民族」
- 9～10. 「中国人的住宅」
- 11～12. 「中国在变」
- 13～14. 「双方選択」
- 15. 定期試験

#### <成績評価方法>

テキストが正しく読めるかどうかを重視する。出席が2/3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト、レポート、出席率、定期試験の結果を総合的に判断する。

#### <教科書・参考文献>

教科書：『China Now』 村松恵子・董紅俊著 白帝社（1600円＋税）

参考文献：講義中にその都度紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

必ずテキスト付属のCDを聞くこと。予習をする際には本文を朗読すること。学んだ中国語文は繰り返し朗読をして暗誦すること。

#### <学習到達目標>

市場経済の中で起きている様々な変化について中国語で理解できるようにしたい。さらにその変化の原因について考えてみる。さらに新たな社会現象を象徴するような新語については、中国語で簡単なコメントができるようにしたい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 4 A		前	申 銀珠（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	韓国語 4 A			

選択必修

#### <授業目的>

中級レベルの語彙・文型・会話・読解力を総合的に向上させることを目的とする。今までより高度な文法や語彙、多様な表現を学習し、コミュニケーション能力を向上するため、授業では教科書の語彙や文法項目を重点的に取り扱い、教室以外でできることは自習にする。教室では、なるべく学んだことを実際に使用する練習を行うことにする。会話だけでなく、日記・手紙・エッセーなどを書かせ作文力を向上させる。中級レベルの誤用例などをいっしょに学習する。韓国語で授業を行う。

#### <各回毎の授業内容>

1. 제 1과 첫인상
2. 제 1과 첫인상
3. 제 1과 첫인상
4. 제 1과 첫인상
5. 제 1과 첫인상
6. 제 2과 취미
7. 제 2과 취미
8. 제 2과 취미
9. 제 2과 취미
10. 제 2과 취미
11. 제 3과 직장 생활
12. 제 3과 직장 생활
13. 제 3과 직장 생활
14. 제 3과 직장 생활
15. 제 3과 직장 생활

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。課題、小テストを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

『韓国語中級 I』(国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局)

#### <受講に当たっての留意事項>

予習と復習をしっかりとくること。授業はペアワークやグループ活動が多いので、学生たちの積極的な態度が求められる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 4 A ・ B		前	朴 修禧
16年度以前	専 門	3 年	韓国語 4 A ・ B			

選択必修

#### <授業目的>

この授業は、韓国語 6（4 年 前期）と繋がる授業で、韓国語 6 の準備過程とも言えます。韓国の文化全般に関する教師講義の後、そこに関して学生達が中心になって自由に意見を交わしたり討論する事によって韓国語の上達を目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

1. 韓国に対する基本的な理解
2. 韓国という共同体
3. 韓国人が尊敬する歴史的な人物
4. 韓国人の休暇の過ごし方
5. 韓国人の好きなスポーツ
6. 韓国的価値
7. 韓国の宗教
8. 韓国を代表する企業と企業人
9. 韓国の若者達が好む職業
10. 韓国人の家族観
11. 韓国人の異性観及び結婚観
12. 韓国の教育理念及び教育制度
13. 韓国社会の変化
14. 現代韓国文化の特徴（恨からシンミョンへ）
15. 定期試験

#### <成績評価方法>

平常発表（30％） 出欠及び課題（10％） 定期試験（60％）

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しません。 講義の時資料を配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

他国を理解しようとするオープンマインド

#### <学習到達目標>

隣接国を言葉だけでなく文化を知ることによって、より深い理解が出来、グローバル時代の一人としての資質を見に付けるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 4 B		前	吉澤文寿（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	韓国語 4 B			

選択必修

#### <授業目的>

韓国語 1～3 までの学習を簡単に復習してから、文法事項を中心に学習の要点を整理する。日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とするものの特性を生かした言語学習を通して、初級段階前半の語学力をさらに高めることを目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. 韓国語 3 の復習
2. 帰り道 돌아가는 길 (その 1)
3. 帰り道 돌아가는 길 (その 2)
4. 百日記念日 백일이 되는 날 (その 1)
5. 百日記念日 백일이 되는 날 (その 2)
6. 引っ越しパーティーの日 집들이하는 날 (その 1)
7. 引っ越しパーティーの日 집들이하는 날 (その 2)
8. 汽車に乗ってお出かけ 기차 타고 야외 나가기 (その 1)
9. 汽車に乗ってお出かけ 기차 타고 야외 나가기 (その 2)
10. 村の風景 마을 풍경 (その 1)
11. 村の風景 마을 풍경 (その 2)
12. 成珉さんを訪ねて 성민 씨를 찾아서 (その 1)
13. 成珉さんを訪ねて 성민 씨를 찾아서 (その 2)
14. 今学期の復習
15. まとめ

#### <成績評価方法>

出席が 2/3 以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子『もっとチャレンジ！韓国語』白水社、2007 年、定価：2300 円＋税

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席しないこと。毎回宿題を与え、随時小テストも行います。

#### <学習到達目標>

はじめは 1 年半学んだ韓国語の復習から。しっかり力をつけて、今学期の後半から新しい内容を学びましょう。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 4 B		前	朴 修禧
16年度以前	専 門	3 年	韓国語 4 B			

選択必修

#### <授業目的>

韓国語 1, 2, 3 で学習した基本語彙、基礎文法をもとに、連語、語句などを加え、自然な会話ができるように多様な文型練習、発話練習を行う。授業中、具体的な場面を設定し、学習者にスキットを演じてもらう。基本の韓国語を習得しながら 韓国の文化に自然に触れることによって、韓国を理解することと同時に、国際人としての資質を整えることを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

1. 제4과 아직 일이 안 끝났어요.
2. 제4과 아직 일이 안 끝났어요.
3. 제4과 아직 일이 안 끝났어요.
4. 제4과 아직 일이 안 끝났어요.
5. <復習>
6. 제5과 너무 바빠서 못 갔어요.
7. 제5과 너무 바빠서 못 갔어요.
8. 제5과 너무 바빠서 못 갔어요.
9. 제5과 너무 바빠서 못 갔어요.
10. <復習>
11. 제6과 선생님 좀 바꿔 주세요.
12. 제6과 선생님 좀 바꿔 주세요.
13. 제6과 선생님 좀 바꿔 주세요.
14. 제6과 선생님 좀 바꿔 주세요.
15. <復習>

#### <成績評価の方法>

期末試験（70％） 課題（20％） 出欠（10％）

#### <教科書 参考文献>

『아름다운 한국어 1-3』(韓国語教育開発研究員、아름다운 한국어 학교)

#### <受講に当たっての留意事項>

1. 一つの言葉を覚えるだけでなく、隣の国と人を理解しようとする開いた心を構えること。
2. ただ受け入れるのではなく、自分で何かを積極的に探ろうとする姿勢を取る。
3. 母国語以外の言葉を覚えることは、人生を広げることであることを忘れないこと。

#### <学習到達目標>

韓国語の基本の会話が可能になる。韓国語の基本の文章が作れる。現代の韓国及び韓国文化が理解出来る。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 4 A		前	アンジェラ オオタ
16年度以前	専 門	3 年	英語 4 A			

選択必修

#### <授業目的>

The aim of this course is to increase student speaking and listening skills. The class will be asked to decide on a movie they would like to view, and short sections will be watched each class. Homework listening dictations will be based on the day's scene. Class time will also be spent doing pair and group task-based speaking activities, aimed at increasing student speaking fluency for talking about themselves and their lives.

#### <各回毎の授業内容>

Week 1 and 2 text book topic 1- getting to know each other, and deciding on a movie

Week 3 - text book topic 2 - Talking about interests

Week 4 - topic 4 - Talking about people

Week 5 - topic 5 - Talking about work

Week 6 - topic 6 - Talking about past experience

Week 7 - topic 8 - Talking about countries

Week 8 - topic 9 - Talking about experiences

Week 9 - topic 10 - Talking about places

Week 10 - topic 12 - Talking about Japanese things

Week 11 - continued

Week 12 - topic 13 - Talking about future events

Week 13 - Talking about school

In addition Week 3 to Week 13 will include

- checking the previous week's movie dictation homework .

- movie viewing with English titles, then Japanese titles and finally with English titles again to pick up new vocabulary.

Week 14 - review of materials covered in the class

Week 15 - written test

#### <成績評価方法>

Weekly quizzes小テスト 25%

Self evaluation & participation 自己評価及び授業の参加度 25%

Final exam 最終試験 25%

Homework assignments 宿 題 25% - a pass can not be achieved if no assignments have been submitted

提出のない場合は不合格になるので注意すること

#### <教科書・参考文献>

Text - Talk A Lot (book one, second edition) David Martin

Other materials: English/Japanese and Japanese/English Dictionaries

Notebook

#### <受講に当たっての留意事項>

Please be advised that being late, or missing classes means you miss class marks for quizzes, group work and participation.

1 回授業を欠席すると当日の小テストと出席点の両方を失うことになるので気をつけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 4 A		前	本間多香子
16年度以前	専 門	3 年	英語 4 A			

選択必修

<授業目的>

TOEIC 試験のテキストを使い、リスニングとリーディングの演習を行う。また基本的な文法、語彙の復習をし、基礎をしっかりと固める。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction

2. Lesson 1

3. Lesson 2

4. Lesson 3

5. Lesson 4

6. Lesson 5

7. Lesson 6

8. Lesson 7

9. Lesson 8

10. Lesson 9

11. Lesson 10

12. Lesson 11

13. Lesson 12

14. Lesson 13

15. 試験

<成績評価方法>

定期試験60％ 小テスト、授業への取り組み度40％

<教科書・参考文献>

大賀リエ他著 Living English for the TOEIC TEST（センゲージラーニング2100円）

<受講に当たっての留意事項>

必ず問題を解いてくること。欠席が3分の1以上になると試験を受ける資格を失う。

遅刻2回で欠席1回

<学習到達目標>

基本的な文法を定着できるようにする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 4 B		前	金沢泰子
16年度以前	専 門	3 年	英語 4 B			

選択必修

#### <授業目的>

- ① CALL システムと E-learning を活用して TOEIC 受験対策演習をおこなう。  
4 回の模擬試験を軸に Listening 練習、文法復習、語彙力強化、速読練習を行いスコアアップをめざす。
- ② Word による学習記録作成、Excel を使った単語、文例集作成などを通して PC を活用した自律学習の定着をはかる。

#### <各回毎の授業内容>

授業は以下の順序でおこなう。

- ① 語彙小テストと Dictation （前回の復習）
- ② Skimming, Scanning による Reading 演習
- ③ Grammar Practice
- ④ Listening 練習
- ⑤ 重要表現自習 [語彙、文法、イディオム]
- ⑥ 音読録音 (WMA ファイル形式で提出)
- ⑦ 学習記録 E-mail 送信

予習、復習を前提に授業を行う。宿題を提出しないと授業に参加できない。

語学学習に高い効果が認められている音読を必修とする。

自律学習をめざし、毎授業終了時に学習記録を E-mail で提出する。

最終授業時には全回分を一つにまとめて添付ファイルで提出する。

随時オンライン Practice Test を行い、スコア管理により弱点を強化する。

- |                    |                     |            |
|--------------------|---------------------|------------|
| 1. 講義概要他           | 6. Unit 3           | 11. Unit 6 |
| 2. Pre-Test        | 7. Unit 4           | 12. Unit 6 |
| 3. Unit 1          | 8. Unit 5           | 13. Unit 7 |
| 4. Unit 2          | 9. Unit 5           | 14. Unit 7 |
| 5. Practice Test 1 | 10. Practice Test 2 | 15. 期末テスト  |

#### <成績評価方法>

毎授業時の練習問題 20%、復習確認 20%、音読 20%、学習記録 20%、Test 20%

#### <教科書・参考文献>

A.Mizumoto et.al : Successful Keys to the TOEIC Test 3: GOAL 700 (KIRIHARA)  
E-learning による新 TOEIC Test 徹底レッスン (朝日出版)

#### <受講に当たっての留意事項>

4 回以上欠席または課題未提出の場合は受講資格を失う。

#### <学習到達目標>

- ① 文法・語彙力の強化。
- ② 模擬試験を通じテスト時の時間配分に慣れる。
- ③ PC を使用した自律学習を定着させる。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 4 B		前	デロシェ ジェラルド
16年度以前	専 門	3 年	英語 4 B			

選択必修

#### <授業目的>

The objective of this course is to encourage the students to communicate freely in English. It will be a structured course and guidance. However, it is hoped that the students will be able to speak without hesitation and state their opinions. It is hoped that the classroom atmosphere will be tension free to encourage the students to master English communication.

#### <各回毎の授業内容>

1. Course explanation and student/teacher introduction. An explanation of student's presentations.
2. "Taboo jr" An English activity that will acquire the ability to describe and explain subjects.
3. Listen In #3 "David Nunan" plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
4. Puzzle (homework assignment) plus student presentations.
5. "Blurt" a quick action English speaking activity plus student presentations.
6. Listen In #3 "David Nunan" plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
7. "Counterfeits" A speaking activity that helps the students ability to explain differences in each others pictures.
8. Puzzle (Homework assignment) plus student presentations
9. "Scattagories" a quick vocabulary and English activity plus student presentations.
10. Listen In #3 "David Nunan" plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
11. Student presentations.
12. "Bomb" a 3 part exercise that teaches about locations,finding differences,and explaining how to do something.
13. Listen In #3 "David Nunan" plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
14. Review plus student presentations.
15. Final Test based on Listen In #3 and reading comprehension and aural exercises.

#### <成績評価方法>

Final Test 40% student presentation 20% homework assignment 20%

#### <教科書・参考文献>

Prints will be provided

#### <受講に当たっての留意事項>

The students who participate and come to class will be very successful

#### <学習到達目標>

To be able to get the students to enjoy English and encourage them to speak freely and with confidence.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	日ロ関係論	2	前	小澤治子（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	日ロ関係論			

選択必修

#### <授業目的>

この科目のねらいは、日本人とロシア人の出会いから始まり、領土問題、安全保障体制、経済協力、姉妹都市交流など様々な角度から、日ソ、日ロ関係の歩みを考察することによって、両国関係の歴史についての理解を深めることである。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 日本とロシアの出会い
- 2 帝政ロシア時代の日露関係
- 3 ロシア革命と日ソ関係(1)
- 4 ロシア革命と日ソ関係(2)
- 5 第二次世界大戦と日ソ関係
- 6 日ソ国交回復と領土問題
- 7 日米・日中関係とソ連
- 8 極東・シベリア開発プロジェクトの進展と日ソ関係
- 9 ペレストロイカと日ソ関係(1)
- 10 ペレストロイカと日ソ関係(2)
- 11 ソ連解体と日ロ関係(1)
- 12 ソ連解体と日ロ関係(2)
- 13 日ロ関係における新潟市
- 14 日ロ関係の現状と展望(1)
- 15 日ロ関係の現状と展望(2)

#### <成績評価方法>

学期末試験の結果と授業ごとに提出するコメントペーパーによって、成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に指定せず、講義内容についてのプリントを毎回配布する。

参考文献は、講義の中で随時紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

主な関連科目は、「ロシア史概説」、「現代ロシア論」、「国際政治学」、「国際政治史」である。

#### <学習到達目標>

日ソ、日ロ関係の歩みを学ぶことを通じて、今後の日本とロシアの外交関係、また交流のあり方を考える視点を養う。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	日中関係論	2	前	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	日中関係論			

選択必修

#### <授業目的>

中国が間もなくGDPで日本を追い抜き、世界第2位の経済大国になろうとしている。このような中国の発展を20年前は誰も予想できなかった。一体、中国に何が起こったのだろうか。私たちの身の回りは中国からの輸入品に満ち溢れている。食品、衣服、雑貨、電気製品等々。私たちの生活はこれら中国製品を抜きにして成り立たない。それほどまでに現在、日中の経済は緊密な関係になっている。身近な題材から現在および将来の日中関係を考え、とくに「歴史問題」に対する認識と理解を深める。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに－現在の日中関係を考える
2. 日本と中国1－経済関係から見た日中関係(1)
3. 日本と中国2－経済関係から見た日中関係(2)
4. 対中、対日感情－日本から見た中国、中国から見た日本
5. 日中に横たわる問題
6. 日中の近現代150年(1)
7. 日中の近現代150年(2)
8. 日中の近現代150年(3)
9. 歴史問題1－戦争の傷跡(1)
10. 歴史問題2－戦争の傷跡(2)
11. 歴史問題3－戦争の傷跡(3)
12. 歴史問題4－問題解決の糸口
13. 新潟と中国1－新潟から中国、北東アジアへ(1)
14. 新潟と中国2－新潟から中国、北東アジアへ(2)
15. まとめ－将来の日中関係を考える

#### <成績評価方法>

学期末の試験および授業中の課題（コメント・感想文）によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

#### <教科書・参考文献>

その都度プリントを配布する。

参考文献：岡部達味『日中関係の過去と将来』岩波現代文庫（1050円）

丸川哲史『日中一〇〇年史－二つの近代を問い直す』光文社新書（798円）

#### <受講に当たっての留意事項>

必ず1週間の新聞報道（日中関係）に目を通したうえで授業に出席すること。

#### <学習到達目標>

事実に基づき、冷静に日中関係を分析するための基礎知識を習得する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	日韓朝関係論	2	前	吉澤文寿（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	日韓朝関係論			

選択必修

#### <授業目的>

この講義は1年次の「韓国朝鮮史概説」の内容をふまえて、「国交正常化」をキーワードとして、1945年から現在までの朝鮮の歴史及び日本との関係を通観することにより、朝鮮現代史及び日朝関係史を連関させて理解することを目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. 講義の概要、参考文献案内
2. 植民地支配、解放、分断(1)…朝鮮植民地支配とその解放直後の日本と朝鮮の政治状況
3. 植民地支配、解放、分断(2)…米ソ両軍占領下の朝鮮における政治状況
4. 植民地支配、解放、分断(3)…分断体制成立と朝鮮戦争、そして日本との関係
5. 日韓国交正常化交渉(1)…1951～1953年の前期会談について
6. 日韓国交正常化交渉(2)…1953～1960年の休会期、中期会談について
7. 日韓国交正常化交渉(3)…1960～1965年の後期会談について
8. 日韓国交正常化以後(1)…日韓経済協力の展開と日韓、日朝関係
9. 日韓国交正常化以後(2)…NIEsとしての韓国の経済成長と日韓、日朝関係
10. 日朝国交正常化交渉(1)…南北クロス外交の開始と1991～1992年の初期交渉
11. 日朝国交正常化交渉(2)…1992～2000年の日朝関係
12. 日朝国交正常化交渉(3)…2000～2002年の日朝関係
13. 日朝国交正常化交渉(4)…6者会合開始以後の日韓、日朝関係
14. 東アジア共同体に向かって…現在の日韓、日朝関係と私たちの課題を考察する
15. まとめ

#### <成績評価方法>

定期試験及び小テストによって成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使用しない。講義時にレジュメを配布する。

主な参考文献は次の通りである。初回の講義時に他の参考文献を紹介する。

武田幸男編『朝鮮史』山川出版社、2000年

田中俊明編『朝鮮の歴史 先史から現代』昭和堂、2008年

#### <受講に当たっての留意事項>

受講にあたり、当該の講義内容を予習することを勧める。

また、「韓国朝鮮史概説」を履修しておくことが望ましい。

#### <学習到達目標>

この講義では現代日朝関係を理解する上で、1) 日本による植民地支配の影響、2) 現在の朝鮮が分断体制である、3) 日本という位置から朝鮮を理解するという視座に留意する。受講者が以上の諸点の意味を理解した上で、自分なりの立場を構築できれば充分である。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	日米関係論	2	前	中村起一郎
16年度以前	専 門	3 年	日米関係論			

選択必修

#### <授業目的>

強大な軍事力と経済力を背景に、独特の外交理念をふりかざす超大国アメリカ。対テロ戦争や経済危機、地球環境問題などの例をみても、アメリカとどのように付きあうかは、世界の主要国にとって頭の痛い問題である。もちろん日本もそのことに長く頭を悩ませてきた国の一つだ。時に積極的に、時に苦渋の決断を迫られながら、いくつもの選択が積み重なって現在の日米関係が作られている。

この講義では、現在の日本外交の基軸となっている日米の同盟関係がどのように形成されてきたのか、主に政府レベルの政策決定過程に焦点を当てながら分析する。高校時代の日本史、世界史、大学で学んだ日本政治や国際政治などの知識を利用しながら、日米関係が日本と世界にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。

#### <各回毎の授業内容>

- 1－2. 日本の帝国主義外交とアメリカ
- 3－4. 日米戦争
- 5－6. 占領と冷戦——敵国から同盟国へ
- 7－8. 日米同盟の形成と深化
- 9－10. 日本の経済成長と日米関係の変容
- 11－12. 東アジアの政治変動と日米同盟
- 13－14. 日米同盟の諸問題
15. 試験

#### <成績評価方法>

学期末試験によって評価する。若干の平常点を加味することがある。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に指定しない。参考文献は講義中に適宜紹介するが、日本外交の流れを追うのに有用な概説書として、次のものを挙げておく。

- 五百旗頭真・編『日米関係史』有斐閣、2008年
- 五百旗頭真・編『新版 戦後日本外交史』有斐閣、2006年
- 井上寿一『日本外交史講義』岩波書店、2003年
- 細谷千博『日本外交の軌跡』NHK ブックス、1993年

#### <受講に当たっての留意事項>

日本政治史、国際政治学、国際政治史、アメリカ史概説を受講済または受講中であることが望ましい。私語は厳禁。質問は授業中でも授業の前後でも歓迎します。

#### <学習到達目標>

日本の外交や安全保障政策の歴史を学ぶことで、現在のありようとその問題点を理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	日本語学	2	前	佐々木香織

選択

#### <授業目的>

この授業では、個々人が日本語とはどのような言語であるかを考え、理解するための様々な視点を提供することを目指します。日本語がどのような言語であるかについての言語学的な概説も行いますが、言葉に対する感受性や内省力、分析力を高めることが最大の目的です。なお、日本語教育能力検定試験受験を考えている方には、特に言語学と合わせて履修されることをお勧めします。

#### <各回毎の授業内容>

1. 日本語のプロフィール:日本語はどんな言語か
2. 日本語の多様性:地理的、歴史的な位相
3. 「標準語」と「方言」:言葉の使分けとアイデンティティー
4. 実践方言調査
5. 日本語の歴史的変化1:万葉仮名の世界
6. 日本語の歴史的変化2:懐かしき古典文法
7. 日本語の歴史的変化3:「南蛮人」の見た日本語
8. 日本語の歴史的変化4:日本語の近代化
9. 音声から見た日本語:英語の発音が苦手な理由。
10. 文字・語彙から見た日本語:漢字は必要か?
11. 日本語の文法1:学校文法の復習
12. 日本語の文法2:外国人からみた日本語文法
13. 「文」を超えた文法・「文字」で表せない文法
14. 「無意識」の日本語コミュニケーション
15. 期末テスト

#### <成績評価方法>

授業の最後10分程度で短いレポートやコメントを書いてもらいます。宿題のレポートも評価の対象です。毎回の得点の平均+出席回数とレポート、最後の筆記試験で総合評価します。

#### <教科書・参考文献>

特定のテキストは使用しませんが、資料を配布することもあります。

参考文献『日本語（上・下）』金田一春彦（岩波新書<赤表紙>）、『日本語と外国語』鈴木孝夫（岩波新書<赤表紙>）、『ことばと文化』鈴木孝夫（岩波新書<緑表紙>）、『標準語の成立事情』真田真治（PHP文庫）、『国語元年』井上ひさし（新潮社）、『日本語ウォッチング』井上史雄（岩波新書<赤表紙>）、『日本語は年速1キロで動く』井上史雄（講談社現代新書）、『日本語の歴史』山口仲美（岩波新書<赤表紙>）。

#### <受講に当たっての留意事項>

グループでの話し合いや作業の時間を設けることがあります。積極的に参加してください。宿題もあります。教科書は指定しませんが、日本語に関する文献を読んで、視野を広げるチャンスとしてください。上記参考文献は一般の図書館でも入手可能です。是非読んでください。

#### <学習到達目標>

この授業の最大の目標は、自分が使っている言葉について、自分で考えたり、何か法則性を発見したりする（たとえ、それが既に発見されていたことであっても）力を身につけることです。また、その言葉の運用力を向上させることも重要な“隠れ”目標です。何より、人間にとって言葉がどんな役割を果たしているかに思いを馳せ、社会における言葉の重要性を理解し行動へつなげることが目標です。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	地球社会と人権	2	前	黒田俊郎
16年度以前	専 門	3 年	地球社会と人権			

選択

#### <授業目的>

かつて見田宗介は、教育のことばの鮮度をめぐって次のように語ったことがあります。

「子どもってほんとにすばらしい」「先生ありがとう」といった、ことばだけを取りだしてみると「気恥ずかしくなる」ようなことばも、このような記録の中では生きている。これらのことばは、それが思わず生みおとされるその固有の場所の中では、それぞれ一回かぎりの、真実のことばなのである。・・・同時にこのような鮮度の高いことばは、言葉がその中で生きている《関係の海》の中から言葉として釣り上げられるとき、たとえば「子どもはすばらしいのです」という観念の一般性として抽出され、流通するとき、それは「教育くさい」言説として、あのわたしたちをへきえきさせる特有のにおいを発散しはじめる。

政治のことばを、子どもをめぐることばや、あるいは愛のことばと同列に論じることなどできるはずありません。政治のことばで純粋な夢や理想を語ることができないことも、誰だって知っています。しかしそれにもかかわらず、上記の見田の指摘には、地球社会や人権といった政治のことばを考察するうえでの重要な手がかりがあるように思われます。というのは、人間の幸福をめぐる想念が革命を指導し、この星の美しさが来るべき社会の規範原理として想起されるのは、まさに具体的な個々の政治活動の現場においてだからです。

そこでこの授業では、冷戦終結後の国際社会の現実を踏まえながら、いくつかの歴史の現場にスポットをあてて、その固有の文脈のなかで地球社会や人権という政治のことばの意味を考えてみたいと思います。そして、地球社会や人権ということばのリアリティを授業に参加する皆さんに少しでも感じてもらえればと思います。授業の進め方は、まず映像資料を観てもらいます。そしてその映像の向こう側にある「世界」の現実を考えていきます。そのために時代概況を一瞥したり、政治学や国際関係論を中心に、人文・社会科学諸分野で行われている様々な議論を検討したりする予定です。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに：時代概況 1989－2009
2. 映像資料①『戦場のフォトグラファー』
3. 1990年代再考－どのような時代だったのか①
4. 1990年代再考－どのような時代だったのか②
5. 映像資料②『9・11：カメラはビルのなかにいた』
6. 2001年9月11日－私たちはなにをなすべきだったのか①
7. 2001年9月11日－私たちはなにをなすべきだったのか②
8. 映像資料③『ブレアとイラク戦争』
9. イラク戦争後の世界①
10. イラク戦争後の世界②
11. 映像資料④『聞へ』
12. イラク戦争後の世界③
13. イラク戦争後の世界④
14. 地球社会と人権：むすびにかえて
15. 期末レポート

#### <成績評価方法>

期末レポート100%。

#### <教科書・参考文献>

毎回資料を配付し、参考文献も適宜紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

映像資料を活用しながら、全体の見通しがきいたメリハリのある授業をおこないたいと思います。ただ私の授業は、いずれにせよかなり理屈っぽいものなので、肌に合わない人はいると思います。

#### <学習到達目標>

受講した学生が、世界が抱える構造的矛盾を「地球社会と人権」という観点から理論的・歴史的に把握し、「いま現在」を生きるひとりの人間（とりわけ大学で学ぶ人間）の責務として、「なにをなすべきか」を学問的・実践的に考えることができるようになること（あるいは授業がそのきっかけとなること）。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	現代エネルギー論	2	前	澤口晋一（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	資源と環境			

選択

#### <授業目的>

クリーンエネルギーとして急速に見直されつつある原子力発電。資源エネルギー庁のHPには原子力発電の説明として「いま、エネルギーをたくさん使うことによって、地球に熱がこもって気温が上がってしまう「地球温暖化」が問題となっています。原子力発電はこうした地球温暖化の原因となる二酸化炭素を発電中に出さないことから地球にやさしい電源といえます。また発電するには石油・石炭・ウランなどの資源（燃料）が必要ですが、ウランを燃料とする原子力発電は、少ない燃料で多くの電気をつくることができます」といったことが書かれてあります。しかし、これをそのまま鵜呑みにしてしまっても良いのか、原子力発電は本当にクリーンなエネルギーなのか。本講義では、原子力発電とそれをめぐる問題を総合的に取り上げて概説します。

#### <各回毎の授業内容>

1. 資源とは何か
2. エネルギー資源とその種類
3. 資源利用と地球環境問題
4. 核燃サイクル政策の現状と問題点
  - 1) 原子力問題の枠組み
  - 2) 世界の原子力発電の現状（アジアを中心に）
  - 3) 放射線被曝に関する問題
  - 4) 原子力発電の種類と仕組み
  - 5) 日本の原子力問題の概要
  - 6) 核燃サイクルとは何か
    - i 全体像
    - ii 「六ヶ所村」
    - iii 再処理
    - iv プルサーマル
    - v 高速増殖炉
    - vi 放射性廃棄物（特に、高レベル放射性廃棄物の地層処分問題をめぐって）
    - vii 海外委託と放射性物質の運搬
  - 7) 地域と原子力
  - 8) 核拡散と原子力
  - 9) 地球温暖化と原子力発電
  - 10) まとめ

#### <成績評価方法>

レポート、出席を総合して評価します。

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しないが、参考文献として下記文献を購入することを勧めます。

広瀬 隆・藤田祐幸（2000）『原子力発電で本当に私たちが知りたい120の基礎知識』東京書籍。  
¥1600

#### <受講に当たっての留意事項>

世界最大の原子力発電所を抱える新潟県、そしてそこに生まれ育った君たちにとって原子力問題に無知であることは許されることではないと思います。受講者が多数になることを希望します。授業中は私語・飲食（持ち込み）厳禁！。携帯電話については毎回授業の最初に電源を切ったことを確認してから始めます。

#### <学習到達目標>

日本の原子力政策の現状と問題点の把握を基礎に、将来のエネルギー利用とそれに派生する問題について自ら考えられるようになること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	国際協力論	2	前	松尾瑞穂（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	開発論			

選択

#### <授業目的>

本講義では、「先進国」と「発展途上国」を成立させている世界システムについて学ぶとともに、国際協力が経済、社会的開発において果たしている多様な役割を検討していく。まずは、国際協力とそれを成立させている構造を概観したのち、具体的に日本の国際開発援助および国際機関の取り組みを紹介する（①～⑥）。そのうえで、開発がもたらす負の側面を検討し、国際協力の抱える課題について考察を深めていく（⑦～⑧）。さらに、オルタナティブな国際協力にはどのような可能性があるのかを、国際協力の潮流を踏まえながら議論していく（⑨～⑭）。また、国際協力の現場に詳しい専門家を外部講師として招く予定である。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに—国際協力の概要
2. 国際協力の始まりとその展開
3. 世界システムと第三（第四）世界
4. 日本の国際協力：ODAと円借款
5. 日本の国際協力：人道援助と復興支援
6. 国際機関の役割
7. 開発と文化—反開発の思想
8. 国際協力の政治性
9. オルタナティブな開発①—フェアトレードで世界は変わる？
10. オルタナティブな開発②—マイクロファイナンス
11. 開発とジェンダー①：もっとも貧しい人は誰？
12. 開発とジェンダー②：リプロダクティブ・ヘルス
13. 開発とジェンダー③：エンパワーメント
14. 身近な国際協力：新潟からの発信
15. まとめ

#### <成績評価方法>

小課題（40％）、レポート（60％）

#### <教科書・参考文献>

内海成治編『国際協力を学ぶ人のために』、2005年、世界思想社。

#### <受講に当たっての留意事項>

この授業では、授業毎に課題が出され図書館での事前学習が必要な場合があります。日ごろから雑誌、新聞などに目を通し情報収集に努めてください。第三世界の現状に関心があり、もっと知りたいという知的好奇心旺盛な学生を対象としていますので、課題をやってこない、欠席が多い等の場合には単位を与えませんので気をつけてください。

#### <学習到達目標>

国際協力の構造を把握し、発展途上国と先進国とのつながりを深く理解することができるようになる。国際協力についての基本的事項を理解し、自分なりの考えを持つことができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	E U 論	2	前	臼井陽一郎 （情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	E U 論			

選択

#### <授業目的>

第二次大戦後、ヨーロッパは地域統合を進めていった。それはやがて、EU・欧州連合の誕生というステージに到達する。時あたかも米ソ冷戦構造崩壊の轟音いまだ止まぬときである。世界の政治と経済に与えたインパクトは計り知れない。しかしながら、EUという巨大で複雑な機構を創り進化させることそれだけが、ヨーロッパ統合を意味するわけではない。ヨーロッパ統合の過程では、ドイツとフランスの、西ヨーロッパと東ヨーロッパの、バルカン半島の、そしてキリスト教とイスラム教の間の、和解へ向けた果てしのない努力の一つひとつが、曲がりなりにも着実に積み上げられてきたのである。ヨーロッパ統合とはこの意味において、和解のプロジェクトであると理解することもできるであろう。ただし、画に描いた餅、ただのキレイごと、非現実的な夢想といった部分が多くある。そもそも統合を進めること自体、統合の根本目的を阻害してしまうという皮肉な事態も生じてしまった。この講義では、こうしたヨーロッパ統合の理念と現実とに迫っていきたい。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回：ヨーロッパ統合の成果と課題—和解のプロジェクト
- 第2回：ヨーロッパ国際社会の特徴—多国間主義の遺産と多様なデモクラシー
- 第3回：ヨーロッパ国際社会の特徴—EU以外の国際組織（欧州審議会と全欧安保協力機構）
- 第4回：ヨーロッパ統合の背景史①—ドイツ問題と米ソの冷戦
- 第5回：ヨーロッパ統合の背景史②—植民地体制の崩壊と統合の促進
- 第6回：ヨーロッパ統合史・50年代—石炭鉄鋼共同体の設立と防衛共同体の挫折
- 第7回：ヨーロッパ統合史・60年代—経済共同体と原子力共同体の設立と展開
- 第8回：ヨーロッパ統合史・70年代—連合設立構想の失敗と水面下の制度進化
- 第9回：ヨーロッパ統合史・80年代—多数決制の導入と南欧独裁国家の民主化
- 第10回：ヨーロッパ統合史・90年代①—難産のマーストリヒト条約とドイツ統一の負担
- 第11回：ヨーロッパ統合史・90年代②—東欧革命と東方拡大
- 第12回：ヨーロッパ統合史・90年代③—ユーゴ内戦と西バルカンの包摂という課題
- 第13回：ヨーロッパ統合史・2000年以降①—憲法条約とセプテンバー・イレブンの衝撃
- 第14回：ヨーロッパ統合史・2000年以降②—ハード・パワーのアメリカとソフト・パワーの欧州？
- 第15回：試験

#### <成績評価方法>

学期末試験100%。

#### <教科書・参考文献>

授業中に紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

学期末試験は論述式設問40%・選択式設問60%で作成、すべて持ち込み不可とする。合格率（C以上の成績）は例年6割ほどである。

#### <学習到達目標>

ヨーロッパ統合について基本的なことがらに習熟して、新聞・雑誌の現代ヨーロッパ関連の記事を読んで理解できるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	国際組織論	2	前	佐々木寛（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	国際組織論			

選択

#### <授業目的>

現在、「国際関係」は必ずしも単なる「国家間関係」ではない。それゆえ近年、従来の国家中心の国際関係論を補うべく、国際組織（国際機構）論が誕生し、国連やNATOのような政府間国際組織（IGO）や国際的環境運動などの非政府間国際組織（INGO）が国際関係の重要なアクター（行為主体）として分析されるようになった。ただ本講義では、これら無数の国際組織を単に法的・制度的にばらばらに理解するのではなく、世界で生起するダイナミックな政治現象の統一的文脈の中でとらえなおしてみたい。つまり、近代国家を横断する多様なアクター（行為主体）が重層的に織りなす「世界政治（global politics）」の視点から見た動的な国際組織論を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

本講義では、単に「グローバル・ガバナンス（世界統治）」（世界の問題をいかにうまく管理・解決するか）の視点ではなく、特に「グローバル・デモクラシー（世界民主主義）」（世界の問題をいかに民主的に解決するか）の視点から多層化した国際的行為主体のあり方を考えてみたい。その際、できるだけ具体的な事例を検討する中から理論や概念を洗練できるよう努める。細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。また、1度は21世紀の組織像に関するすぐれた映像資料を鑑賞する。

1. 国際組織とは何か [1回]
2. 国際政治学における機能主義・相互依存モデルの生成 [1回]
3. 「グローバリゼーション」と政治の重層化 [3回]
4. 「グローバル・ガバナンス」と「グローバル・デモクラシー」 [1回]
5. 地域主義と国際組織 [3回]
6. 世界政治と国際連合 [2回]
7. 安全保障問題と国際組織 [2回]
8. 国際NGOを考える [1回]

※+1回分、資料映像を鑑賞する時間に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。つまり、試験当日万が一やむをえない事情で十分解答できなくとも、日常的な参加姿勢は成績に加味される。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、デヴィッド・ヘルド『デモクラシーと世界秩序』（NTT出版）。また、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時参考図書を指定するので、参加者各自で思考を深めておいてほしい。必読参考文献として、小林誠・遠藤誠治編『グローバル・ポリティクス』（有信堂）を挙げておく。その他の参考文献の具体例としては、『AERA Mook 新国際関係学がわかる』（朝日新聞社）の中の「ブックガイド」を参照のこと。

#### <受講に当たっての留意事項>

内容的にかなり高度なことも含むので、知的好奇心が旺盛な学生の参加を望む。また、2年次に「平和学」を受講していることが望ましい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	外国語文献購読 1	2	前	熊谷 卓（情報文化）

選択

#### <授業目的>

熊谷卓の担当する外国書文献購読の目的は、特定の専門分野につき、日本語以外の文献（主として英語および、場合に応じてフランス語）を素材として、検討することを通じて、当該特定専門分野の学問状況をより深く考察することにある。いわば、自言語以外の言語の文献を用いることで、さらなる考察を深めることを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

素材：主として法や裁判あるいは司法制度について、主として英語（場合に応じてフランス語）によって記述された「文献」（＝法律関連新聞記事、裁判判決文）を予定。

- 1 オリエンテーション：資料の配布および本授業内容の解説、進め方の説明（学生担当翻訳箇所の決定）。
- 2 指定外国書文献①の講読－1
- 3 指定外国書文献①の講読－2
- 4 指定外国書文献①の講読－3
- 5 指定外国書文献②の講読－1
- 6 指定外国書文献②の講読－2
- 7 指定外国書文献②の講読－3
- 8 指定外国書文献③の講読－1
- 9 指定外国書文献③の講読－2
- 10 指定外国書文献③の講読－3
- 11 指定外国書文献④の講読－1
- 12 指定外国書文献④の講読－2
- 13 指定外国書文献④の講読－3
- 14 指定外国書文献④の講読－4
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

本授業では、受講学生には課題として文献の翻訳・要約が課される。したがって、成績は①文献の翻訳・要約の善し悪し（50%）および②学期末の試験の善し悪し（50%）にしたがって付けられる。

#### <教科書・参考文献>

開講（初回）時に指示する。 なお、開講（初回）時に英語の辞書を必ず持ってくること。

#### <受講に当たっての留意事項>

外国書文献購読という授業は、例えて言えば、①ゼミナールと②語学の授業を足して2で割ったようなスタイルの授業である。それゆえ、毎回の出席は当然（原則として欠席は認めない）のこととして、相当の程度の予習・復習が求められる。単位の修得のためには相当の覚悟が要ると思ってほしい。このことをふまえ、受講を考えてほしい。得る物は大きいと思うけれども…。

# 4 年文化専門科目（前期）

ロシア語 6  
中国語 6  
韓国語 6  
アメリカ英語 6

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	ロシア語 6	1	前	R. プラーソル
16年度以前	専 門	4 年	ロシア語特講 2			

17年度以降選択 16年度以前選択必修

#### <授業目的>

ロシア語会話における新しい文法形態、語彙、その利用について学習する。コミュニケーションと発音の技能、ロシア語の会話を聞き理解する能力を向上する。日常会話に関連した短い文の読み書き能力を発展させる。いくつかのロシアの象徴と生活習慣を学習する。

#### <各回毎の授業内容>

1 - 2	テキスト第 1 課	電話での会話
3 - 4	テキスト第 2 課	歳月の表現（年・月・日） 日本とロシアにおける祭日 クイズ「ロシアの有名な人たち」
5 - 6	テキスト第 3 課	レストランでの注文 ロシア料理 クイズ「ロシア料理」
7 - 8	テキスト第 4 課	勉強しすぎじゃないか？ 日本語の一番難しいところなに？
9 - 10	テキスト第 5 課	全部マーシャのせいだ？ クイズ「ロシアを知っていますか？」
11 - 12	テキスト第 6 課	もし仮に大金持ちだったとしたら… クイズ「ロシアを知っていますか？」
13 - 14	テキスト第 7 課	どうしました？ 対話「医師のところで」
15	末期テスト	

#### <成績評価方法>

授業出席率は 15 %、宿題の実施率は 15 %、中間テストは 20 %、期末試験は 50 % という計算で最終評価を与える。

#### <教科書・参考文献>

A. デボフスキー、北岡千夏 「会話で学ぶロシア語」 中級 1 フェニックス 2004  
会話編等のプリントを教員が配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席率が授業数 3 部の 1 を超えると受験資格がなくなる。宿題が毎回出る。

#### <学習到達目標>

ロシア語の高度な文法とロシアの知識を習得し、会話能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	中国語 6	1	前	朱 継征
16年度以前	専 門	4 年	中国語特講 2			

17年度以降選択 16年度以前選択必修

#### <授業目的>

中国語の人文・社会科学分野の文献、新聞記事やテレビニュースなどを理解するには、一層高いレベルの語学力と知識が要求されます。中国語は実用性の面でも将来性のある言語の一つです。その実力は若いうちに身に付ければ一生の財産になります。

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験3～2級合格を目指します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

#### <各回毎の授業内容>

- |                                |                |
|--------------------------------|----------------|
| 1. 単純方向補語                      | 2. 複合方向補語      |
| 3. “把”構文                       | 4. “关于”構文      |
| 5. “对”構文                       | 6. “按照”構文      |
| 7. “往”構文                       | 8. “根据”構文      |
| 9. “给”構文                       | 10. “由于”構文     |
| 11. “为”構文                      | 12. “除了”構文     |
| 13. “向”構文                      | 14. TECCとHSK対策 |
| 15. 総合練習（中国語検定試験、TECCとHSKについて） |                |

#### <成績評価方法>

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40%、期末試験60%。

5回以上無断欠席した者は失格。

#### <教科書・参考文献>

教科書：授業中に指示します。

参考書：『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

#### <学習到達目標>

中国語の総合的運用能力を高め、中国語検定試験4～3級合格、HSK（漢語水平考試）3～5級合格を目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	韓国語 6	1	前	朴 修禧
16年度以前	専 門	4 年	韓国語特講 2			

17年度以降選択 16年度以前選択必修

＜授業目的＞

この授業は、韓国語 4（3 年 前期）の深化過程で、韓国で経験あるいは見た文化や風習を生かし、日本と韓国を比較しながら自由に会話をします。

会話の内容を録音し、それを聞きながら発音の校訂は勿論、より自然な意思駆使が出来るようになる事を目的にします。

＜各回毎の授業内容＞

1. 授業の方針説明、韓国での思い出発表
2. 韓国人に日本の文化を紹介する
3. 日本と韓国の祝日比較
4. 日本の歴史的人物紹介する
5. 好きな韓国人
6. 日本の観光地紹介
7. 韓国で行ってみた観光地の中、一番印象的だった所に対して話す
8. 日本と韓国のスポーツ
9. すきなスポーツ
10. 日本の食文化紹介
11. 日本の食文化と韓国の食文化の違い
12. 自分で出来る料理のレシピ発表
13. 日本の教育の特徴と問題点
14. 自分が見た韓国の大学
15. 定期試験

＜成績評価方法＞

平常発表（40％） 定期試験（60％）

＜教科書・参考文献＞

テキストは使用しません。 講義の時資料を配布します。

＜受講に当たっての留意事項＞

他国を理解しようとするオープンマインド

＜学習到達目標＞

韓国を言葉だけでなく文化を知ることによって、より深い理解が出来、グローバル時代の一人としての資質を見に付けるようになる。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	アメリカ英語 6	1	前	矢口裕子（情報文化）
16年度以前	専 門	4 年	英語特講 2			

17年度以降選択 16年度以前選択必修

#### <授業目的>

異文化理解をテーマにしたエッセイをTOEIC用教材として編集したテキストを用いる。総合教材・試験対策用教材というと無味乾燥なものになりがちだが、異文化理解という統一的テーマで編集されているので、SkillとContentをともに学ぶことができる。補助教材としてプリントを配布したり、映像資料等を用いることもありうる。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 イン트로ダクション
- 2 Harry Potter vs. Hamlet
- 3 Theater in London
- 4 My Fair Lady
- 5 A Taxi Driver Story
- 6 The New Zealand Way of Life
- 7 Enter the Euro
- 8 Big Macs in Hospitals
- 9 The Celtic Language
- 10 Black Barbie or White Barbie?
- 11 Pearl Harbor and Japanese-Americans
- 12 Ozawa Wins Praise
- 13 The Astronaut's Husband
- 14 Getting into the Japanese Market
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

授業中の発表、提出物、小テスト、期末試験（レポート）を総合的に評価する。

#### <教科書・参考文献>

Exploring Cultural Issues（成美堂）

#### <受講に当たっての留意事項>

全員が予習してきていることを前提に授業を進める。必ず辞書を持参すること。出席のための出席は意味がない。

# 1 年システム専門科目（前期）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	基本情報処理特論 1	2	前	斉藤研一
16年度以前	専 門	2 年	情報技術演習 I	1		

選択

#### <授業目的>

経済産業省認定の「基本情報技術者試験」（以下、FE 試験）は、テクノロジー・マネジメント・ストラテジの3分野に関する基礎的な知識・技能を問う試験であり、情報を専攻する大学生にとって、学習の進捗を測る一つのツールであるといえます。

本講座では、FE 試験のテクノロジー分野の中核をなす“アルゴリズムとデータ構造”に焦点を絞り、主要なアルゴリズムとデータ構造を知ること、及び、アルゴリズムとデータ構造をプログラム表現する技能を養成することを目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

本講座の各回のテーマは次のとおりです。

1. 第1日3限 受講ガイダンス、擬似言語の記述形式
2. 第1日4限 変数、基本制御構造（順次・選択・繰返し）、手続き、関数
3. 第2日3限 整列アルゴリズム①:基本的な整列アルゴリズム
4. 第2日4限 整列アルゴリズム②:改良した整列アルゴリズム
5. 第3日3限 整列アルゴリズム③:再帰的な整列アルゴリズム
6. 第3日4限 整列アルゴリズム④:ヒープという木構造を利用した整列アルゴリズム
7. 第4日3限 課題1…整列アルゴリズムの計算量
8. 第4日4限 課題1…整列プログラムの処理時間の測定
9. 第5日3限 探索アルゴリズム①:線形探索
10. 第5日4限 探索アルゴリズム②:リスト
11. 第6日3限 探索アルゴリズム③:2分探索
12. 第6日4限 探索アルゴリズム④:2分探索木
13. 第7日3限 課題2…2分探索木を作成するプログラム
14. 第7日4限 課題2…2分探索木の探索効率の改善
15. 試験日3限 定期試験

※各日の4限の後半30分間:FE 試験の午後の問題ではアルゴリズムの表現に擬似言語が用いられており、これを用いてアルゴリズムを表現する演習を行います。

#### <成績評価方法>

毎回の出席を基本とし、成績は、演習と課題（70%）、定期試験（30%）により総合的に評価します。

#### <教科書・参考文献>

授業及び課題に使用する教材は、適宜、配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

1、2年生だけでなく、4年生までのすべて学生を対象にします。FE 試験の受験予定者だけでなく、「プログラミングの経験不足や不得意を克服できれば…」と考えている学生も歓迎します。不安・不満な点は、初回の受講ガイダンスにてご相談ください。

FE 試験（2010年10月17日）の受験希望者に対して、9月にFEの模擬試験（有料）を実施する予定です。実施要領等の詳細は7月に提示します。


相談・質問のメールアドレスは、次のとおりです。

RXA01547@nifty.com

#### <学習到達目標>

FE 試験の該当分野の問題（午後の部の問8）で、2/3以上の正解率を確保できるようになること。

# 2年システム専門科目（前期）



システム論  
情報システムモデル  
人間情報工学2  
地域統計  
経営と情報  
財務会計  
テレコミュニケーション  
モデリング数学  
北米社会と情報  
情報英語

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	システム論	2	前	近藤 進 (情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	システム論			

#### 選択

#### <授業目的>

現代社会は、さまざまなシステムから構成されている。システムとは、複数の要素が有機的に関係しあい、全体としてまとまった機能を発揮する集合体やその仕組みのことをいう。機械システムでは車のような具体的なものを扱い、経済システムでは概念を扱う。しかし、このように一見離れた分野でも、それぞれに共通する動作や考え方が存在する。システム論では、この多くの分野に共通する見方考え方を学ぶ。また、私たちが目的を達成するために、いろいろな方法がかんがえられるが、もっとも適した方法を見いだすのがシステム思考である。ここでは、情報システムで基本となるシステム思考についての基礎知識を修得し、システムの理論を実際に応用するための能力を育成する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 システムとは システムの歴史 システムの概要
- 2 システム思考 システムの定義 システム工学
- 3 システムの分類方法 自然人工 人間機械 生産 線形非線形 連続離散
- 4 システム計画と分析 システム技法の概要 ネットワーク
- 5 システム設計 将来予測
- 6 動的計画法 最短時間ルート
- 7 動的計画法 倉庫問題
- 8 シミュレーション 抵抗コンデンサの線形回路解析
- 9 シミュレーション 山岳展望解析（カシミール）
- 10 システムの信頼性 故障率 平直列回路 保全率
- 11 システムの信頼性と予測技法 半導体レーザの寿命 期待値
- 12 最適化技法 線形計画法 割当て法
- 13 スケジューリング アローダイヤグラム平準化と稼働率 費用勾配とCPM
- 14 ラインバランシング 編成効率 非同期生産方式
- 15 まとめとテスト

#### <成績評価方法>

- ・成績は期末試験の結果により評価する。
- ・試験は講義に沿った問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書 series電気電子情報系1「システム工学」 石川博章著 共立出版 2800円
- ・教科書にない領域および付け加える点については、その都度資料としてプリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・毎回講義の終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問、理解度チェック）を提出してもらう。
- ・「数学リテラシー」または「数学基礎」の履修を指導された学生は単位を取得していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・システム全般にわたる基礎知識を習得する。(50%) またこれらの簡単な応用ができる。(50%)
- (関連する学習・教育目標:G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	情報システムモデル	2	前	槻木公一 （情報システム）

選択

#### <授業目的>

企業活動や人間活動を支える情報システムは、人とコンピュータの協調作業を基軸として有形の構成要素（人、コンピュータ本体や端末など）と無形の構成要素（ソフトウェアの機能やデータなど）が絡み合って成り立っている。このような情報システムの全体像を理解するためには、その本質を捉えて眼に見える形にした「情報システムモデル」を利用する必要がある。新しく情報システムの構築を考える時にも、情報システムの利用者、設計者、開発者が正確に情報交換する場合にも情報システムモデルが中心となる。ここでは、まずモデルの基本となる図形とその意味、役割（図解）を学習し、ルールに沿った図形表現による情報システムモデルを「読む」ことによって、情報システムを理解できるようにする。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 情報システムモデルの意義と役割
- 2 モデル作成（モデリング）の視点と基本技法
- 3 図解によるモデリング（問題点整理と分析結果）
- 4 図解によるモデリング（意思決定、企画と行動戦略）
- 5 図解によるモデリング（概念、機能、状態、構造）
- 6 図解によるモデリング（システム概念図）
- 7 ビジネスプロセスモデル（概要、種類、事例）
- 8 情報システムモデルとコンピュータシステムモデル
- 9 情報、データ構造のモデリング
- 10 機能、プロセスのモデリング
- 11 構造化表現による情報システムモデルその1
- 12 構造化表現による情報システムモデルその2
- 13 オブジェクト指向表現による情報システムモデルその1
- 14 オブジェクト指向表現による情報システムモデルその2
- 15 まとめとテスト

#### <成績評価方法>

成績は期末試験結果（100%）で評価する。試験は各講義に沿った問題を数題出題し全問の解答を求める。

#### <教科書・参考文献>

- ・ほぼ毎回必要なプリントを配布する。ただし、プリントには図表のみが記載されているので、講義に出席しないと理解できない。参考書、参考文献は必要な都度紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・図解が中心となるので、自分で手を動かして図を描くことにより理解すること。

#### <学習到達目標>

- ・文章記述などから、情報システムの全体図や業務プロセスなどを具体的に図形表現できるようになる。（期末試験60%）
  - ・表現ルールが定められた情報システムモデル（DFD、ERD、UML）を正しく読むことができるようになる。（期末試験40%）
- （関連する学習・教育目標：G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	人間情報工学 2	2	前	上西園武良 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	人間情報工学 2			

選択

#### <授業目的>

人間情報工学（人間工学）では、人間の使用する機器が人間にとって使用しやすいものになることを目指している。人間情報工学2では、私たちの身の回りの工業製品に対して、人間情報工学がどのように活用されているかを実際の製品例から学習する。また、新たな動向としての脳科学・生体センシングの利用を解説する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 機械中心から人間中心へ（人間中心設計）
2. 人間情報工学の活用(1)、車の例①
3. 人間情報工学の活用(2)、車の例②
4. 人間情報工学の活用(3)、家電の例①
5. 人間情報工学の活用(4)、家電の例②
6. 人間情報工学の活用(5)、寝具の例①
7. 人間情報工学の活用(6)、寝具の例②
8. 新たな動向(1):脳科学の利用①
9. 新たな動向(2):脳科学の利用②
10. 新たな動向(3):生体センシングの利用①
11. 新たな動向(4):生体センシングの利用②
12. グループウェア1
13. グループウェア2
14. グループウェア3
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

期末試験の結果で評価する（100％）。ノートのみ持込み可。

#### <教科書・参考文献>

特定の教科書は使用しない。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノート持込み可の試験を行うので、やさしい問題は出さない。毎回出席し、自分のノートをしっかり作ること。

#### <学習到達目標>

人間情報工学（人間工学）が、実際の製品にどのように活用されているかを説明できるようになること。自分のノートを参考にしながら説明できればよい。

（関連する学習・教育目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2年	地域統計	2	前	小野・近藤・白井・小宮山 佐々木・二瀬・平山
16年度以前	専 門	2年	地域統計			

選択

#### <授業目的>

地域の理解にとって、地域の伝統文化や自然環境などへの配慮は当然必要であるが、それとともに、地域の現実における社会経済的な姿を客観的に把握することが重要である。現実における地域の問題は、人口高齢化や少子化などによる人口減少といった社会的側面や、自動車や工場の排ガスによる大気汚染、交通騒音、廃棄物処理など公害的な側面からだけでなく、工場や商店の最適配置、交通路線の選定、病院や学校などの公共施設の配置、通勤通学、住宅対策など、我々の生活に関連する事象だけとりあげても、数限りなくある。また、企業の側からみても、たとえば流通業における大規模店舗の立地とそれにとまう周辺商店街への影響の問題など、いろいろな問題がみられる。これらの諸々の問題を解決するための対策や計画の立案に際しては、関連する各種の地域的な事象を正しく把握し、問題の所在を正しく認識することが大前提となる。そのための方法を習得する。講義の前半では、地域統計に必要な知識およびデータ解析の基礎を学び、その後、具体的な問題を取り上げて実践的なデータ解析の手法を紹介する。後半では、より詳しく地域を理解するための手法を紹介する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 地域を理解すること（小宮山）
2. 地域に関する統計(1)（二瀬）
3. 地域に関する統計(2)（二瀬）
4. データ解析の基礎(1)（小野）
5. データ解析の基礎(2)（小野）
6. データ解析の応用(1)（佐々木）
7. データ解析の応用(2)（小宮山）
8. 地域分布の分析（二瀬）
9. 地域特性の分析（小宮山）
10. 地域間関係の分析（平山）
11. 地域構造の分析（平山）
12. 地域予測の方法（白井）
13. 地域間相互作用の分析（白井）
14. 地理情報システム（近藤）
15. まとめ:テスト

#### <成績評価方法>

定期試験によって成績評価を行う(100%)。

#### <教科書・参考文献>

講義中に必要な資料は配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義で分からないことは、積極的に質問すること。

#### <学習到達目標>

- ・地域に関するデータを収集し、グラフの解釈ができるようになること(30%)
  - ・データによって地域の現状を説明できること(70%)
- (関連する学習・教育目標:H)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	経営と情報	2	前	大野富彦 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	経営と情報			

選択

#### <授業目的>

本講義は、ITの進展が、企業経営にどのような影響を及ぼすか、あるいは、企業にはどのような可能性があるかを検討します。そして、企業活動での情報活用に関する知識を高めることを目的とします。まず、情報という資源の特徴を明らかにします。そしてその上で、「電子商取引」、「顧客関係と情報」、「情報の共有と活用」という切り口から経営と情報を理解していきます。

#### <各回毎の授業内容>

- |                         |                               |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1. Introduction         | 講義概要、ある教員の経験                  |
| 2. 情報という資源              | 情報という資源の特徴と価値                 |
| 3. 企業活動と情報              | 企業活動での情報流、ホームページやブログ・SNSの活用など |
| 4. 電子商取引(1)             | BtoC、BtoB など                  |
| 5. 電子商取引(2)             | 新しいビジネスモデルの可能性                |
| 6. 電子商取引(3)             | 事例                            |
| 7. 顧客関係と情報(1)           | カスタマー・リレーションシップ・マネジメント (CRM)  |
| 8. 顧客関係と情報(2)           | ユーザー・イノベーション、顧客との価値共創         |
| 9. 顧客関係と情報(3)           | 個人情報とその保護                     |
| 10. 顧客関係と情報(4)          | 事例                            |
| 11. 情報の共有と活用(1)         | ナレッジ・マネジメント (KM)              |
| 12. 情報の共有と活用(2)         | 知識創造理論                        |
| 13. 情報の共有と活用(3)         | 事例                            |
| 14. 応用議論:企業家活動と資源としての顧客 |                               |
| 15. まとめと試験              |                               |

#### <成績評価方法>

- ・ 期末試験で100%評価します。

#### <教科書・参考文献>

- ・ 教科書は使いません。
- ・ 授業のなかで参考になる書籍を紹介していく予定です。

#### <受講に当たっての留意事項>

本講義で扱うEC、CRM、KMについては、多くの書籍が出ています。また、インターネット上にも掲載されています（ただし、情報の信憑性を確認する必要があります）。各自においても、それら本講義で扱う内容について貪欲に情報収集してください。

#### <学習到達目標>

EC、CRM、KMに関する基本的な知識を習得する（期末試験:40%）。そして、習得した知識を企業経営における問題解決に応用できる力を身につける（期末試験:60%）。

（関連する学習・教育目標:E,I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2 年	財務会計	2	前	山下 功 （情報システム）
21年度以前	専 門	3 年	財務会計			

選択

#### <授業目的>

財務会計は、複式簿記の計算を通して企業の損益と財産の状態を測定し、株主・投資家・取引先・政府・地方自治体等の企業外部の利害関係者に報告する会計の仕組みです。それゆえ、管理会計が企業内部への報告を目的とするのに対して、財務会計では企業自身を企業外部へ、会計的にいかに表現するのが重視されます。

財務会計を理解するためには、簿記の知識が欠かせません。そこで、本講義の前半では簿記の基本について説明します。本講義を履修することによって、財務会計の基本的な知識を習得することを目標とします。

#### <各回毎の授業内容>

1. 財務会計とは
2. 企業会計の目的
3. 財務諸表（F/S）の概要
- 4～7. 簿記の基本原則
- 8～10. 貸借対照表（B/S）と損益計算書（P/L）
- 11～12. キャッシュ・フロー計算書（C/F）
13. 連結財務諸表
14. 財務会計の実務
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

期末定期試験60%、授業中の小テスト40%。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使いません。参考文献は授業中に紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業で計算問題を解くことがありますので、電卓を持参してください。安い物でもいいですが、携帯電話の電卓機能を使うことはなるべく避けてください。

#### <学習到達目標>

企業会計の目的と財務会計の概要についての知識を習得し、財務会計学習の前提となる簿記の基本を理解できるようになってください。（期末定期試験30%、授業中の小テスト20%）

財務諸表から得られる情報がどのように役に立っているかを理解するとともに、連結財務諸表および財務会計の実務についての知識を習得してください。（期末定期試験30%、授業中の小テスト20%）  
（関連する学習・教育目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	テレコミュニケーション	2	前	近藤 進 (情報システム)
16年度以前	専 門	3 年	テレコミュニケーション			

選択

#### <授業目的>

テレコミュニケーションは、電磁気的な方法を用い、遠くの人とコミュニケーションをはかることである。現在、この分野の変化は著しく、2～3年前のシステムが、いつのまにか陳腐化してなくなったり、新しいシステムと入れ替わったりする。しかし、これらのシステムの基盤となる技術や考え方は普遍である。この普遍的な考え方をしっかり修得すれば、あらたなシステムが導入されても、容易に理解でき、応用できる。この講義では、これら普遍的な技術や考え方を修得した後、IT社会をささえるブロードバンドや、携帯電話でのCDMA方式を初めとする、応用技術について学ぶ。基盤技術を習得し応用技術を学ぶことにより、新しいより高度な通信技術を理解できるようになる。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 はじめに 講義の概要
- 2 固定電話 一般加入者電話 ISDN 加入者線 中継線 交換機
- 3 アナログとデジタル アナログとデジタルの特徴 アナログ・デジタル変換
- 4 フーリエ変換と周波数 時間軸と周波数軸 矩形波のsinカーブ合成
- 5 交換技術 自動交換
- 6 多重化技術 周波数分割多重 時分割多重
- 7 パケット通信 パケット通信の原理 パケットの構成 パケット交換
- 8 非対称転送モード フレームリレー ATM
- 9 有線通信 ケーブル 有線通信の方式 IP電話
- 10 無線通信 電磁波 電磁波の使われ方
- 11 移動電話 携帯電話 CDMA方式 PHS
- 12 衛星通信 衛星通信システム
- 13 光通信 光ファイバー レーザ 光通信方式 FTTH
- 14 放送 テレビ放送 地上デジタル放送
- 15 まとめとテスト

#### <成績評価方法>

- ・通信の原理とその応用である通信システムについての理解度を期末試験により評価する。
- ・試験は講義に沿った問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書 進歩の顕著な領域であり、授業の開始に合わせて指定する。
- ・教科書にない領域および付け加える点については、その都度資料としてプリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・欠席した者は自己責任で資料をそろえること
- ・各回の授業内容は厳密に一限毎の内容を示すものではなく、各講義の主な内容であり、理解度に応じ進度は多少変化する。
- ・毎回講義の終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問、理解度チェック）を提出してもらう。
- ・「数学リテラシー」または「数学基礎」の履修を指導された学生は単位を取得していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・通信技術の基礎を理解できるようになる。(65%) また、通信システムがどのような原理で成り立っているかを知り、新しい通信システムについても理解できる力を養う。(35%)
- (関連する・教育目標:E,J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	モデリング数学	2	前	白井健二 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	モデリング数学			

選択

#### <授業目的>

数理科学では現象に対する数学的モデルを作り、これを数学的に取り扱うことによって現象を解明する。自然現象や社会現象に共通してあらわれるモデルを多く取り上げ、現象の定式化の方法と計算のしかたを学習する。あわせて数学を単なる道具ではなく、現象の本質の表現であることを修得する。

#### <各回毎の授業内容>

1. モデリング数学について
2. 数学基礎（方程式, 不等式）
3. 数学基礎（数列, 級数）その(1)
4. 数学基礎（数列, 級数）その(2)
5. 三角関数
6. 複素数
7. 微分法の基礎その(1)－多項式など－
8. 微分法についてその(2)－対数関数, 三角関数など－
9. 微分法についてその(3)－分数関数, 汎関数など－
10. 積分法の基礎その(1)－多項式など－
11. 積分法についてその(2)－対数関数, 三角関数など－
12. 積分法についてその(3)－部分積分, 置換積分など－
13. 微分方程式とベクトル場
14. 線形常微分方程式とその解法
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

適時実施する小テスト（40％）と期末試験（60％）の成績で評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使用しない。プリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・基礎自由科目「数学リテラシー」の内容を修得していることが望ましい。
- ・小テストを適時実施する。

#### <学習到達目標>

数学モデルに多用される関数論, 数列と級数, 三角関数, 複素数, 微積分, 微分方程式の基礎を修得する。これらは、数理解析および数学モデル構築には必要不可欠な学修項目である。学習到達評価としては、授業の中で適時実施する小テストが40％, 期末試験が60％という配分で評価する。

（関連する・教育目標:D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	北米社会と情報	2	前	石川 洋(情報システム) 二瀬由理(情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	北米社会と情報			

選択

#### <授業目的>

海外夏期セミナーにおける授業科目の1つである。ソフトウェア開発の現場見学や開発プロジェクト担当者の講義などを通して、北米社会における最新の情報関連技術動向・ビジネス動向またそれらを取りまく社会動向の理解を深める。英語での理解を深めるため、授業内容の概要を現地出発前に事前学習を行う。

#### <各回毎の授業内容>

5 週間の間に 8 回・4 時間の授業が英語で行われる。

- 第 1 回 大規模ソフトウェア開発
- 第 2 回 会社訪問 1
- 第 3 回 カナダ社会の情報化
- 第 4 回 会社訪問 2
- 第 5 回 E-コマースの実状
- 第 6 回 グローバル市場向けのソフトウェア開発
- 第 7 回 会社訪問 3
- 第 8 回 北米社会における IT コンサルタント事業

ただし、多少の内容変更もある。

#### <成績評価方法>

帰国後に研修先の大学から送られてくる成績証明書と提出されたレポートにより成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

適宜、教材を配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

訪問企業などの状況によって内容が変更になることがある。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	情報英語	4	前	石川 洋(情報システム) 二瀬由理(情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	情報英語			

選択

#### <授業目的>

海外夏期セミナーにおける授業科目の1つである。英語によって自分の考えや主張を相手に伝え、コミュニケーションができるようになるための技術を身につける授業を行う。また、海外夏期セミナーにおいて開講される「北米社会と情報」を理解するための情報技術関連の英語力修得を目指す。北米の大学のエクステンション学部における通年のESL(英語が第2外国語である人に対する英語教育)クラスの運営ノウハウを生かした授業構成となっている。

#### <各回毎の授業内容>

エクステンションのESL英語教育プログラムを受講する。8:00～12:00のクラスを週5日・5週間にわたり参加する。英語文化圏におけるコミュニケーション技術向上に焦点をあてた授業である。上記の時間以外でもホームステイなどを通して英語によるコミュニケーションのトレーニングができる。

- 自己評価調査:英語授業を組み立てるための英語能力の確認
- カンバセーション・パートナー:1対2の英会話練習(週3時間×3週=12時間)
- 様々な場面における言語技術向上のためのトレーニング:  
ディスカッション、プレゼンテーション、実務処理の実行・対応、感情表現等の学習
- ホームステイ:  
2週間のホームステイによる日常生活の中での英語体験とコミュニケーション技術の向上


#### <成績評価方法>

帰国後に研修先の大学から送られてくる成績証明書と提出されたレポートにより成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

短編小説、新聞、パンフレットなどを含む多くのテキストを使用する。また、音声・映像教材も使用する。

# 3・4年システム専門科目（前期）



情報システム特論  
情報システム設計  
経営情報システム  
認知科学  
生産情報システム  
企業と国際化  
商品企画  
経営と法律  
知識情報処理  
マルチメディア情報処理  
多変量解析  
オペレーションズリサーチ2  
学外実習  
ビジネス英語入門1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	情報システム特論	2	前	西山 茂 (情報システム)
16年度以前	専 門	3 年	情報システム特論			

選択

#### <授業目的>

- (1) 産業界等でIT関連事業やIT政策立案の最前線で活躍している方を講師に招き、講師が主として関与している業務に関連する話題を紹介して頂き、産業界等における最新のICT利用の動向と課題について学ぶ。
- (2) 履修生による複数の調査チームを編成し、このチームを履修生自身がプロジェクトとして運営し、講義トピックに内在する問題・課題を調査し、その解決方法を提案する。これにより当該分野の知識を深化させるとともに、課題の調査、解決方法を習得する。
- (3) 社会の第一線で活躍する方からの話を聴くことにより、新潟国際情報大学の学生が社会に出てからの活躍或いは貢献の仕方を受講者各自が1人称で考える場を提供する。

#### <各回毎の授業内容>

- ・開講日:原則として隔週火曜日の4限と5限の2限連続で行う。4限は外部講師による講義、5限はプロジェクト活動とする。
- ・運 営:第[1]回に全履修者を複数のチームに分け、各チームでテーマに関連するスタディテーマ領域を設定してプロジェクト活動を開始する。第[7]回(第[8]回に及ぶ場合もある)には全チームがそれぞれのプロジェクト活動の成果を発表する。

- |     |         |                                    |
|-----|---------|------------------------------------|
| [1] | (1-2)   | オリエンテーション-プロジェクトチーム編成              |
| [2] | (3-4)   | テーマ1「プロジェクト管理技術」に関する講義とプロジェクトチーム活動 |
| [3] | (5-6)   | テーマ2「政府等政策・社会状況」に関する講義とプロジェクトチーム活動 |
| [4] | (7-8)   | テーマ3「ICT技術・製品動向」に関する講義とプロジェクトチーム活動 |
| [5] | (9-10)  | テーマ4「ICT技術・製品動向」に関する講義とプロジェクトチーム活動 |
| [6] | (11-12) | テーマ5「ICT技術・運用技術」に関する講義とプロジェクトチーム活動 |
| [7] | (13-14) | プロジェクトチーム活動成果発表                    |
| [8] | (15)    | 講評とまとめ                             |

(注:[2][6]の5回の講義テーマの順番は入れ替わることがある。)

#### <成績評価方法>

- ・受講アンケート提出(7回):35%([7]は発表評価シート、[8]は授業評価シート)
- ・講義受講レポート提出(5回):30%(各回の講義内容の要点と所感)
- ・プロジェクトチーム活動成果発表:35%
- ・プロジェクトチーム活動は必須である。チーム評価を個人成績とする。ただし、プロジェクトメンバーに登録してもチーム活動に貢献しなかった者は評価しない。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書はない。毎回、講義スライドのコピーを配布する(Jenzabarに登録)ほか、次回講義に関連するURLを紹介する。
- ・各種白書(情報化白書、情報通信白書、情報サービス産業白書、等)、@IT、日経BP等の情報サイト

#### <受講に当たっての留意事項>

- (1) 講義では積極的質問すること。
- (2) Jenzabarを利用(または専用Webサイトを併用)して、講義情報の提供、受講レポート提出、プロジェクトチーム活動などを行う。
- (3) 授業時間の外に、レポート作成やプロジェクト活動にある程度の時間をかける必要がある。

#### <学習到達目標>

- (1) 5つの講義テーマ関連領域についての最新の知識を獲得し、その要点を説明できる。(受講アンケートと受講レポートの提出:65%)
  - (2) テーマ領域に関する調査プロジェクトチームによる協働作業を通じて、関連知識の幅を広げ、或いは深化させるとともに、成果報告の構成法、成果の発表方法などのスキルを習得する(プロジェクトチーム活動成果発表:35%)
- (関連する学習・教育目標:E,G)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	情報システム設計	2	前	槻木公一 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	情報システム設計			

選択

#### <授業目的>

情報システムの設計について、そのプロセスと方法論を学習する。情報システムの構築についてまず理解し、方法論の必要性和種類、特徴について学び、事例を通して理解を深める。

情報システムの仕事の仕組みと情報のモデル化の技法を中心に説明し、コンピュータシステムの設計へと結びつけていくプロセスを具体的に学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 情報システム概論
- 2 情報システムの構築
- 3 情報システム設計概論
- 4 分析設計方法論の種類と特徴
- 5 図式表現と設計技法その1
- 6 図式表現と設計技法その2
- 7 問題領域調査
- 8 システム分析と要求事項の明確化
- 9 仕事の仕組みと情報のモデル化
- 10 モデルの種類と役割
- 11 物理モデルと論理モデル
- 12 現行モデルと要求モデル
- 13 モデルの変換その1
- 14 モデルの変換その2
- 15 まとめとテスト

#### <成績評価方法>

成績は期末試験結果（100％）で評価する。試験は各講義に沿った問題を数題出題し全問の解答を求める。

#### <教科書・参考文献>

- ・適時、プリントを配布する。ただし、プリントには図表のみが記載されているので、講義に出席して各自内容を充実すること。参考文献は初回の講義の中で紹介する

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・設計プロセス全体を継続して講義するので、散発的な出席では理解できなくなる。

#### <学習到達目標>

- ・情報システムの設計プロセスと、各段階におけるモデルの種類およびその役割を学習して理解できるようになる。（期末試験40％）
  - ・簡単な事例について情報システムの具体的な設計を行い、図形表現モデルの作成方法を習得する。（期末試験60％）
- （関連する学習・教育目標:E,G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	経営情報システム	2	前	岸野清孝 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	経営情報システム			

選択

#### <授業目的>

経済の国際化や消費者ニーズの多様化、生産技術の革新など複雑化・高度化した社会では、個人の経験や感覚だけで企業活動をコントロールすることは不可能となってきた。本科目では、急ピッチで変化する経営環境に対応するための経営情報システムについて学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

1. 経営情報システムの全体概要説明
2. 産業動向と経営情報システム：産業動向とIT化・グローバル化の進展
3. 生産における情報システム：生産管理（ERP）、製造管理
4. 販売・マーケティングにおける情報システム：流通業と販売管理、顧客管理
5. 受発注・商取引における情報システム：EC/EDIの発展、eマーケットプレイス
6. 物流における情報システム：物流の7機能、物流情報システム
7. 会計における情報システム(1):会計情報システムの必要性、会計処理の流れ
8. 会計における情報システム(2):各部門の手続きと会計システム
9. サプライチェーンマネジメント（SCM）の発展
10. 事例研究:オフィス用品ネット通販アスクルの経営戦略
11. 電子タグの経営情報システム応用:無線ICタグの動向、活用事例
12. 安全・安心とトレーサビリティシステム:背景と必要性、先行事例
13. 経営情報システムとビジネスモデル特許:特許戦略、情報システムと特許
14. 事例研究:企業における情報システムの最新状況
15. まとめ、テスト

#### <成績評価方法>

期末テスト:100%

#### <教科書・参考文献>

資料を配布する（本校のHPからダウンロードし、各自がプリントアウトする）。

#### <学習到達目標>

- ・企業活動（生産、販売、受発注、物流、会計など）の仕組みを理解し、基本的な知識を習得する。  
（期末テスト:50%）
  - ・企業内部の諸活動の内容と役割およびその中での情報活用の方法を理解し説明できるようになる。  
（期末テスト:20%）
  - ・経営情報システムの動向（EC・EDI、電子タグ、トレーサビリティ、ビジネスモデル特許など）を学び、それらが問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる。  
（期末テスト:30%）
- （関連する学習・教育目標:E,G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	認知科学	2	前	二瀬由理 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	認知科学			

選択

#### <授業目的>

近年、コンピュータの進化は著しい。私達人間は、気付いていないけれども、どんなに高性能なコンピュータでさえも持ち得ない柔軟な情報処理機構と学習能力を有している。そこで、この授業では、認知心理学での研究を紹介することで、人間の様々な認知的特性をより詳細に概説していく。

#### <各回毎の授業内容>

1. 認知心理学とは
2. 認知心理学の手法
3. 視覚認知
4. 聴覚認知
5. 感性認知
6. 心的表象
7. 注意
8. 記憶(1)
9. 知識と思考
10. 言語認知
11. 社会的認知
12. 認知的発達
13. ヒューマンエラーとヒューマンインタフェース
14. ユーザ中心のインタフェース
15. まとめ

#### <成績評価方法>

成績評価は随時講義中提示するレポート（20％）および期末テスト（80％）にもとづいて行う。

#### <教科書・参考文献>

必要な資料は講義中に配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

単に講義を聞くだけでなく、常に自分自身で考えることを忘れないようにして欲しい。特に、講義中に行うレポートでは、常に、自分の考えた事、感じた事をできるだけ伝えられるよう工夫をして欲しい。

基礎科目「心理と行動」を受講済みであることが望ましい

#### <学習到達目標>

・人間の情報処理特性を十分理解した上で、ユーザ中心のインタフェースの必要性を理解すること。  
（関連する学習・教育目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	生産情報システム	2	前	佐々木桐子 (情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	生産情報システム			

選択

<授業目的>

生産情報の処理プロセスを理解し、生産の運用に関わる諸手法を習得する。さらに、シミュレーション手法を活用し、仮想の生産システムを構築し、円滑な生産に向けた提案を行う。

<各回毎の授業内容>

1. 生産情報システムの概要①	生産、情報、システム
2. 生産情報システムの概要②	生産システム、生産情報システム
3. 方略的生産計画①	需要予測
4. 方略的生産計画②	長期生産計画
5. 方略的生産計画③	利益計画、販売計画
6. 全般的生産計画①	長期生産計画
7. 全般的生産計画②	短期生産計画①（線形計画法:基礎）
8. 全般的生産計画③	短期生産計画②（線形計画法:応用）
9. 確認テスト	
10. 生産スケジューリング	
11. シミュレーション・Arena概要	SIMAN/Arenaの変遷、シミュレーション用語の説明
12. シミュレーション演習①	生産システムのシミュレーションモデルの構築（基礎）
13. シミュレーション演習②	生産システムのシミュレーションモデルの構築（応用）
14. シミュレーション演習③	生産システムのシミュレーションモデルの構築（発展）
15. レポート提出	

<成績評価方法>

- ・毎回の小テスト:20%（学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②= 50:50)
- ・確認テスト:20%（学習到達目標②に相当)
- ・数回のレポート:60%（学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②= 50:50)

<教科書・参考文献>

- ・教科書:「生産情報システム 講義ノート」を使用する。
- ・参考文献
  - ・人見勝人著 『新・生産管理工学』 コロナ社、1997。
  - ・高桑宗右エ門監訳 『シミュレーション』 コロナ社、2005。

<受講に当たっての留意事項>

- ・各自、電卓を持参すること。
- ・「生産企画と管理」を履修していることが望ましい。

<学習到達目標>

- ① 企業における生産の運用全般を理解し、現実の問題へと応用することができる。
- ② 運用に関わる諸問題を発見し、解決する能力を身につけることができる。

(関連する学習・教育目標:E、I)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	企業と国際化	2	前	咲川 孝
16年度以前	専 門	3 年	企業と国際化			

選択

#### <授業目的>

企業の国際化とは、企業が国境を越えて海外でマネジメント（経営）を行うことである。マネジメントは、戦略と組織を中心として実施される活動である。例えば、日本企業であれば日本国内で戦略を構築し、組織を利用して戦略を実施していく。しかし、日本企業が国境を越えて海外でマネジメントを実施すれば、その基本は同じであっても、本国ではみられなかったような複雑な問題に直面し、より困難なマネジメント活動を展開しなければならない可能性が高い。つまり、日本と海外という空間的な距離が離れている、日本とは異なる競争相手に直面する、文化的な問題に直面するなどの理由から、本国とは異なる複雑で困難な問題に直面し、対処しなければならないからである。本講義では、企業の国際化をテーマとして、それに関連するマネジメントの問題を紹介しします。私たちの身近な存在である日本企業の国際化について講義をしますが、特に、北米の日系企業に焦点を当てます。また、講義を通して、学生諸君が今後就職すると思われる日本企業や、そこでの経営、つまり日本的経営とはどのようなものか、さらに米国経営と日本的経営との比較、最新の日本企業・米国企業の諸問題や動向等をも紹介していきます。

#### <各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
2. マネジメントとは何か
3. 企業の国際化とは何か:その段階を中心として
4. 国際ポートフォリオ戦略
5. 日本と世界の多国籍企業の紹介と、国際化に伴う諸問題
6. 北米日系企業の経営戦略 1
7. 北米日系企業の経営戦略 2
8. 北米日系企業の組織管理 1
9. 北米日系企業の組織管理 2
10. 北米日系企業の組織文化 1
11. 北米日系企業の組織文化 2
12. 北米日系企業の人的資源管理 1
13. 北米日系企業の人的資源管理 2
14. 総括
15. 試験

#### <成績評価方法>

最終成績は、(1)講義期間中のレポート、(2)、試験、によって評価する予定です。

#### <教科書・参考文献>

教科書:岡本康雄編『北米日系企業の経営』同文館。

参考文献:伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社。

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回の授業への参加はいうまでもなく、講義の予習と復習も必須である。

#### <学習到達目標>

企業の国際化とそれに関連するマネジメントの諸問題を学習すること。

(関連する学習・教育目標:I)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	商品企画	2	前	吉田 博 (情報システム)
16年度以前	専 門	4 年	商品企画			

選択

#### <授業目的>

世の中に、商品（モノ、サービス、ソフト）が溢れ、新しい商品や新規の事業が次々と登場している。企業・組織は新しい商品・事業をどのように企画、商品化し、多くの顧客・事業者支持されるよう取り組んでいるかの実態や仕組みについて、事例と理論の両面から学習する。

学習を通じて、商品企画において大切な独創性や独自性を生み出す発想力・創造力、商品化や販売に向けての情報収集・分析力、新商品・事業を市場に導入していくマーケティング戦略に必要な論理的思考力を身につけ、実践的な企画力の修得に役立てる。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 商品（機能、価値、ベネフィット）と企画（発想、アイデア、商品化）のとりえ方
- 2 商品企画に当たっての顧客・市場・競争相手・環境の情報収集と分析
- 3 顧客のニーズ・不満の把握と分析
- 4 商品企画の発想・ヒント・アイデアの創出方法、企画のプロセス
- 5 商品企画のシーズ（種）となる技術・開発・特許、知的財産
- 6 商品コンセプト、ネーミング、ブランド
- 7 市場・顧客のポジショニングと差別化・多様化戦略
- 8 製造業（消費者向け消費財）の商品企画ケース
- 9 製造業（事業所向け生産財）の商品企画ケース
- 10 流通業（品揃え、独自商品）の商品企画ケース
- 11 サービス業（情報・金融系）の商品・事業企画ケース
- 12 サービス業（飲食・レジャー系）の商品・事業企画ケース
- 13 サービス業（農業・環境系）の商品・事業企画ケース
- 14 ベンチャーの商品・事業企画ケース
- 15 まとめと試験

#### <成績評価方法>

成績は①毎回出席時レポート（基礎知識・思考力）を50%、②試験（基礎知識・思考力）を20%。③課題レポート（情報収集・企画・発想力）を30%。

#### <教科書・参考文献>

毎回資料を配布する。ビデオ、インターネット、図書を使って具体的な事例を紹介する。  
事例やテーマに応じて、参考となる文献・雑誌、テレビ等の情報源を紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

取上げる事例について、インターネット、新聞・雑誌等で自主的に情報を収集し、理解するように。

#### <学習到達目標>

事例や文献学習を通じて、人々のニーズを充足し、暮らしに役立つ商品・事業を企画する上で必要な基礎知識・力、及び情報収集・分析力、企画・発想力、論理的思考力を身につける（毎回出席時レポート、試験）。商品企画の事例を通じて、企業・組織の実態や仕組みを理解し、将来の進路を判断する力をつける（課題レポート）。

（関連する学習・教育目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	経営と法律	2	前	吉田正之
16年度以前	専 門	4 年	経営と法律			

選択

#### <授業目的>

企業の情報システムに大きくかかわる内部統制システムは近年注目されているが、平成20年4月から各企業において構築・運用されています。

この授業では、会社法および金融商品取引法における内部統制システム導入の経緯から説き起こし、その目的・内容を明らかにし、さらに会社法上課されているものと金融商品取引法上課されているものとを比較検討します。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 法学の基礎
- 第2回 企業・会社とは何か
- 第3回 会社法の概要1
- 第4回 会社法の概要2
- 第5回 会社法の概要3
- 第6回 金融商品取引法の概要1
- 第7回 金融商品取引法の概要2
- 第8回 内部統制システム導入の経緯1
- 第9回 内部統制システム導入の経緯2
- 第10回 会社法上の内部統制システム1
- 第11回 会社法上の内部統制システム2
- 第12回 金融商品取引法上の内部統制システム1
- 第13回 金融商品取引法上の内部統制システム2
- 第14回 両法における制度の比較
- 第15回 試験

#### <成績評価方法>

質問票を利用した「授業への参加」と、全授業終了後に提出する「レポート」で評価します。両者の比率は1:1を目安にします。

#### <教科書・参考文献>

有斐閣ポケット六法平成21年度版

#### <受講に当たっての留意事項>

開講時にレジメを配布する予定です。欠席した者は自己責任で入手してください。また、受講に際しては六法を持参してください。

毎回講義の終了時に、「授業への参加」のため、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問等）を提出してもらいます。これを成績評価の対象に加えますが、「なにもありません」等のコメントは、コメントとして取り扱いません。何でも結構ですから、何か書き込んで提出してください。

#### <学習到達目標>

内部統制システムの目的・内容について知識を習得すること（50%）および課題に対してレポートを作成すること（50%）を目標とします。

（関連する学習・教育目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	知識情報処理	2	前	中田豊久 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	知識情報処理			

選択

#### <授業目的>

近年では、インターネットの繁栄や様々なコンピュータシステムの登場により、コンピュータにより処理できるデータが膨大に生成されるようになってきた。これらのデータには、価値ある情報が含まれていることがよくあるが、データ量が多すぎるため、人間の目による作業ではその情報を発見することが困難である。そこで、テキストマイニング・データマイニングという技術が近年注目され続けている。本講義では、これらの技術について代表的な手法を学び、さらに自ら収集したデータからマイニングを行う演習を実施する。演習では、データマイニングツールである Weka を使用する。

#### <各回毎の授業内容>

1. テキストマイニング・データマイニング入門（知識発見のプロセス、機械学習）
2. Web からのテキスト情報の取得、形態素解析
3. 頻度分析、係り受け解析
4. 演習（テキストマイニング）
5. 分類学習の評価方法、最近傍法
6. ナイーブベイズ
7. 演習（最近傍法、ナイーブベイズ）
8. 決定木（ID3）
9. ニューラルネットワーク
10. 演習（ID3、ニューラルネットワーク）
11. クラスタリング（K-means 法）
12. 相関ルールマイニング（Apriori）
13. 演習（K-means 法、Apriori）
14. 自ら収集したデータによるマイニングの実践
15. 課題の発表会

#### <成績評価方法>

第14回の課題では、自らマイニングしたいデータを収集し、データマイニングを実践する。その結果をレポートとしてまとめて、提出する。また、最終講義でその内容を発表する。課題のレポート70%、課題の発表30%の比率で評価する。

#### <教科書・参考文献>

講義資料をホームページによって配布する。

参考文献:「数式を使わないデータマイニング入門」,岡嶋裕史,光文社新書,ISBN978-4-334-03355-2

#### <受講に当たっての留意事項>

第14回の講義で行われる課題では、自らデータを収集してデータマイニングを実践する。予めどのようなデータを用いるかを検討しておくことが望まれる。

#### <学習到達目標>

- ・データから知識を発見する手法について理解する（レポート30%）。
  - ・演習を通して自らデータを収集し、データマイニング技術を利用する方法を習得する（演習の発表30%、レポート40%）。
- （関連する学習・教育目標:J）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	マルチメディア情報処理	2	前	桑原 悟 （情報システム）
16年度以前	専 門	4 年	マルチメディア情報処理			

選択

#### <授業目的>

IT化社会の一翼を担うマルチメディア情報処理は、先人の知恵と発想の集大成であり、さらなる発展が期待されている。授業では、マルチメディア関連の旧来のアナログ技術から最新のデジタル技術及び関連事項について学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- 1) 授業のオリエンテーション及びマルチメディア概観
- 2) 人間の聴覚
- 3) 音声に関する技術の発展
- 4) 音声のアナログ表現とデジタル表現
- 5) 不要な音声情報の除去と音声データの圧縮
- 6) 音声合成と音声認識
- 7) 人間の視覚
- 8) 画像に関する技術の発展
- 9) 画像のアナログ表現とデジタル表現
- 10) 画像データ量の削減と圧縮
- 11) データ圧縮方式（詳細）
- 12) マルチメディアと大容量記憶
- 13) コンピュータグラフィックス
- 14) マルチメディア関連技術とITC産業界（外部講師を招聘する場合がある）
- 15) まとめと定期試験

注）受講学生の理解度により講義の順番や分量を調整することがある

#### <成績評価方法>

定期試験により評価を行うが、提出任意のレポート1回を課し、これも評価の参考にする（提出者には内容により試験点数（100点満点）相当で最大で10点を加点）。

#### <教科書・参考文献>

「新技術の登場が盛んな分野であるので、授業開始時期に合わせて最適なものを選定し指定する」

#### <受講に当たっての留意事項>

数学1, 数学2, テレコミュニケーションの単位を取得していることが望ましい。  
基礎自由科目「数学リテラシー」の履修を指導された者は、これを履修していることが望ましい。  
授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる（出席を認めない）。  
質問は質問者自身だけでなく、他の受講者の理解を促す効果があるので、大いに歓迎する。  
また、この授業は、本学のe-learningファシリティを用いて行う予定である。

#### <学習到達目標>

人間の聴覚・視覚の特性を考慮にいたし、音声・画像コンテンツの入力、記録、伝達、出力における「高品質化」、「高速化」、「圧縮」、「大容量記憶」、「低価格化」の発想と原理を理解し、これらの間及び、その他の制約条件とのトレード・オフの考え方について理解できるようなることを目標とする。

（関連する学習・教育目標：J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	多変量解析	2	前	小野陽子 (情報システム)
16年度以前	専 門	3 年	多変量解析			

選択

#### <授業目的>

情報化という現象が進展して、いわゆる WEB2.0 と呼ばれる新しい情報システムが整備され、ネットワークを経由して膨大なデータベースにアクセスすることによって、知りたい対象物の個別具体の多種多様なデータを容易に手に入れることができるようになって来た。そのような社会状況にあって、いわゆる「木を見て森を見ず」ということを改めて考えなければならないが、それは集団規定という統計の本質を理解することを意味する。また一方でデータマイニングと呼ばれる、膨大なデータの中から有益な情報を掘り出すという方法論が注目されて来た。そこで用いられるのは統計の方法であり、多変量解析という一連の統計理論である。

この科目では多変量解析について、その基本的な考え方から主要な手法について理論的に学習し、その上で実践面についても具体例に沿って理解し、習得することを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 多変量解析の概要
- 第2回 順位相関
- 第3回 相関分析
- 第4回 回帰分析の基礎
- 第5回 回帰分析の諸問題
- 第6回 重回帰分析の基礎
- 第7回 重回帰分析の諸問題
- 第8回 重回帰分析の実践
- 第9回 判別分析の基礎
- 第10回 判別分析の実践
- 第11回 主成分分析の基礎
- 第12回 主成分分析の実践
- 第13回 数量化1類
- 第14回 数量化2類・数量化3類
- 第15回 まとめと試験

#### <成績評価方法>

学期末試験で評価する（100%）。

#### <教科書・参考文献>

講義内で資料を配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

線形数学・システム数学・統計関連科目を履修していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

この科目は統計解析理論を習得することを目的とするものである。

特に、

- ・理論の理解と共にいくつかの手法を自ら実践し、具体的に結果を導出できること（70%）
  - ・実社会における多変量解析の適用について論ずることができること（30%）
- を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	オペレーションズ・リサーチ2	2	前	小野陽子 （情報システム）
16年度以前	専 門	4 年	オペレーションズ・リサーチ2			

選択

#### <授業目的>

本講義では、戦略的に物事を捉え判断する際に必要な意思決定、ならびにゲーム理論の基礎を学ぶ。特に、確率の復習からベイズ理論から意思決定を捉える。さらに、オペレーションズ・リサーチの始まりともいえる戦略を考慮する上で欠かせないゲーム理論を、理論から実際のゲームにあてはめた実験を通じて習得する。

#### <各回毎の授業内容>

第1回	意思決定の基本的考え方	意思決定、戦略、戦術、ORの概念
第2回	選好と効用	決定基準、利得表、選好、効用
第3回	状況的意思決定	フレーミング、フォーカルポイント
第4回	確率の基礎	確率の公理と定義
第5回	ベイズの定理と意思決定	ベイズ法、条件付確率、事前確率、事後確率
第6回	3囚人問題	3囚人問題、ベイズ法
第7回	リスクと不確実性	リスク、リスク回避、ポートフォリオ
第8回	階層的意思決定	AHP、一対比較
第9回	意思決定に関する演習	第1回～第7回に関する演習
第10回	ゲーム理論の基礎	ゲームの基本概念、正規形、展開形
第11回	2人ゼロ和ゲームとミニマックス原理	2人ゼロ和ゲーム、ミニマックス原理
第12回	均衡について	シュタッケベルク均衡、不動点定理
第13回	非協力ゲーム（囚人のジレンマ）	囚人のジレンマ
第14回	ゲーム理論の発展	展開形の最適戦略
第15回	まとめと試験	

#### <成績評価方法>

定期試験の成績により評価を行う（100%）

#### <教科書・参考文献>

参考書：松原望「意思決定の基礎」朝倉書店

#### <受講に当たっての留意事項>

基礎自由科目「数学リテラシー」の内容を修得していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・ベイズの定理を用いた意思決定問題を解くことができること（定期試験内40%）
- ・ゲーム理論に基づく問題を解き、意思決定の過程を理論で論述できること（定期試験内30%）
- ・階層型意思決定問題もしくは利得行列を用いた意思決定問題を具体的に解けることの会を具体的に導出できること（定期試験内30%）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	学外実習	2	前	情報システム教員
16年度以前	専 門	3 年	学外実習			

選択

#### <授業目的>

学外実習は、大学と企業等とが事前に協議し、大学から派遣された学生が、ある一定期間、企業等において、就業体験を行うものである。この科目では、学生が大学で学んでいることがらが、実社会でどのように役立つのかを、企業等に入って体験し、そこで得た知見や経験をもとに、専攻分野での知識向上、学習意欲の向上を図ることを目的としている。併せて、学生が就職を含め、将来の進路を考える上で貴重な経験と情報を得ることを期待している。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 実習時期・期間：原則として3年次の夏季休暇期間、原則2週間（実質10日間成績評価方法参照）
- 2 実習先：3年次ガイダンスで紹介する企業・団体等から選定する。  
学生自身が探したものでも良いが、その場合は担当教員に履修前に申し出ること。
- 3 実習内容と形態：具体的な内容と形態については、担当教員と協議に基づいて実習先が作成するプログラムに従う。（会社毎の実習内容は、実習経験者の報告書を参照）
- 4 実習地域：新潟地域が多いが、IT系では東京圏もある。
- 5 実習期間・時間：実習先の勤務形態に従う。
- 6 実習報告書：実習先毎の指導担当教員に従うこと。
- 7 スケジュール
  - 4月 ガイダンスおよび「学外実習」履修届け
  - 5月 学外実習受入れ企業の提示、実習希望先の提出（第一・第二・第三希望）
  - 6月 実習先毎の派遣学生の選考・確定、日程の確定、学生紹介票の提出
  - 7月 実習前ガイダンス、および実習先担当教員による事前指導
  - 8～9月 実習参加
  - 9月 実習報告書提出
  - 10月 成績評価

#### <成績評価方法>

- ・実習報告書と実習先指導者に依頼する実績評価とを総合して、実習先の指導担当教員が評価する。
- ・実習期間が受け入れ先の都合により、10日間に満たない場合は、担当教員による別途の事前・事後指導や別途レポートの作成・提出を行う。

#### <教科書・参考文献>

- ・過去の実習報告書（学務課教務係にある）。
- ・各企業・団体のホームページを参照すること。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・学外実習による就業体験は、アルバイトではないので、実習先が提供する研修・就業に参加するという目的意識をしっかりと持って臨むこと。
- ・実習先における態度、成果は本人はもとより、本学に対する評価につながる場合がある。そのため、学業成績、日常の規律遵守に著しく問題のある学生に対しては実習を許可されない。参加する学生は、本学から派遣されていることを自覚して、就業に臨むこと。

#### <学習到達目標>

- ・実習先企業等の業務を理解し、その一部を体験すること。
- ・今後の学習やスキルアップへの動機付け・方向付けができる。
- ・職業意識を形成・明確化し、職業に対する適性やキャリア開発について考えることができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
20年度以降	専 門	3 年	ビジネス英語入門 1	1	前	マーク・スーマ
19年度以前	専 門	3 年	ビジネス英語入門 1			

20年度以降選択 19年度以前自由（卒業要件には含まれない科目）

#### <授業目的>

This is a multi-skilled, function-based course designed for semi-advanced students of English. The purpose of this course is to help students to acquire Business Communication Language Skills. Students will participate in individual, pair and group exercises and practice the main vocabulary, pronunciation and function of each unit.

（世界が益々グローバル化する昨今、ビジネス英語習得の必要性は増している。本授業では、英語の中・上級者を対象とし、授業と課題を通して、英語によるビジネスコミュニケーション能力の養成を目的とする。）

#### <各回毎の授業内容>

1. Week1.Introduction
2. Week2.English Resume 1（英語の履歴書を書く1）
3. Week3.English Resume 2（英語の履歴書を書く2）
4. Week4.Applying for a Job 1（仕事に応募する1）
5. Week5.Applying for a Job 1（仕事に応募する2）
6. Week6.Having an Interview 1（面接を受ける1）
7. Week7.Having an Interview 2（面接を受ける2）
8. Week8.Review
9. Week9.Starting Work（仕事を始める）
10. Week10.Arranging a Visit（訪問を取り決める）
11. Week11.At the Airport 1（空港で1）
12. Week12.At the Airport 2（空港で2）
13. Week13.Visiting Manufacturers（メーカーを訪問する）
14. Week14.Receiving an Order（注文を受ける）
15. Week15.Review

#### <成績評価方法>

No Tests

Various Assignments60%

Participation40%

#### <教科書・参考文献>

“English on the Job” by James House・三好道子 共著

<初めてのビジネス英語―大学からビジネス・ワールドへ> 1,800円

#### <受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

#### <学習到達目標>

ビジネス英語の基本を身につけ、国内外での（外国人との）ビジネスの場面で、英語を使用して、ある程度対応できるようになること。



# 後 期 科 目



# 基礎科目



# 1 年基礎科目（後期）



経済学（ミクロ）  
社会学  
歴史学  
地球環境論  
科学と技術  
コミュニケーション技術  
線形数学  
CEP 2  
英語 2  
体力診断と運動処方 2



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	経済学（ミクロ）	2	後	濱田弘潤

選択

#### <授業目的>

この授業では、ミクロとマクロに二分される近代経済学の中で、ミクロ経済学について最も基礎的な考え方を講義する。ミクロ経済学の入門を学ぶことを通じて、現実の経済問題を正しく捉え、考えるための最も基礎的な視点を養うことを目的とする。

ミクロ経済学を学ぶに当たって、最も基本的な経済用語や考え方、経済学で用いられる簡単な数学を説明し、個々の経済主体の行動原理について説明を行う。特に消費者理論では、消費者の予算制約下の効用最大化行動について、生産者理論では、生産者の生産技術の制約下での利潤最大化行動について学ぶ。また需要と供給の一致する市場均衡と市場均衡の資源配分の効率性について説明する。講義は、ミクロ経済学をこれまで学んだことのない初学者向けに行われる。

#### <各回毎の授業内容>

1. ミクロ経済学について、ミクロ経済学の位置付け
2. ミクロ経済学と数学
3. 需要と供給
4. 価格弾力性
5. 完全競争市場と市場均衡
6. 効用と無差別曲線
7. 限界代替率
8. 予算制約と効用最大化
9. 所得効果と代替効果
10. 生産関数
11. 生産量と費用
12. いろいろな費用の性質
13. 利潤最大化
14. 余剰分析の方法
15. まとめ・予備, 期末試験

但し講義の構成・内容は、進み具合と受講者の理解度に応じて変更することがある。  
指定した教科書の章立てに従った講義を予定している。

#### <成績評価方法>

成績評価は、期末試験により行う。

#### <教科書・参考文献>

教科書: 神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 『ミクロ経済学をつかむ』(2006年) 有斐閣  
参考文献: 西村和雄 『現代経済学入門 ミクロ経済学 第2版』(2001年) 岩波書店  
西村和雄 『ミクロ経済学入門 第2版』(1995年) 岩波書店  
武隈慎一 『ミクロ経済学 増補版』(1999年) 新世社

#### <受講に当たっての留意事項>

受講者に必要な要件は、講義を通じて真剣に学ぶ積極的な学習意欲である。  
また講義内容の復習を行うこと、それ以外は特に受講に必要な要件はない。  
中学校程度の数学は必須だが、高校レベルの数学は復習しながら授業を行う予定である。  
講義を中心に進めるので、テキストの予習・復習を行うこと。

#### <学習到達目標>

1. 講義内容とテキストの内容を完全に理解する。ミクロ経済学の考え方や図について、経済学のものとの捉え方や経済問題、経済的な意味についてきちんと理解する。具体的には、消費者理論、生産者理論、市場均衡で用いられるミクロ経済学の基礎概念と考え方を理解する。
2. ミクロ経済学の問題を解くために最低限必要な基礎知識を修得し、ミクロ経済学の実際の演習問題の解き方を学ぶことの助けとする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	社会学	2	後	阿部春江

選択

#### <授業目的>

本講義は、最初に社会学的視点並びに社会学と社会福祉との関係について概説する。次に、家族の福祉機能等について説明しつつ、現代社会における家族の諸問題について社会学的アプローチを行い整理する。講義を通して、現代の家族をとらえる基礎的な見方を把握する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 はじめに
- 2 社会学の課題、社会学の歴史
- 3 社会学的方法・社会調査
- 4 社会学的方法・社会調査
- 5 社会学と社会福祉
- 6 社会学と社会福祉
- 7 社会福祉をめぐる状況
- 8 社会福祉をめぐる状況
- 9 社会福祉と家族福祉
- 10 家族・地域の変化、現代家族の特質
- 11 児童虐待の現状と課題
- 12 ドメスティックバイオレンスの現状と課題
- 13 高齢者虐待の現状と課題
- 14 介護を必要とする高齢者の現状と課題
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

定期試験50%、出席率25%、授業態度25%で総合評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書 テキストは使用しない。講義時に資料を配布する。

参考文献 『新版・社会福祉学習双書2008（第10巻）社会学』全国社会福祉協議会、『新・社会福祉士養成ブック 社会学』ミネルヴァ書房、宇都宮京子編『よく分かる社会学』ミネルヴァ書房、『社会学—社会理論と社会システム』へるす出版、『社会理論と社会システム 社会学』中央法規、『社会調査の基礎』中央法規、盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、畠中宗一編『よくわかる家族福祉』ミネルヴァ書房、森岡清美『発展する家族社会学』有斐閣、春日キスヨ『家族の条件 豊かさのなかの孤独』岩波現代文庫、芹沢俊介『家族という暴力』春秋社

#### <受講に当たっての留意事項>

私語は謹んでいただきたい。

#### <学習到達目標>

講義を通して現代家族に関する諸問題を社会学的視点から見つめなおし、家族をとりまく課題について考察する力を身につけることを目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	歴史学	2	後	未 定
16年度以前	基 礎	1 年	歴史学			
選択						
現在未定のため決定次第本学ホームページにおいて公開します。						

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	地球環境論	2	後	澤口晋一（情報文化）
16年度以前	基 礎	1 年	地球環境			

選択

#### <授業目的>

「地球環境問題」とは、人間の社会経済活動に伴って人間圏から放出された物質が地球システムの物質循環・エネルギー循環に影響を与える（与えた）結果として生じるような地球規模の諸現象で、それが結果的に人間生存に影響を与えるようなものをいう。具体的には地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化、野生生物種の減少、森林（熱帯林）破壊、水質汚染、土壌汚染などといった問題群であるが、この講義ではこの中から地球温暖化問題に特化して概説する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 「地球環境」と「地球環境問題」
2. 地球環境問題の発生とその構造。地球環境問題への国際的取り組みとその歴史
3. 地球温暖化の検証1（温室効果ガスの大気中濃度、気温の推移）
4. 地球温暖化の検証2（海面上昇、山岳氷河、両極域の海水面積、永久凍土）
5. 温室効果のメカニズム（温室効果を正しく認識する）
6. 地球温暖化が人為とされる根拠（気候モデルとコンピュータシミュレーション）
7. ビデオ視聴（NHKスペシャル 気候大異変1、2）2006年放送
8. IPCCによる将来予測（第四次評価報告書 第1部会報告書に基づいて）
9. IPCCによる影響予測（第四次評価報告書 第2部会報告書に基づいて）
10. 地球温暖化に対する国際社会の取り組み（気候変動枠組み条約、京都議定書、締約国会議）
11. ビデオ視聴（NHKスペシャル 大気をめぐる攻防）2003年放送
12. 地球温暖化に対する日本の取り組み（－6％は可能か）
13. 反地球温暖化説（地球温暖化反人為説）について
14. 氷床コアから明らかとなってきた第四紀の気候変動からみた地球温暖化の位置づけ  
地球温暖化とエネルギー問題
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

試験（定期試験80％と小テスト20％）

#### <教科書・参考文献>

IPCC (L. Bernstein ほか)『気候変動2007:統合報告書 政策決定者向け要約』文科省・気象庁・環境省・経産省、2009。 [http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr\\_spm.pdf](http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf)

西岡秀三『温暖化の観測・予測及び影響評価統合レポート「日本の気候変動とその影響」』

文部科学省・気象庁・環境省、2009 <http://www.env.go.jp/earth/ondanka/rep091009/full.pdf>

\*上記2点の資料を明記したアドレスからダウンロードし、必ずカラーでプリントアウトしておくこと。

#### <受講に当たっての留意事項>

私語・飲食（持ち込み）厳禁。携帯電話の電源は必ず切る（毎時間携帯の電源を切ってもらうことから始めます）。

#### <学習到達目標>

地球温暖化問題とは何かを多角的に認識するとともに、国際社会の取り組みに対して、市民としての自己の位置づけを明確化すること。なお、授業内容それぞれの項目にかかる比重はおおよそ以下のようになっています。1～2:10％、3～7:40％、8～9:20％、10～14:30％。ただし、学生の反応等によって扱う内容や比重に若干の違いが生じることがあります。

（関連する学習・教育目標:A）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	科学と技術	2	後	近藤 進 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	科学と技術			

選択

#### <授業目的>

ここでは、科学と技術について概説し、情報化社会をささえる通信の歴史および原理を勉強する。通信の科学技術は、19世紀初頭から、さまざまな人々の研究、あるいは競争の上に成り立っている。当時の歴史背景をふまえ、研究者・技術者が、それぞれのどのような着眼点で研究開発をすすめていったか、そしてどのようなものが残ったかを学ぶ。あわせて、これらの技術に重要な原理やシステムについて、基礎的な知識を修得する。さらに、最新の光通信を材料の観点からふくめて勉強する。これらの研究開発をふまえ独創性や特許について勉強する。これらの、比較的理解しやすい科学技術を学ぶ中から、現代社会がこれらの広範囲な科学技術で成り立っていることを理解する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 はじめに 講義の概要
- 2 科学と技術 科学と技術の違い 細菌学と疫学
- 3 通信の歴史（電気以前） 腕木通信他
- 4 通信の歴史（電気と電池） ガルバーニ ボルタ 発電機
- 5 通信の歴史（電信） クック ウエバー モールス
- 6 通信の歴史（電話） ライス ベル エジソン
- 7 通信の歴史（無線） マクスエル ロッジ マルコーニ
- 8 通信の歴史（無線） 大西洋横断通信 電離層 電波の使い方
- 9 通信の歴史（放送） 電球 真空管 アンテナ 撮像管 液晶 プラズマディスプレイ
- 10 計算機の始まり 機械式計算機 ENIAC
- 11 通信材料の開発（結晶とガラス） ダイヤモンド 水晶振動子 CDRW
- 12 通信材料の開発（結晶成長と光ファイバー） 人工結晶 MBE法 MOVPE法 光ファイバー
- 13 通信材料の開発（半導体レーザー） 発光の原理 LED レーザ
- 14 独創性と特許 青色発光ダイオード
- 15 まとめとテスト

#### <成績評価方法>

- ・成績は期末試験の結果で評価する。
- ・試験は講義に沿った問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

- ・毎回プリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・欠席した者は自己責任で資料をそろえること
- ・各回の授業内容は厳密に1限毎の内容を示すものではなく、各講義の主な内容であり、理解度に応じ進度は多少変化する。
- ・毎回講義の終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問、理解度チェック）を提出してもらう。

#### <学習到達目標>

- ・電子規則技術の歴史・原理を学ぶことによって、エレクトロニクス基礎（35%）、科学技術の研究開発についての知識（65%）を習得する。また、これらを学ぶ中から、地理・歴史・物理・化学・地学・医学等の広範囲な知識を習得し、現代社会が多くの科学技術により成り立っていることを理解する。

（関連する学習・教育目標A）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	コミュニケーション技術	2	後	本間正一郎
16年度以前	基 礎	1 年	コミュニケーション技術			

選択

#### <授業目的>

情報化社会といわれる現代社会は、膨大な情報が飛び交うなかでテクノロジーとしての双方向性が重視されている。しかし、その一方で情報をやりとりし、使いこなすべき人間は次第に個の中へ閉じこもる傾向もみえる。本来、人間社会を円滑にするための道具に過ぎない情報技術が、いつの間にか目的化・肥大化し、その陰で太古から人間が持っていた優れたコミュニケーション力にかげりが見えている。社会へ出ると否応なくコミュニケーションの現場に立たされる。そのとき戸惑ったり、逃避したりしないで済むように、コミュニケーション力を身につけておく必要がある。この授業ではコミュニケーション技術というものを実際に即して理解し、身につけることをめざす。

#### <各回毎の授業内容>

- ①なぜコミュニケーション技術か
- ②コミュニケーションとインフォメーション
- ③メディアの特性
- ④変わることば、流言飛語
- ⑤日本語と漢字廃止論
- ⑥新聞とワインと聖書
- ⑦不満のはけ口から生まれた日本の新聞
- ⑧記者クラブとコミュニケーション
- ⑨新聞記事のコミュニケーション技術
- ⑩広告離れする4大マスメディア
- ⑪テレビCMにみるコミュニケーション技術
- ⑫ネットはコミュニケーションをどう変えたか
- ⑬ネット社会のコミュニケーション技術
- ⑭常識と秩序と、いわゆる「空気」
- ⑮まとめとテスト

#### <成績評価方法>

小論文か小テスト（随時）40%、定期試験60%。出席状況も評価に加味する。

#### <教科書・参考文献>

特にないが、授業の中で随時紹介する。講義資料は毎回配布し、学内webにも掲出する。

#### <受講に当たっての留意事項>

本授業は「試験のための丸暗記」を求めない。大学生らしく自律的に思索を広め、深めることを期待し、そのためのヒントを豊富に提示する。授業中の私語や携帯電話は周囲の学習者の迷惑となるので慎むこと。

#### <学習到達目標>

混沌とした現代の情報流通の中で、自分自身を見失わずに社会生活を送るためのコミュニケーション能力を身につける。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	線形数学	2	後	石井忠夫 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	線形数学			

選択

#### <授業目的>

本講義では、線形代数の基礎について一通り解説する。線形代数は数学における他の分野（代数学、幾何学、解析学）の基礎となるばかりでなく、物理学、化学、工学、経済学等の諸科学に対して、その数学的基盤を与えるものである。更に、情報科学の観点からも重要性が認識されている。たくさんの定義が現れるので、一つ一つ順を追って解説する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 線形代数の入門（基本的な代数の概念、講義の位置付け）
2. 行列の定義（相等、和、差、スカラー倍、積）
3. 演算の法則（交換、結合、分配）
4. 正方行列（単位行列、対角行列、対称行列、交代行列）
5. 正則行列と行列のブロック分割（逆行列、転置行列）
6. 連立一次方程式と行基本操作
7. 行列の階数と掃き出し計算法
8. 逆行列の決定と正則条件
9. 行列式の定義（置換、順列、サラスの方法）
10. 行列式の性質（転置、線形、交代、加法）
11. 余因数展開と行列式の計算
12. 逆行列と連立方程式への応用（クラメールの公式）
13. 線形変換
14. 固有値とその応用
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

毎回の小問が10点、レポート2回の合計が30点、および期末試験が60点の合計点で評価する。

#### <教科書・参考文献>

- 寺田文行、木村宣昭共著：線形代数の基礎（サイエンス社、1997年）1,480円  
 寺田文行、木村宣昭共著：演習と応用線形代数（サイエンス社、2000年）1,700円

#### <受講に当たっての留意事項>

- (1)履修に当たっては、上の二番目に挙げた演習書も参考にとすると良い。
- (2)学習の便宜を図るために、数回の小問題を課す。
- (3)教科書に沿って授業を進めるので、早めに教科書を購入しておくのが望ましい。
- (4)基礎自由科目「数学基礎」の内容を修得していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

行列および行列式の基礎概念を理解（60%）し、また、連立1次方程式の求解への応用能力（40%）を習得する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	C E P 2	3	後	G.Hadley, P.Nadasdy, M.Ruddick
16年度以前	基 礎	1 年	C E P 2			

必修

#### <授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっています。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

このクラスは、CEP1に合格した学生のみ受講できます。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取り組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が20%を超えた場合、集中コースをとらなければ合格できません。また、欠席時数が30%を超えると不合格となります。CEPでは、授業活動への参加に関してポイント・システムを採用しています。英語で質問をしたり、英語の授業活動を積極的に行ったり、教員の質問に英語で答えたりした学生は、そのつどコインがもらえます。白いコインは1ポイント、青いコインは2ポイント、赤いコインは3ポイントです。1回の授業につき最高ひとり5ポイントまで集めることができます。コインは授業終了時に教卓の箱に返却します。そのとき、自分の名前とポイントの数を教員に伝えてください。CEPには、スピーキング・リスニングの授業とリーディングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

#### <成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取り組みなどから総合的に判定されます。

#### <教科書・参考文献>

New Interchange (1, 2, 3) Students Book, Students Video Book (Jack Richards, Cambridge University Press.)

#### <受講に当たっての留意事項>

次は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員が説明しているときに、友達と大きな声で話さないこと。居眠りはしないこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2A（話す英語2）P1P2	1	後	イザベラ青木
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（P 1・P 2）			

必修

＜授業目的＞

英語コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の聞く力と話す力をつけながら、英語を国際言葉として活用できるような楽しい授業を目指します。

＜各回毎の授業内容＞

1. Weekend and free-time activities, frequency adverbs

2. Weekend and free-time activities, frequency adverbs/ Food items, containers, numbers

3. Food items, containers, numbers

4. Video and/or other material

5. Sports and recreational activities

6. Sports and recreational activities/ Rooms and things around a house, prepositions

7. Rooms and things around a house, prepositions

8. Video and/or other material

9. Past action verbs

10. Past action verbs/ Significant life events, plans and predictions

11. Significant life events, plans and predictions

12. Video and/or other material

13. What's the word? vocabulary game

14. What's the word? vocabulary game

15. まとめと試験

＜成績評価方法＞

成績評価内訳:平常点（70％）、定期試験（30％）

＜教科書・参考文献＞

Firsthand Access, Marc Helgesen 他（Pearson/Longman）

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

＜受講に当たっての留意事項＞

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

＜学習到達目標＞

今まで習った英語を復習しながら、実際にしゃべる言葉として使える自信をつける事。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2A（話す英語2）Q1Q2	1	後	ステファン ドュルカ
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（Q1・Q2）			

必修

＜授業目的＞

This course is designed to help students improve their English-language communicative skills, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.

＜各回毎の授業内容＞

- 1 Class introduction - Summer Holidays
- 2 Sports. Simple present. Talents and abilities.
- 3 Simple present "Wh-" questions.
- 4 Months. Ordinal numbers. The future.
- 5 Body parts. Have + noun. Imperatives. Health.
- 6 Listening training via representative media.
- 7 Places and things. Prepositions of place.
- 8 Mid-Term Test.
- 9 Common chores. Leisure activities.
- 10 Simple past statements.
- 11 The past of the verb 'to be'. Contractions.
- 12 Years. School subjects. Time lines.
- 13 Going out with friends. Object pronouns.
- 14 Prefixes and Suffixes.
- 15 REVIEW and FINAL TEST.

＜成績評価方法＞

Students will be graded on the basis of their performance on a mid-term (50%) and a final test of knowledge (50%).

＜教科書・参考文献＞

Relevant handouts (correctly known as photocopies, not "prints") will be supplied by the instructor, sourced from texts, print media and original material.

＜受講に当たっての留意事項＞

Students must not sleep in class.  
Students must be attentive.  
Students must turn off cell-phones.

＜学習到達目標＞

- 1) The students will be able to communicate with people from around the world in plain English, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.
- 2) The students will be able to pronounce words correctly and read basic English passages with a certain degree of fluency.
- 3) The students will gain proficiency in writing simple daily schedules, lists of telephone numbers and addresses and the location of objects.
- 4) The students will learn to use possessive adjectives, prepositions of place, articles and adverbs of frequency in a fluid and natural manner.
- 5) The students will learn a modicum of geographical and topographical names in their English forms.

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2A（話す英語2）R1R2	1	後	イザベラ青木
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（R 1・R 2）			

必修

<授業目的>

英語コミュニケーション能力の向上を目指します。 英語の聞く力と話す力をつけながら、英語を国際言葉として活用できるような楽しい授業を目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Occupations

2. Occupations/Entertainment

3. Entertainment

4. Video and/or other materials

5. Future plans and activities

6. Future plans and activities /Clothing, electronics, and personal items

7. Clothing, electronics, and personal items

8. Video and/or other materials

9. Processes

10. Processes/Opinions and music

11. Opinions and music

12. Video and/or other materials

13. Video and/or other materials

14. Slap vocabulary game

15. まとめと試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点（70％）、定期試験（30％）

<教科書・参考文献>

English Firsthand 1, Marc Helgesen 他（Pearson/Longman）

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

今まで習った英語を活かしながら、簡単な会話と意見交換が出来るようになる事。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2B (CALL 英語2) P1P2	1	後	金沢泰子
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（P 1・P 2）			

必修

<授業目的>

① 英語IBにひきつづきCALLシステムを活用して国際標準語である英語運用力のさらなる向上をはかるとともにTOEIC受験にむけての基礎力を養成する。

② PC (Word、Excel) を活用した自律学習の定着をはかる。

<各回毎の授業内容>

① Dictationと講義支援システムによる復習

② TOEIC形式のListening練習、解答、解説

③ 重要事項のまとめ。(Word、Excelを使用)

④ 音読対話練習、録音（WMA ファイル形式で保存、提出）

⑤ 学習ノートをE-mailで提出。

1. 講義概要

2. Lesson 11. In the Library

3. Lesson 12. Going to the National Gallery

4. Lesson 13. Seeing a movie!

5. Review (1)

6. Lesson 14. Cooking

7. Lesson 15. Talking on the phone

8. Lesson 16. Watching TV

9. Review (2)

10. Lesson 17. Having a cold

11. Lesson 18. Renting a car

12. Lesson 19. Listening to the radio news

13. Lesson 20. A farewell party

14. Review (3)

15. まとめと試験

<成績評価方法>

毎授業時のListeningテスト20%、復習確認20%、音読20%、学習記録20%、期末テスト20%

<教科書・参考文献>

M Negishi: Welcome to the Listening World (KINSEIDO)

<受講に当たっての留意事項>

四回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。

<学習到達目標>

①TOEIC形式練習問題と音読対話練習を通じ英語基礎力の定着をはかる。

②PCを使用した自律学習を定着させる。

(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2B (CALL 英語2) Q1Q2	1	後	茅野潤一郎
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（Q 1 ・ Q 2）			

必修

<授業目的>

この授業では、前期1Bで学習したことを継続し、マルチメディアを活用し総合的な英語コミュニケーション能力の伸長を目指します。前期1Bと1セットとして考えてください。

CALLシステムを用いた言語活動をおこないながら、国際標準語としての英語を使った円滑なコミュニケーションをおこなうことを目指します。また、eラーニングコンテンツ等を利用し、自律した学習者へとさらに近づくことを目指します。

<各回毎の授業内容>

基本的に各回の授業はいくつかのモジュールで構成される。

1. Introduction: 講義概要 / e-learning / Describe routines
2. Provide an excuse / Talk about health habits
3. Offer an alternative / Types of clothing and shoes
4. Express likes and dislikes / Adjectives to describe clothing
5. Describe a vacation
6. Report travel problems
7. Quiz 3 / Review activity
8. Suggest alternatives / Types of transportation
9. Book travel arrangements / Transportation problems
10. Bargain for a lower price / Electronic products
11. Accept an offer / Talk about prices
12. Quiz 4 / Project: Our favorite (1), Pair Discussion
13. Project (2), Discussion
14. Project (3), Discussion, Rehearsal
15. Project (4), Presentation / Review & Test

<成績評価方法>

毎授業時に適宜実施される以下の観点について評価する。（いわゆる「学期末試験」は実施しない）

Quiz 40% + 言語活動への取り組み60%

<教科書・参考文献>

- ・ Saslow, J.& Ascher, A. (2008) . *Top Notch TV I*. Pearson Longman.
- ・ その他、音声教材、web コンテンツ、ハンドアウト等を随時配布、紹介する

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 5回を超えて欠席した場合は不合格とする。また、出席確認後の入室は出席とは認めない。
- ・ 毎回の活動等への取り組みが重要である。
- ・ iPodなどのデジタルオーディオプレーヤーを常時携帯することを勧めます。

<学習到達目標>

- ・ スピーキング活動を通して、英語のプロソディに慣れ、日本語に影響されないリズムで話すことができる。
- ・ 比較的平易な英語の概要を聞いて理解することが出来る。

(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2B (CALL 英語2) R1R2	1	後	金沢泰子
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（R 1・R 2）			

必修

＜授業目的＞

①英語IBにひきつづきCALLシステムを活用して国際標準語である英語運用力のさらなる向上をはかるとともにTOEIC受験にむけての基礎力を養成する。

②PC (Word、Excel) を活用した自律学習の定着をはかる。

＜各回毎の授業内容＞

① Dictationと講義支援システムによる復習

② TOEIC形式のListening練習、解答、解説

③ 重要事項のまとめ。(Word、Excelを使用)

④ 音読対話練習、録音（WMA ファイル形式で保存、提出）

⑤ 学習ノートをE-mailで提出。

1. 講義概要

2. Unit 11. <It' s conveniently located>

3. Unit 12. <How about a leather sofa?>

4. Unit 13. <Got it?>

5. Unit 14 <The paper is due next week>

6. Unit 15. <One way or round trip?>

7. Review 1

8. Unit 16. <Enjoy your stay>

9. Unit 17 <Please fasten your seatbelt>

10. Unit 18. <It' ll take 20 minutes>

11. Unit 19. <This is our new product>

12. Unit 20. <Here is the latest news>

13. Review 2.

14. 学習記録・単語集作成

15. まとめと試験

＜成績評価方法＞

毎授業時のListeningテスト20%、復習確認20%、音読20%、学習記録20%、期末テスト20%

＜教科書・参考文献＞

K.Shiomi et al: Tune up for the TOEIC Test Listening (SEIBIDO)

＜受講に当たっての留意事項＞

四回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。

＜学習到達目標＞

①TOEIC形式練習問題と音読対話練習を通じ英語基礎力の定着をはかる。

②PCを使用した自律学習を定着させる。

(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語 2C (総合英語 2) P1P2	1	後	阿部 聡
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（P 1・P 2）			

必修

<授業目的>

国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につけることを目指し、文法知識を活用して自力で英文を読み通す力を養うこと、そして論理的に文章を読み解く習慣をつけることを目的とする。

<各回毎の授業内容>

第1週:7. Reading 1 How to join in a discussion

第2週:7. Reading 2 How to prevent suicides

第3週:8. Reading 1 Christmas

第4週:8. Reading 1 Christmas /Reading 2 History of Soccer

第5週:9. Reading 1 The Second World War and Japan

第6週:9. Reading 1 The Second World War and Japan / Reading 2 The EU

第7週:10. Reading 1 Cricket

第8週:10. Reading 2 How to dispose of CO2: a new method / 11. Reading 1 Nintendo DS

第9週:11. Reading 1 Nintendo DS / Reading 2 Handroll Piano

第10週:12. Reading 1 NEET

第11週:12. Reading 1 NEET

第12週:12. Reading 2 "Stalker"

第13週:13. Reading 1 What's your main aim in life?

第14週:13. Reading 2 Suicides according to month

第15週:まとめと試験

<成績評価方法>

授業態度（10%）、毎回のワークシート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（60%）

<教科書・参考文献>

石谷由美子他:Skills for Better Reading: 構造で読む英文エッセイ（改訂版）（南雲堂）

<受講に当たっての留意事項>

語学は実技科目でもある。できるだけ毎日英語に触れるようにすることと、積極的に授業に参加することを期待する。

<学習到達目標>

論理的な英文エッセイを、文法知識を活用してできる限り正確に読めるようになることを本授業の到達目標とする。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語 2C (総合英語 2) Q1Q2	1	後	笹川壽昭 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ (Q 1・Q 2)			

必修

#### <授業目的>

この授業では、ニューヨークで出版されている「英語を母語としない人を対象」とした新聞の記事を読みながら、メディア英語に慣れ、親しむことを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

- Unit 11 Please Don't Lick the Tuna
- Unit 11 Please Don't Lick the Tuna
- Unit 12 Study Shows Worldwide Decline in Press Freedom
- Unit 12 Study Shows Worldwide Decline in Press Freedom
- Unit 13 New Atlas Shows a Changed Africa
- Unit 13 New Atlas Shows a Changed Africa
- Unit 14 A Push to Turn around 'Dropout Factories'
- Unit 14 A Push to Turn around 'Dropout Factories'
- Unit 15 For Indian Women, Opportunities Bring Anger and Abuse from Men
- Unit 16 Economic Downturn Widens Pay Gaps
- Unit 17 Philippines Bans Foreigners from Receiving Kidneys
- Unit 18 The U. S. is Falling Behind Other Developed Nations in Infant Death Rates
- Unit 19 Food Prices and Politics are Bad News for the Amazon
- Unit 20 Dressed to Kilt: Letter Carrier Wants Kilt Uniform Option
- Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

Minoru Ohtsuki: News for You 2010/2011 Edition (成美堂) 1,900円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

政治、経済、社会、科学など色々な英字新聞の記事を読みながら、英字新聞に特徴的な表現法を学び、新聞英語を容易に理解できるようになること。

(関連する学習・教育目標:B)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	英語2C（総合英語2）R1R2	1	後	高橋正平
16年度以前	基 礎	1 年	英語Ⅱ（R 1・R 2）			

必修

<授業目的>

テキストは現在の日本が抱える様々な問題を扱ったもので、家族、教育問題、仕事と人生、社会問題が論じられている。多くの英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

第1週:第1章 TV no substitute for parenting

第2週:第2章 Keep the e-home fires burning

第3週:第3章 Technology amplifying established roles

第4週:第4章 More fathers taking active role

第5週:第5章 Wives stuck caring for both sets of parents

第6週:第6章 Teach English at the expense of Japanese?

第7週:中間試験

第8週:第7章 Authorities must reverse decline in 3Rs

第9週:第8章 Steps needed to control violent schoolchildren

第10週:第9章 Ethics classes teach preciousness of life

第11週:第10章 Encourage healthy eating habits

第12週:第11章 Companies struggling to train workers

第13週:第12章 Job-hoppers making moves

第14週:第13章 Employees get 2nd chance

第15週:まとめと試験

<成績評価方法>

中間試験と定期試験及び出席状況を考慮して総合的に評価する。

<教科書・参考文献>

玉井久之他編注:Contemporary Issues in Japanese Society「日本の今を考える」(英宝社)

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習なので受講生には十分な予習が望まれる。積極的に授業に参加されることを期待したい。テキストは第一週目までに必ず購入しておくこと。

<学習到達目標>

辞書の助けを借りて英文を読めるようになることを本授業の到達目標とする。英文を正しく読むためには多読が必要である。授業ではできるだけ多くの英文を読み、読解力の強化をはかり、併せて基礎的な文法力の習得をも目指す。

(関連する学習・教育目標: B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 2（再履修）	1	後	笹川壽昭 （情報システム）

必修

#### <授業目的>

この授業では、環境や健康問題など興味深い英文ニュースを読むことにより、読解力を養成するとともに、TOEIC対応の練習問題に取り組むことにより、英文法の基礎固めを行う。

#### <各回毎の授業内容>

1. Unit 1 Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them
2. Unit 1 Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them
3. Unit 2 "Humble " Potato Emerging as World' s Next Food Source
4. Unit 2 "Humble " Potato Emerging as World' s Next Food Source
5. Unit 3 Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
6. Unit 3 Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
7. Unit 4 Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer' s
8. Unit 4 Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer' s
9. Unit 5 Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property
10. Unit 6 College Students Feel Better after Screaming Together
11. Unit 7 Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers
12. Unit 8 Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
13. Unit 9 Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water
14. Unit 10 Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

hinji Ogasawara et al.: Healing Our World （南雲堂）1,890円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

英文の記事をできるだけ多く、幅広く読むことにより、英字新聞が容易に読めるようになること。  
（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 2（再履修）	1	後	高橋正平

必修

#### <授業目的>

この授業は基本的な英語力の向上を目指す授業である。テキストは平易な英文で興味深い、意外性のある実話を扱っている。テキストには読解用の英文の他に読解の助けとなる練習問題が付いている。

#### <各回毎の授業内容>

第1週: 1章 QUEEN MARY'S NECKLACE PART 1  
 第2週: 1章 QUEEN MARY'S NECKLACE PART 2  
 第3週: 2章 THE MAN WHO FOUND NESSIE PART 1  
 第4週: 2章 THE MAN WHO FOUND NESSIE PART 2  
 第5週: 3章 THE SONG OF DEATH PART 1  
 第6週: 3章 THE SONG OF DEATH PART 2  
 第7週: 中間試験  
 第8週: 4章 AMAZING ESP PART 1  
 第9週: 4章 AMAZING ESP PART 2  
 第10週: 5章 THE PREDICTIONS OF NOSTRADAMUS PART 1  
 第11週: 5章 THE PREDICTIONS OF NOSTRADAMUS PART 2  
 第12週: 6章 LIFE AFTER DEATH PART 1  
 第13週: 6章 LIFE AFTER DEATH PART 2  
 第14週: 7章 ENGLAND'S GHOST HOUSE PART 1  
 第15週: まとめと試験

#### <成績評価方法>

中間試験、期末試験及び出席状況を考慮し、総合的に評価する。

#### <教科書・参考文献>

ブライアン・ポール他編注: *Story Time - Further Readings in Easy English* (南雲堂)

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回1レッスンを読み終える。授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。5回以上の欠席で試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

#### <学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指す。  
 (関連する学習・教育目標: B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 2 (スポーツコース②)	1	後	藤瀬武彦 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 2			

17年度以降選択 16年度以前必修

#### <授業目的>

日本は近い将来に3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（現在は5人に1人）、医療費や介護費が高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（医療費は年間約33兆円でその半分近くが高齢者分）。従って、各個人が健康体力づくりに関する知識をもつことが必要であり、またそのための適度な運動の実践が重要であることは言うまでもない。この授業では、主に屋内スポーツ種目のルールや技術を習得し、ゲームの実践により運動不足を解消するとともに、生涯にわたって健康体力を保持増進させるために日常生活に適度な運動を積極的に取り入れる能力の養成を目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

(受講学生の人数などにより変更もあり得る)

- 各クラスの主な種目
- 1) 水曜3限 (担当:計良)・・・バドミントン・バスケットボール
  - 2) 木曜2限 (担当:藤瀬)・・・バレーボール・卓球
  - 3) 木曜4限 (担当:藤瀬)・・・バレーボール・バスケットボール

1. ガイダンス① … 授業内容・評価方法・スポーツ施設の利用方法
2. ガイダンス② … トレーニング機器及びフリーウエイトの扱い方
3. ガイダンス③ … チーム分け・ルール説明・基本練習・チーム練習など
- 4～7. スポーツ①～④ … ゲーム①～④（毎回チームや個人の結果を記録したり、カロリーカウンターにより運動量を把握することもある）
8. フィットネス … エアロビック・ウエイトトレーニング
- 9～12. スポーツ⑤～⑧ … ゲーム⑤～⑧（毎回チームや個人の結果を記録するとともに、数回はカロリーカウンターにより運動量を把握する）
13. スポーツ⑨ … 決勝トーナメント①（チーム数により変更あり）
14. スポーツ⑩ … 決勝トーナメント②（チーム数により変更あり）
15. まとめ

#### <成績評価方法>

この授業では、出席して積極的に運動を実践することが重視される。従って、評価（100点満点）については欠席1回につき10点減点とし、遅刻・見学・早退は計3回で1回欠席分の減点とする。なお、規則やマナーの違反、あるいは教員の指示に従わなかったときには減点することがある。

#### <受講に当たっての留意事項>

運動専用のウエアとシューズ（下履き・上履き）が必要であり、上履きの紐は情報文化学科が赤色、情報システム学科が青色のものを着用すること。なお、体育館の更衣室は盗難が起りやすいので、貴重品の管理は自己の責任においてしっかり行うこと（コインロッカーあり）。

#### <学習到達目標>

競技や楽しみのための「スポーツ」と健康体力づくりのための「フィットネス」の内容を理解し、それぞれの運動を体験・実践するとともに技能を向上させる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 2 (フィットネス基本コース②)	1	後	藤瀬武彦 (情報システム)
16年度以前	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 2			

17年度以降選択 16年度以前必修

<授業目的>

日本は近い将来に3人に1人が高齢者という極端な少子高齢化社会を迎え（現在は5人に1人）、医療費や介護費などが高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される。従って、各人が健康体力づくりに関する知識をもつことが必要であり、またそのための適切な運動の実践が重要であることは言うまでもない。この授業では、主に自己の能力に応じたエアロビクトレーニングあるいはウエイトトレーニングのプログラムを作成して実践することにより、生涯にわたって健康体力を保持増進させるために日常生活に適切な運動を積極的に取り入れる能力を養成することを目的とする。

<各回毎の授業内容>

1. ガイダンス … 授業内容、評価方法について

2. ウエイトトレーニングの三大基本種目の復習

3. PWC75%HRmaxによる全身持久力の評価

4. 三大基本種目の1 RMによる筋力の評価①

5. 三大基本種目の1 RMによる筋力の評価②

6. 三大基本種目の最大反復回数による筋持久力評価①

7. 三大基本種目の最大反復回数による筋持久力評価②

8. スポーツ活動①（屋外スポーツ種目）

9. スポーツ活動②（屋内スポーツ種目）

10. サーキットトレーニング

11. エアロビクトレーニングの実践①（マシンを使用）

12. エアロビクトレーニングの実践②（サーキット法）

13. ウエイトトレーニングのセット法①（ピラミッド法、他）

14. ウエイトトレーニングのセット法②（スーパーセット法、他）

15. まとめ

<成績評価方法>

この授業は、出席して積極的に身体を動かすことを重視する。従って、評価（100点満点）については欠席1回につき10点減点とし、遅刻・見学・早退は計3回で1回欠席分の減点とする。また、規則やマナーの違反、あるいは教員の指示に従わなかったときには、減点することがある。

<受講に当たっての留意事項>

運動専用のウエアとシューズ（下履き・上履き）が必要であり、上履きの紐は情報文化学科が赤色、情報システム学科が青色のものを着用すること。なお、体育館の更衣室は盗難が起こりやすいので、貴重品の管理は自己の責任においてしっかり行うこと（コインロッカーあり）。

<学習到達目標>

筋力や全身持久力などの基礎体力向上、あるいはシェイプアップや肥満解消などの目的に応じたトレーニングプログラムを作成して実践できるようにする。

# 2 年基礎科目（後期）

比較宗教論  
新潟研究（自然と文化）  
財政学  
ジャーナリズム論  
心理と行動  
英語 4  
キャリア開発 1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	比較宗教論	2	後	小山田紀子 （情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	比較宗教論			

選択

<授業目的>

世界の人口64億人のうち、約21億人がキリスト教を信じ、約13億人がイスラームを信じ、約3億5000万人が仏教を信じている。さらにヒンドゥー教徒が約9億人、中国の伝統宗教の信者、ユダヤ教、神道、新宗教の信者などを加えると、世界の9割以上の人々がなんらかの宗教を信じているという。日本人は「宗教など信じていない」という人が多いが、そのような人々でも、年始には初詣に行くし（神道）、クリスマスを祝ったり（キリスト教）、葬式は仏教であるのが一般的だ。また人間は弱い存在だから、死に直面すると「人間は死後どうなるか」と考えたり、「人生いかに生きるべきか」という問題に遭遇すると宗教に答えを求めたりする。また絶望に陥ったときには宗教は救済してくれることも多い。その反面、宗教は暴力や戦争と密接に関わってきたという負の側面を持っているのも事実である。冷戦終結後の世界は、宗教間の対立が表面化してきたといってもよいであろう。それを解決するためには、諸宗教の信者たちがより深いところで心を開いて語り合うしかない。宗教を信じていない人も、それぞれの宗教を知ることによって今日の国際社会をよりよく理解できるであろう。

本講義では、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの三宗教を取り上げ、それぞれの起源・教義・歴史・信者の生活を比較検討し、現代世界と宗教の関係を考えていきたい。

<各回毎の授業内容>

1. 今日の世界における宗教	9. キリスト教と政教分離
2. ユダヤ教の起源と特徴	10. 今日のキリスト教
3. ヨーロッパのユダヤ人	11. イスラームとは何か
4. シオニズム運動とイスラエルの建国	12. イスラーム世界の発展
5. キリスト教の起こり	13. イスラームと近代
6. 初期キリスト教	14. 世界化の中のイスラーム主義
7. キリスト教の拡大	15. まとめ
8. 宗教改革	

<成績評価方法>

授業時間中に行う小レポートおよび期末試験により評価する。出席状況も加味する。

<教科書・参考文献>

教科書はとくに指定しない。

参考文献は授業時間中に適宜指示する。

<受講に当たっての留意事項>

出席重視。抜き打ち的に行う小レポートも必ず提出すること。

<学習到達目標>

宗教を見る目を養い、現代世界の宗教をめぐる諸問題に関心を持つこと。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	新潟研究（自然と文化）	2	後	澤口晋一（情報文化） 池田哲夫
16年度以前	基 礎	1 年	新潟の自然と文化			

選択

#### <授業目的>

君は「灯台下暗し」ではありませんか？中学・高校で新潟のことを学ぶ機会がないのも悪いが、とにかく、君たちは新潟のことを何も知らなさすぎます。新潟に生まれたなら、新潟に暮らすなら、まずは君たちが生まれ育ち、暮らしていく「新潟の文化」とそれを育んだ「新潟の自然」のことをよく知り、理解することに努めるべきだと考えます。新潟県以外の出身者ならこの機会に新潟のことを知り、考えるきっかけとしてください。このことが、君たちが今後、世界に飛躍するにせよ、新潟で頑張るにせよ、第一に必要なことだと私は思います。郷里を知らずして国際化、情報化と言うなかれ！

#### <各回毎の授業内容>

##### ● 前半（池田先生）

1. 車田植：佐渡に田を丸く植える習俗があります。これに関わる年中行事とその意義を考えます。
2. 盆と祖霊：日本人の祖霊観と盆の行事について、越後の盆行事を事例に海との関わりから考えます。
3. 新潟の舟：越後の舟作りには丸木舟の伝統がありました。本海沿岸地域の造船技術からその意義を考えます。
4. 新潟平野の稲作：今は美田の新潟平野もかつては潟や湿地帯が広がっていました。舟などを使った低湿地特有の稲作を考えます。
5. 佐渡イカ漁：佐渡から発達したイカ釣り技術は、日本海沿岸から韓国まで伝えられました。技術の移動とは何かを考えます。
6. 祭りを考える：祭りのもつ意義とその本質を忌みと宮籠もりから考えます。
7. ムラの境の藁人形：東蒲原では春の行事として、ムラの境に藁で作った大きな人形が飾られます。この人形のもつ意義を考えます。

##### ● 後半（澤口）

1. 新潟の自然概観
  - 1) 地形と地質
  - 2) 気候と植生（新潟の冬と夏、新潟の局地風、新潟は北国か？植生からみた新潟）
2. 特徴的な自然
  - 1) 新潟山間部の多雪景観
  - 2) 新潟の活断層と変動地形
3. 新潟平野の開発と災害
  - 1) 新潟地震における被災地の地盤特性
  - 2) 新潟市における市街地化と水害

#### <成績評価方法>

レポート（池田先生50点、澤口50点の総合点で評価）

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しません。講義時に資料を配布します。参考文献は講義時に紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中は私語・飲食（持ち込み）、ゲームは厳禁！

携帯電話については、毎回授業の最初に電源を（みなさんが）切ったことを確認してから始めます。

#### <学習到達目標>

自分の生まれ育ったところがどういうところなのかを認識することは、あらゆることに先立つ基本だと思います。郷土の自然と文化を人に説明できるぐらいまでのレベルに到達すること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	財政学	2	後	斎藤忠雄

選択

#### <授業目的>

現代社会では、「大きな政府」「行政国家」「福祉国家」という文言に代表されるように、市場経済に対する国家の積極的な介入が顕著である。しかしながら、その反面で福祉国家に対する批判もいちじるしい。とりわけ20世紀から21世紀への世紀移行期においてそうであって、産業構造の転換、家族や地域社会のさらなる機能後退、少子高齢化社会・過密過疎・自然環境破壊の進行、グローバル化など、ポストモダンの進展が、財政にも新しい課題を投げかけている。いま、20世紀型財政が揺らぎ始めているといってもよいであろう。

本講義では、日本財政の現状分析をつうじて、現代経済社会の理解を深めてゆきたいと考えている。そのさい、時間の許す限り、他の先進諸国と地方自治体の個性に留意して講義をおこなう。

#### <各回毎の授業内容>

財政とは、国家その他の公共団体が財貨と労働力を獲得し、管理・使用する過程をいう。換言すれば、財政は国家その他の公権力団体の経済であり、政治と民間経済社会との接点に位置する。それは政治行政の貨幣的・物質的基礎をなすが、国や自治体によって異なるのみならず、歴史とともに変化をとげてきた。

財政学は、この財政の必然的根拠を解明し、その社会経済的意義を客観的に評定することを課題としている。また、経済学の研究の目的が現状分析にあり、財政学もその一環をなすと考えらるなら、本講義の最終目的は日本財政の分析に置かれていることになる。

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 1. 財政と財政学  | 9. 日本の財政制度       |
| 2. 現代財政の特色 | 10. 現代日本財政の国際的特質 |
| 3. 予算      | 11. 少子高齢社会と年金(1) |
| 4. 経費      | 12. 少子高齢社会と年金(2) |
| 5. 租税(1)   | 13. 少子高齢社会と年金(3) |
| 6. 租税(2)   | 14. ポスト工業社会と公共事業 |
| 7. 公債      | 15. 試験           |
| 8. 財政投融资   |                  |

#### <成績評価方法>

学期末におこなう試験による。

#### <教科書・参考文献>

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布し、適宜板書をおこなう。

主な参考文献・資料は、最初の講義時間に紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

政治経済社会に関する一般的知識および財政に対する高い関心を持っていることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・財政（学）の理解を深める。
- ・社会問題に対する関心を高め、多様な視角から「現代社会の史的構造」を解明する。
- ・私たちがどんな社会に生きているか、それを国家・経済関係の変化に即して考察してゆく。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	ジャーナリズム論	2	後	永田幸男

選択

#### <授業目的>

市民社会が健全で自由なものであるために、ジャーナリズムの果たす役割が重要であることを理解する。新聞、テレビなどマスメディアの誕生と発展の背景を把握し、ジャーナリズムの基本理念と原則、各メディアが抱えている課題について理解できるようにする。

#### <各回毎の授業内容>

- ①総論（報道の自由と知る権利）
- ②技術革新からみたメディア史
- ③新聞の機能と特性
- ④ジャーナリズムの原則
- ⑤ニュースとは何か
- ⑥ジャーナリズム史Ⅰ・新聞
- ⑦ジャーナリズム史Ⅱ・テレビ
- ⑧戦争報道と情報操作
- ⑨ネット・メディアと市民ジャーナリズム
- ⑩報道と人権
- ⑪取材と編集
- ⑫広告の魔術
- ⑬マスメディアと世論
- ⑭メディア・リテラシー
- ⑮期末試験

#### <成績評価方法>

- ・毎回コメントカードを提出してもらい、出欠に代える。
- ・期末試験は800字程度の記述試験とする。配布した講義メモ、資料および自筆ノートの持ち込みを認める。点数の配分は期末試験80%、出席20%

#### <教科書・参考文献>

- ・特定のものは使用しない。毎回講義メモを配布する。必要に応じて映像、写真を活用する。
- ・参考図書は随時紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・最も大事な教科書は日々の新聞。どの新聞でもいいから読むことが望ましい。
- ・授業日程、内容の一部を変更することがある。
- ・コメントカードの質問に答える機会をできるだけ設ける。

#### <学習到達目標>

- ・メディアとジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、ニュース報道の多様性と有益情報を読み取る重要性を知る。習得した知識をもとに根拠のある意見を述べることができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	心理と行動	2	後	二瀬由理 （情報システム）
16年度以前	基 礎	2 年	心理と行動			

選択

#### <授業目的>

本講義では、心理学のさまざまな分野の研究を概説することを通して、“我々、人間がどのようにして外界を理解しているのか”、“自分をよりよく理解するためにはどうすればいいのか”、“他人を理解し、良い関係を保つためにはどうすればよいのか”、“多くの人々の行動や嗜好を調べるためにはどうすればよいのか”これらの4つの点について考える機会を提供することを目的としている。

#### <各回毎の授業内容>

1. 心理学とは何か
2. 感覚・知覚
3. 認知
4. 社会的認知
5. 記憶と学習
6. 動機づけ
7. 社会的行動
8. 対人行動
9. 集団心理
10. ストレスとフラストレーション
11. 臨床心理学
12. 精神的疾患および精神的治療
13. 心理テスト
14. 心理測定
15. まとめ:テスト

#### <成績評価方法>

成績評価は、随時授業中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題（20％）と学期末のテスト（80％）にもとづいて行う。

#### <教科書・参考文献>

「図説心理学入門」 齊藤勇著 誠信書房

#### <受講に当たっての留意事項>

講義で出される課題には、積極的に取り組むこと。常に自分で考える姿勢を持って講義に臨んでほしい。

#### <学習到達目標>

心理学の基本的な用語を理解し、この講義で学んだ事を踏まえて専門分野の理解に活かせるようになることを期待する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 4A (表現英語 2) X1X2	1	後	グレゴリー ディック
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ (X 1・X 2)			

必修

#### <授業目的>

この授業では日常的な事柄に基づいて意見を交わすことを目的としています。英語でのコミュニケーションを高めるために読解力や表現力を高めます。

#### <各回毎の授業内容>

1. Guidance
2. Unit 6: Time
3. Unit 6
4. Unit 7: Shopping
5. Unit 7
6. Review 1
7. Unit 8: Work
8. Unit 8
9. Unit 9: Daily Living
10. Unit 9
11. Review 2
12. Xmas Lesson
13. Unit 10: Leisure
14. Unit 10
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

授業態度・課題（40％）、プレゼンテーション（30％）、定期試験（30％）

#### <教科書・参考文献>

Ventures 1, Gretchen Bitterlin et al. (Cambridge University Press)

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中の私語やクラス不参加、欠席などの行為は評価に影響します。

#### <学習到達目標>

英文の読解やネイティブスピードでのリスニングに重点を置き、個人の意見を英語で述べるができるようにします。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語4A（表現英語2）Y1Y2	1	後	イザベラ青木
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ（Y 1 ・ Y 2）			

必修

<授業目的>

第1学年より積み上げてきた英語コミュニケーション能力の一層の向上を目指します。 英語で意見交換をできる様に英語の表現力をたかめます。

<各回毎の授業内容>

1. Review of 1<sup>st</sup> semester

2. Staying Healthy

3. Staying Healthy / An Honest Life

4. An Honest Life/ That Makes Me Mad

5. That Makes Me Mad

6. Review 3

7. Video and/ or other materials

8. Video and/or other materials

9. It' s a Chore!

10. It' s a Chore!/ Change

11. Change / A Good Life

12. A Good Life

13. Review 4

14. Video and/or other materials

15. まとめと試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点 （70％）、定期試験 （30％）

<教科書・参考文献>

Gear Up 2, Steve Gershon and Chris Mares（Macmillan Languagehouse）

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

昨年に習った英語をベースにして、英語の会話において、個人が意見を発信できるようになる事。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 4A（表現英語 2） Z1Z2	1	後	マーク スーマ
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ（Z 1・Z 2）			

必修

#### <授業目的>

このコースの目的は、英語の母語話者によって使われる実際的な表現をマスターすることです。

各週において、学生は10の新しいイディオムを習得した後、それらをディスカッションや討論で、どのように使うかを学びます。

また、話したり聴いたりするいろいろな活動に積極的に参加することが求められます。学生は、どんな場合でも、英語を使うことに自信を持つでしょう。

#### <各回毎の授業内容>

1. Lesson11.Frisbee Retires
2. Lesson12.Business Matters
3. Lesson12.Business Matters2
4. Lesson13.Fitness Center
5. Lesson14.A New Teacher
6. Lesson15.A Letter from a Friend
7. Review Test
8. Lesson16.Time off work
9. Lesson17.Shopping
10. Lesson18.Meetings
11. Lesson18.Meetings2
12. Lesson19.A New Job
13. Lesson19.A New Job
14. Review Week
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

Mid Test 30%

Final Test 50%

Participation 20%

#### <教科書・参考文献>

“IDIOMS FROM SQUARE ONE” by Barry Ward. Macmillan Language house. 1900円

#### <受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

#### <学習到達目標>

日常生活において使用される英語表現を数多く知り、理解できるようになること。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語4B (TOEIC 英語2) X1X2	1	後	本間多香子
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ（X 1・X 2）			

必修

<授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストとして現在幅広く活用されている。この授業では、前期同様TOEIC形式の問題を解くことにより、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着を図る。特にリスニング問題では話の内容を理解する能力を高め、リーディング問題では、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につける。

<各回毎の授業内容>

1. Chapter 11

2. Chapter 11, 12

3. Chapter 12

4. Chapter 13

5. Chapter 13, 14

6. Chapter 14

7. Chapter 15

8. Chapter 15, 16

9. Chapter 16

10. Chapter 17

11. Chapter 17, 18

12. Chapter 18

13. Chapter 19

14. Chapter 19 まとめ

15. まとめと試験

<成績評価方法>

定期試験50％ 授業中の小テスト20％ 授業への取り組み状況等30％

<教科書・参考文献>

松岡昇 著 Kick Off for the TOEIC Test（金星堂1950 円）

<受講に当たっての留意事項>

遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。

<学習到達目標>

基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる。  
（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語4B (TOEIC英語2) Y1Y2	1	後	辻 照彦
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ (Y 1 ・ Y 2)			

必修

#### <授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を評価する標準試験である。この授業では、TOEICテスト受験のための入門的演習を通して、グローバルなネットワーク社会で活躍するために欠かせない英語によるコミュニケーション能力、特に、リスニング力と速読能力の基礎を育成する。

#### <各回毎の授業内容>

1. Unit 8 (Computers and Technology)
2. Unit 8, Reading Part
3. Unit 9 (Employment and Promotion)
4. Unit 9, Reading Part
5. Unit 10 (Advertisements and Personnel)
6. Unit 10, Reading Part
7. Unit 11 (Telephone and Messages)
8. Unit 11, Reading Part
9. Unit 12 (Banking and Finance)
10. Unit 12, Reading Part
11. Unit 13 (Office Work and Equipment)
12. Unit 13, Reading Part
13. Unit 14 (Housing and Properties)
14. Unit 14, Reading Part
15. Unit 8-14のまとめと定期試験

#### <成績評価方法>

発表・課題等40%、定期試験60%。

#### <教科書・参考文献>

Essential Approach for the TOEIC Test (著者) Naok Osuka (出版社) 成美堂

#### <受講に当たっての留意事項>

注意すべき事項については最初の授業の時に説明する。

#### <学習到達目標>

日常的な英会話を聞いて話のポイントを理解することができる。日常的な英文文書を読みポイントを理解することができる。ビジネス関係の基本的なボキャブラリーを習得する。

(関連する学習・教育目標:B)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語4B (TOEIC 英語2) Z1Z2	1	後	秋 孝道
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ (Z 1・Z 2)			

必修

#### <授業目的>

TOEICとはTest of English for International Communication の略称であり、このテストは英語によるコミュニケーション能力を評価するテストとして日本国内の多くの企業などでも採用されています。この授業では、TOEIC対策用テキストを用いて、TOEIC受験の準備をすると同時に、英語コミュニケーション能力を高める演習を行います。復習小テスト（毎時間）と期末テストを行います。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 代名詞
- 2 製造関係
- 3 前置詞
- 4 マーケティング
- 5 接続詞 1
- 6 経済・財務
- 7 接続詞 2
- 8 天気予報
- 9 関係詞 1
- 10 政府・組織関係
- 11 関係詞 2
- 12 社会・環境問題
- 13 動詞形 4
- 14 娯楽
- 15 まとめと試験

#### <成績評価方法>

小テスト（50％）と期末テスト（50％）に基づき成績評価を行う。但し、授業の取り組みに問題がある場合には、合計で最大20点の減点を行う（特に問題がない場合には減点を行わない）。

#### <教科書・参考文献>

教科書 Mizumoto, A. *Target on the TOEIC Test: Starter* 金星堂（2,000円 税別）

#### <受講に当たっての留意事項>

テキスト、辞書、ノートを持参すること。

#### <学習到達目標>

TOEIC受験のための基礎的英語力を身につける。基礎的な英語コミュニケーション能力を身につける。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語4C(読む英語2) X1X2	1	後	笹川壽昭 (情報システム)
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ（X 1・X 2）			

必修

#### <授業目的>

この授業では、アメリカのポップカルチャー（食文化、娯楽、スポーツ）について、日本のポップカルチャーと比較しながら、理解を深めるとともに、英文の読解力および聴解力を養成する。

#### <各回毎の授業内容>

1. Ch. 8 Entertainment Capital of the World
2. Ch. 8 Entertainment Capital of the World
3. Ch. 9 The Cartoon Kingdom
4. Ch. 9 The Cartoon Kingdom
5. Ch. 10 American Cyber-Culture
6. Ch. 10 American Cyber-Culture
7. Ch. 11 America's National Pastime
8. Ch. 11 America's National Pastime
9. Ch. 12 America's TV Sport
10. Ch. 12 America's TV Sport
11. Ch. 13 America's Hoop Sport
12. Ch. 13 America's Hoop Sport
13. Ch. 14 America's Ice Sport
14. Ch. 15 An Elite Sport Is Popularized
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

Edward Hoffman: Enjoying American Pop Culture (朝日出版社) 1,800円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

英文の精読、および読解練習問題などに取り組むことにより、Scanning（必要な情報を素早く探す読み方）が容易にできるようになること。

（関連する学習・教育目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 4C (読む英語 2) Y1Y2	1	後	笹川壽昭 (情報システム)
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ (Y 1・Y 2)			

必修

#### <授業目的>

この授業では、新しい経済学の分野、行動経済学の観点からの人間の行動について学ぶとともに、英文の読解力、および聴解力を養成する。

#### <各回毎の授業内容>

1. Ch. 8 Cheap Cigarettes and Used Cars in Japan
2. Ch. 8 Cheap Cigarettes and Used Cars in Japan
3. Ch. 9 Christmas Music and the Peacock's Tail
4. Ch. 9 Christmas Music and the Peacock's Tail
5. Ch. 10 Mineral Water
6. Ch. 10 Mineral Water
7. Ch. 11 Nothing is for Free
8. Ch. 11 Nothing is for Free
9. Ch. 12 Location Matters
10. Ch. 12 Location Matters
11. Ch. 13 Unexpected Answers
12. Ch. 13 Unexpected Answers
13. Ch. 14 Cheating
14. Ch. 15 Randomness and Perseverance
15. Review & Test

#### <成績評価方法>

授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（80%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

Paul Stapleton: Econosense? Economics and Human Nature (センゲージ ラーニング) 1,700円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・英和辞典、電子辞書のいずれかを必ず持参すること。
- ・欠席5回以上の学生には受験資格を与えない。
- ・遅刻は2回で1回の欠席とみなす。
- ・テキストは指定された期間中に必ず購入すること。4回目の授業までに未購入の場合には、受験資格を与えない。

#### <学習到達目標>

英文を精読することにより、批判的に文章を読むことができるようになること。  
(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	英語 4C (読む英語 2) Z1Z2	1	後	大竹芳夫
16年度以前	基 礎	2 年	英語Ⅳ（Z 1・Z 2）			

必修

#### <授業目的>

日本とアメリカの生活、文化、教育、習慣、思考様式の共通点や相違点について取り上げる英語教科書を読み、英文の読解力を高める。あわせて、教科書の付属CDや、日常生活を場面ごとに取り上げるビデオ教材を活用しながらリスニング能力の向上も目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. オリエンテーション:教材の特徴・意義と使用方法、授業の進め方、評価方法などについて
2. Lesson 13 Business
3. Lesson 14 Jobs
4. Lesson 15 NHK vs. PBS
5. Lesson 16 Marriage Ceremonies
6. Lesson 17 American Culture
7. Lesson 18 International Marriage
8. 第2週から7週までのまとめ、効果的な英語学習について
9. Lesson 19 Apartments
10. Lesson 20 Technology
11. Lesson 21 School Rules
12. Lesson 22 Drinking
13. Lesson 23 Entertaining
14. Lesson 24 Choice
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

発表内容（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）により成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

George Truscott et al.: Eye on America and Japan (南雲堂) 1,800円＋税

#### <受講に当たっての留意事項>

英和辞典（電子辞書も可）を授業時に持参すること。

#### <学習到達目標>

英語文章の内容を正確に読み解くことができると同時に、日英語話者の文化や発想の相違を理解することができる。

(関連する学習・教育目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	2 年	キャリア開発 1	1	後	就職指導委員長
16年度以前	基 礎	2 年	キャリア開発 1			

#### 選択

##### <授業目的>

1. 就職環境が厳しい中、妥協や誤った情報（「資格はあった方が断然有利」、「有名企業はとても無理」など）に振り回されない進路選択をめざす。
2. 学生生活を主体的に生きるための視点やヒントをつかむ。同時に自分の持っている力や可能性に目を向け、「社会で自分を活かすこと」に真摯に向き合う姿勢を作る。
3. さまざまな学生や教員ほかの意見や考えに触れ、自分らしさを模索しながら、自らを伝えるコミュニケーションのポイントを学ぶ。

##### <各回毎の授業内容>

講師：外部からの招聘および本学教員

第1回 オリエンテーション、大学生活の意味と社会 <高校生活との違い、将来と大学生活>

第2回 「私」の可能性を拓げるために <キャリア心理学の今と「自己認知」の世界>

第3回 私の学生生活を考える <「私らしさ」を活かす学生生活の考察>

第4回 大学生から社会へ <先輩モデルに聴く 大学と就職>

第5回 コミュニケーションの意味と価値 <社会や他人と関わる意義と実際>

第6回 大学生の就職を考える <「求められる人材」になるために>

第7回 さまざまな学生生活と意義 <それぞれの学生生活への期待、思いを自らの毎日に活かす>

第8回 卒業後につながる自分を磨く <充実した学生生活に向けた意識形成>

第9回 まとめ

※グループワークまたは、小レポートの作成を授業時間内で実施する。ゲスト教員などのミニ講義を適宜、取り入れ、視野の拡大や気づきの獲得を図る。

##### <成績評価方法>

- ・課題レポート（進路選択に向けた課題の発掘、計画策定、自己理解、モデルに学ぶ仕事と人生などのテーマから選択）点：40点
- ・演習（毎回のワークシートまたは、レポート（出欠状況含む）、合計9回）点：60点

##### <教科書・参考文献>

教科書は特に定めない。講師の推薦する図書・資料を参考にすること。

##### <受講に当たっての留意事項>

1. 17年度以降入学生（4年次生）がこの講義の単位を取得した場合、その単位は卒業要件の単位に算入される。
2. 16年度以前の入学生のカリキュラムでは、この講義は、自由科目なので、16年度以前の入学生がこの講義の単位を取得した場合、その単位は成績として記録されるが、卒業要件の単位に算入されない。
3. この科目は本学の就職指導の基礎的な役割を占める。今後の就職指導ガイダンス・就職サポート（適性検査・就職体験講座・模擬面接等）を、あなたがあなたの人生の選択に有効に役立てるため、就職・進学にかかわらず、全員受講することが望ましい。

##### <学習到達目標>

1. 「自ら選択し、取り組んでいくこと」で成り立つ大学生活の中で、毎日を意識的かつ主体的に送るための視点や気づきを得る。
2. 誤った知識や情報、既成概念を取り除き、正確な情報や現状認識のもとに、進路選択や自己理解を進められるようにする。
3. さまざまな学生の言語表現やコミュニケーションとふれあい、自分らしい表現や新しい視点や考えを取り入れる。
4. 自分自身を肯定的に受け止め、興味や好奇心を原動力に主体的に動ける姿勢を作る。

# 3 年基礎科目（後期）



市民社会論  
新潟研究（政治と経済）  
福祉社会論  
地域経営論

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	市民社会論	2	後	越智敏夫（情報文化）
16年度以前	基 礎	3 年	現代の思想			

選択

#### <授業目的>

私たちの社会の成立を「市民」という概念を中心に考えていく。近代市民革命を経た社会、あるいはその市民革命によって模索され始めた原理によって構成された社会は、それまでの人間が作ってきた社会とは大きく異なる。その社会の現実と民主主義という政治理念との関連を重視しながら、多くの問題領域の現代的意義について考えたい。特に＜同時多発テロ＞経験後の現代社会の変質についても考える予定である。

#### <各回毎の授業内容>

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 はじめに             | 1-1 市民とは誰か          |
| 2 市民社会を準備するもの      | 2-1 絶対主義王政          |
|                    | 2-2 個人の誕生           |
|                    | 2-3 国民国家の思想         |
| 3 市民社会の成立          | 3-1 市民革命            |
|                    | 3-2 公共性             |
|                    | 3-3 民主主義            |
|                    | 3-4 権力の思想とニヒリズム     |
| 4 <9・11>と市民社会      | 4-1 冷戦の終焉：湾岸戦争と9・11 |
|                    | 4-2 グローバリゼーション      |
|                    | 4-3 <帝国>の思想とマルチチュード |
| 5 現代日本と市民社会        | 5-1 戦後日本政治における保守と革新 |
|                    | 5-2 「日本人論」の罫        |
| 6 おわりに<br>(最終回：試験) | 6-1 市民としての私たち       |

#### <成績評価方法>

学期末筆記試験（持ち込み不可）のみで採点。

#### <教科書・参考文献>

教科書なし。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。

#### <受講に当たっての留意事項>

本講義は3年配当の基礎科目である。本講義の受講によって、それまでの学習の思想的意義を再検討し、3年次以降の学習内容がどのように市民社会と思想的に関連しているのかを確認してもらいたい。

#### <学習到達目標>

自己の存在も含めて現代のさまざまな問題を思想的に考える「癖」のようなものを身につけてほしい。それは社会を構造として考えることでもあり、市民としての自覚をもつことでもある。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	新潟研究（政治と経済）	2	後	貝瀬正泰 鈴木聖二
16年度以前	基 礎	3 年	新潟の政治と経済			

選択

#### <授業目的>

大恐慌の再来とも言われる不況に見舞われている。人口の減少と高齢化が急速に進行する日本が、この危機から脱するのは容易なことではない。ゆきすぎた市場主義経済のもとで、新潟県をはじめとする地方の存立基盤は大きく毀損された。これを立て直さないと地域社会は足元から崩壊してしまう。従来の日本の政治は官僚が主導する中央集権政治であった。これを住民自治、地方分権に組み替えてはならない。政権交代の真価を問う参院選が行われる今年は、地域を通じあるべき日本の姿を探る好機である。

当授業では、近現代の新潟の政治、経済を概観しながら、世界や国内で起きている出来事を見つめ、新潟の目線でしっかりとらえる。そうした視点の獲得を目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 全体ガイダンス 新潟県の立ち位置 世界と日本の視点から
- 2 総選挙結果の分析と評価
- 3 新潟の政治風土（田中角栄を中心として）
- 4 議員の役割 首長の役割
- 5 地方「行政」から自治体「経営」へ
- 6 市町村合併の功罪と今後
- 7 道州制論議と新潟の行方
- 8 政治分野試験
- 9 グローバル経済の破綻と地域経済
- 10 新潟経済の個性①＝エネルギー素材型産業
- 11 新潟経済の個性②＝コメ中心の農業
- 12 新潟経済の個性③＝対岸への挑戦
- 13 現状と取り組み①＝加工食品など資産を生かした挑戦
- 14 現状と取り組み②＝環境関連、航空機など新規分野を拓く
- 15 経済分野試験

（政治、経済とも動きが激しい。状況によっては授業内容が大幅変更となる可能性もある。できるだけタイムリーなテーマを取り上げたいと考えている）

#### <成績評価方法>

政治、経済両分野終了時に試験を行う。論述式で1ないし2問を出題する。文字数は最低でも1000字は求めたい。

#### <教科書・参考文献>

教科書は指定しない。授業時にレジュメ、資料を配付する。参考文献は必要に応じて紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

長引く経済危機は、政治経済を問わず仕組みそのものを問い直している。日本と世界は大きな転換点に立っており、傍観していると流される懸念が大きい。新聞などのメディアに注目し時代感覚を磨いてほしい。

#### <学習到達目標>

新潟県の政治・経済の現状と課題を認識し、地域問題への関心を高める。地方を活性化させるのはそこに暮らす人々の問題意識と意欲である。受講者一人一人が主権者であり、実践者である。そうした認識を育て、物事を主体的に考える習慣を身につける。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	福祉社会論	2	後	阿波根剛史
16年度以前	基 礎	3 年	現代社会と福祉			

選択

<授業目的>

現代社会のありかたと福祉の仕組みは深く結びついています。少子高齢化が進み、福祉のシステムは大きな転換点に来ています。また、わが国では昨年夏の政権交代によって、これまでの国や自治体の福祉行政のあり方に変化の兆しも見られます。この講義では、自由や平等といったやや抽象的なトピックを論じつつ、現在の日本が直面している様々な課題を浮き彫りにすることを目標にします。NPO・ボランティアについては、私が以前から取材・調査している事例についても紹介する予定です。また、可能ならば福祉・ボランティア関係者など、ゲストスピーカーを呼ぶことも考えています。「地方自治論」の内容と重なり合う部分もあり、受講生の皆さんにはできるだけ積極的に新聞を読むことを期待します。

<各回毎の授業内容>

1、

イントロダクション

2、

現代社会について

3、

自由と平等について(1)

4、

生活保護制度(1)-前史

5、

生活保護制度(2)-現行制度

6、

生活保護制度(3)-ビデオ視聴

7、

医療保険制度(1)

8、

医療保険制度(2)

9、

年金制度(1)

10、

年金制度(2)

11、

介護保険制度(1)

12、

介護保険制度(2)

13、

ボランティア・NPOについて(1)

14、

ボランティア・NPOについて(2)

15、

試験

<成績評価方法>

出席＋平常点30％、試験70％を予定しています。

<教科書・参考文献>

・教科書は特に指定しませんが、参考文献は講義の中で、その都度紹介します。

<受講に当たっての留意事項>

・上記の授業内容はこのシラバス執筆時点での暫定的なものであり、大幅に変更する可能性もあります。正式な講義内容、スケジュール等、詳細については開講時に説明します。

<学習到達目標>

これまでなじみのなかった福祉の世界にできるだけ興味を持ってもらうことが目標となります。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	基 礎	3 年	地域経営論	2	後	平山征夫

自由（卒業要件には含まれない科目）

#### <授業目的>

地方自治制度を中心に地域は長年国を支えてきた。しかし現在地域は進みかけた地方分権が停滞しているだけではなく、地域経済に停滞と財政難、国の支援システムの崩壊などから、夕張市問題に象徴されるようにその維持すら問題となっている。

こうした厳しい状況を打開するには、どうしたらよいか。地域の諸問題を地域が持つあらゆる力を結集し、これをマネジメントする「地域経営」の考え、手法を導入で、乗り切ることが求められている。このことは社会人として生きるすべての人々にとって、地域で生きる知恵として必修課題になっている。必要な地域人としての知識と実践力を身につけるようにしたいと思います。

#### <各回毎の授業内容>

1. 地域とは何か―地域が果たしてきた役割と新たな課題
2. 地域の抱える課題の背景―取り巻く客観情勢等の変化
3. 地方自治の現状―国と地方の関係と構造改革
4. " ―一国が地方を縛る仕組みとその限界
5. 地方財政の現状と地方分権の推進の必要性―三位一体の改革の意味と評価
6. 地域活性化の手段としての地域づくり―地域づくりの果たした意義と限界
7. " ―実際事例の研究と演習
8. " ―新たに必要な総合的「地域経営」の概念
9. 地域自立・維持のため必要な諸政策―地域農業と商業の再生策はあるか
10. " ―地域活性化のための産業政策
11. " ―地域の中小企業金融、地域の環境政策
12. " ―地域における都市づくり
13. " ―地域持続のための課題と対策としての総合経営
14. 地域は自立できるか―地方分権が必要な本当の意味と本源的所得
15. 試験

#### <成績評価方法>

期末試験（理解度テストと小論文など）の結果で判定

#### <教科書・参考文献>

教科書は使用しません。参考書はその都度紹介します。授業は毎回、レジュメと参考資料を配布して行います。

#### <受講に当たっての留意事項>

本講座は大きな目的として地域問題を通じて、現状の政治・経済・社会を理解し、見る眼を養うことにおきています。そのため、毎回その時点で理解しておいたほうがよいと思われる時事問題等（例えばサブプライムローン問題など）について、討議と解説を加えながら授業を進めますので、ニュース等に十分関心を持って臨んでください。

#### <学習到達目標>

卒業後社会人として活動するのに最低必要な社会の仕組み等を理解し、地域人としても活躍出来るだけの知識を身につけるようにしたい。

# 共通科目



# 1 年共通科目（後期）

ワークショップ実践論 1  
国際政治学  
経営と組織  
ネットワークコンピューティング  
社会情報システム

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
20年度以降	共 通	1 年	ワークショップ実践論 1	1	後	小林元裕・佐々木寛 （情報文化）
19年度以前	共 通	1 年	ワークショップ実践論 1			

20年度以降選択 19年度以前自由（卒業要件には含まれない科目）

<授業目的>

個々の研究テーマをいかに「実践的」に探求するか。それが本授業の最大のテーマである。基礎科目「国際交流インストラクター演習 1・2」が、ワークショップやファシリテーターという新たな方法との「出会い」だったとすれば、本授業はその「応用」と「発展」を目指す。すなわち、「国際交流インストラクター演習 1・2」があくまでも教員から与えられた課題に取り組む授業なのに対し、本授業は学生自らが問題意識に沿ってテーマを設定し、それぞれのワークショップ内容を深める。問題のありかを自分たちで見つけ、その問題を解くための方法も自主的に探究するというまったく新しい形式の授業である。

具体的には、担当教員の調整の下、まず開講当初に、受講者全員で各自の問題意識に沿ったグループ分けを行う。その後は、それぞれのグループが設定した「問い」に対して、必要に応じて講師を招聘し、各種リサーチを行い、プレゼンテーションを行う。講師招聘の際には、どの講師を呼ぶのかについてもグループ内で議論し、講師との連絡・交渉も学生自らが行う。担当教員は、各グループによるテーマ設定、授業の進行全般に渡って助言・指導を行うが、まさに参加学生による自主的な活動に重点が置かれる。

なお本授業は、「国際交流インストラクター演習 1・2」と並び、2007年度に文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択された試みである。

<各回毎の授業内容>

1. イントロダクション―「国際交流インストラクター演習 1・2」との関連についてなど。
2. 課題設定とグループ分け
3. グループワーク①―課題分担とリサーチ
4. グループワーク②―プレゼンテーション準備
5. プレゼンテーション①
6. プレゼンテーション②
7. 招聘講師による講演／実演①
8. 招聘講師による講演／実演②
9. グループワーク③―問題点の確認と課題の再検討
10. プレゼンテーション③
11. プレゼンテーション④
12. 招聘講師による講演／実演③
13. 招聘講師による講演／実演④
14. グループワーク④―問題点の確認と課題の再構成
15. まとめ

<成績評価方法>

出席、授業における各グループのパフォーマンス、グループ内での各個人のパフォーマンス、期末レポートによって評価する。

<教科書・参考文献>

授業の際に配布する。

<受講に当たっての留意事項>

国際交流インストラクター演習 1」もしくは「同演習 2」をすでに履修していることが望ましい。自分でテーマを見つけ、リサーチをして、講師の話を聞いて、それを自分たちのワークショップに生かす。そしてそこで学んだことをレポートにまとめる。積極的な学生の履修を期待する。

<学習到達目標>

本授業では、新たな知識の獲得や問題発見の技術を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力及び実践的な学力の向上を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	国際政治学	2	後	小澤治子（情報文化）
16年度以前	共 通	1 年	国際政治論			

選択

#### <授業目的>

この科目のねらいは、第二次世界大戦後における国際政治の決定要因の一つであった東西冷戦構造の形成と展開、さらには崩壊過程を考察し、また冷戦構造崩壊によって生じた様々な問題を理解することによって、現代国際政治の基本的仕組みについての認識を深めることである。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 現代の国際政治の特色
- 2 冷戦の始まり
- 3 ヨーロッパにおける冷戦構造の形成
- 4 アジアにおける冷戦構造の形成
- 5 米ソ協調的競争体制の成立
- 6 国際政治の多極化(1)
- 7 国際政治の多極化(2)
- 8 核軍備管理と緊張緩和
- 9 緊張緩和の後退
- 10 冷戦構造の崩壊(1)
- 11 冷戦構造の崩壊(2)
- 12 冷戦後の軍縮安全保障問題(1)
- 13 冷戦後の軍縮安全保障問題(2)
- 14 冷戦後の軍縮安全保障問題(3)
- 15 21世紀の国際政治の展望

#### <成績評価方法>

学期末試験の成績と授業ごとに提出するコメント・ペーパーによって、成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に使用しない。最初の授業時に教科書に代わる資料集を配布する。

また講義内容についてのプリントを毎回配布する。

参考文献は、講義の中で随時紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

主な関連科目として、「平和学」、「国際政治史」がある。

#### <学習到達目標>

冷戦構造の形成と展開、またその崩壊過程を学ぶことを通じて、今日の国際政治を考える視点を養う。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	経営と組織	2	後	大野富彦 (情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	経営と組織			

17年度以降情報文化学科選択 情報システム学科必修  
16年度以前は選択

**<授業目的>**  
本講義は、今後、経営について深く学んでいくために、次の2つを目的とします。(1)経営戦略論および経営組織論における基礎知識を理解すること、(2)それらの理論を適用したり応用したりして現実の企業経営を分析する能力を身に付けることです。講義は、理論の説明に具体的な事例を交えて、できるだけわかりやすく説明していきます。

**<各回毎の授業内容>**

1. Introduction 講義概要、理論とは、経営学と現実世界、企業経営をイメージする
2. 経営の基本 経営理念、CSR、マネジメントサイクル
3. 経営戦略とは 経営戦略とは、全社戦略と事業戦略の関係
4. 全社戦略 ドメイン、PPM(プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)
5. 事業戦略(1)ポジショニング・アプローチ① SWOT分析、ポーターの5つの競争要因分析
6. 事業戦略(2)ポジショニング・アプローチ② ポーターの基本戦略
7. 事業戦略(3)資源ベース・アプローチ① 資源とは、バーニーのVRIOフレームワーク
8. 事業戦略(4)資源ベース・アプローチ② 地域資源活用、ポジショニング・アプローチとの比較
9. 経営組織とは 組織とは、なぜ組織が形成されるのか
10. マクロ組織論(1) 組織構造の特徴(複雑性、公式性、集権性)
11. マクロ組織論(2) 組織形態(機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織など)
12. ミクロ組織論(1) 個人行動と集団活動
13. ミクロ組織論(2) リーダーシップ、プロジェクトとプロジェクトマネジメント
14. 今後の戦略と組織 「経営の未来」についての考察
15. まとめと試験

**<成績評価方法>**  
・期末試験で100%評価します。

**<教科書・参考文献>**  
・教科書は使いませんが、下記の書籍を推薦します。  
青島矢一・加藤俊彦「競争戦略論」、東洋経済新報社  
榊原清則「経営学入門(上・下)」、日本経済新聞社  
沼上幹「組織戦略の考え方」、ちくま新書  
ゲイリー ハメル「経営の未来」、日本経済新聞出版社

**<受講に当たっての留意事項>**  
本講義は、経営学における中心的な領域のひとつになります。理論を貪欲に吸収してください。

**<学習到達目標>**  
経営学における戦略論、組織論を学ぶ上での論理を身に付けることができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	ネットワークコンピューティング	2	後	石川 洋 (情報システム)
16年度以前	専 門	1 年	分散コンピューティング			

17年度以降情報文化学科選択 情報システム学科必修  
16年度以前選択

<授業目的>  
現代社会の基盤となるオープンな情報通信ネットワーク（インターネット）について、プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク、通信機器とネットワークソフトなどの観点から学習する。基本情報技術者試験（午前問題）やインターネット検定に出題される内容を学習する。

<各回毎の授業内容>  
1 ネットワーク技術を学ぶ意義、現在のインターネットの使われ方  
2 ネットワークアーキテクチャ  
3 TCP/IP-通信プロトコルのデファクトスタンダード  
4 TCP/IPで利用されるアドレス  
5 伝送制御 ベーシック手順、HDLC手順  
6 変調、符号化、アナログ通信、デジタル通信  
7 伝送技術 誤り制御、同期制御、多重化方式、圧縮・伸張方式  
8 伝送方式と通信回線 交換方式、パケット交換  
9 LANとWAN 組織の大きさとLAN、LANの構成装置  
10 LAN間接続機器 リピータ、ブリッジ、ルータ  
11 インターネットの各種サービスその1 DNS,HTTP,FTP  
12 インターネットの各種サービスその2 SMTP,POP3,NNTP,TELNET,SNMP,DHCP  
13 ネットワークの性能、ネットワーク関連法規  
14 ネットワークの応用、通信機器とネットワークソフト  
15 まとめと試験

<成績評価方法>  
・成績は期末試験（70%）と宿題レポート（30%）により評価する。  
・試験では講義に沿った問題を出題する。持ち込みは不可とする。

<教科書・参考文献>  
・教科書 2010年版 基本情報技術者テキスト No.4 ネットワーク技術  
日本情報処理開発協会監修、増進堂（2010）  
・参考文献 随時紹介

<受講に当たっての留意事項>  
・企業で行われている電子商取引、電子決済など、インターネット上での仕事をめざす学生や、ネットワーク関連の資格取得をめざす学生には有意義である。

<学習到達目標>  
・代表的なネットワークアーキテクチャ（OSI、TCP/IP）の概要、階層構造、各層の役割について理解する（試験20%、レポート10%）。  
・データ伝送の種類、仕組み、特徴について理解する（試験20%、レポート10%）。  
・実用的なネットワーク（LAN、WAN）の特徴、仕組み、プロトコル、提供される多様なサービスについて理解する（試験30%、レポート10%）。  
(関連する学習・教育目標:E)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	1 年	社会情報システム	2	後	澤田雅浩

情報文化学科は選択 情報システム学科は必修

#### <授業目的>

平成17年版情報通信白書の冒頭には、『u-Japanとは、今後本格化する少子高齢化社会の中での様々な課題がICTによって解決された2010年の我が国の姿を指す。その理念は、「ユビキタス（あらゆる人やモノが結びつく）」、「ユニバーサル（高齢者等でも簡単に利用できる）」、「ユーザー中心（利用者の視点が融けこむ）」、「ユニーク（個性ある活力が湧き上がる）」の4つからなるが、その中心は「ユビキタス」であり、「人與人」だけでなく、「人とモノ」、「モノとモノ」のコミュニケーションが簡単になされるところが特徴である。』と書かれている。平成14年に策定された新潟市情報通信技術活用推進計画は、『市民ニーズに的確に対応した行政サービスを実現するとともに、効率的な行政運営や地域の活性化を図っていくため、今後の情報通信技術活用について、基本的な考え方及び実施する施策についてまとめたものです。』と述べられている。このような計画に基づいて現代社会は、ITあるいはICTを有効に利活用した高度ネットワーク社会へと展開していくが、言い換えれば情報通信技術が社会や生活、人間行動に、より深く浸透し、社会全体が大きく変わって行くものと考えられるが、それを正しく理解するためには、まず情報通信技術に関する工学的な知識が必要であり、同時に社会の制度や仕組みについての知識も必要であり、この授業では「e-Japan」を教材として、その両面から、従来、情報化と言ってきたもの、つまり、これからのユビキタス社会についての全般的・基礎的な知識の習得を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. はじめに（この授業のガイダンス）         | 9.（特別講義）           |
| 2. u-Japan（ユビキタスネット・ジャパン）とは | 10.（特別講義）          |
| 3. ユビキタスネットワークの活用事例         | 11. 情報社会（学）へのプロローグ |
| 4. ICT利用の現状1（市民生活）          | 12. 情報統計（学）へのプロローグ |
| 5. ICT利用の現状2（企業活動）          | 13. 社会情報（学）について    |
| 6. 情報通信機器および技術について          | 14. 社会と情報          |
| 7. 安心・安全なICT利用について          | 15. まとめ、テスト        |
| 8. 電子政府・電子自治体について           |                    |

#### <成績評価方法>

定期試験（記述式）によって評価する（100%）。

#### <教科書・参考文献>

平成19年版情報通信白書・・・これは総務省のホームページに全文が掲載されているので、各自ダウンロードして使用すること。プリントアウトして持参することが望ましい。

#### <受講に当たっての留意事項>

大教室での講義となるため、正面スクリーンの文字が見えにくいことが考えられる。

#### <学習到達目標>

- ・ICTに関する新しい技術についてその原理や仕組みを説明できること（60%）
- ・社会システムの視点から、ICTの技術が現実社会をどのように変革するかという事柄を考察し、論じることができること（40%）

# 2 年共通科目（後期）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	共 通	2 年	企業と経済	2	後	大野富彦 (情報システム)
16年度以前	共 通	1 年	日本の経済			

選択

#### <授業目的>

本講義は、経済学と経営学とにまたがった研究領域にある「組織の経済学」のなかで、その主要理論である「取引コスト理論」を扱います。これは、経済や企業活動などについて「コスト」に着目して分析するものです。本講義を通じて、企業活動など経営学で扱われる様々な対象を論理的に考える力を養ってもらいます。講義は、理論の説明に事例を交えて、できるだけわかりやすく説明していきます。

#### <各回毎の授業内容>

- |                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| 1. Introduction         | 講義概要、新古典派経済学の前提、現実の経済活動      |
| 2. 情報の非対称性下での経済活動(1)    | 情報の非対称性、逆選択、モラルハザード          |
| 3. 情報の非対称性下での経済活動(2)    | 取引コストとは                      |
| 4. コースの取引コスト理論          |                              |
| 5. ウィリアムソンの取引コスト理論(1)   |                              |
| 6. ウィリアムソンの取引コスト理論(2)   |                              |
| 7. 垂直的統合戦略と取引コスト理論      |                              |
| 8. 水平的多角化戦略と取引コスト理論     |                              |
| 9. 取引コスト理論への批判と新しい企業の理論 |                              |
| 10. アウトソーシング            |                              |
| 11. ITの進展と取引コスト(1)      | オープン化とモジュール化                 |
| 12. ITの進展と取引コスト(2)      | アウトソーシングからBPO・KPOへ、フラット化する世界 |
| 13. ITの進展と取引コスト(3)      | アンバンドリングとインフォメディアリ           |
| 14. 今日の議論               |                              |
| 15. まとめと試験              |                              |

#### <成績評価方法>

- ・期末試験で100%評価します。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書は使いませんが、下記の書籍を推薦します。  
 藪下史郎「非対称情報の経済学」、光文社新書  
 ダウマ（著）、スクルーダー（著）、丹沢安治ほか（翻訳）「組織の経済学入門 第3版」、文真堂  
 菊澤研宗「組織の経済学入門—新制度派経済学アプローチ」、有斐閣  
 伊藤元重「ビジネス・エコノミクス」日本経済新聞社

#### <受講に当たっての留意事項>

本講義は、経営を経済学的な視点から理解したいという人を対象にします。ただし、数学的な表現はせずに、平易な説明を心がけます。

#### <学習到達目標>

経済・経営現象のメカニズムを論理的に考えることができる。

# 3 年共通科目（後期）





# 専門科目



# 1 年文化専門科目（後期）

ロシア語 1  
中国語 1  
韓国語 1  
アメリカ英語 1  
ロシア史概説  
中国史概説  
韓国朝鮮史概説  
アメリカ史概説

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	ロシア語 1	3	後	未 定
16年度以前	専 門	1 年	ロシア語 1			
選択必修						
現在未定のため決定次第本学ホームページにおいて公開します。						



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	中国語 1 A・B		後	區 建英（情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	中国語 1 A・B			

#### 選択必修

#### <授業目的>

中国語は声調言語であり、その言葉の流れは歌のように聞こえます。この特徴が日本語にも英語にも見られません。発音の勉強は難しく感じられるかも知れないが、発音を正しく身につければ、中国語の会話は美学的センスを持ち、コミュニケーションの相手に素晴らしい感じを与えます。この授業は長年来の発音教育の経験を生かして、声調・単母音・複母音・子音などを正しくて美しく発音するよう、ネイティブに近いものになるよう、徹底的に指導します。同時に、最も基本的な文法と常用単語をしっかりと身につけるよう指導し、さらにその活用として、パートナー或いはグループでの作文練習や会話活動を行い、これによって初歩的な会話能力を身に付けさせます。

#### <各回毎の授業内容>

##### 一、発音部分

中国語の基礎として発音と声調を重点に置き、同時に、中国語漢字と日本語漢字の書き方および意味の違いを区別するよう注意します。

- 1、中国語発音の概要と単母音
- 2、声調と複母音
- 3、子音
- 4、子音
- 5、鼻母音
- 6、軽声と各種の変調
- 7、発音の総合練習

##### 二、会話入門

会話の様々な話題をめぐって大量に単語を活用することによって、友人交際、留学、ビジネスなど中国滞在時の初歩的な実用会話を身に付けさせ、その中で下記の文法ポイントを教えます。

- 8、場所代名詞、4種の疑問文
- 9、新属呼称、数字知識、「有」の構文(1)
- 10、時間詞、名詞述語文
- 11、量詞、連動文
- 12、語気助詞「了」(1)と動相助詞「了」(2)
- 13、選択疑問文
- 14、助動詞「想」と「会」
- 15、総合練習

#### <成績評価方法>

成績は定期試験で評価するが、出席の状況、授業での作文・会話の状況も成績判断の参考になる。

#### <教科書・参考文献>

教科書： 朱継征著『速問即答中国語・入門編』朝日出版社、補足のレジュメ

辞書： 適当な辞書を授業の時に指定

#### <受講に当たっての留意事項>

辞書を購入すること

予習・復習をすること、積極的に作文や会話に取り組むこと

#### <学習到達目標>

正しい発音を身に付け、基礎的な文法を理解し、常用単語をできるだけ多く覚え、各種の練習、とくに会話活動を通じて、単語と文法の活用と口頭作文の能力を身に付けることを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	中国語 1 A・B		後	寺沢一俊
16年度以前	専 門	1 年	中国語 1 A・B			

選択必修

<授業目的>

中国語の正しい基礎を身につける。

<各回毎の授業内容>

ピンイン符号（中国語の発音標記符号）の読み書きができるようにする。発音練習にはできるだけ多くの時間を充たしたい。1冊のテキストを複数の教員が共通使用するため、毎回の授業内容はシラバスと若干異なることがある。

1. 単母音・複合母音と四声

2. 子音一有気音と無気音

3. 子音－そり舌音とその他子音

4. 鼻音をともなう母音

5～6. 発音の総合練習

7. 動詞述語文

8～9. 数字と形容詞述語文

10～11. 比較文

12～13. 時間の表現

14. 名詞述語文

15. 定期試験

<成績評価方法>

出席と発音・声調の習熟度を重視する。出席が2／3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト、出席率、定期試験の結果を総合的に判断する。

<教科書・参考文献>

教材:『速問即答中国語 入門編』 朱継征著 朝日出版（2700円＋税）

参考文献:『はじめての中国語』相原茂著 講談社現代新書987（680円）

<受講に当たっての留意事項>

発音練習をする際には、大きな声で歌うように発声すること。テキストの単語や文は何回も朗読して暗誦できるまで練習すること。ピンイン符号は読み・書きが完璧にできるまで繰り返し練習すること。

<学習到達目標>

発音・声調の徹底した訓練から始め、中国語の発音表記符号であるピンイン符号の「読み・書き」ができるようにしたい。さらに学習事項を応用し、自分の日常生活について中国語で表現できるようにしたい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	中国語 1 A ・ B		後	笠原ヒロ子
16年度以前	専 門	1 年	中国語 1 A ・ B			

選択必修

#### <授業目的>

中国語の発音を習得し、豊富な語彙と用例を学んで、基本文型を理解し、基礎的な会話と作文ができる。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 声調、単母音
- 2 複母音
- 3 有気音、無気音
- 4 子音
- 5 鼻母音
- 6 発音の総合練習
- 7～8 動詞述語文
- 9～10 形容詞述語文
- 11～12 名詞述語文、主述述語文
- 13～14 連動文、アスペクト
- 15 定期試験

#### <成績評価方法>

授業参加度、小テスト、定期試験を勘案して総合評価をおこないます。

#### <教科書・参考文献>

『速問即答中国語 入門編』 朱継征著 朝日出版社

#### <受講に当たっての留意事項>

中国語を習得するに、その過程での努力に応じた結果を得られるとはかぎりませんが、努力なしではその成果は得られません。繰り返し声を出してトレーニングを積んでください。

テキストに添付されているCDを普段から利用してください。

#### <学習到達目標>

中国語の基本的な話す、聞く、書く、読むの四つの力を養います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	韓国語 1 A・B		後	申 銀珠（情報文化） 朴 修禧
16年度以前	専 門	1 年	韓国語 1 A・B			

選択必修

#### <授業目的>

韓国・朝鮮は日本に最も近い国である。言葉も日本語とよく似た構造をもっており、日本人には最も習得しやすい外国語といえる。この授業では、まず、表音文字としてのハングルの構成を正しく理解し、読み書きを十分に練習して単語・短文の自然な発音に慣れるようにする。さらに日本語と比較しながら韓国語の基本文法及び文型を学習する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 예비편 母音字母と子音字母の書き方と発音(1)
2. 예비편 母音字母と子音字母の書き方と発音(2)
3. 예비편 バッチムとしての子音字母の発音と音韻変化
4. 제1과 안녕하세요?
5. 제2과 여기가 학생 식당입니다.
6. 제3과 이것이 무엇입니까?
7. 제4과 집이 어디에 있습니까?
8. 제5과 종합 연습
9. 제6과 내일 우리 집에 오세요.
10. 제7과 생일 축하해요!
11. 제8과 무슨 음식을 좋아하세요?
12. 제9과 대학교에서 한국어를 배웁니다.
13. 제10과 종합 연습(1)
14. 제10과 종합 연습(2)
15. 定期試験

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

『韓国語初級Ⅰ』（国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局）

#### <受講に当たっての留意事項>

基礎から始める外国語なので、欠席しないこと。毎回宿題が与えられ、随時小テストも行われる。しっかりついてきてください。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	韓国語 1 A・B		後	吉澤文寿（情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	韓国語 1 A・B			

選択必修

#### <授業目的>

韓国・朝鮮は日本に最も近い国である。言語も日本語とよく似た構造をもっており、日本人にはもっとも習得しやすい外国語といえる。この授業では、慶熙大学校のテキストを用いた2コマの授業を補強するために、日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とする者の特性を生かした言語学習を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. 基本母音字母と合成母音字母(1) (その1)
2. 基本母音字母と合成母音字母(1) (その2)
3. 基本子音字母 (その1)
4. 基本子音字母 (その2)
5. 合成母音字母(2) (その1)
6. 合成母音字母(2) (その2)
7. パッチム (終声)(その1)
8. パッチム (終声)(その2)
9. 私は～です。저는 ～ 입니다.(その1)
10. 私は～です。저는 ～ 입니다.(その2)
11. 時間ありますか。시간이 있어요?(その1)
12. 時間ありますか。시간이 있어요?(その2)
13. それは何ですか。그게 뭐예요?(その1)
14. それは何ですか。그게 뭐예요?(その2)
15. まとめ

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子『新・チャレンジ！韓国語』白水社、2009年、定価：2300円＋税

#### <受講に当たっての留意事項>

基礎から始める外国語なので、欠席しないこと。毎回宿題が与えられ、随時小テストも行われる。しっかりついてきてください。

#### <学習到達目標>

言葉に親しみつつ、話す、聞く、書く、読むという基礎的な言語能力の習得を目標とします。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 A・B		後	矢口裕子（情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	英語 1 A・B			

選択必修

#### <授業目的>

この授業では、アメリカに1年間の語学留学をする日本人学生が遭遇するさまざまな状況を描いたテキストを用い、アメリカの大学・生活に必要な英語表現を学ぶ。本学で2年後期に実施される派遣留学に参加する学生はもちろん、旅行で英語圏に行く予定や希望をもつ学生にも役立つ内容である。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 イントロダクション
- 2 Unit 1 : Looking for Something New
- 3 Unit2: Off We go: Here We Are!
- 4 Unit3: Hotel or Resort?
- 5 Unit4: Now We Are International Students
- 6 Unit5: Yukiko's Homestay Family
- 7 Unit6: Hiromi's Homestay Family
- 8 Unit7: Comparing First Impressions
- 9 Unit8: Yukiko's Dormitory Life
- 10 Unit9: Hiromi Finds an Apartment
- 11 Unit10: Outing with Other International Students
- 12 Unit11: Holiday Season
- 13 Unit12: Hey! We Learned a Lot
- 14 Unit13: Tears in Eyes
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

授業中の発表、提出物、小テスト、期末試験（レポート）を総合的に評価。

#### <教科書・参考文献>

松柏社『語学留学に行こう！』

#### <受講に当たっての留意事項>

予習した上で授業に望み、私語は慎むこと。辞書持参のこと。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 A ・ B		後	アンジェラ オオタ
16年度以前	専 門	1 年	英語 1 A ・ B			

選択必修

<授業目的>

The aims of this class are:

- to build student confidence in their speaking, and listening abilities
- to encourage students to talk about their personal interests, and expose them to native speakers expressing their likes and dislikes in English
- to familiarize students with useful conversational question and sentence patterns of English
- to give students further listening practice with the topics discussed in class through weekly dictation homework

<各回毎の授業内容>

Weeks 1 and 2: Introductions.

The first two classes we will be getting to know each other, and choosing the textbook topics we are interested in talking about

Weeks 3 to 13:

Each week a different topic will be studied – 11 topics in total will be covered

Each lesson will include:

- quiz on last lesson's topic & check listening dictation homework
- games and activities to get familiar with the topic questions
- listening to native speaker responses
- pair conversations based on the day's topic with, and then without text support
- writing about your partner's responses

Week 14: review class

Week 15: Final exam

<成績評価方法>

Weekly quizzes 小テスト 25%

Self evaluation & participation 自己評価及び授業の参加度 25%

Final exam 最終試験 25%

Homework assignments 宿 題 25% - a pass can not be achieved if no assignments have been submitted

提出のない場合は不合格になるので注意すること。

<教科書・参考文献>

Text: Topic Talk Second Edition

Other materials: English/Japanese and Japanese/English Dictionaries

Notebook

<受講に当たっての留意事項>

Please be advised that being late, or missing classes means you miss class marks for quizzes, group work and participation.

1 回授業を欠席すると当日の小テストと出席点の両方を失うことになるので気をつけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 A		後	金沢泰子
16年度以前	専 門	1 年	英語 1 A			

選択必修

<授業目的>

① CALLシステムを活用してTOEIC受験対策演習をおこなう。  
Listening練習、基礎文法の復習、読解練習、オンラインPractice Testを通して基礎力を養成する。

② PC（Word、Excel）を活用した自律学習法を習得する。

<各回毎の授業内容>

授業前半ではListening、Dictation、音読練習を行う。  
音読録音はWMA ファイル形式で保存し提出する。  
授業後半では基礎文法の復習と Reading Sectionの練習問題を行う。  
毎回 Word英文入力による学習記録作成と Excelによるスコア管理を行い、  
学習記録は授業終了時にE-mailで提出する。

1 講義概要、CALL システムの使用法説明  
2 TOEIC 実力診断テスト  
3 Lesson 1 Listening Section  
4 Lesson 1 Reading Section  
5 Lesson 2 Listening Section  
6 Lesson 2 Reading Section  
7 Practice Test 1  
8 Lesson 3 Listening Section  
9 Lesson 3 Reading Section  
10 Lesson 4 Listening Section  
11 Lesson 4 Reading Section  
12 Practice Test 2  
13 Lesson 5 Listening Section  
14 Lesson 5 Reading Section  
15 期末テスト

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題20%、復習確認20%、音読20%、学習記録20%、Test 20%

<教科書・参考文献>

A.Calcote et.al : Multi-Strategy Learning for the TOEIC Test（Asahi Press）

<受講に当たっての留意事項>

4 回以上欠席または課題未提出の場合は受講資格を失う。

<学習到達目標>

①TOEIC 形式の問題に慣れる。  
②PC 活用自律学習の基礎であるブラインドタッチによる英文入力を習得する。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 B		後	本間多香子
16年度以前	専 門	1 年	英語 1 B			

選択必修

#### <授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストとして現在幅広く活用されている。この授業ではTOEIC形式の問題を解くことにより、パートごとの問題形式を把握し、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着をはかる。

#### <各回毎の授業内容>

1. TOEICについて
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit9
11. Unit10
12. Unit11
13. Unit12
14. Unit13
15. 期末試験

#### <成績評価方法>

定期試験60% 小テスト、授業中の活動等40%

#### <教科書・参考文献>

塚野壽一他著:Successful Steps for the TOEIC Test -Revised Edition (成美堂) 2000円

#### <受講に当たっての留意事項>

必ず予習をしてくること。  
欠席が3分の1以上になると試験を受ける資格を失う。  
遅刻2回で欠席1回とする。

#### <学習到達目標>

基本的な文法・語彙の定着をはかる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	ロシア史概説	2	後	A. プラーソル （情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	ロシア史概説			

選択必修

#### <授業目的>

このコースの目的は、ロシア人の直接の先祖である東スラブ部族の結成時代から1917年の社会主義革命までのロシア史においてもっとも重要な出来事、社会の動きとその意義について考えながら、ロシア史の重要点を紹介することである。ロシア社会の歴史的発展に自分の名を残した皇帝や為政者や大将などの活躍について考察していきたいと思う。

#### <各回毎の授業内容>

1. キエフ・ロシア 800-1169年（その1）
2. キエフ・ロシア 800-1169年（その2）
3. 分裂時代 1169-1462年（その1）
4. 分裂時代 1169-1462年（その2）
5. モスクワ公国の創設者たち 1462-1613年
6. ロマノフ朝の初期 1613-1677年
7. 危機 1677-1700年
8. ピョートル大帝の改革 1700-1725年
9. 宮廷革命 1725-1762年
10. エカテリーナ2世の治世 1762-1796年
11. アレクサンドル1世 1801-1825年
12. ニコライ1世 1825-1855年
13. アレクサンドル2世 1855-1881年
14. アレクサンドル3世 1881-1894年
15. ニコライ2世と革命運動 1894-1917年

#### <成績評価方法>

学期末に筆記試験を行う。受験資格を獲得するために、総講義数の2/3出席が必要である。合格のために、講義の自筆ノートが必要である。

#### <教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。

使用テキスト:なし

参考書:ピエール・パスカール著 ロシア史 白水社

#### <受講に当たっての留意事項>

適当なテキストがないため毎回かなりの量の資料を配布する。欠席した者は自己責任で資料をそろえること。

#### <学習到達目標>

ロシア社会史の基礎知識を身につけ、異文化理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	中国史概説	2	後	區 建英（情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	中国史概説			

#### 選択必修

#### <授業目的>

かつて最も富裕な文化帝国と称される中国は、なぜ近代で列強諸国に侵略される対象に転落し、また戦後で途上国となりましたか。その歴史的転換の過程に発生した多くの重大な事件は、現代中国を知るのに不可欠な知識です。というのは、今日の中国に見られる多くの現象はそうした過去の歴史にその要因が求められるからです。この講義は伝統中国から近代国家への転換、具体的にアヘン戦争から中華人民共和国成立までの過程、とくにその過程における日本と中国の関係を説明します。これによって、現代中国における対外関係のあり方、経済発展のあり方、多民族社会のあり方、および民主化の状態を理解するための基本知識と方法を提供します。

#### <各回毎の授業内容>

授業は下記のスケジュールで進めますが、授業の状況によって若干変更する場合があります。

- 1、中国の伝統思想と知性
- 2、伝統中国の民族関係—複合政治構造
- 3、チベットの由来と中国王朝
- 4、伝統中国の対外関係—朝貢体制
- 5、アヘン戦争と二つの国際秩序観
- 6、対外関係の変化と清末の外交
- 7、中国社会の変動—太平天国と洋務運動
- 8、日清戦争と戊戌変法
- 9、義和団運動と辛亥革命
- 10、王朝の終焉と中華民国の多難な出発
- 11、21カ条要求と「五四」運動
- 12、新文化運動と共産主義受容
- 13、国民革命における国共（国民党と共産党）協力
- 14、日中戦争における国共協力
- 15、国共内戦と中華人民共和国の誕生

#### <成績評価方法>

成績は主に定期試験で評価するが、毎回の授業終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問等）を提出してもらう。これを成績評価の対象に加える。出席状況も評価の参考になる。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、授業のテーマ毎に配るレジュメ。参考文献は、授業時に紹介。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義のメモを取りながらよく思考し、コメントを書くこと。レジュメをよく復習し、参考書をも積極的に読むこと。

#### <学習到達目標>

伝統中国から近代国家への転換の過程、主としてアヘン戦争から中華人民共和国成立までの過程を掴み、その重要な出来事を覚え、中国社会のあり方と論理の変化を理解し、現代中国を理解するための基礎を作ります。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	韓国朝鮮史概説	2	後	吉澤文寿（情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	韓国朝鮮史概説			

選択必修

#### <授業目的>

この講義では朝鮮史を古代から現代まで通観する。その際に、世界史（グローバルヒストリー）及び中国を中心とする東アジア世界、そして日本との関係に留意する。この講義を通じて朝鮮の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を学ぶということが単なる事実の暗記ではなく、人間の生を時間の軸を設定して理解するという、すぐれて実践的な営みであるということを理解してほしい。

#### <各回毎の授業内容>

1. 講義の概要、参考文献案内、グローバルヒストリー、東アジア世界史について
2. 原始・古代…古朝鮮から三国時代まで
3. 中世…高麗王朝について
4. 近世(1)…朝鮮王朝前期について
5. 近世(2)…朝鮮王朝後期について
6. 近代(1)…「開国」から日清戦争直前まで
7. 近代(2)…日清戦争、甲午農民戦争、甲午改革、閔妃暗殺について
8. 近代(3)…光武改革、日露戦争直前まで
9. 近代(4)…日露戦争、保護国期について
10. 近代(5)…韓国併合、「武断政治」期の朝鮮
11. 近代(6)…3・1運動、「文化政治」期の朝鮮
12. 近代(7)…戦時体制下の朝鮮
13. 現代(1)…解放から分断体制成立まで
14. 現代(2)…朝鮮戦争から現在まで
15. まとめ

#### <成績評価方法>

定期試験及び小テストによって成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使用しない。講義時にレジュメを配布する。

主な参考文献は次の通りである。初回の講義時に他の参考文献を紹介する。

武田幸男編『朝鮮史』山川出版社、2000年

田中俊明編『朝鮮の歴史 先史から現代』昭和堂、2008年

#### <受講に当たっての留意事項>

受講にあたり、当該の講義内容を予習することを勧める。

#### <学習到達目標>

1) グローバルヒストリーにおける東アジア及び朝鮮の位置、2) 東アジアにおける朝鮮の位置、そして日本との関係、3) 単に「民族」の文脈に回収されない階級、ジェンダーなどからの視点に留意して、受講者が朝鮮の歴史を主体的に学び取ること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	アメリカ史概説	2	後	越智敏夫（情報文化）
16年度以前	専 門	1 年	アメリカ史概説			

選択必修

#### <授業目的>

アメリカ合衆国の現在を作り上げてきた歴史的経緯を確認することによって、その国民形成のプロセスを理解する。多様な集団によって構成されているアメリカにおいて、一元的な政治統合を可能にしている条件について多角的に検討する。また、現在の社会的・経済的格差が生じた政治的・文化的背景、さらにその解決のための施策についても考察する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 はじめに
- 2 北米植民地の形成
  - 2-1 近代世界の成立 (以上、講義1)
  - 2-2 西洋列強による侵略以前の北米大陸 (2)
  - 2-3 西洋列強の海外発展
  - 2-4 コロンブス：発見か到達か (3)
  - 2-5 イギリスによる北アメリカ植民
  - 2-6 植民者像の転換 (4)
- 3 独立
  - 3-1 独立戦争
  - 3-2 独立宣言 (5)
  - 3-3 アメリカ合衆国憲法 (6)
- 4 移民国家の基本原則
  - 4-1 市民から排除された人々 (7)
  - 4-2 アメリカ合衆国発展の特徴
  - 4-3 市民となった人々 (8)
- 5 移民国家の拡大
  - 5-1 領土の拡大
  - 5-2 南北戦争 (9)
  - 5-3 ゴールドラッシュと移民規制法の発生
  - 5-4 1924年移民法 (10)
- 6 移民国家の変質
  - 6-1 大恐慌 (11)
  - 6-2 第二次世界大戦
  - 6-3 戦後の冷戦構造 (12)
  - 6-4 キューバ危機とヴェトナム戦争
- 7 多元的社会的統合
  - 7-1 人種問題と公民権運動 (13)
  - 7-2 1965年移民法
  - 7-5 多文化主義 (14)
- 8 まとめ

#### <成績評価方法>

学期末の筆記試験（持ち込み可）のみで採点。

#### <教科書・参考文献>

教科書なし。各回2～3枚のレジュメを配布する。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。


#### <受講に当たっての留意事項>

アメリカ関連のもっとも基礎的な科目である。また近代ヨーロッパ史に関心をもっていることが望ましい。

#### <学習到達目標>

アメリカ社会の歴史的特質を総体的かつ相対的に理解する。

# 2 年文化専門科目（後期）



ロシア語 3  
中国語 3  
韓国語 3  
アメリカ英語 3  
ロシア文化論  
中国文化論  
韓国朝鮮文化論  
アメリカ文化論  
日本経済史  
東南アジア文化論  
現代ヨーロッパ論  
Advanced CEP4

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	ロシア語 3		後	水上則子
16年度以前	専 門	2 年	ロシア語 3			

選択必修

<授業目的>

この授業の目的は以下の通りである。

1) 正しく読み発音する能力を高める

2) ロシア語 1・2において学んだよりもより高度な文法知識を習得する

3) 頻度が高く重要な語彙を習得する

<各回毎の授業内容>

「NHK 新ロシア語入門」(佐藤純一著)に基づいて、文法事項の解説と練習、単語や語句の解説、本文に即した練習および応用練習を行う。

1 講義のガイダンス プレースメントテスト 第23課

2 第23課

3 第24課

4 第24課

5 第25課

6 第25課

7 第26課

8 第26課

9 第27課

10 第27課

11 第28課

12 第28課

13 第29課

14 第29課

15 試験

第23課から第29課まで扱うことを予定しているが、ロシア語 2 終了時点での到達度に応じて前後する場合がある。また、二授業につき一課の割合で進めることを予定しているが、受講者の習熟度に合わせて調整する場合がある。

授業においては、文法事項と語彙の知識を定着させるための小テストを随時実施するほか、暗誦課題を課す。

<成績評価方法>

小テストの成績を 40 %、暗誦試験の成績を 20 %、定期試験の成績を 40 %として評価する。小テスト実施時、遅刻や欠席のために受験しなかった場合は、その回は 0 点となるので留意すること。ただし、交通機関の障害などやむをえない理由による不在と認められる場合は、追試験などの措置をおこなう。また、小テストの成績が全体の 6 割以下の学生に対しては、期末試験と合わせて小テストの再試験を実施する。

<教科書・参考文献>

「NHK 新ロシア語入門」(佐藤純一著)

他、必要に応じてプリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

欠席が 3 分の 1 をこえた場合は期末試験の受験を認めない。

<学習到達目標>

学んだ語彙・表現・構文を活用して、平易なロシア語の文章を作ることができる。

既習の語彙と平易な構文によって構成されたロシア語の文章を読解できる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2年	ロシア語3		後	中谷昌弘
16年度以前	専 門	2年	ロシア語3			

選択必修

＜授業目的＞

ロシア語2に引き続き同じテキストの23～29課をもって文法、語彙、会話法をマスターするように心がける。文法の練習などを教員が用意する。

＜各回毎の授業内容＞

1. Урок 23 Сколько время? (時間の表現)
2. 同 練習
3. Урок 24 Какое сегодня число? (年月日の表現)
4. 同 練習
5. Урок 25 Миша прочитал книгу. (動詞の体 その1)
6. 同 練習
7. Урок 26 Я прочитаю текст. (動詞の体 その2)
8. 同 練習
9. Урок 27 Я покупаю много книг. (動詞の体 その3)
10. 同 練習
11. Урок 28 Он учится русскому языку. (与格を支配する動詞の用法)
12. 同 練習
13. Урок 29 Мой отец был инженером (述語と造格)
14. 同 練習
15. 試験

＜成績評価方法＞

出席率と学期末試験の結果によって成績を評価する。

＜教科書・参考文献＞

佐藤純一著『新ロシア語入門』、NHK出版、2000年

＜受講に当たっての留意事項＞

欠席が三分の一を超えると受験資格がなくなる。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	中国語 3		後	區 建英（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	中国語 3			

#### 選択必修

##### <授業目的>

中国語 1 の基礎の上で、単語の量を蓄積していき、より高いレベルの文法知識を学び、文章の解体と中国語 2 で身につけた語学力を踏まえて、いっそう単語の量を増やし、文法の知識を拡大し、中国語の会話能力を向上させると同時に、読解能力の訓練も行います。この授業は引き続き、文型の活用を中心にしてパートナー或いはグループでの作文練習や会話活動を行い、中国語によるコミュニケーションを実践します。また、中国語の新聞記事を選んで読解と問答を行い、できれば、中国語の映像資料をも導入し、いっそう臨場感と実用性に富んだ言語学習を指導します。

##### <各回毎の授業内容>

各回の会話内容に下記の文法を組み込んで教え、また、諸分野での時事の読解を指導します。

- 1、動詞の諸形態のまとめ
- 2、形容詞の諸形態のまとめ
- 3、時事—経済発展
- 4、副詞の諸形態のまとめ
- 5、助動詞の諸形態のまとめ
- 6、時事—環境保護
- 7、前置詞の諸形態のまとめ
- 8、文章構造分析の方法
- 9、時事—国際関係
- 10、文章における修飾形式(1)
- 11、文章における修飾形式(2)
- 12、時事—政治・歴史
- 13、文章における主従複文の諸関係
- 14、時事—社会風貌
- 15、総合練習

##### <成績評価方法>

成績は定期試験で評価するが、授業の出席や努力の状況と練習の成績も参考になる。

##### <教科書・参考文献>

教科書： 未定

そのほか： 必要に応じてコピー資料配布

##### <受講に当たっての留意事項>

授業の時、辞書を携帯すること

会話能力の訓練はもちろん、中国語の新聞記事の読解にも積極的に挑戦すること

##### <学習到達目標>

文型を軸として単語を大量に活用するような会話能力を目指しながら、文法理解は文章構造の分析へと発展します。また、中国語の新聞記事の読解や映像資料の理解を経験して、中国語の実用能力を高めることを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	中国語 3		後	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	中国語 3			

選択必修

＜授業目的＞

2 年前期までに学んだ中国語の基礎を徹底し、実用的なレベルにまで高める。

＜各回毎の授業内容＞

とくに読む練習を重視する。テキストの会話を暗記し、場面ごとの会話や必要単語を習得する。

1. はじめに
2. 打 電話(1)
3. 打 電話(2)
4. 介 紹(1)
5. 介 紹(2)
6. 換 銭(1)
7. 換 銭(2)
8. 生 病(1)
9. 生 病(2)
10. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習
11. 网上 聊天儿(1)
12. 网上 聊天儿(2)
13. 买 东西(1)
14. 买 东西(2)
15. まとめ

＜成績評価方法＞

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。授業に3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

＜教科書・参考文献＞

楊凱栄・張麗群『表現する中国語Ⅱ』白帝社（2400円＋税）

＜受講に当たっての留意事項＞

中日辞典を必ず携帯すること。

＜学習到達目標＞

中国語のレベルを初級から中級に高め、実際に使える中国語の習得を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	韓国語 3		後	吉澤文寿（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	韓国語 3			

選択必修

#### <授業目的>

韓国語 2 までの学習に引き続き、日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とするものの特性を生かした言語学習を通して、初級段階前半の語学力をさらに高めることを目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. 韓国語 2 の復習
2. 空港に出迎え 마중 나가기 (その 1)
3. 空港に出迎え 마중 나가기 (その 2)
4. 部屋探し 방 구하기 (その 1)
5. 部屋探し 방 구하기 (その 2)
6. 自己紹介 자기소개 (その 1)
7. 自己紹介 자기소개 (その 2)
8. 成珉の家에서 성민의 집에서 (その 1)
9. 成珉の家에서 성민의 집에서 (その 2)
10. 帰り道 돌아가는 길 (その 1)
11. 帰り道 돌아가는 길 (その 2)
12. 1～5 課のまとめ (その 1)
13. 1～5 課のまとめ (その 2)
14. 特別課題授業
15. まとめ

#### <成績評価方法>

出席が 2/3 以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子『もっとチャレンジ！韓国語』白水社、2007 年、定価：2300 円＋税

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席しないこと。毎回宿題を与え、随時小テストも行います。

#### <学習到達目標>

1 年間学んだ韓国語をさらに楽しんでほしいです。基礎的な語学能力のさらなるステップアップを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	韓国語 3		後	朴 修禧
16年度以前	専 門	2 年	韓国語 3			

選択必修

#### <授業目的>

韓国語 1、2 で学習した基本語彙、基礎文法をもとに、連語、語句などを加え、自然な会話ができるように多様な文型練習、発話練習を行う。授業中、具体的な場面を設定し、学習者にスキットを演じてもらう。会話だけでなく、韓国語で簡単な日記・手紙・エッセーなどを書かせ、作文力を向上させる。作文に見られる初級レベルの誤用例などをいっしょに学習する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 제 1과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
2. 제 1과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
3. 제 1과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
4. 제 1과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
5. <復習>
6. 제 2과 구내식당으로 갑시다.
7. 제 2과 구내식당으로 갑시다.
8. 제 2과 구내식당으로 갑시다.
9. 제 2과 구내식당으로 갑시다.
10. <復習>
11. 제 3과 불고기도 좀 시킬까요?
12. 제 3과 불고기도 좀 시킬까요?
13. 제 3과 불고기도 좀 시킬까요?
14. 제 3과 불고기도 좀 시킬까요?
15. 定期試験

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。課題、小テストを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

『아름다운 한국어 1-3』(韓国語教育開発研究員、아름다운 한국어 학교)

#### <受講に当たっての留意事項>

外国語の学習は、まさに「継続が力なり」である。毎回課題が与えられ、随時小テストも行われるので、欠席しないこと。しっかりついてきてください。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 3 A		後	本間多香子
16年度以前	専 門	2 年	英語 3 A			

選択必修

<授業目的>

前期同様TOEIC形式の問題を解くことにより、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着を図る。

<各回毎の授業内容>

1. Chapter 8
2. Chapter 8
3. Chapter 9
4. Chapter 9
5. Chapter 10
6. Chapter 10
7. Practice Test
8. Chapter 11
9. Chapter 11
10. Chapter 12
11. Chapter 12
12. Chapter 13
13. Chapter 13
14. Chapter 14
15. 試験

<成績評価方法>

定期試験50％ 授業中の小テスト30％ 授業への取り組み状況等20％

<教科書・参考文献>

石井隆之他 著 Complete Tactics for the TOEIC Test（成美堂）  
その他として、授業中に文法のプリントを配り、問題演習を行う。

<受講に当たっての留意事項>

一通り教科書の問題を解いてくること。  
遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。  
教科書2章ごとに小テストを行う。

<学習到達目標>

基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 3 A		後	デロシェ ジェラルド
16年度以前	専 門	2 年	英語 3 A			

選択必修

#### <授業目的>

The objective of this course is to encourage the students to communicate freely and with confidence. The course is designed to be a continuation of 2A class. With more emphasis on free communication. The course is also designed in focusing on American English and culture.

#### <各回毎の授業内容>

1. "BQ3" A grade 3 quiz game
2. "Taboo Jr" An English activity that the students will acquire the ability to explain and describe things
3. Listen In 1 "David Nunan" from chapter 6 plus reading comprehension and grammar exercise.
4. puzzle (homework assignment)
5. Movie -on American culture genre
6. "Scattagories" #3,4,5 An English vocabulary activity.
7. Listen In 1 "David Nunan" plus reading comprehension and an English grammar exercise.
8. Puzzle (Homework assignment)
9. "Outburst" #2 An English activity game based on American culture.
- 10,11. "Dealer's Choice" a car selling,buying, bargaining activity. (2lessons)
12. Listen In 1 "David Nunan" plus reading comprehension and grammar exercise
13. "Counterfeits" An exercise that enables the students to explain the differences in their pictures.
14. Review
15. Final test Based on Listen In 1 and reading comprehension and grammar exercise.

#### <成績評価方法>

Final test 40% Homework assignment 20% Class participation 40%

#### <教科書・参考文献>

Prints will be supplied

#### <受講に当たっての留意事項>

The students who participate and attend the lecture will be very successful in passing the class.

#### <学習到達目標>

I hope the lecture will encourage the students confidence and joy of trying to speak English. I would like to see the class tension free and get the students to participate as much as they can.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 3 B		後	本間多香子
16年度以前	専 門	2 年	英語 3 B			

選択必修

**<授業目的>**

TOEIC 試験のテキストを使い、リスニングとリーディングの演習を行う。自習用教材の活用により、継続的に学習し、英語力の養成をはかる。

**<各回毎の授業内容>**

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. 試験

**<成績評価方法>**

定期試験60％ 予習状況、授業への取り組み度、小テスト40%

**<教科書・参考文献>**

鈴木薫 他著 The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate（金星堂） 2000円

**<受講に当たっての留意事項>**

必ず問題を解いてくること。欠席が3分の1以上になると試験を受ける資格を失う。  
遅刻2回で欠席1回

**<学習到達目標>**

総合的な英語力の養成をはかる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アメリカ英語 3 B		後	アンジェラ オオタ
16年度以前	専 門	2 年	英語 3 B			

選択必修

#### <授業目的>

The aims of this course are:

- to increase student fluency in listening and speaking
- to become aware of the importance of gesture and voice intonation in aiding meaning
- to experience the fun of performing in English
- to complete the Star Taxi play and perform it as a class

#### <各回毎の授業内容>

Week 1

- getting to know each other warm up
- pair and group activities to get familiar with sentences/vocabulary from the day's scene
- learn the dialogue and gestures from scene 1 as a whole class and perform in pairs

Week 2 – quiz on scene 1

- pair and group activities to get familiar with sentences/vocabulary from the day's scene
- learn the dialogue and gestures from scene 2 as a whole class and perform in pairs

Week 3 – quiz on scene 2

- pair and group activities to get familiar with sentences/vocabulary from the day's scene
- learn the dialogue and gestures from scene 3 as a whole class and perform in pairs

Week 4 – quiz on scene 3

- pair and group activities to get familiar with sentences/vocabulary from the day's scene
- work with a partner to practice and learn the lines from either scenes 4 or 5, and present them

Week 5 – quiz on scene 4 or 5, as per week 4 performing scenes 6 & 7

Week 6 – quiz on scene 6 or 7, performing scenes 8 & 9

Week 7 – quiz on scene 8 or 9, performing scenes 10 & 11

Week 8 – quiz on scene 10 or 11, performing scenes 12 & 13

Week 9 – quiz on scene 12 or 13, performing scenes 14 & 15 & 16

Week 10 – quiz on scene 14 or 15, performing scene 17 & 18

Week 11 – quiz on scene 17 or 18, performing scenes 19 & 20

Week 12 – quiz on scene 19 & 20, practice of all scenes

Week 13 – dress rehearsal and practice for final performance

Week 14 – live performance of the entire play – each student will prepare 3-4 scenes.

Week 15 – paper test, mini presentation

Homework assignments include listening dictation, reading an English novel, and mini presentations about an actor or actress of student's choice

#### <成績評価方法>

Weekly quizzes小テスト 25%

Self evaluation & participation 自己評価及び授業の参加度 25%

Final exam 最終試験 25%

Homework assignments 宿 題 25% - a pass can not be achieved if no assignments have been submitted

提出のない場合は不合格になるので注意すること

#### <教科書・参考文献>

Text : Star Taxi

Other materials: English/Japanese and Japanese/English Dictionaries

Notebook

#### <受講に当たっての留意事項>

Please be advised that being late, or missing classes means you miss class marks for quizzes, group work and participation.

1 回授業を欠席すると当日の小テストと出席点の両方を失うことになるので気をつけること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	ロシア文化論	2	後	A. プラーソル （情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	ロシア文化論			

選択必修

<授業目的>

ロシアはヨーロッパではなく、東洋でもないとは、しばしば口にされる言葉であるが、この国を旅し、この国の文化の文化に親しんでみると、それが実に的を射た言葉と思わざるを得ない。明治以来、ロシア文学は日本で広く読まれてきたし、音楽やバレエ、絵画なども親近感をもって受け入れられてきた。このコースでは、文学をはじめ、あらゆる角度からロシア文化の分子を紹介したいと思う。

<各回毎の授業内容>

1. 日本とロシア伝統文化タイプの共通点・相違点について（その1）

2. 日本とロシア伝統文化タイプの共通点・相違点について（その2）

3. 現代ロシアの市民生活(1)

4. 現代ロシアの市民生活(2)

5. ロシアの社会生活と文化（教材ビデオ1）

6. ロシアの社会生活と文化（教材ビデオ2）

7. 帝政ロシア-ソ連-現代ロシア 民族と宗教の多様性(1)

8. 帝政ロシア-ソ連-現代ロシア 民族と宗教の多様性(2)

9. ロシアの祭り その歴史・現状・社会的な意味（その1）

10. ロシアの祭り その歴史・現状・社会的な意味（その2）

11. 外国人の目で見たロシア-ミハルコフ監督の映画「シベリアの理髪師」(1)

12. 外国人の目で見たロシア-ミハルコフ監督の映画「シベリアの理髪師」(2)

13. ロシアの音楽文化

14. 音楽の都市サンクト・ペテルブルグ（教材ビデオ）

15. まとめ

<成績評価方法>

教材ビデオを利用するたびに小レポートを書いてもらう。学期末にコースの内容をまとめた最終的レポートを書いてもらう。出席率とレポート提出により成績評価をする。

<教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。

使用テキスト なし

<参考書>

ロシア 原卓也監修、新潮社、1997.

ロシア 目で見える世界の国々 68 国土社 2004

ロシア その民族とところ 川端香男里著 悠思社 1991

<受講に当たっての留意事項>

講義出席率は66%以上でなければならない。レポート総数の79%以上提出する必要がある。

講義を休んだ者は配布されたプリント・資料などを自己責任でそろえること。

<学習到達目標>

現代ロシア社会と文化の基礎知識を身につけ、異文化理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	中国文化論	2	後	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	中国文化論			

選択必修

#### <授業目的>

中国の首都北京は2008年のオリンピック開催によって大きく変化した。北京の中心に位置する故宫を近代的な高層ビルが取り巻くように建つ一方で、庶民の住む伝統的な街並み（胡同）は大規模に取り壊された。目覚ましい経済発展を続ける中国において伝統的な文化はどう受け継がれ、どう変容していくのだろうか。中国文化の現在を様々な観点から考察する。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに－中国とは何か、中国文化とは何か
2. 中国文化を考える 4つの視点
3. 中国文化の歴史的背景 1
4. 中国文化の歴史的背景 2
5. 中国文化の歴史的背景 3
6. 民族の視点 1－民族・言語・宗教
7. 民族の視点 2－漢族の文化・少数民族の文化
8. 政治・経済の視点 1－変容する伝統文化
9. 政治・経済の視点 2－「京劇」から考える文化と政治
10. 都市と農村の視点 1－都市（北京）の文化
11. 都市と農村の視点 2－中国映画から考える伝統文化(1)
12. 都市と農村の視点 3－中国映画から考える伝統文化(2)
13. 地域の視点 1－東西南北の文化
14. 地域の視点 2－食の文化
15. まとめ

#### <成績評価方法>

学期末の試験および授業中の課題（コメント・感想文）によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

#### <教科書・参考文献>

その都度プリントを配布する。

参考文献：岸本美緒『中国社会の歴史的展開』放送大学教育振興会（2600円＋税）

竹内実『中国という世界』岩波新書（780円＋税）

#### <受講に当たっての留意事項>

必ず1週間の新聞報道（中国関係）に目を通したうえで授業に出席すること。

#### <学習到達目標>

中国文化の多様性を理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	韓国朝鮮文化論	2	後	申 銀珠（情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	韓国朝鮮文化論			

#### 選択必修

#### <授業目的>

この授業は、韓国朝鮮の文化及び社会全般について基本的な理解を深めることを目的とする。衣食住などの生活文化、歴史、社会制度、文学、大衆文化などを幅広く取り上げ、多角的に検討する。さらにそれぞれの変貌及び日本との関連など、＜比べる＞ことを視野に入れて、学習者自らが＜今＞＜自分＞の視点から韓国朝鮮人とその社会を理解するようにしたい。

#### <各回毎の授業内容>

1. 風土と生活：衣・食・住の生活文化の日韓比較
2. 現在の韓国人の生活
3. 年中行事と通過儀礼：生活規範としての儒教、＜昔＞と＜今＞
4. 韓国の料理：宮中料理（『チャングムの誓い』）
5. 家族制度：戸主制廃止と新しい家族関係登録簿
6. 族譜と創氏改名：身分社会、その変貌（映画：『族譜』①）
7. 映画：『族譜』②
8. 伝統舞踊と仮面劇：韓国人の情緒、風刺と諧謔の精神『王の男』
9. パンソリの世界：映画『風の丘を越えて』
10. 韓国古典文学の理解：映画『春香伝』
11. 陶磁器にみる韓国人の美意識：洗練さと素朴さ（『高麗人のこころ—青磁』）
12. 日本人と朝鮮（柳宗悦と浅川巧）
13. 韓国の神話・民話
14. 「民画」の世界
15. 韓国近現代文学の理解

#### <成績評価方法>

出席20％、レポート80％（感想文、小テスト、最終レポート）

#### <教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。ビデオ、写真集などを副教材として使う。

#### <受講に当たっての留意事項>

適当な教材がないため、毎回かなりの量のプリントを配布する。欠席した者は自己責任で資料をそろえること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2年	アメリカ文化論	2	後	G. ハドリー （情報文化）
16年度以前	専 門	2年	アメリカ文化論			

選択必修

#### <授業目的>

主として歴史の視点からアメリカ文化を再評価することを目的とした講義を行います。1回又は2回の講義ごとにトピックを決め、講義は英語で行います。アメリカ文化についてあまり予備知識のない人でも興味を持てるカラフルな授業になればと思います。機材と教室の都合がつく限り映像や音の資料も多用する予定です。

#### <各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
2. A Consideration of American Culture 1（アメリカ文化とは何か1）
3. A Consideration of American Culture 2（アメリカ文化とは何か2）
4. Regions of the United States 1（アメリカの地方1）
5. Regions of the United States 2（アメリカの地方2）
6. Salad Bowl（人種のサラダボール）
7. The “Other America”: Women（他民族のアメリカ1）
8. The “Other America”: Minorities（他民族のアメリカ2）
9. America's Political System 1（アメリカの政治制度1）
10. America's Political System 2（アメリカの政治制度2）
11. America and the World 1（アメリカの外交問題1）
12. America and the World 2（アメリカの外交問題2）
13. American Economy 1（アメリカの経済と資本主義1）
14. American Economy 2（アメリカの経済と資本主義2）
15. まとめ

#### <成績評価方法>

主に学期末の試験またはレポートで評価する。

#### <教科書・参考文献>

授業中に指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

私語は厳重に慎んでほしい。出席のための出席は意味がない。自分が欠席した授業のなかで試験・レポートその他に関する指示が伝えられた場合、自分の責任で情報を収集すること。授業内容は一部変更もありうる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	日本経済史	2	後	藤井隆至
16年度以前	専 門	3 年	日本経済史			

選択

#### <授業目的>

明治維新から高度成長期までを対象にしますが、日本経済の本格的な市場経済化は江戸時代から始まっているので、江戸時代の日本経済についても簡単に言及します。授業では日本経済の近代化過程を概観し、特徴と課題を時代ごとに整理します。そのことを通して、日本経済の展開過程を鳥瞰することを目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 江戸時代の日本経済
- 2 明治維新期の経済改革
- 3 殖産興業政策
- 4 松方財政の経済的インパクト
- 5 日清戦争期の工業化
- 6 日清戦争後の日本経済
- 7 日露戦争期の工業化
- 8 日露戦争後の日本経済
- 9 第一次大戦期の日本経済
- 10 1920年代の日本経済
- 11 昭和恐慌下の日本経済
- 12 高橋財政の経済史的意義
- 13 戦時経済の特質
- 14 戦後復興期の経済政策
- 15 高度成長期の日本経済

#### <成績評価方法>

復習レポート50%、定期試験50%

#### <教科書・参考文献>

テキスト等は使用しません。

#### <受講に当たっての留意事項>

私の話をよく聞き、ていねいにノートを取ってください。

#### <学習到達目標>

日本経済の展開過程を大づかみに把握する能力を修得してください。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	東南アジア文化論	2	後	木佐木哲朗

選択

#### <授業目的>

東南アジア地域の、自然・歴史・政治・経済・社会・宗教などと文化の関連を、諸側面から多面的に分析し、それら諸側面の関連性や地域の特性と問題点を探ります。東南アジア地域あるいは東南アジア世界とはどのような文化的特色をもつもののでしょうか。つまり、単なる地理的区分ではなくて、多様であるがある種の共通項ないし紐帯で結び付けられた、ひとつの個性的な「東南アジア」の文化論にせまりたいと思います。また、日本を含む「東アジア」との比較検討もおこないます。

#### <各回毎の授業内容>

（授業の進行によって変更することがある）

- 1、グローバリズムと地域研究の意義
- 2、地理的かつ社会的空間としての東南アジア地域
- 3、自然環境と人々の原点
- 4、生業の変遷と稲作の重要性
- 5、稲作を媒介とした自然と人間の関係
- 6、多様な民族とその移動を主体とした歴史
- 7、固有文化と外来文化の重層性
- 8、歴史の非連続性と国家の意味
- 9、社会の双系制原理と間柄の論理
- 10、移動性と定着性・蓄積化と簡素化・畏怖神と守護神
- 11、社会変容と多様な価値体系
- 12、学校教育と世俗教育や宗教教育
- 13、近代の意味や統合のあり方
- 14、多民族国家のかかえる諸問題
- 15、定期試験

#### <成績評価方法>

席状況等（30％）と定期試験等（70％）

#### <教科書・参考文献>

教科書は指定せず、適宜プリントを配布したり参考図書を紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中私語等は厳禁です。

#### <学習到達目標>

他者を知り自己を認識して相互理解・交流の必要性に気付いてもらいたいと思います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	現代ヨーロッパ論	2	後	臼井陽一郎 （情報文化）
16年度以前	専 門	2 年	現代ヨーロッパ論			

#### 選択

##### <授業目的>

第二次大戦後、ヨーロッパは地域統合を進めていった。それはやがて、EU・欧州連合の誕生というステージに到達する。時あたかも米ソ冷戦構造崩壊の轟音いまだ止まぬときである。世界の政治と経済に与えたインパクトは計り知れない。しかしながら、EUという巨大で複雑な機構を創り進化させることそれだけが、ヨーロッパ統合を意味するわけではない。ヨーロッパ統合の過程では、ドイツとフランスの、西ヨーロッパと東ヨーロッパの、バルカン半島の、そしてキリスト教とイスラム教の間の、和解へ向けた果てしのない努力の一つひとつが、曲がりなりにも着実に積み上げられてきたのである。ヨーロッパ統合とはこの意味において、和解のプロジェクトであると理解することもできるであろう。ただし、画に描いた餅、ただのキレイごと、非現実的な夢想といった部分が多くある。そもそも統合を進めること自体、統合の根本目的を阻害してしまうという皮肉な事態も生じてしまった。この講義では、こうしたヨーロッパ統合の理念と現実と迫っていきたい。

##### <各回毎の授業内容>

- 第1回：ヨーロッパ統合の成果と課題—和解のプロジェクト
- 第2回：ヨーロッパ国際社会の特徴—多国間主義の遺産と多様なデモクラシー
- 第3回：ヨーロッパ国際社会の特徴—EU以外の国際組織（欧州審議会と全欧安保協力機構）
- 第4回：ヨーロッパ統合の背景史①—ドイツ問題と米ソの冷戦
- 第5回：ヨーロッパ統合の背景史②—植民地体制の崩壊と統合の促進
- 第6回：ヨーロッパ統合史・50年代—石炭鉄鋼共同体の設立と防衛共同体の挫折
- 第7回：ヨーロッパ統合史・60年代—経済共同体と原子力共同体の設立と展開
- 第8回：ヨーロッパ統合史・70年代—連合設立構想の失敗と水面下の制度進化
- 第9回：ヨーロッパ統合史・80年代—多数決制の導入と南欧独裁国家の民主化
- 第10回：ヨーロッパ統合史・90年代①—難産のマーストリヒト条約とドイツ統一の負担
- 第11回：ヨーロッパ統合史・90年代②—東欧革命と東方拡大
- 第12回：ヨーロッパ統合史・90年代③—ユーゴ内戦と西バルカンの包摂という課題
- 第13回：ヨーロッパ統合史・2000年以降①—憲法条約とセプテンバー・イレブンの衝撃
- 第14回：ヨーロッパ統合史・2000年以降②—ハード・パワーのアメリカとソフト・パワーの欧州？
- 第15回：試験

##### <成績評価方法>

学期末試験100%。

##### <教科書・参考文献>

授業中に指示する。

##### <受講に当たっての留意事項>

学期末試験は論述式設問40%・選択式設問60%で作成、すべて持ち込み不可とする。合格率（C以上の成績）は例年6割ほどである。

##### <学習到達目標>

ヨーロッパ統合について基本的なことがらに習熟して、新聞・雑誌の現代ヨーロッパ関連の記事を読んで理解できるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	Advanced C E P 4	2	後	G.Hadley, P.Nadasdy, M.Ruddick

選択

#### <授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっています。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

このクラスの受講を希望する学生には、全員プレイスメント・テストを受けてもらいます。テストの結果が一定の基準に達しない場合は、受講が許可されません。受講が許可された学生は、テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Dクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Dクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるということはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が30%を超えると不合格となります。CEPには、スピーキング・リスニングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

#### <成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取組みなどから総合的に判定されます。

#### <教科書・参考文献>


Materials are created by CEP Instructors

#### <受講に当たっての留意事項>

次は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員が説明しているときに、友達と大きな声で話さないこと。居眠りはしないこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。



# 3 年文化専門科目（後期）



ロシア語 5  
中国語 5  
韓国語 5  
アメリカ英語 5  
地方自治論  
東アジア関係論  
現代イスラーム論  
南北問題  
国際経済法  
NGO 論  
環日本海交流論  
地域統合論  
外国語文献講読 2

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	ロシア語 5 A		後	A. プラーソル （情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	ロシア語特講 1 A			

選択必修

#### <授業目的>

ロシア語1・2・3・4 基礎文法の導入に引き続き、名詞的従属文、仮定法、形容詞の比較級と最上級、無人称文、副分詞の意味と用法などに対する理解を深める。「話す」、「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。

#### <各回毎の授業内容>

- |       |          |                 |
|-------|----------|-----------------|
| 1－2   | テキスト第40課 | 名詞的従属文(2)       |
| 3－4   | テキスト第41課 | 仮定法             |
| 5－6   | テキスト第42課 | 接続しЧТО БЫの意味と用法 |
| 7－8   | テキスト第43課 | 形容詞の比較級と最上級     |
| 9－10  | テキスト第44課 | 1人称命令法と3人称命令法   |
| 11－12 | テキスト第45課 | 無人称文            |
| 13－14 | テキスト第46課 | 副分詞             |
| 15    | 末期テスト    |                 |

#### <成績評価方法>

出席率と学期末試験の結果によって成績を評価する。

#### <教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版、1999年

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回宿題あり

#### <学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、文章の読解能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	ロシア語 5 A・B		後	ライサ・プラーソル
16年度以前	専 門	3 年	ロシア語特講 1 A・B			

選択必修

#### <授業目的>

ロシア語1・2・3・4 基礎文法の導入に引き続き、名詞と代名詞の格変化、形容詞の変化・短・長語尾形などに対する理解を深める。「話す」、「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。授業の目的はロシア語会話能力の育成にある。学習者が外国旅行等の際に必要な応じて簡単な会話ができるように授業を計らうつもりである。テキストだけでなく、ロシア文化の基礎知識を養うために、映画や教材ビデオ等を利用する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1－2 テキスト第40課 名詞的従属文(2)
- 3－4 テキスト第41課 仮定法
- 5 中間テスト
- 6 ビデオ教材
- 7－8 テキスト第42課 接続しЧТО БЫの意味と用法
- 9－10 テキスト第43課 形容詞の比較級と最上級
- 11－12 テキスト第44課 1人称命令法と3人称命令法表現
- 13－14 テキスト第45課 無人称文(2)
- 15 末期テスト

#### <成績評価方法>

授業出席率は15%、宿題の実施率は15%、中間テストは20%、期末試験は50%という計算で最終評価を与える。

#### <教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版、1999年  
基礎ロシア語コース・会話編等のプリントを教員が配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席率が授業数3部の1を超えると受験資格がなくなる。宿題が毎回出る。

#### <学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、会話能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	ロシア語 5 B		後	水上則子
16年度以前	専 門	3 年	ロシア語特講 1 B			

選択必修

#### <授業目的>

この授業は、ロシア語の文法や語彙の基本的な知識を整理し、発展させながら、ロシア語の運用能力を高めることを目的とする。

特に、語彙力をつけ、文法知識を体系的に整理することを目標とする。これまでに身に付けている事柄を確認し、新しい知識を獲得するため、単語・熟語・文法事項の小テストなども適宜行う。

#### <各回毎の授業内容>

「ロシア語を話しましょう」(ハブローニナ著)に基づいて、文法事項の解説と練習、単語や語句の解説と練習を行う。

- 1 講義のガイダンス プレースメントテスト 第2課
- 2 第2課
- 3 第3課
- 4 第3課
- 5 第4課
- 6 第4課
- 7 第5課
- 8 第5課
- 9 第6課
- 10 第6課
- 11 第7課
- 12 第7課
- 13 第8課
- 14 第8課
- 15 試験

第2課から第8課まで扱う。ただし、受講学生の到達度に応じて前後する場合がある。また、二授業につき一課の割合で進めることを予定しているが、受講学生の習熟度に合わせて調整する場合がある。

プリント教材を配布するので、指示に従って必ず予習を行って授業に臨むこと。また、文法事項と語彙の知識を定着させるための小テストを随時実施する。

#### <成績評価方法>

小テストの成績を40%、定期試験の成績を60%として評価する。小テスト実施時、遅刻や欠席のために受験しなかった場合は、その回は0点となるので留意すること。ただし、交通機関の障害などやむをえない理由による不在と認められる場合は、追試験などの措置をおこなう。

#### <教科書・参考文献>

必要に応じてプリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

欠席が3分の1をこえた場合は期末試験の受験を認めない。

#### <学習到達目標>

学んだ語彙・表現・構文を活用して、ある程度複雑な内容のロシア語の文章を作ることができる。  
未知の語彙と複雑な構文を含む一定の長さのロシア語の文章を読解できる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3年	中国語5 A	2	後	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	3年	中国語特講1 A			

選択必修

#### <授業目的>

3年前期までに学んだレベルをさらに深め、中級レベルの中国語を自由に駆使できるようにする。  
中国語の学習を通じて中国文化（中国人の考え方、習慣、生活）への理解を深める。

#### <各回毎の授業内容>

中国語4 Aで使用したテキスト（張継濱・小川文昭『中国ってどんな国？』）を引き続き使用する。

1. はじめに
2. 考碗族(1)
3. 考碗族(2)
4. 保姆(1)
5. 保姆(2)
6. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習
7. 民以食为天(1)
8. 民以食为天(2)
9. “80后”与“养儿防老”(1)
10. “80后”与“养儿防老”(2)
11. 养老危机(1)
12. 养老危机(2)
13. 公益活动在中国(1)
14. 公益活动在中国(2)
15. まとめ

#### <成績評価方法>

授業中に行う小テスト及び定期試験によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

#### <教科書・参考文献>

張継濱・小川文昭『中国ってどんな国？』白水社（2200円＋税）

#### <受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

#### <学習到達目標>

上記授業目的の達成及び「読む」「聞く」「話す」のバランスのとれた語学力の習得を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 5 A	2	後	朱 継征
16年度以前	専 門	3 年	中国語特講 1 A			

選択必修

#### <授業目的>

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験3級合格を目指します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

#### <各回毎の授業内容>

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. “是～的”構文                     | 2. 二重目的語 |
| 3. 存在文                         | 4. 所在文   |
| 5. 連動文                         | 6. 従属節   |
| 7. 連体修飾                        | 8. 連用修飾  |
| 9. 将然相                         | 10. 起動相  |
| 11. 進行相                        | 12. 完了相  |
| 13. 残存相                        | 14. 持続相  |
| 15. 総合練習（中国語検定試験、TECCとHSKについて） |          |

#### <成績評価方法>

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40％、期末試験60％。

5回以上無断欠席した者は失格。

#### <教科書・参考文献>

教科書：授業中に指示します。

参考書：『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

#### <学習到達目標>

中国語の総合的運用能力を高め、中国語検定試験4～3級合格、HSK（漢語水平考試）3～4級合格を目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 5 B	2	後	小林元裕（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	中国語特講 1 B			

選択必修

#### <授業目的>

日常で実際によく使う中国語の言い回しを何度も練習することで中国語に対する苦手意識を克服する。また問題練習を通じて中国語検定 3 級の合格を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに
2. 打车(1)
3. 打车(2)
4. 上网(1)
5. 上网(2)
6. 做客(1)
7. 做客(2)
8. 在办公室(1)
9. 在办公室(2)
10. 球迷(1)
11. 球迷(2)
12. 点菜的学问(1)
13. 点菜的学问(2)
14. 中医养生(1)
15. 中医养生(2)

#### <成績評価方法>

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。3 分の 2 以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

#### <教科書・参考文献>

上野恵司監修・李錚強『総合 中級中国語教程』白帝社（2400円＋税）を予定しているが、変更する場合があるので掲示等に注意すること。

#### <受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

#### <学習到達目標>

中国語の学習を通して、単に語学だけでなく、言葉の背景にある中国文化に触れ、理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	中国語 5 B		後	寺沢一俊
16年度以前	専 門	3 年	中国語特講 1 B			

選択必修

<授業目的>

「聞く・話す・読む・書く」の能力をバランスよく伸ばすことを目的とする。話し言葉と書き言葉の違いについても学習する。さらに中国語の教材を通じて中国社会への理解をより深める。

<各回毎の授業内容>

1～3 「ボーリング」

4～6 「朝食」

7～8 「滋養強壮品」

9～10 「アルバイト」

11～12 「工場見学」

13～14 「パソコン」

15 定期試験

その他にキスト付属の文法練習問題を学習する

<成績評価方法>

出席および発音の正確さ、流暢さを重視する。出席が2／3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価はレポート、小テスト、出席率、定期試験の結果を総合的に判断する。

<教科書・参考文献>

教科書:『会話と文章で学ぶ中級中国語』

顧春芳・荊明月著

白帝社

(1800円＋税)

参考文献:『東方中国語辞典』

相原茂等主編

東方書店

(5250円税込み)

『中日辞典第2版』

小学館

(7000円＋税)

<受講に当たっての留意事項>

必ず予習をすること。予習をする際には声を出して読むこと。学んだ中国語文は繰り返し朗読をして暗誦すること。

<学習到達目標>

会話表現だけでなく、書き言葉による表現についても理解を深める。既習の文法事項を総復習して中国語各種検定試験にも対応できるようにしたい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 5 A	2	後	申 銀珠（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	韓国語特講 1 A			

選択必修

#### <授業目的>

今までより高度な文法や語彙、多様な表現を学習し、コミュニケーション能力を向上する。授業では教科書の語彙や文法項目を重点的に取り扱い、なるべく学んだことを実際に使用する練習を行うことにする。会話だけでなく、読解力・作文力を向上させるため、教科書以外の課題として新聞社説の日本語訳の他、韓国語で日記・エッセーなどを書いてもらい、個々のレベルに合う学習を並行する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 제4과 환불
2. 제4과 환불
3. 제4과 환불
4. 제4과 환불
5. 제4과 환불
6. 제5과 날씨와 생활
7. 제5과 날씨와 생활
8. 제5과 날씨와 생활
9. 제5과 날씨와 생활
10. 제5과 날씨와 생활
11. 제6과 여행
12. 제6과 여행
13. 제6과 여행
14. 제6과 여행
15. 제6과 여행

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。課題、小テストを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

『韓国語中級 I』(国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局)

#### <受講に当たっての留意事項>

予習と復習をしっかりとすること。授業はペアワークやグループ活動が多いので、学生たちの積極的な態度が求められる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 5 A		後	朴 修禧
16年度以前	専 門	3 年	韓国語特講 1 A			

選択必修

<授業目的>

この授業は、韓国語 6 繋がる授業で、韓国語 6 の準備過程とも言えます。

韓国の文化全般に関する教師講義の後、そこに関して学生達を中心になって自由に意見を交わしたり討論する事によって韓国語の上達を目的とします。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国に対する基本的な理解

2. 韓国という共同体

3. 韓国人が尊敬する歴史的な人物

4. 韓国人の休暇の過ごし方

5. 韓国人の好きなスポーツ

6. 韓国的価値

7. 韓国の宗教

8. 韓国を代表する企業と企業人

9. 韓国の若者達が好む職業

10. 韓国人の家族観

11. 韓国人の異性観及び結婚観

12. 韓国の教育理念及び教育制度

13. 韓国社会の変化

14. 現代韓国文化の特徴（恨からシンミョンへ）

15. 発表（韓国と私）

<成績評価の方法>

平常発表（30％）

出欠及び課題（10％）

定期試験（60％）

<教科書 参考文献>

テキストは使用しません。講義の時資料を配布します。

<受講に当たっての留意事項>

他国を理解しようとするオープンマインド

<学習到達目標>

隣接国を言葉だけでなく文化を知ることによって、より深い理解が出来、グローバル時代の一人としての資質を見に付けるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	韓国語 5 B		後	朴 修禧
16年度以前	専 門	3 年	韓国語特講 1 B			

選択必修

#### <授業目的>

韓国語 1～4 で学習した基本語彙、基礎文法をもとに、連語、語句などを加え、自然な会話ができるように多様な文型練習、発話練習を行う。授業中、具体的な場面を設定し、学習者にスキットを演じてもらう。基本の韓国語を習得しながら 韓国の文化に自然に触れることによって、韓国を理解することと同時に、国際人としての資質を整えることを目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

1. 제7과 곧 비가 오겠어요.
2. 제7과 곧 비가 오겠어요.
3. 제7과 곧 비가 오겠어요.
4. 제7과 곧 비가 오겠어요.
5. <復習>
6. 제8과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
7. 제8과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
8. 제8과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
9. 제8과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
10. <復習>
11. 제9과 제주도에 가 봤어요?
12. 제9과 제주도에 가 봤어요?
13. 제9과 제주도에 가 봤어요?
14. 제9과 제주도에 가 봤어요?
15. <復習>

#### <成績評価方法>

期末試験（70％） 課題（20％） 出欠（10％）

#### <教科書・参考文献>

『아름다운 한국어 1-3』(韓国語教育開発研究員、아름다운 한국어학교)

#### <受講に当たっての留意事項>

1. 一つの言葉を覚えるだけではなく、隣の国と人を理解しようとする開いた心を構えること。
2. ただ受け入れるのではなく、自分で何かを積極的に探ろうとする姿勢を取ること。
3. 母国語以外の言葉を覚えることは、人生を広げることであるのを忘れないこと。

#### <学習到達目標>

韓国語の初・中級レベルの会話力・文章力を身につける。韓国語学習を通して現代韓国社会及び韓国文化についての理解を深める。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 5 A		後	矢口裕子（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	英語特講 1 A			

選択必修

＜授業目的＞

リスニング・発音の訓練に最適であるとともに口語英語・イディオム表現の宝庫である英語のポップス・ロックを素材に英語を学ぶ。英語の音とことばに対する感覚をともに磨くことを目指す。学生が自分の好きな曲を選び、リスニングの穴埋め問題・訳詞の作成をしてもらうこともありうる。

＜各回毎の授業内容＞

1. イン트로ダクション
2. My Heart will Go On
3. Open Arms
4. Don't Look Back in Anger
5. A Whole New World
6. Livin' La Vida Loca
7. Kiss of Life
8. I Don't Wanna Miss a Thing
9. Everytime I Close My Eyes
10. Life
11. The Stranger
12. All I Want for Christmas is You
13. Hey Now (Girls Just Want to Have Fun)
14. 学生または教員作成による問題
15. まとめ

＜成績評価方法＞

平均的回数担当・発表することが必須。

学期末に試験および/あるいはレポートを課す。

＜教科書・参考文献＞

English with Hit Songs（成美堂）

＜受講に当たっての留意事項＞

全員が予習してきていることを前提に授業を進める。出席のための出席は意味がない。辞書は必ず持参のこと。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 5 A		前	デロシェ ジェラルド
16年度以前	専 門	3 年	英語特講 1 A			

#### 選択必修

##### <授業目的>

The course will be designed to provide a setting for the students to practice and improve their English communication skills. The main emphasis of the course is to expose the students to American culture and language. There will be 2 movies shown based on the insights of American culture. Also the students will do a presentation that is related to American culture. The objective is to give the students the opportunity to express their thoughts and opinions on American culture. Hopefully gain confidence in their English abilities.

##### <各回毎の授業内容>

1. An explanation of the course load as well as the students presentations plus BQ4 A grade 4 American quiz
2. "Taboo Jr" #2 An English activity that gives the students the ability to explain and describe things.
3. Listen In 2 "David Nunan" plus reading comprehension and an aural grammar exercise plus student presentations
4. Puzzle (Homework assignment) plus student presentations.
- 5, 6. "Stakeout" An activity that connects two different stories together. (2lessons)
7. Listen In 2 "David Nunan" plus reading comprehension and an aural grammar exercise plus student presentations
8. Puzzle (Homework assignment) plus student presentations.
9. Movie based on American genre plus student presentations.
10. Student presentations only
11. Listen In 2 "David Nunan" plus reading comprehension and an aural grammar exercise and student presentations
12. Puzzle (Homework exercise)
13. Movie based on American Genre
14. Review
15. Final Test based on Listen In 2 plus reading comprehension and aural grammar exercise.

##### <成績評価方法>

Final Test 40% Student Presentation 20% Homework assignment 20% Class participation 20%

##### <教科書・参考文献>

Prints will be supplied

##### <受講に当たっての留意事項>

If you participate and come to class you will be successful in passing this course.

##### <学習到達目標>

I hope the lecture will give the students confidence and joy of trying to speak English. I would like to see the class tension free and get the students to participate as much as they can.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 5 B		後	矢口裕子（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	英語特講 1 B			

#### 選択必修

##### <授業目的>

生きた英語を学ぶのに、映画が格好の素材を提供してくれることは異論のないところだろう。登場人物の設定によって、方言、スラング、お国訛りを含む多種多様な英語が話される、口語英語の宝庫であることはもちろんだが、一流の劇作家を含む脚本家によって練り上げられたテキストは、文学的な価値ももっている。また、硬軟さまざまなテーマの背景にある歴史・文化を学ぶ良い教科書ともなる。

この授業では、イギリスとアメリカの人気俳優によるラヴロマンス『ノッティングヒルの恋人』を使い、英語表現を学ぶとともに、わたしたちにはわかりにくい英米両文化の差異と共通点にも目を向ける機会としたい。

##### <各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
- 2-3. 作品鑑賞
4. UNIT1
5. UNIT2
6. UNIT3
7. UNIT4
8. UNIT5
9. UNIT6
10. UNIT7
11. UNIT8
12. UNIT9
13. UNIT10
14. 総復習
15. 試験

##### <成績評価方法>

授業への準備、貢献、期末試験の成績等を総合的に評価する。

##### <教科書・参考文献>

『ノッティングヒルの恋人』松柏社

##### <受講に当たっての留意事項>

テキストはEXERCISESとSCRIPTからなる。どちらも全員が予習してくることを前提として授業を進める。SCRIPTはト書きも含む脚本で、俳優・映画製作者はこれをもとに映画を作っていく。皆さんも俳優になったつもりで台詞を読み、かつ日本語に訳し、文法的質問にも答えられるよう準備をしてくる。予習しないで授業に臨むことは、教員のみならず他の学生にとっても迷惑となるのでくれぐれも謹んでほしい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	アメリカ英語 5 B		後	金沢泰子
16年度以前	専 門	3 年	英語 5 B			

選択必修

<授業目的>

① CALL システムと E-Learning を活用し TOEIC 受験対策演習をおこなう。  
4 回の模擬試験を軸に Listening 練習、文法復習、語彙力強化、速読練習を徹底的に行い更なるスコアアップをめざす。

② Word による学習記録作成、Excel を使った単語、文例集作成などを通して PC を活用した自律学習の定着をはかる。

<各回毎の授業内容>

授業は以下の順序でおこなう。

① 語彙小テストと Dictation （前回の復習）  
② Skimming, Scanning による Reading 演習  
③ rammar Practice  
④ Listening 練習  
⑤ 重要表現自習 [語彙、文法、イディオム]  
⑥ 音読録音 （WMA ファイル形式で提出）  
⑦ 学習記録 E-mail 送信

予習、復習を前提に授業を行う。宿題を提出しないと授業に参加できない。  
語学学習に高い効果が認められている音読を必修とする。  
自律学習をめざし、毎授業終了時に学習記録を E-mail で提出する。  
最終授業時には全回分を一つにまとめて添付ファイルで提出する。  
随時オンライン Practice Test を行い、スコア管理により弱点を強化する。

1. 講義概要他	6. Unit 9	11. Unit 12
2. Pre-Test	7. Unit 10	12. Unit 13
3. Unit 8	8. Unit 11	13. Unit 14
4. Unit 9	9. Unit 11	14. Unit 15
5. Practice Test 1	10. Practice Test 2	15. 期末テスト

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題 20%、復習確認 20%、音読 20%、学習記録 20%、Test 20%

<教科書・参考文献>

A.Mizumoto et.al : Successful Keys to the TOEIC Test 3: GOAL 700 (KIRIHARA)

<受講に当たっての留意事項>

4 回以上欠席または課題未提出の場合は受講資格を失う。

<学習到達目標>

① 文法の習熟をはかり、さらなる語彙力を養成する。  
② 模擬試験を通じ集中力の維持と効果的な時間配分法を身につける

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	地方自治論	2	後	阿波根剛史
16年度以前	専 門	3 年	地方自治論			

#### 選択

#### <授業目的>

昨年夏、日本の政治史上きわめて大きな出来事がありました。ご存知のとおり、長らく続いてきた自民党政権が総選挙で敗北し、民主党政権へと政権交代が起こったことです。政権交代に伴い、国の政治ではさまざまな点でこれまでとは異なる方向性が目指されています。

一方、地方ではどうでしょうか。近年、タレント出身の知事誕生が相次ぎ話題となりました。例えば宮崎の東国原知事、大阪の橋下知事、千葉の森田知事などです。ただ黙々と仕事をこなす人ではなく、「物言う」人が選ばれているようです。

こうしたタレント知事の誕生は何を意味しているのでしょうか。また前述の政権交代によって、国と地方の関係はどのような変化が起こるのでしょうか。現在、日本の地方自治は、明治以来の伝統的な中央集権的仕組みから「地方分権」的仕組みへと変わりつつあります。それがわたしたちにとって何を意味するのかを理解するためには、みなさん自身が地方自治、さらに広くは政治一般について学ぶ必要があります。みなさんの多くはちょうど選挙権を初めて行使する年代でしょうから、社会的にもみなさんの政治的な知識や意思が問われてくる場面も多くなってきます。この地方自治論では、国（中央）の政治のしくみとは異なった、地方のしくみを学び、地方と中央の関係、ひいてはそれらの関係がわたしたちの生活にどのように関わっているのかを学んでいきます。公務員を考えている学生や地元でボランティア・NPO活動に携わっている学生の受講も歓迎します。

#### <各回毎の授業内容>

項目の順番などについては多少、取捨選択や入れ替えを行う予定です。また、その時々選挙や政治的な動きもありますので、そうした新しい事項を取り上げることもあります。それから、担当教員が沖縄出身ということもあり、時間に余裕があれば沖縄をめぐる問題にも多少触れたいと思っています。

- 1、イントロダクション- 開講にあたって
- 2、地方自治はなぜ大切か(1)
- 3、地方自治はなぜ大切か(2)
- 4、地方自治の制度(1)- 首長と議会
- 5、地方自治の制度(2)- 首長と議会
- 6、地方自治の制度(3)- 首長と議会
- 7、市町村合併と道州制
- 8、住民投票(1)
- 9、住民投票(2)
- 10、沖縄をめぐる問題(1)
- 11、沖縄をめぐる問題(2)
- 12、NPO
- 13、町内会・自治会
- 14、地方自治の歴史・まとめ
- 15、試験

#### <成績評価方法>

出席+平常点30%、試験70%を予定しています。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に使用しません。レジュメや新聞資料等を用いる予定です。参考文献は講義の中で、その都度紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

上記の授業内容はこのシラバス執筆時点での暫定的なものであり、その後の地方自治をめぐる状況などによって大幅に変更する可能性もあります。正式な講義内容、スケジュール等、詳細については開講時に説明します。

#### <学習到達目標>

地方自治の基礎を理解できるようにします。例年、新聞をほとんど読まない学生が数多くいますが、地方自治に限らず政治分野に関する新聞記事を抵抗なく読めるようになることを目標とします。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	東アジア関係論	2	後	佐々木寛（情報文化）

選択

#### <授業目的>

本科目は、「環日本海交流論」とともに、東アジアの各国地域・歴史研究を横断的に理解する知的枠組みを模索する。「環日本海交流論」が＜海＞をめぐる自治体や市民の交流史に重きを置くとすれば、「東アジア関係論」では、東アジア国際政治史などのより高次元の次元をも含むより包括的な視点に基づく。概して、「東アジア」の歴史は、暴力とディスコミュニケーションに彩られた不幸なものであったといえるかもしれないが、近年、主に経済分野で多くの協力関係が模索され、「東アジア共同体」構想も浮上してきた。歴史認識問題や冷戦期米国の東アジア政策、核問題など、「東アジア」に根雪のように残る障害をしっかりと見つめると同時に、新たな地域主義や地域協力の胎動も確実にききとげたい。本講の最終的な目的は、「東アジア＜共生＞の条件」がどこにあるのかを探ることにある。揺れ動く東アジア情勢の中で、一人の市民としてそれをどう理解し、行動するべきなのか、具体的な素材を通じ考えたい。

#### <各回毎の授業内容>

新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。

1. 「東アジア」とは何か —— 歴史編 [1回]
2. 「東アジア」とは何か —— 理論編 [1回]
3. 歴史認識問題と「東アジア」 [2回]
4. 分断国家と「東アジア」 [2回]
5. アメリカと「東アジア」 [2回]
6. リスク共同体としての「東アジア」 [1回]
7. エネルギー問題と「東アジア」 [1回]
8. 経済共同体としての「東アジア」 [1回]
9. 「東アジア」共生のために [3回]

※ + 1 回分は、資料映像の鑑賞に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

教科書 佐々木寛編『東アジア＜共生＞の条件』（世織書房）

参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、五十嵐暁郎・佐々木寛・高原明生編『東アジア安全保障の新展開』（明石書店）を挙げておく。

#### <受講に当たっての留意事項>

内容的に高度なものも含むので、知的好奇心が高い学生を望む。ロ・中・韓・米各地域・歴史研究の基礎的な知識が前提となる。「平和学」「国際組織論」をすでに受講していることが望ましい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	現代イスラーム論	2	後	小山田紀子 （情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	現代アフリカ論			

選択

#### <授業目的>

2001年の9・11事件以来、「イスラム原理主義」の運動が世界の注目を集めている。なぜイスラームは最近になって復興してきたのか。この授業では、まず第一に、大塚和夫氏が提唱する「イスラーム主義」の分析概念を紹介し、現代のイスラーム世界を理解する鍵を提示する。ここでの分析対象地域は中東の中の東アラブ地域（エジプト・スーダン・サウジアラビアなどの「マシュリク」と呼ばれる地域）である。第二に、西アラブ地域をさす北アフリカの「マグリブ地域（アルジェリア・チュニジア・モロッコ）」を取り上げ、その歴史と現在を私の現地調査を踏まえて紹介する。21世紀の世界の新潮流はイスラームの理解なくしては語れないだろう。グローバル・イシューとしてのイスラームを、中東・北アフリカ地域の現地から考えてみたい。

#### <各回毎の授業内容>

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1. 序論                     | 2) フランスの植民地化の歴史  |
| 2. イスラームの基礎知識             | 3) 民族運動と独立       |
| 3. イスラーム主義とは何か            | 4) 独立後の国家建設      |
| 1) 「イスラム原理主義」から「イスラーム主義」へ | 5) イスラーム主義運動の高揚  |
| 2) サウジアラビアのイスラーム          | 5. マグリブの社会と文化    |
| 3) スーダンのマフディー運動           | 1) 農村の暮らしと文化     |
| 4) エジプトのムスリム同胞団           | 2) 都市の暮らしと文化     |
| 4. マグリブの歴史と現在             | 6. グローバル化の中のマグリブ |
| 1) マグリブとは                 |                  |

#### <成績評価方法>

小レポートと定期試験

#### <教科書・参考文献>

テキスト 宮治一雄・宮治美江子編『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』  
大学図書出版、2008年2月

参考書 大塚和夫『イスラーム主義とは何か』岩波新書、2004年  
立山良司『中東』自由国民社、2002年  
宮治一雄『アフリカ現代史Ⅴ.北アフリカ』山川出版社、2000年 他

#### <受講に当たっての留意事項>

「比較宗教論」の授業を受講していることが望ましい。授業中は私語を慎むこと。外部講師も招くので授業を良く聞くこと。

#### <学習到達目標>

メディアによって作られた「イスラム原理主義」のイメージを払拭し、正しいイスラームの知識を獲得して今日の国際社会の問題を見る目を養ってほしい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	南北問題	2	後	高橋正樹（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	南北問題			

選択

#### <授業目的>

世界を「不平等」という観点から考察し、「良き市民」としての国際的な公平な知識と考え方を身につけることがこの授業の目的です。日本に住むわたし達は世界では特権的な位置にあります。（とりあえずは）食糧の不足におびえる心配もせず、身の回りはモノで溢れかえっています。他方で日々の食べ物にも事欠く人々がたくさん世界にはいます。また、大学までの教育を受けることができる人は、世界の同世代の中では全体の1%に過ぎません。文字通り、わたし達は特権階級です。それはわたし達が世界の仕組みの中ではかなり有利な位置にある日本社会の一員だからです。

他方で90年代以降、経済的グローバリゼーションの結果、途上国は益々貧富の格差が広がり、日本を含む先進国でも貧富の格差が拡大しています。今後は日本でも日々の生活に苦勞する人々の数が確実に増えていきます。授業の前半は南北問題に、後半はグローバリゼーションに焦点を合わせて、世界規模での不平等問題に触れていきます。

#### <各回毎の授業内容>

1. 大量消費社会と「外部化」の問題
2. 植民地主義の構造
- 3～5. 第2次世界大戦後の南北問題をめぐる新たな展開
- 6～9. 南北問題をめぐる諸理論
- 10～13. グローバリゼーションによる現代の世界の不平等構造
- 14～15. 南北問題解決への糸口

#### <成績評価方法>

特別な場合を除いた授業への全出席が最低条件になります。さらに、レポート・中間テスト・学期末テストによって評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書はありませんが、毎回授業内容をレジュメにまとめて配布します。

#### 参考文献

増田義郎『黄金郷に憑かれた人々』日本放送協会、1988年；ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡単な報告』岩波書店、1976年；ヨハン・ガルトゥング『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年；室井義雄『南北・南南問題』山川出版社、1997年；恒川恵市『従属の経済学』東京大学出版会、1988年；パブリック・シティズン『誰のためのWTOか？』緑風出版、2002年；井口泰『外国人労働者新時代』筑摩書房、2001年；『グローバリゼーション下の苦悩』大月書店、1999年；伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社、2002年。山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房、2004年。

#### <受講に当たっての留意事項>

南の貧困を単なる同情の対象としてではなく、わたし達の社会との関係で考えていきたいと思ひます。一緒に考える授業にしたいと思ひますので積極的な授業参加を期待します。

#### <学習到達目標>

上記授業目的の達成

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	国際経済法	2	後	藤本晃嗣
16年度以前	専 門	4 年	国際経済法			

選択

#### <授業目的>

第二次世界大戦後、国際社会のグローバル化の進展とともに経済もグローバル化・国際化の一途をたどってきた。これによって、わたしたちは多くの外国製製品に囲まれ、それらを安価に購入することができるようになり、便利な生活を営めるようになった。このように経済の国際化は、私たちの生活を豊かなものにしてきた半面で、さまざまな新たな問題を発生させてきた。

本授業では、こうした経済の国際化を国際経済法という分野から分析することで、国際社会の問題を考えるきっかけを受講者に提供したいと思う。授業では、1995年1月に発足したWTO（世界貿易機関）に関する法と制度を中心に扱うことを予定している。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 国際経済とは
- 2 国際経済法と国際公法
- 3 ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(1)
- 4 ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(2)
- 5 WTO概説(1)－ウルグアイ・ラウンドとWTOの設立
- 6 WTO概説(2)－WTOの構造
- 7 WTO協定の構造－WTO設立協定と4つの附属書
- 8 WTOと紛争解決手続
- 9 WTO体制の基本的規律(1)－最恵国待遇
- 10 WTO体制の基本的規律(2)－最恵国待遇とその例外（FTA、EPA）
- 11 WTO体制の基本的規律(3)－内国民待遇
- 12 WTO体制における規律の拡大－農業貿易
- 13 WTOと通商救済制度
- 14 まとめ－今後のWTOと日本
- 15 定期試験

#### <成績評価方法>

原則として試験の成績に基づき評価します。

#### <教科書・参考文献>

授業ではレジュメ・資料を配布するため、教科書は使用しない。参考文献は、授業中に適宜指示します。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中、私語をした学生には退席を指示しますので、指示された学生は速やかに退席してください。

#### <学習到達目標>

WTOに関する法と制度についての基本的な理解を深め、国際経済活動に関する報道や新聞記事を自分の力で分析し、評価する能力を備えられるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	NGO 論	2	後	佐々木寛（情報文化）
16年度以前	専 門	3 年	NGO 論			

選択

#### <授業目的>

現代社会の様々な局面で、NGO（非政府組織）やNPO（非営利組織）の活動が注目されるようになって久しい。しかし、これを大学の講義などで体系的に論じ、学問的にとらえ直す作業は始まったばかりである。本講義では、これら新たな市民活動のうねりを比較的長い歴史的な観点からとらえ直し、その現代的な意味について考えてみたい。さらに、流動化する世界に呼応して刻々と変化するNGO/NPOの多様な活動の現実をも見据えてみたい。また、これら「自発的結社」の可能性のみならず、実際の活動にともなう構造的・実践的な課題や問題点も明らかにしたい。本講義では、NGO/NPOの諸活動を広く「ボランティア」論や「市民社会」論の文脈に位置づけ、これら市民活動の文明論的な意義についても考察を展開したいと思っている。テーマの性質上、受講者の自発的な参加や招聘講師の講演などにも触発されながら、新しい講義や大学そのもののあり方も探ってみたい。

#### <各回毎の授業内容>

新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。また、反グローバル化運動や環境NGOについての映像資料を多用する他、実際に様々なNGOやNPOで活躍する人を教室に招き、現場の視点から話をしてもらう予定である。

1. NGO/NPOとは何か、その歴史的意味 [2回]
2. NGO/NPOの分類と争点 [1回]
3. グローバル化とNGO/NPO [2回]
4. 国連とNGO [1回]
5. 地方発のNGO [1回]
6. 女性とNGO [1回]
7. 難民問題とNGO [1回]
8. 小火器問題とNGO [1回]
9. 核問題とNGO [1回]
10. アイデンティティ・市民社会・NGO [2回]

※尚、+1回を、資料映像の鑑賞、+1回を招聘講師による講演に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績により評価を決定するが、課題として作成してもらう「NGO調査レポート」の内容も大きく加味する（レポート35%、試験65%）。

#### <教科書・参考文献>

共通テキストは、西川潤・佐藤幸男編『NGO/NPOと国際協力』（ミネルヴァ書房）。必読参考文献の一例として、高島通敏編『現代市民政治論』（世織書房）、D.ヘルド『デモクラシーと世界秩序』（N T T出版）、M.ウォルツァー『グローバルな市民社会に向かって』（日本経済評論社）、目加田説子『地雷なき地球へ』（岩波書店）を挙げておく。

#### <受講に当たっての留意事項>

内容的にかなり高度なことも含むので、知的好奇心が旺盛な学生の参加を望む。また、2年次に「平和学」、3年前期に「国際組織論」を受講していることが望ましい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	環日本海交流論	2	後	若月 章
16年度以前	専 門	3 年	環日本海論			

選択

#### <授業目的>

冷戦システムの崩壊後、環日本海地域（北東アジア・東北アジア）は数々の国際的な課題を抱えながらも、その発展の可能性と潜在性の両面で、今日ではもっとも国際社会において発展の期待される国際地域空間のひとつである。そして日本海側の拠点としての新潟は環日本海圏に開かれたゲートウェーとして新時代に向かって大きく開かれ、日本海大交流時代をリードし続けている。本講義では環日本海地域の実情について三空間併存モデル（国際地域－国家－地域社会）を手がかりに、新潟の国際的位置を確認するのみならず、日本海対岸各地域の地誌・政治・経済・社会・自然環境等を総合的に論じながら、当該地域の基本的視座と環日本海交流の将来展望について触れていきたい。

#### <各回毎の授業内容>

1. 講義ガイダンス
2. 国際地域学習のすすめ（＜地域理解＞から＜グローバル理解＞へ）
3. 国際社会と環日本海世界の比較
4. 環日本海地域の基礎地域
5. 日本及び新潟にとっての「環日本海圏構想」の現況とその意義
6. 東アジア世界の特徴と環日本海地域
7. 環日本海の各国・各地域社会概説
  - 1) ロシアシベリア極東地域
  - 2) 中国東北部地域
  - 3) 朝鮮半島（大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国）
  - 4) モンゴル国
8. 「日本海」の課題
  - 1) 海洋環境の特殊性
  - 2) 日本海の名称問題
9. 環日本海地域の課題と展望
  - 1) 越境課題としての環境問題
  - 2) 国際地域協力の意義とその展望
10. まとめ－環日本海交流の意義について

#### <成績評価方法>

基本的な成績評価は学期末に実施する筆記試験による。また学習態度や出席（不定期に確認）なども評価の対象に加える。

#### <教科書・参考文献>

教科書を使用するが、毎回独自にレジュメを配布や参考資料等を配布する予定である。

準教科書： 環日本海学会編『北東アジア事典－環日本海圏の政治・経済・社会・歴史・文化・環境－』国際書院。

参考文献： 市岡政夫『自治体外交－新潟の実践・友好から協力へ－』日本経済評論社。

日本海学推進機構編『日本海学の世紀⑧ 日本海・過去から未来へ』角川学芸出版。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中の私語及び無断途中退出は厳禁。

#### <学習到達目標>

1. 地域からの国際学習の発想を理解する。
2. 環日本海地域の拠点としての新潟について考える。
3. 環日本海地域各国・地域社会の現状をアジア社会との比較から理解する。
4. 環日本海交流の将来展望を考える。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	地域統合論	2	後	臼井陽一郎 （情報文化）
16年度以前	専 門	4 年	地域統合論			

選択

<授業目的>

20世紀後半は地域主義が着実に進展した時代となった。欧州（EU）を先頭に、東南アジア（ASEAN）、北米（NAFTA）、南米（アンデス共同体やメルコスール）が追随し、アフリカもあらたな動きを見せている（アフリカ連合）。こうした世界の潮勢に押し流されるかのように、東アジア共同体の形成もようやく政治のアジェンダとして具体的に認識されてきた。このような弛まぬ流れは、衆目集めることなくとも水滴岩を砕くかのごとく、国際社会のあり方を変えつつあるのではないだろうか。地域主義の動きを根本に立ち返って再考する研究が求められる。地域統合はそのために重要な根本概念の一つである。この講義では地域主義のひとつのあり方である地域統合の概念について、経済・法・政治・社会の各側面から原理的に吟味するための理論枠組を紹介したい。また事例としてはとくに東アジアそしてASEANに注目、ヨーロッパのEUとの差異や同一性を探っていく。

<各回毎の授業内容>

第1回:世界の地域主義①——世界的な広がり  
第2回:世界の地域主義②——東アジア地域主義の動き  
第3回:世界の地域主義③——ASEANの歴史と組織  
第4回:新地域主義論①——古い地域主義との対比  
第5回:新地域主義論②——グローバル・ガバナンスとの関係  
第6回:経済統合の概念①——バラッサの類型論  
第7回:経済統合の概念②——最適通貨圏の理論  
第8回:経済統合の概念③——EUの経験  
第9回:法・政治統合の概念①——国際組織論との比較・超国家主義と政府間主義  
第10回:法・政治統合の概念②——共同行動計画のあり方と主権の意味  
第11回:法・政治統合の概念③——依頼人（国家）と代理人（共同体機関）の関係  
第12回:法・政治統合の概念④——リベラルな政府間協力論・歴史制度論・ガバナンス論  
第13回:社会統合の概念①——社会の一体性と主観の意味づけ  
第14回:社会統合の概念②——システム統合と生活世界の植民地化  
第15回:試験

<成績評価方法>

学期末試験100%

<教科書・参考文献>

中村民雄・須網隆夫・臼井陽一郎・佐藤義明『東アジア共同体憲章案:実現可能な未来をひらく論議のために』昭和堂。

<受講に当たっての留意事項>

学期末試験は論述式設問40%・選択式設問60%で作成、すべて持ち込み不可とする。合格率（C以上の成績）は例年6割ほどである。

<学習到達目標>

地域主義の動きを社会科学の視点から分析するための基本概念に習熟するとともに、ASEANや日中韓による東アジア地域主義の動向について、新聞・雑誌・テレビなど各メディアの報道を理解できるようにすること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	外国語文献購読 2	2	後	臼井陽一郎 （情報文化）

選択

<授業目的>

小説家と政治家のスピーチを通じて、文学と政治について考えてみたい。取り上げるのは、村上春樹・バラクオバマ・大江健三郎の三人。まず村上春樹のエルサレム・スピーチを読む。これは彼がイスラエルの著名な文学賞を受賞した際のスピーチで、時あたかもイスラエル軍によるガザ地域に対する凄惨な空爆が行われた直後であった。村上はある受賞を受諾、イスラエル批判のスピーチを文学の立ち位置から展開する。次にアメリカ合衆国大統領バラク・オバマがカイロとプラハで行ったスピーチを取り上げる。前者のカイロ・スピーチはナイン・イレブン（9／11）のテロを乗り越えてアメリカとイスラームが和解していくことを決意したもので、また後者のプラハ・スピーチは全世界から核兵器を永久に廃絶することを誓約したものである。最後に大江健三郎のノーベル文学賞受賞記念特別講義を読む。大江はこの講義で日本人の文化的特徴たる曖昧さについて検討しつつ、それを起点に、先の凄惨な戦争からの再生をテーマに話を進めていく。

<各回毎の授業内容>

第1回：ガイダンス

第2回：村上春樹：エルサレムスピーチ①

第3回：村上春樹：エルサレムスピーチ②

第4回：村上春樹：エルサレムスピーチ③

第5回：バラク・オバマ：カイロスピーチ①

第6回：バラク・オバマ：カイロスピーチ②

第7回：バラク・オバマ：カイロスピーチ③

第8回：確認試験

第9回：バラク・オバマ：プラハスピーチ①

第10回：バラク・オバマ：プラハスピーチ②

第11回：バラク・オバマ：プラハスピーチ③

第12回：大江健三郎：ノーベル文学賞受賞レクチャー①

第13回：大江健三郎：ノーベル文学賞受賞レクチャー②

第14回：大江健三郎：ノーベル文学賞受賞レクチャー③

第15回：確認試験

<成績評価方法>

出席点50％・2回の確認試験50％（それぞれ25％）

<教科書・参考文献>

授業の最初に配布する。

<受講に当たっての留意事項>

英語に自信のない学生でも、テキストの内容に興味があれば歓迎します。

<学習到達目標>

半期の授業を通じて、A4用紙50頁相当の英語を読む経験を積むこと、および文学と政治のどちらも夢をゆたかな行為規範とする構想の力が重要であることを理解できるようになること。



# 4 年文化専門科目（後期）

中国語 7  
韓国語 7  
アメリカ英語 7

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	中国語 7	1	後	朱 継征
16年度以前	専 門	4 年	中国語特講 3			

17年度以降選択・16年度以前選択必修

**<授業目的>**

中国語の人文・社会科学分野の文献、新聞記事やテレビニュースなどを理解するには、一層高いレベルの語学力と知識が要求されます。中国語は実用性の面でも将来性のある言語の一つです。その実力は若いうちに身に付けば一生の財産になります。

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験2級合格を目指し、TECC 500点、HSK 6級に挑戦します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

**<各回毎の授業内容>**

1. 並列複文	2. 継起複文
3. 累加複文	4. 選択複文
5. 因果複文	6. 転折複文
7. 条件複文	8. 仮定複文
9. 譲歩複文	10. 取捨複文
11. 目的複文	12. 時間複文
13. 連鎖複文	14. TECCとHSK対策
15. 総合練習（中国語検定試験、TECCとHSKについて）	

**<成績評価方法>**

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40%、期末試験60%。  
5回以上無断欠席した者は失格。

**<教科書・参考文献>**

教科書：授業中に指示します。

参考書：『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）  
『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

**<受講に当たっての留意事項>**

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

**<学習到達目標>**

中国語の総合的運用能力を高め、中国語検定試験3～2級合格、HSK（漢語水平考試）4～6級合格を目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	韓国語 7	1	後	朴 修禧
16年度以前	専 門	4 年	韓国語特講 3			

17年度以降選択 16年度以前選択必修

#### <授業目的>

今まで学習した韓国語と韓国の文化を生かし、韓国と日本の類似点や相違点等を分析し文章にすることを目的にします。

#### <各回毎の授業内容>

1. 授業の方針説明。韓国に関する各自の関心の分野に対して話す。
2. 韓国のネットカフェに加入し、そこに自分の紹介文を書き込んで、それを発表する
3. 日本と韓国の貨幣に載っている人物に関して調査し、それを比較して見る
4. 日本と韓国の流行語
5. すきな韓国の歌（歌手）紹介
6. 日本と韓国の世界遺産
7. 日本と韓国の宗教
8. 韓国の映画鑑賞
9. 韓国の映画の特徴
10. 日本と韓国の名節料理
11. お金
12. 日本と韓国の受験
13. 日本人と韓国人の家族観
14. 韓流文化
15. 定期試験

#### <成績評価方法>

平常発表（50％） 定期試験（50％）

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しません。 講義の時資料を配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

1. 自分の国は勿論、韓国や他の国に対する関心を持つ事。
2. 何かをただありのまま受け入れるのではなく、深く考え分析する探求心を持ちましょう。

#### <学習到達目標>

隣接国を言葉だけでなく文化を知ることによって、より深い理解が出来、グローバル時代の一人としての資質と国際感覚を見に付けるようになります。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	4 年	アメリカ英語 7	1	後	矢口裕子（情報文化）
16年度以前	専 門	4 年	英語特講 3			

17年度以降選択 16年度以前選択必修

<授業目的>

この授業では、比較的平易な英語で書かれた英字新聞を教材とし、その時々最新のup-to-dateなニュースを英語で読む。自分について、世界について、日本語でも英語でも、語るべきことを持っているかどうかは充実したコミュニケーションを展開するための鍵である。英語を道具として世界を知る端緒になれば、と思う。補助的に映像資料等を用いることもありうる。

<各回毎の授業内容>

1 イントロダクション

2－14 プリントを使用しての授業

15 まとめ

<成績評価方法>

授業中の発表、提出物、学期末試験（レポート）を総合的に評価する。担当者が正当な理由なく休んだ場合は大幅減点となる。

<教科書・参考文献>

開講時に発表。

<受講に当たっての留意事項>

当然ながら予習した上で出席し、毎回辞書を持参すること。出席のための出席は意味がない。

# 1 年システム専門科目（後期）

情報産業  
情報リテラシーと倫理  
人間情報工学 1  
ビジネスモデル  
コンピュータソフトウェア  
情報論理  
システム数学  
統計と情報 2  
基本情報処理特論 2

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	情報産業	2	後	西山 茂 (情報システム)
16年度以前	専 門	1 年	情報産業			

選択

<授業目的>

コンピュータと電子通信の融合したインターネット社会（IT 社会）を支える産業＝「情報産業」を、IT をつくりだす産業と活用する産業の両面からとらえ、産業の実態、市場構造の変化、標準化、IT 政策、IT 関連法制度、IT 産業従事者の働き方などの動向と課題について学ぶ。最新の話題にも言及する。

<各回毎の授業内容>

[1] イントロダクションー情報産業論の系譜とデジタルエコノミー

[2] IT 産業(1)ーコンピュータ産業

[3] IT 産業(2)ー電子ネットワーク産業

[4] IT 産業(3)ー情報サービス産業

[5] IT 産業(4)ー電気通信事業法と標準化

[6] IT 産業(5)ーデジタルコンテンツビジネス

[7] IT 活用分野(1)ー商取引（e コマース）

[8] IT 活用分野(2)ー教育（e ラーニング）

[9] IT 活用分野(3)ー行政（e - Gov）その他の産業分野

[10] IT 社会の基盤(1)ー知的財産権

[11] IT 社会の基盤(2)ー情報セキュリティと個人情報保護

[12] IT 社会の基盤(3)ーIT 人材と働き方

[13] デジタルエコノミーの進展とIT 政策

[14] 追加の話題ー Web の新しい潮流など

[15] まとめとテスト

<成績評価方法>

・ 期末テスト:60% (理解度確認テストを1回以上提出していること。)

・ 理解度確認テスト:40 % (予告なく 4回実施する。)

<教科書・参考文献>

教科書はない。毎回講義資料を配布する（履修登録確定後は各自 Jenzabar からダウンロードし印刷する）。

参考文献:

・ 政府・業界系の白書:情報化白書、情報通信白書、情報サービス産業白書、デジタルコンテンツ白書等

・ 民間の白書等:インターネット白書;インターネットビジネス白書;情報通信ハンドブック等

・ OECD レポート:OECD information Technology Outlook 2008

・ 米国商務省レポート:Digital Economy Report,http://www.esa.doc.gov/2003.cfm

・ 林 紘一郎著、電子情報通信産業、電子情報通信学会、2002

<受講に当たっての留意事項>

・ 途中4回実施する理解度確認テストを1回も提出しない場合は期末試験の受験資格が与えられない。

<学習到達目標>

1. IT 産業（コンピュータ、ネットワーク、情報サービスなど）の動向と、関連法制度および標準化の課題を理解し、説明できる。(期末テスト／理解度確認テスト:30％／10%; 以下同様)

2. IT 活用産業（商取引、教育、行政など）の動向と課題を理解し、説明できる。(10％／10%)

3. IT 社会の基盤（知的財産権、情報セキュリティ、個人情報保護、IT 人材の働き方および人材育成）に関する知識を理解し、説明できる。(10％／10%)

4. デジタルエコノミーの進展と各国のIT 政策の動向およびWeb の新しい潮流を理解し、説明できる。(10％／10%)

(関連する学習・教育目標:G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	情報リテラシーと倫理	2	後	岸野清孝 （情報システム）
16年度以前	専 門	1 年	情報リテラシーと倫理			

選択

<授業目的>

コンピュータネットワーク社会と情報倫理、技術者倫理の関係を理解し、公衆の安全と福利における技術者の知識の重要性、技術者が担う責任について学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 情報リテラシーと倫理の全体概要説明

2. 情報リテラシーと倫理概要:情報リテラシーとは、情報倫理の意義

3. ネットワークと情報機器利用時の基本ルール:ネットワーク社会と従来の社会の違い

4. ネットワークとホームページ:ネットワーク・エチケット、ホームページの注意事項

5. コンピュータウイルス:コンピュータウイルスとは、感染防止方法、ハッカーとは

6. 個人情報不正利用:個人情報とは、不正利用による被害、振り込め詐欺

7. 情報漏洩対策:情報漏洩の原因と問題点、個人情報保護法、情報漏洩の防止対策

8. プライバシー侵害と情報操作:プライバシーの権利とは、プライバシー保護、情報操作

9. 事例研究:プライバシー侵害と情報操作の事例

10. 知的財産権と倫理:知的財産権とは、著作権とは、著作物の使用と利用

11. 情報セキュリティ:情報セキュリティと倫理、セキュリティ対策と技術

12. 企業の倫理:ビジネスにおける倫理、コンプライアンス（法令遵守）

13. 企業の製造物責任（PL）:製造物責任とは、訴訟事例、製品安全のための活動

14. 技術者の倫理:技術者の倫理とは、正直性・真実性・信頼性、倫理問題の解決方法

15. まとめ、テスト

<成績評価方法>

期末テスト:100%

<教科書・参考文献>

資料を配布する（本校のHPからダウンロードし、各自がプリントアウトする）。

<学習到達目標>

・コンピュータネットワーク社会と情報倫理（ネットワーク、ウイルス、個人情報、プライバシーなど）の関係を理解し、基本的な知識を習得する。（期末テスト:30%）

・情報倫理に関する事柄について正しいか誤りであるかの判断がある程度できるようになる。（期末テスト:30%）

・情報倫理に関連する義務と責任（ウイルス、個人情報、知的財産権、セキュリティ、PL、技術者倫理など）を学び、それらが情報倫理の問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる。（期末テスト:40%）

（関連する学習・教育目標:E,G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	人間情報工学 1	2	後	上西園武良 （情報システム）
16年度以前	専 門	1 年	人間情報工学 1			

選択

<授業目的>

人間情報工学（人間工学）では、人間の使用する機器が人間にとってより使用しやすいものになることを目指している。このため、まず、人間の特性を心身機能別に概説する。さらに各機能の特性を説明し、それぞれの機能に適合した機器の設計をどのように行うかを実習を交えて習得する。

<各回毎の授業内容>

1. 人間情報工学（人間工学）とは
2. 人間情報工学（人間工学）の歴史
3. 人間の特性の分類
4. 寸法・体格
5. 寸法・体格への機器の適合
6. 運動機能
7. 運動機能への機器の適合
8. 感覚機能
9. 感覚機能への機器の適合
10. 認知機能
11. 認知機能への機器の適合
12. その他の機能
13. その他の機能への機器の適合
14. 人間中心設計、ユーザ中心設計、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
15. まとめと試験

<成績評価方法>

期末試験の結果で評価する（100％）。ノートのみ持込み可。

<教科書・参考文献>

特定の教科書は使用しない。

<受講に当たっての留意事項>

ノート持込み可の試験を行うので、やさしい問題は出さない。毎回出席し、自分のノートをしっかり作ること。

<学習到達目標>

人にやさしい機器を設計するためには、どのように人間の特性を考慮すべきかを説明できるようになること。自分のノートを参考にしながら説明できれば良い。

（関連する学習・教育目標:H）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	ビジネスモデル	2	後	竹並輝之 （情報システム）
16年度以前	専 門	1 年	ビジネスモデル			

選択

#### <授業目的>

情報システムが活用される場である企業の活動を理解することを目的とする。企業活動の目的を達成するための仕事、その仕事を遂行するための組織、及び組織間の情報の流れをわかりやすい図表で表したモデルを用いて、企業活動における人間の判断、組織内の意思決定の方法、それをサポートする情報システムの役割などを理解する。さらに、インターネットなどを活用した新しいビジネスモデルについても論じる。簡単な経営シミュレーション演習を行い、企業活動を体験的に理解する。

#### <各回毎の授業内容>

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 1 企業活動とビジネスモデル   | ビジネスモデルとは、企業の目的、分類  |
| 2 流通業の販売モデル      | 受注、売上、仕入、請求         |
| 3 流通業の在庫モデル      | 入庫、出庫、在庫、在庫引当       |
| 4 販売分析と利益の管理     | 売上原価、粗利益、経常利益、商品分析  |
| 5 演習Ⅰ            | 流通業の販売管理シミュレーション    |
| 6 製造業の生産モデル      | 製造業の特徴、生産形態と生産方式    |
| 7 生産計画と生産管理      | 資材計画、能力計画、製造計画      |
| 8 資材計画           | 部品展開、部品表、購買管理       |
| 9 能力計画           | 生産能力、生産調整、負荷調整、外注管理 |
| 10 工程管理、品質管理     | 在庫管理モデル、品質管理モデル     |
| 11 製造業の原価管理      | 製造原価、原価計算、損益分岐点     |
| 12 演習Ⅱ           | 製造業の生産計画シミュレーション    |
| 13 企業の組織         | ラインとスタッフ、プロジェクトチーム  |
| 14 ネットワークビジネスモデル | 情報化進展モデル、ネットワークビジネス |
| 15 まとめ、テスト       |                     |

#### <成績評価方法>

基本的な企業活動の仕組みと、利益増出の仕組みについての理解度を期末試験結果で評価する（持ち込み不可）。

#### <教科書・参考文献>

毎回プリント資料を配布する。

#### <学習到達目標>

企業における利益造出活動の基本的な仕組みを理解し、企業内部の諸活動の意味と役割およびその中での情報活用の方法が理解できるようになる。具体的には、

- ・企業活動で使われる基本的な専門用語の意味を理解し、説明できる。（70％）
- ・簡単な損益計算をすることができる。（30％）

（関連する学習・教育目標:E,I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	コンピュータソフトウェア	2	後	石川 洋 (情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	コンピュータソフトウェア			

選択

<授業目的>

コンピュータシステムを有効利用するための基本的な考え方をソフトウェアの側から学習する。作成したプログラムがコンパイラによって実行可能なプログラムに変換される仕組み、オペレーティングシステムによって実行される仕組みや、ファイルシステム、プロセス制御などの主要な機能と役割についても学習する。

<各回毎の授業内容>

1

オペレーティングシステムの概要

2

プロセス管理1

3

プロセス管理2

4

プロセスの同期

5

プロセス間通信

6

実記憶管理1

7

実記憶管理2

8

仮想記憶管理1

9

仮想記憶管理2

10

ファイルシステム

11

割り込み処理

12

情報システムの基盤としてのWindowsおよびLinux

13

言語処理プログラムの種類と構造

14

言語処理プログラムにおける字句解析と構文解析

15

まとめとテスト

<成績評価方法>

・成績は期末試験（70%）と宿題レポート（30%）により評価する。

・試験では講義に沿った問題を出題する。持ち込みは不可とする。

<教科書・参考文献>

・教科書 オペレーティングシステムの基礎 大久保英嗣、サイエンス社（1997） 1600円＋税

・参考文献 随時紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

・専門用語が多く出てくるが、意味のわからないものがあったら調べておくこと。

<学習到達目標>

・オペレーティングシステムの基本を理解し、諸機能の役割（試験60%、レポート15%）を習得する。

・具体的なオペレーティングシステムの利用動向（レポート10%）を理解する。

・コンパイラの仕組みを学習し、プログラミングを支える基本的な知識（試験10%、レポート5%）を習得する。

(関連する学習・教育目標:E,J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	情報論理	2	後	中田豊久 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	情報論理			

選択

#### <授業目的>

結論が前提から正しく導き出されることを、妥当な推論と呼ぶ。この妥当な推論、言い換えると「正しく考えること」は情報システムに関わらず、様々な学問にとって重要なことである。そこで本講義では、この妥当な推論を行うための技術の1つである記号論理（命題論理、述語論理）を学習する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 論理学、離散数学入門
2. 離散数学1（集合）
3. 離散数学2（数学的帰納法、写像（関数））
4. 命題論理1（否定、かつ、または）
5. 命題論理2（ならば、同値）
6. 命題論理3（真理値表、真理値分析）
7. 命題論理4（真理値割り当て）
8. 命題論理5（命題の標準化）
9. 命題論理の推論1（真理値表1）
10. 命題論理の推論2（真理値表2）
11. 命題論理の推論3（真理値割り当て）
12. 論理回路（ブール代数、論理ゲート）
13. 述語論理1（命題関数、量化記号）
14. 述語論理2（量化命題）
15. まとめと最終テスト

#### <成績評価方法>

最終テスト100%の比率で評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書:「論理学の基礎」、飯田賢一 他、昭和堂、ISBN 4-8122-9408-8

その他に講義資料をホームページによって配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

3年時に「人工知能」を履修するものは、この科目を履修していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・離散数学（集合、写像など）についてその概念を理解する（最終テスト20%）。
  - ・自然言語による論理を記号論理として記述し、妥当な推論を行う力を習得する（最終テスト80%）。
- （関連する学習・教育目標:D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	システム数学	2	後	小野陽子 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	システム数学			

選択

<授業目的>

情報システムを学ぶ上で、数学は物事を論理的に考えるための基礎であり道具である。本講義では、微積分学を中心に講義を進める。技術が先走ることなく、人間が使いやすいシステムの構築を目指すための技術の基盤となる数理を学ぶことを目的とする。

<各回毎の授業内容>

第1回 数列と極限(1) 実数の性質、数列の極限

第2回 数列と極限(2) 級数、関数の極限と連続関数

第3回 関数(1) 指数関数、対数関数、三角関数

第4回 関数(2) 分数関数、無理関数

第5回 極限と関数演習

第6回 微分の基本的性質

第7回 様々な関数の微分 第3回～第4回で扱った関数に関する微分計算

第8回 関数の増減 増減表とグラフの作成

第9回 微分法応用 平均値の定理

第10回 微分法演習

第11回 積分の基礎

第12回 様々な積分手法 置換積分、部分積分

第13回 積分法応用 面積、体積の導出

第14回 積分法演習

第15回 まとめと試験

<成績評価方法>

試験の成績により評価を行う（100％）

<教科書・参考文献>

水田義弘「詳解演習 微分積分」サイエンス社

<受講に当たっての留意事項>

基礎自由科目「数学基礎」の内容を習得していることが望ましい。

<学習到達目標>

・微積分の計算ができること（試験内約50％）

・問題解決のために、題意を理解し、適切な手法と定理を利用することができること（試験内約50％）

（関連する学習・教育目標:D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	統計と情報2	2	後	二瀬由理 （情報システム）
21年度以前	専 門	2 年	生活統計			

選択

#### <授業目的>

身のまわりの社会をより深く理解するためには、自らデータを集め、それを解析する方法を知っておく必要がある。

本講義では、統計の基礎に基づいた様々なデータ解析手法を学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

1. 統計分析の基礎（データ特性・尺度水準・記述統計など）
2. 推測統計の基礎（標本抽出等）
3. 統計的仮説検定(1)
4. 統計的仮説検定(2)
5. 2組の平均値の差の検定
6. 平均値の推定
7. 相関係数・単回帰分析
8. 重回帰分析
9. 順位相関
10. 比率の検定
11. クロス表とカイ二乗検定
12. 分散分析法の一元配置、二元配置
13. 分散分析法の繰り返し実験・反復実験
14. 実験計画法
15. まとめ:テスト

#### <成績評価方法>

成績評価は随時講義中に行う確認テストおよび課題（20％）中間テスト（20％）、学期末のテスト（60％）にもとづいて行う。

#### <教科書・参考文献>

保 留

#### <受講に当たっての留意事項>

統計と情報（基礎科目）を履修していることが望ましい。

予習・復習を積極的行うこと。講義で分からないことは、積極的に質問すること。

#### <学習到達目標>

日常生活の中の各種データを加工処理したり、解析結果から得られる情報を理解し、活用できるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	基本情報処理特論 2	2	前	根岸良征
16年度以前	専 門	3 年	情報技術演習Ⅱ	1		

選択

#### <授業目的>

この授業では、C言語プログラムを解説し、処理の流れを理解できるようになることを目的とする。そこで、初めにC言語の文法事項について重要項目をまとめる。次に、プログラムで用いられるデータ構造やアルゴリズムを講義し、これらを用いたプログラムの解析演習を行うことで、基本情報処理技術者試験のC言語プログラム問題を解くことの出来る実践力を身につける。

#### <各回毎の授業内容>

1. C言語の基本文法のまとめ1 制御構造、配列
2. C言語の基本文法のまとめ2 構造体と構造体配列
3. C言語の基本文法のまとめ3 関数の定義と利用
4. C言語の基本文法のまとめ4 ポインタと配列、ポインタと関数
5. データ構造を用いたプログラム1 一次元配列
6. データ構造を用いたプログラム2 二次元配列
7. データ構造を用いたプログラム3 構造体配列
8. データ構造を用いたプログラム4 リスト・木
9. 文字列処理アルゴリズムを用いたプログラム
10. 探索アルゴリズムを用いたプログラム 線形探索
11. 探索アルゴリズムを用いたプログラム 二分探索
12. ソートアルゴリズムを用いたプログラム
13. 図形処理プログラム
14. 総合演習1
15. 総合演習2

#### <成績評価方法>

授業内での演習課題（20%）、期末レポート（50%）、授業への参加（30%）

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用しません。授業で必要に応じてプリントを配布します。C言語の文法を解説した書籍を用意すると便利でしょう。

#### <受講に当たっての留意事項>

期末レポートは期末試験と同様の扱いをしますので、提出しない場合には単位は認定しません。授業に出席することは単位認定の必須条件です。

#### <学習到達目標>

C言語プログラムの解析ができ、プログラム動作の詳細を正確に把握できるようになることを目標とします「基本情報技術者試験」に合格できる実力を身につけてください。

# 2年システム専門科目（後期）

情報論  
生理機能と情報  
生活統計  
行動科学  
生産企画と管理  
流通と物流  
管理会計  
プログラミング技術特論  
アルゴリズム  
プログラミング環境  
ソフトウェアエンジニアリング  
オペレーションズリサーチ1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	情報論	2	後	高木義和 (情報システム)
16年度以前	共 通	2 年	情報論			

選択

<授業目的>

情報をめぐるさまざまな考え方を概観し、情報を組織や社会における人・物・金に並ぶ重要な資源あるいは資産ととらえ、情報を効果的に活用できるようになるための考え方について学ぶ。情報の概念、人の行為と情報の関係を理解し、情報活用の基礎概念を学ぶ。そして実際の情報の活用段階における問題点と対応について紹介する。さらに情報社会における情報の価値と、情報の基本的性質の理解を通して情報活用のために有用な考え方を紹介する。情報を柔軟に受け入れることができるようになるように具体例を含めて多くの考え方を並列的に紹介する。

<各回毎の授業内容>

1

言葉としての情報

2

情報の概念

①データと情報と知識の概念的把握

3

②情報と知識構造

4

人の行為と情報

①意志的行為と身体的行為

5

②意志、意図、企図と情報

6

③意思決定、行動と情報

7

情報の基本的性質

①情報の交互性（人による情報発信と受信）/ media の存在

8

②情報の循環性/理解の多様性/他

9

情報の活用

①目的、目標の確認段階の問題点と対応

10

②情報の収集、選択、整理、加工、分析段階の問題点と対応

11

③判断、意思決定、行動段階の問題点と対応

12

情報社会と情報の価値

①社会構造の変化と情報社会のイメージ

13

②個人における情報の利用

14

③知識基盤社会

15

まとめ

<成績評価方法>

成績は定期試験の結果で評価する。試験は資料の持ち込みは禁止で、講義に基づく記述式の問題を3問出題する。授業に1/3以上欠席した場合は受験資格を認めない。

<教科書・参考文献>

使用しない。必要に応じ資料を配布する。

<受講に当たっての留意事項>

ノートを良く整理すること。大教室のため授業中の出入りは禁止します。教室の全方で受講すること。後方で受講する場合は私語を禁止します。

<学習到達目標>

情報という言葉の意味と概念を理解しできること（1～3）

30%

情報の基本的性質を理解し、人の行為と情報の関係を理解できること（4～8）

35%

情報の活用の問題点と対応を理解し情報の価値を認識できること（9～14）

35%

（関連する学習・教育目標：G）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	生理機能と情報	2	後	藤瀬武彦 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	生理機能と情報			

選択

#### <授業目的>

日本は近い将来に極端な少子高齢社会を迎え、医療費や介護費が高騰してさらに国民負担の重くなることが予想されることから、国民一人一人が生理機能（身体のメカニズム）、健康体力づくり、あるいは健康診断に関する知識をもつことは必要である。また、生涯にわたり健康を保持するためには医療機関との関わりが欠かせない。従って、この授業では健康体力レベルを評価するための生体情報に関することや、医療システム（特に問題点や情報公開）などについて言及し、身体の自己管理能力や患者力を身に付けることが目的である。

#### <各回毎の授業内容>

- はじめに ……少子高齢社会における健康体力づくりの意義、生活習慣病
- 身体組成 ……肥満度（BMI・体脂肪率）の判定、隠れ肥満とは
- 体 液 ……膠質浸透圧、脱水と水分補給、血液の組成
- 血 液① ……赤血球の酸素運搬能、貧血、平均赤血球指数（MCV, MCH, MCHC）
- 血 液② ……白血球の機能（液性免疫と細胞性免疫）、性感染症・エイズ
- 心機能① ……心臓の構造、心拍出量、心拍数と運動強度・RPE との関係
- 心機能② ……心電図の評価、異常心電図、AED（自動体外式除細動器）
- 循 環 ……循環調節、血圧の測定・評価、メディカルチェック
- 呼 吸 ……スパイロメトリー、努力肺活量（1秒率）、ガス交換（拡散能力）
- エネルギー代謝 ……VO<sub>2</sub>、VCO<sub>2</sub>、RQ（呼吸商）、基礎代謝、最大酸素摂取量
- 物質代謝 ……糖質・脂質・蛋白質の代謝、ビタミンとミネラル
- 骨格筋 ……筋線維組成と運動能力、筋力・筋肥大、プロテインスコア
- 腎臓・内分泌 ……尿生成の機序、尿の成分、各ホルモンの作用、情報伝達
- 生殖 ……男性及び女性の生殖生理、妊娠・分娩
- 医療システム ……医療費とレセプト、医師免許制度、カルテ開示・電子カルテ

#### <成績評価方法>

この授業における評価は、基本的には定期試験（100点満点）の点数により行うが、授業中の課題によるレポートなどで若干加点する場合もある。なお、試験ではノート・資料等の持ち込みは一切できない。

A（優）：80点以上、B（良）：70点以上、C（可）：60点以上、D（不可）：59点以下

#### <教科書・参考文献>

授業中に必要に応じて資料を配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

特になし。

#### <学習到達目標>

- (1)基本的な生理機能や健康体力づくりに関する知識を習得する（約50％）。
  - (2)健康診断に関する知識を習得し、また医療システムに対する問題意識をもつ（約50％）。
- （関連する学習・教育目標：G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2 年	生活統計	2	後	小野陽子 （情報システム）
21年度以前	共 通	1 年	生活情報			

選択

#### <授業目的>

社会構造の変化、技術革新による情報の高度化に伴い、生活構造も変化している。このような生活構造の変化をとらえるためにはどうすればよいのだろうか。前半では、情報を収集すること（公開されているデータの収集および調査票を作成した上でのデータ収集）、そして、そのように集めたデータを分析する手法を概説する。後半は、実際に収集したデータを用いて、データ解析を行う。

#### <各回毎の授業内容>

1. 公開されているデータの収集方法と利用方法
2. 図や表などの資料解釈(1)
3. 図や表などの資料解釈(2)
4. 調査の意義と具体的な調査事例(1)
5. 調査の意義と具体的な調査事例(2)
6. 調査を企画する上での注意事項
7. 調査票の作成方法・作成にあたっての注意事項
8. 調査企画・調査票作成
9. データを取る上での注意事項
10. データ解析法(1)2組の分散の検定
11. データ解析法(2)2組の平均値の差の検定
12. データ解析法(3)比率の検定
13. 演習
14. 演習
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

成績評価は随時講義中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題（40％）、最終レポート（60％）にもとづいて行う。

#### <教科書・参考文献>

講義でプリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

演習は必ず、自分で行うこと。

自分で考え、行動する事柄を講義の中に入れてあるので、ただ講義を聞くだけでなく、自分で考え、積極的に質問や意見を出すこと。

#### <学習到達目標>

自ら、問題意識を持ち調査を企画し、データ収集およびデータ解析をできる力を身につける。  
（関連学習・教育目標：H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	行動科学	2	後	小宮山智志 (情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	行動科学			

#### 選択

#### <授業目的>

皆さんは自分の行動を決めるとき、どのように考えていますか。私は4歳の誕生日から皆さんの年齢ぐらいまで、親の希望する職業につくのが当たり前だと考えていました。しかしいろいろな人々との出会いの中で「当たり前」に従うのではなく、自分はどんなことに向いているのか、真剣に考えては、チャレンジすることを繰り返し、今の職業にたどり着きました。

自分の行動を“現実”と照らし合わせて決める、簡単なことのようにですが、必ずしも行われてはいないようです。歴史的に見ても、意外と新しく、ヨーロッパでは17世紀以降のニュートンの科学革命以降のことでしょう。

“現実”から、「なぜ～だろうか」という“問い”を考えて、つい見逃してしまいがちな人間行動のしくみに目を向けて原因を推理し（仮説を考え）、今後の行動や企画・対策を考えることは、人類に残された最大の仕事です。覚えること、解答を計算することはコンピュータには勝てませんが問いや仮説を考えることは人類にしかできません。また“自分の”問い・仮説を持つことで仕事や勉強を“やらされる”のではなく自分の関心で行動できるようになります。

仕事や人生で、自分や愛する人々のことを真剣に考え“現実”に背を向けずに行動を決定するとき、私が実践してきた、そして人類がたどり着いた“ある一つの方法”をこの講義で実際に皆さんに体験してもらいます。皆さんの先輩が自分の関心に基づいて、問い・仮説を真剣に考えた卒業論文を題材にしています。

#### <各回毎の授業内容>

第1回:ドラッグストアの店舗のレイアウト～本講義の射程とスケジュール等について

第2回～14回:先輩たちの卒業論文を題材としてします。講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの問いについて個人またはグループで考え、2回目は皆さんの考えと先輩の考えを紹介します。題材とする論文は変更されることがあります。ご了承ください。

2回:なぜ区役所が使いにくいのか～仮説を考える1グループワーク編／3回:解説編

4回:自分一人だけの心理:いじめから環境問題まで～仮説を考える2グループワーク編／5回:解説編

6回:現役の4年生の卒業研究1～問いを見つける1グループワーク編／7回:解説編

8回:彼・彼女との心理的距離はどのぐらいがちょうど良いか～問いを見つける2グループワーク編／

9回:解説編

10回:ココロをつかむ映画推奨システム～問いを見つける3／11回:解説編

12回:現役の4年生の卒業研究2～問いを見つける4グループワーク編／13回:解説編

14回:最終レポート解説編（グループワークを含む）／15回:最終レポートグループワーク編

#### <成績評価方法>

成績は、グループワーク・個人ワーク（5点満点×8回）と最終レポート（60満点×1回）によって評価します（旧態依然とした減点法の試験は行いません）。オリジナリティを高く評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書:皆さんの先輩の卒業論文・調査をテキストとします。

参考文献:チャールズ・A・レイブ、ジェームズ・G・マーチ（佐藤嘉倫[ほか]訳）『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社 1991年

小林淳一／木村邦博編『考える社会学』ミネルヴァ書房 1991年

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。グループワーク・個人ワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達意外な推理を楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

資料はホームページ（<http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/>）で公開します。

#### <学習到達目標>

1) 観察した結果が成り立ちを矛盾なく説明できる仮説を考えられるようになってください（グループ、個人ワーク:10点・最終レポート:30点）。

2) 一つの現象について複数の推理（仮説）を考えられるようになってください（5点・10点）。

3) 自分の関心に基づいて問いを見つける方法を身につけてください（20点・10点）。

4) 覚えるためではなく問い・仮説を考えるための本の読み方を身につけてください（5点・10点）。

（関連する学習・教育目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	生産企画と管理	2	後	佐々木桐子 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	生産企画と管理			

選択

#### <授業目的>

生産の概念、歴史、さらに生産企画（計画）や生産管理の諸手法を学習する。具体的には、生産における物の流れ、情報の流れ、価値（原価）の流れを理解し、生産管理の史的考察をおこない、科学的なアプローチとして意思決定の諸手法を習得し、生産における諸問題の解決案を提案する。

#### <各回毎の授業内容>

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 生産の概念           | 生産、生産要素、生産工程、生産財、生産性  |
| 2. 生産管理の史的考察①      | 社会の変遷、成行管理、課業管理       |
| 3. 生産管理の史的考察②      | 同時管理、自己制御管理、システム管理    |
| 4. 大量生産方式の起源と発展①   | 初期のアメリカ自動車産業          |
| 5. 大量生産方式の起源と発展②   | 初期の日本自動車産業、トヨタ生産方式    |
| 6. 生産の形態、需要予測      | 分類、見込生産と受注生産 需要予測のモデル |
| 7. 生産計画①           | 種類、戦略                 |
| 8. 生産計画②           | 長期生産計画                |
| 9. 日程計画（スケジューリング）  | 2工程フローショップスケジューリング    |
| 10. 日程計画（スケジューリング） | 多工程フローショップスケジューリング    |
| 11. 工程計画           | 評価基準、最適工程計画           |
| 12. 在庫管理           | ABC分析の原則、ランク          |
| 13. ロジスティクス        | 概念（物流とロジスティクス）、変遷     |
| 14. 総括             |                       |
| 15. まとめと試験         |                       |

#### <成績評価方法>

- ・毎回の小テスト:20%（学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②=50:50）
- ・数回のレポート:20%（学習到達目標②に相当）
- ・定期試験:60%（学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②=50:50）

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書:「生産企画と管理 講義ノート」を使用する。
- ・参考文献:人見勝人著 『新・生産管理工学』 コロナ社、1997。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・各自、電卓を持参すること。

#### <学習到達目標>

- ① 企業における生産の管理全般を理解し、現実の問題へと応用することができる。
- ② 管理に関わる諸問題を発見し、解決する能力を身につけることができる。

（関連する学習・教育目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	流通と物流	2	後	岸野清孝 (情報システム)
16年度以前	専 門	3 年	流通と物流			

選択

<授業目的>

社会は、大きく生産、流通、消費の3つの領域に分けられる。流通の働きにより財が生産から消費へと移転し、財の所有権の移転を「商流」、財の場所的・時間的移転を「物流」という。企業においては流通・物流コストは割高が実態であり、効果的に管理するためのノウハウ・技法などを学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 流通と物流の全体概要説明

2. 流通とは何か:流通機構とその社会的役割、流通とは、商流と物流、流通機構とは

3. 流通構造と流通チャネルの基本概念:流通構造と流通経路、閉鎖的チャネルと開放的チャネル

4. 日本の流通構造および流通政策の概要:自由な流通活動、構成取引、統制・規制、消費者保護

5. 流通チャネルにおける取引慣行と情報ネットワーク化

6. 流通業の機能分類と流通戦略の事例:販売方法、組織管理、物流方法、商品ブランド、取引方法

7. 流通構造の変遷:小規模流通、チェーンストア、量販店の拡大、専門店チェーン、流通構造変化

8. 物流とは何か:物流7機能、物流センターの必要性

9. 輸送機関の分類と動向:輸送機関の分類、メリット・デメリット、トラック運送の運賃

10. 物流における在庫管理:物流ネットワークと在庫、在庫の種類、在庫管理方式

11. 物流情報システム:倉庫管理システム、配車配送システムの考え方、特徴、効果

12. 物流戦略と共同化:共同物流の背景、共同物流の有効性・影響、サードパーティロジスティクス

13. 物流戦略と企業同盟:製造・卸・小売の物流同盟、サプライチェーンマネジメント

14. 国際貿易・輸出入業務と物流:貿易とは、通関制度、輸出入業務と信用状の考え方

15. まとめ、テスト

<成績評価方法>

期末テスト:100%

<教科書・参考文献>

教科書:岸野清孝著「流通と物流」静岡学術出版（2007年）を使用する。

<学習到達目標>

・流通と物流の仕組み（流通機構、流通チャネル、流通構造、取引慣行、輸送、在庫管理など）を理解し、基本的な知識を習得する。（期末テスト:50%）

・流通と物流の内容と役割およびその中での情報活用の方法を理解し説明できるようになる。（期末テスト:20%）

・流通と物流の効率化の動向（共同化、サプライチェーンマネジメントなど）を学び、それらが問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる。（期末テスト:30%）

(関連する学習・教育目標:I)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2 年	管理会計	2	後	山下 功 (情報システム)
21年度以前	専 門	3 年	管理会計			

選択

#### <授業目的>

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。管理会計は、企業内部の「計画と統制のための会計（第2～7講）」と、「意思決定のための会計（第8～12講）」に分けることができます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。本講義を履修することによって、管理会計の基本的な知識を習得することを目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

1. 管理会計とは
- 2～3. 標準原価計算と原価統制
- 4～5. 直接原価計算と損益分岐点分析
6. 予算管理と短期利益計画
7. 事業部制と会計
8. 長期利益計画
- 9～10. 個別計画意思決定
- 11～12. 設備投資意思決定
13. 経営情報システムと会計
14. 管理会計の実務
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

期末定期試験60%、授業中の小テスト40%。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使いません。参考文献は授業中に紹介します。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業で計算問題を解くことがありますので、電卓を持参してください。安い物でもいいですが、携帯電話の電卓機能を使うことはなるべく避けてください。

#### <学習到達目標>

管理会計の概要についての知識を習得し、企業内部で計画と統制を行う際に、管理会計から得られる情報がどのように役に立っているかを理解できるようになってください。（期末定期試験30%、授業中の小テスト20%）

企業内部で意思決定を行う際の管理会計の役割を理解するとともに、経営情報システムと会計との関係や、管理会計の実務についての知識を習得してください。（期末定期試験30%、授業中の小テスト20%）

（関連する学習・教育目標：I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	プログラミング技術特論	2	後	石井忠夫 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	プログラミング技術特論			

選択

#### <授業目的>

ソフトウェア設計における抽象化技術としてオブジェクト指向分析／設計／プログラミングを取り上げ、ソフトウェア開発における一連の流れを解説する。本講義においては、特に、オブジェクト指向分析／設計のための言語としてUML (Unified Modeling Language)、また、オブジェクト指向プログラミング言語としてJavaを用いて説明する。また、受講生には実際にJavaプログラミングを体験してもらう。

#### <各回毎の授業内容>

1. ソフトウェア開発の入門（ソフトウェア開発の基礎、講義の位置付け）
2. オブジェクト指向の基礎概念（モジュール性、抽象データ型、クラス）
3. オブジェクト指向プログラミング言語とJavaの使い方
4. Javaプログラミング1（制御構造と配列）
5. Javaプログラミング2（クラスの定義、カプセル化、多重定義）
6. Javaプログラミング3（クラスの継承、再定義）
7. Javaプログラミング4（抽象クラス、インターフェイス、例外）
8. オブジェクトの静的モデル（クラス、関連、継承、集約とコンポジション）
9. オブジェクトの動的モデル（ユースケース分析、シナリオ分析、シーケンス図）
10. 生成に関するデザインパターン（Factory, Singleton, Prototype等）
11. 構造に関するデザインパターン（Adapter, Composite, Decorator等）
12. 振舞いに関するデザインパターン（Chain of Responsibility, Command等）
13. 演習課題の説明とオブジェクト指向分析の例
14. 演習課題のJavaプログラム作成とソフトウェアテスト
15. まとめと試験

#### <成績評価方法>

小プログラム作成5回が30点、演習課題プログラム作成1回が10点、および期末試験が60点の合計点で評価する。

#### <教科書・参考文献>

- ・毎回、講義資料を配布する。
- ・参考文献:1) Javaの教科書例えば、高橋麻奈著:「やさしいJava」第3版  
（フトバンク出版2005年）2,730円
- 2) マーチン・ファウラー著、羽生田栄一監訳:「UMLモデリングのエッセンス第3版  
（翔泳社、2005年）2,400円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・既に、情報処理演習C1を履修していることが望ましい。
- ・レポート課題の演習時に、自ら積極的に取り組む態度が必要となる。

#### <学習到達目標>

ソフトウェア開発の一連の作業手順を理解し（30%）、また、小規模の課題については自らオブジェクト指向分析／設定を行い（40%）、課題を解決する能力（30%）を習得する。  
（関連する学習・教育目標:D,J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	アルゴリズム	2	後	河原和好 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	アルゴリズム			

選択

#### <授業目的>

コンピュータを用いて問題解決を行う際の、基本的な考え方と方法について学ぶ。問題を解く手続きを与えるアルゴリズムと、そこで用いるデータの表現形式であるデータ構造との関連を理解する。アルゴリズムの記述方法、代表的なアルゴリズムについて学習する。

#### <各回毎の授業内容>

- |                |                           |
|----------------|---------------------------|
| 1 アルゴリズムとは何か   | プログラミングとの関係、簡単なアルゴリズムの記述  |
| 2 アルゴリズムの記述方法  | フローチャート、疑似言語、PAD、         |
| 3     〃        | 具体的なアルゴリズムの記述             |
| 4 データ構造        | 配列、リスト、木、スタック、キュー         |
| 5 探索の基礎        | 線形探索、二分探索                 |
| 6 計算量          | アルゴリズムの性能評価               |
| 7 探索の応用        | ハッシュ法                     |
| 8     〃        | 二分探索木、平衡木                 |
| 9     〃        | ハッシュ法                     |
| 10 整列          | バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート |
| 11     〃       | マージソート、クイックソート、ヒープソート     |
| 12     〃       | ビンソート、分布数え上げソート、基数ソート     |
| 13 アルゴリズムの応用   | 再帰、分割統治法、動的計画法、バックトラック法   |
| 14     〃       | 文字列の照合、グラフ探索              |
| 15 まとめ及びレポート提出 |                           |

#### <成績評価方法>

時間内に行う演習と数回提示する宿題の評価点の合計を40%、中間レポートの評価点を30%、期末レポートの評価点を30%として評価する。

#### <教科書・参考文献>

毎回、講義資料を配付する。参考文献は講義中に紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・プログラムを作成するための「アルゴリズム」なので、プログラミングに関する講義・演習を履修済であることが望ましい（レポートや宿題でプログラムを作成する）
- ・オフィスアワー、参考文献等はウェブページに掲示する。<http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>

#### <学習到達目標>

- ・基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解する（演習課題全体で評価）
- ・学習したアルゴリズムを、プログラミングにより実現できるようになる（中間レポートと期末レポートで評価）

（関連する学習・教育目標:D,J）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	プログラミング環境	2	後	河原和好 （情報システム）
16年度以前	専 門	2 年	プログラミング上級			

選択

#### <授業目的>

コンピュータでプログラミングを行う際に必要な知識や技術を学習する。具体的には、UNIX 環境におけるファイル・エディタ・応用プログラムの利用を通じて、プログラミング環境の基本技術を学習する。さらに、講義中にプログラムの演習課題を実施することにより、設計と開発、テストと品質管理の方法を体得する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス:プログラミング環境について、これまでの復習
- 2 UNIX の利用1:UNIX について、ログイン、基本コマンド
- 3 UNIX の利用2:UNIX のコマンド、ファイルとディレクトリ
- 4 UNIX の利用3:ファイルのパーミッション、エディタの利用
- 5 UNIX の利用4:Windows との連携、FTP、Telnet
- 6 UNIX の利用5:X Window System、応用プログラム
- 7 プログラミング1:プログラミング言語の諸概念、プログラミング言語について
- 8 プログラミング2:簡単なプログラム（入出力、変数、演算）
- 9 プログラミング3:制御構造（分岐、反復、アルゴリズム、構造化プログラミング）
- 10 プログラミング4:配列の基礎と応用
- 11 プログラミング5:関数の基礎と応用
- 12 ソフトウェア開発手法1:プログラムの仕様作成  
応用プログラムに要求される機能を分析して仕様を決定する要求分析手法を学習する
- 13 ソフトウェア開発手法2:プログラムの設計・開発  
決定された仕様に基づき必要な機能モジュールを設計し開発する手法について学習する
- 14 ソフトウェア開発手法3:テストと品質管理  
テストを積み上げながら機能モジュールを一つの応用プログラムへと組み合わせる手法を学習する
- 15 まとめ及びレポート提出

#### <成績評価方法>

時間内に行う演習と数回提示する宿題の評価点の合計を 40 %、中間レポートの評価点を 30%、期末レポートの評価点を 30 %として評価する。

#### <教科書・参考文献>

毎回、講義資料を配付する。参考文献は講義中に紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・プログラムを作成する環境とソフトウェア開発手法に関する講義なので、プログラミングに関する講義・演習を履修済または履修中であることが望ましい。
- ・オフィスアワー、参考文献等はウェブページに掲示する。<http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>

#### <学習到達目標>

- ・UNIX システムを理解し活用する方法を学習する（1～5回の演習課題により評価）
- ・プログラミングについて学習し活用する（6～10回の演習課題とレポート（50%）により評価）
- ・ソフトウェア開発に関する知識と技法を習得する（11～15回の演習課題とレポート（50%）により評価）

（関連する学習・教育目標:D,J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3 年	ソフトウェアエンジニアリング	2	後	桑原 悟 (情報システム)
21年度以前	専 門	3 年	ソフトウェアエンジニアリング			

選択

#### <授業目的>

ソフトウェアは、高度に知的な作業の結果として生まれるとあってよいが、反面、その作成に関しては、属人的なものになりがちであり、科学的アプローチは簡単ではないという特徴がある。ソフトウェアエンジニアリングは、このソフトウェアの作成におけるさまざまな局面に対し、工学的な視点での測定や改善を扱う分野である。この授業では、ソフトウェアのライフサイクルを意識し、その機能や価値と作成のコスト及び改善のための考え方や具体的手法について学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- 1) 授業のオリエンテーション
- 2) ソフトウェア工学の必要性と発生、発展、その対象
- 3) ソフトウェアの価値、有効性、機能、能力
- 4) ソフトウェアのコスト
- 5) ソフトウェアのライフサイクル
- 6) ソフトウェア開発手法の種類と特徴(1)
- 7) ソフトウェア開発手法の種類と特徴(2)
- 8) ソフトウェアの開発の工程と生産性(1)
- 9) ソフトウェアの開発の工程と生産性(2)
- 10) ソフトウェア開発の工程と品質(1)
- 11) ソフトウェア開発の工程と品質(2)
- 12) ソフトウェア工学の周辺
- 13) ソフトウェア工学分野の最新の動向
- 14) まとめ
- 15) まとめと定期試験

注) 受講する学生の理解度により講義順序や分量を調整することがある。

#### <成績評価方法>

定期試験により評価を行うが、提出任意のレポート1回を課し、これも評価の参考にする（提出者には内容により試験点数（100点満点）相当で最大で10点を加点）。

#### <教科書・参考文献>

{新技術の登場が盛んな分野であるので、授業開始時期に合わせて最適なものを選定し指定する}

#### <受講に当たっての留意事項>

分散コンピューティングの授業内容の理解及び、数学1、数学2、テレコミュニケーション、組織と経営の単位を取得していることが望ましい。また、基礎自由科目「数学リテラシー」の履修を指導された者は、これを履修していることが望ましい。授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる（出席を認めない）。質問は歓迎するので、遠慮なく質問して欲しい。

#### <学習到達目標>

ソフトウェアエンジニアリングが必要な背景、その考え方及び、個別の手法などの特徴について理解できるようになることを目標とする。

(関連する学習・教育目標:J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	オペレーションズ・リサーチ1	2	後	白井健二 (情報システム)
16年度以前	専 門	2 年	オペレーションズ・リサーチ1			

選択

<授業目的>

現象の数式化による問題解決能力を養うため、在庫理論，線形計画法，金融工学などを学習する。数  
理的に問題を定式化して最適解を数学的に解析する。また，Excelを用いてExcelを用いて最適解を求  
めることも修得する。

<各回毎の授業内容>

1. ORとは

2. 確率基礎の復習

3. 回帰分析

4. 在庫理論1

5. 在庫理論2

6. Excelのソルバー利用について

7. 線形計画法(1)（生産計画1）

8. 線形計画法(2)（生産計画2）

9. 線形計画法(3)（輸送問題，配置）

10. 金融工学（現在価値・将来価値）

11. 金融工学（金利・連続複利）

12. 金融工学（デリバティブとは）

13. 金融工学（二項モデル）

14. 金融工学（オプションプライシング）

15. まとめと試験

<成績評価方法>

適時実施する小テスト（40％）と期末試験（60％）の成績で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書は使用しない。プリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

・基礎自由科目「数学リテラシー」の内容を修得していることが望ましい。

・小テストを適時実施する。

<学習到達目標>

ORの代表的手法（回帰分析，在庫理論，線形計画法，金融工学）を理解するとともに定量的方法に  
よる問題解決能力を修得することを目標とする。また，Excelソルバーなどの使い方を修得すること  
を目標とする。学習到達評価としては，授業の中で適時実施する小テストが40％，期末試験が60％と  
いう配分で評価する。

# 3・4年システム専門科目（後期）

情報システム開発  
情報セキュリティ  
地域情報システム  
社会理論と調査法  
生活と法律  
ベンチャービジネス  
人工知能  
データベース  
コンピュータビジョン  
シミュレーション

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	情報システム開発	2	後	竹並輝之 (情報システム)
16年度以前	専 門	3 年	情報システム開発			

選択

<授業目的>

コンピュータを活用して企業の情報システム化を進めるための方法論と手順について学ぶ。情報システムの導入計画から、分析、設計、製造、テスト、運用・保守にいたるライフサイクルの中で、どのような仕事が行われるのか、どのような組織でどのような管理が必要なのかを理解する。特に、業務の仕組みを調査・分析して、コンピュータを活用した新しい情報システムの全体像をデザインする際に必要なモデル化の手法を、ケーススタディを用いて体得する。

<各回毎の授業内容>

1 情報システム開発のプロセス	情報システムのライフサイクルモデル
2 経営戦略とシステム企画	ビジネス環境分析、システム化計画書
3 システムの分析と改善案の策定	業務プロセスと情報の分析、要求仕様書
4 分析・設計の手法	DFD、ER図、蓄積情報項目の抽出
5 演習 1	ケーススタディ 1によるプロセスとデータの分析
6 演習 1（発表と解説）	ケーススタディ 1の改善案策定と解説
7 処理方式とシステム構成の決定	コンピュータ処理能力、障害対策
8 費用対効果分析	開発費用と保守費用、数量化できる効果
9 演習 2	ケーススタディ 2によるプロセスとデータの分析
10 演習 2（発表と解説）	ケーススタディ 2の改善案策定と解説
11 ソフトウェアエンジニアリング	ソフトウェアの品質、デザインレビュー
12 開発プロジェクト管理	プロジェクトの管理対象、管理者の役割
13 システムトラブルの分析	トラブル分析、原因と対策
14 システムの評価	システム利用者と開発者、ヒューマンインタフェース
15 まとめ、テスト	

<成績評価方法>

情報システムを開発する方法についての理解度と、コンピュータを使って業務の効率化を行うシステムをモデリングしデザインする能力を期末試験結果で評価する（持ち込み不可）。

<教科書・参考文献>

毎回プリント資料を配布する。

参考書:神沼靖子編著 「情報システム基礎」 オーム社 2625円

<学習到達目標>

- ・情報システムを開発する手順を理解し、開発過程で発生する問題点に対する問題解決の方法等を考えることができる。（40％）
- ・システムエンジニアやプロジェクトリーダーとして仕事をする上での基本的な必要知識を身につけ、説明できる。（30％）
- ・コンピュータを使って業務の効率化を行うシステムのモデリングとデザインができるようになる。（30％）

(関連する学習・教育目標:E,G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	情報セキュリティ	2	後	桑原 悟 （情報システム）
16年度以前	専 門	4 年	情報セキュリティ			

選択

#### <授業目的>

情報セキュリティは、IT社会を支える重要なものであることは疑問の余地がない。この授業では、組織にとって情報セキュリティが必要な背景、情報セキュリティの実現に利用されている個々の要素技術、その技術を具現化した製品の適用と利用技術及び、組織経営にとっての情報セキュリティの位置付けについて学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- 1) 授業のオリエンテーション及び情報セキュリティ概観
- 2) ネットワークとビジネス
- 3) 組織経営と情報セキュリティ
- 4) 情報セキュリティポリシー
- 5) リスクマネジメント1（リスク分析）
- 6) リスクマネジメント2（リスク処理）
- 7) 脅威と対策及び、利用される技術の概要
- 8) ネットワーク構成（FW, DNS, プロキシ, IDS, Webサーバ, メールサーバなど）
- 9) コンピュータウイルス
- 10) 暗号と認証
- 11) PKIの仕組みと利用
- 12) 情報セキュリティ監査, インシデント対応
- 13) 関連の法令, 標準, 規格, 制度
- 14) 情報セキュリティとITC産業界（外部講師を招聘する場合がある）
- 15) まとめと定期試験

注）受講する学生の理解度により講義順序や分量を調整することがある。

#### <成績評価方法>

定期試験により評価を行うが、提出任意のレポート1回を課し、これも評価の参考にする（提出者には内容により試験点数（100点満点）相当で最大で10点を加点）。

#### <教科書・参考文献>

「新技術の登場が盛んな分野であるので、授業開始時期に合わせて最適なものを選定し指定する」

#### <受講に当たっての留意事項>

分散コンピューティングの授業内容の理解及び、数学1、数学2、テレコミュニケーション、組織と経営の単位を取得していることが望ましい。授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる（出席を認めない）。質問は歓迎するので、遠慮なく質問して欲しい。また、この授業は、大学の環境が整備されれば、e-learningファシリティを用いて行う予定である。

基礎自由科目「数学リテラシー」の履修を指導された者は、これを履修していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

情報セキュリティが必要な背景、個々の要素技術、製品、利用技術及び、組織にとっての情報セキュリティの位置付けについて理解できるようになることを目標とする。

（関連する学習・教育目標：G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	地域情報システム	2	後	澤田雅浩
16年度以前	専 門	3 年	地域情報システム			

選択

＜授業目的＞

地域情報システムという言葉が使われるようになって約20年、現在ではほとんど使われなくなった。その理由は、地域情報システムというものの概念が広く、誰のために誰が構築しどのように運用・維持管理をするのが曖昧であったことである。実際は、国や地方自治体などの行政が、自らの行政事務効率化のためのいわゆる大量定型処理の電算システム整備が一段落し、地域の住民生活の利便性を向上させるための、いわゆる地域情報化を推進するためにコンピュータと通信のシステムを整備しようとした時点で用いられた名称であったのであって、主に地方自治体が自地域の管理運営のために構築する情報システムというものであった。

その後、インターネットが急速に普及し、ブロードバンドによる常時接続が一般家庭で定着しつつある状況になり、国をあげてのIT活用が叫ばれて、電子政府・電子自治体、電子商取引、住民ポータルサイト、ITSなどの具体化が始まり、地域情報システムはそれらもサブシステムとして包含するように概念が変化した。

このように地域情報システムは、その定義はもちろん概念さえもが確立されていないが、その基盤となる情報システムの一つとして地理情報システム（GIS）が重要であることは共通の認識がされつつある。この科目では、地理情報システムについて、その歴史や概念から今後の展望までを技術面利用面の両側から概説する。

＜各回毎の授業内容＞

1. 地域情報化の歴史	8. 地図の原理とデジタルマッピング（電子地図）
2. 電子政府・電子自治体について	9. 立地論の基礎
3. 情報化時代の都市基盤	10. 商圈分析の基礎
4. 特別講義「政策形成と情報」	11. 地域分析と立地分析
5. 地理情報システムの歴史と構造	12. GISソフトウェアの現状
6. 地方自治体とGIS	13. ArcViewの使い方
7. GPSの原理と実体	14・ArcView実習 15. まとめとテスト

＜成績評価方法＞

定期試験で成績評価を行う（100%）。

＜教科書・参考文献＞

参考図書:「高度情報化と都市・地域づくり」 平本一雄編著 りょうせい刊

参考図書:「ArcViewによる地域分析入門」 大場亨著 成文堂刊

参考図書:「GISの原理と応用」 巖網林著 日科技連刊

＜受講に当たっての留意事項＞

・マルチメディア実習室においてパソコン演習（3, 4回）を行う。但し受講生数による。

＜学習到達目標＞

この科目では特にGISの理論技術の理解を目的としているが、GISによって

- ・何が可能になるのか（50%）
- ・どのように適用すれば業務や生活に役立つか（50%）

ということを説明できること。

（関連する学習・教育目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	社会理論と調査法	2	後	小宮山智志 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	社会理論と調査法			

選択

#### <授業目的>

この講義では1) 仮説を構築する（推理する）能力、その仮説の検証に適切した調査を企画・設計できる能力、3) 調査結果を分析し、結論を導き出す能力を身につけることを目的とします。

例年の社会調査実習の報告書やその他、本学の卒業論文における社会調査を題材とします。実際の調査に役立つように、知識を伝達するのではなく、グループワークを通して、根拠をもって調査方法（調査企画から、実際の作業に至るまで）を選択できる能力を身につけることを目指します。

情報社会論では“新しい情報社会”について考察しました。この講義では、“新しい情報社会”を築くための具体的な方法論の一部を学びます。あなたの人生を、そしてこれからの社会を真剣に考え、実りあるものにしてゆく実践のための講義です。

#### <各回毎の授業内容>

\* 講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの問いについて個人またはグループで考え、2回目は皆さんの考えと先輩の考えを紹介します。

- 1 本講義の目的と射程
- 2 仮説構成1:因果関係のプロセスを類推:グループワーク編
- 3 仮説構成2:因果関係のプロセスを類推:解説編
- 4 問いと意義1:問いの立て方（疑似相関）:グループワーク編
- 5 問いと意義2:問いの立て方（疑似相関）:解説編
- 6 調査企画1:予測の導出・決定的実験・真理表:グループワーク編
- 7 調査企画2:予測の導出・決定的実験・真理表:解説編
- 8 調査企画3:問い・仮説と調査方法・調査対象の関連について
- 9 調査票と分析1:検証可能な質問文の設定と回帰分析（調査データ整理を含む）:グループワーク編
- 10 調査票と分析2:検証可能な質問文の作成と回帰分析（調査データ整理を含む）:解説編
- 11 尺度構成1:尺度構成可能な質問文の作成（因子分析）:グループワーク編
- 12 尺度構成2:尺度構成可能な質問文の作成（因子分析）:解説編
- 13 尺度構成3:信頼性と妥当性（無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法を含む）
- 14 論文構成について
- 15 まとめ

#### <成績評価方法>

成績は、個人ワーク・グループワークによって評価します（旧態依然とした減点法の試験は行いません）。オリジナリティを高く評価します。

授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。個人ワーク・グループワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達の意外なアイディアを楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

#### <教科書・参考文献>

教科書:各回の授業で配布します。

参考文献:講義中ならびにWebページで参考書を提示します。

#### <受講に当たっての留意事項>

資料はホームページ（<http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/>）で公開します。

#### <学習到達目標>

行動科学で身につけた問い・仮説の発見方法と社会調査・多変量解析などの検証方法を扱う講義の間をつなぐ講義です。既存の調査結果から仮説を考え、調査を企画、調査方法を検討、分析につなげるまでの一連の過程を、グループワークを通して疑似体験し、自分の問い・仮説をどのように検証するのがふさわしいか、考える力を実践的に身につけてください。

（関連する学習・教育目標:H）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	生活と法律	2	後	下井康史
16年度以前	専 門	4 年	生活と法律			

選択

#### <授業目的>

私たちの生活は、役所との関係を抜きに語ることはできない。そして、市民と役所の関係についての法が、行政法である。したがって、行政法は、市民の生活にとって非常に重要な意味を持つことになる。そこで、この授業では、受講生諸君が大学を卒業して社会人になった際、最低限知っておくべき行政法の基礎知識の修得を目的に、行政法の概要を講義する。

#### <各回毎の授業内容>

- ①この授業で学ぶこと
- ②行政法とはどんな法？
- ③身のまわりのできごとと行政法
- ④ゆりかご「以前」から墓場まで行政法
- ⑤行政法の法源
- ⑥行政法の三分野
- ⑦法治主義
- ⑧法律の留保
- ⑨行政処分（行政行為）の意味
- ⑩行政処分（行政行為）の種類
- ⑪行政処分（行政行為）の効力
- ⑫行政指導
- ⑬行政立法
- ⑭行政事件訴訟
- ⑮国家賠償

#### <成績評価方法>

期末試験によって成績を評価する。期末試験は、携帯電話・PHS・パソコンを除き、全て持込み可とする。

#### <教科書・参考文献>

追って指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

追って指示する。

#### <学習到達目標>

行政法の初級者向け教科書を読解できる程度の知識を得ることを目標とする。  
（関連する学習・教育目標：H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	ベンチャービジネス	2	後	吉田 博 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	ベンチャービジネス			

選択

#### <授業目的>

時代の変化に伴い、次々と誕生する革新的事業「ベンチャービジネス」について、その誕生の背景、事業を起こす起業家の特性、成功させるための支援制度、資金調達の仕組み、関連する法律や課題等について学習する。さらに、ベンチャービジネスを立ち上げるための事業プランの作成方法を学習し、自ら事業プランを実際に作成し、情報収集力や事業企画力を修得する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ベンチャービジネスとは 定義、歴史・分類
- 2 ベンチャービジネスを生み出す背景、ベンチャービジネスの意義と課題
- 3 起業家の輩出 起業家の特性・能力・資質 現状と課題
- 4 新事業の創造 ベンチャービジネスの成功要因
- 5 ベンチャービジネスに対する支援制度・機関・システム、関連法律
- 6 資金調達 種類・方法、ベンチャーキャピタル
- 7 ソーシャルベンチャー、NPO
- 8 ベンチャービジネスの事例研究
- 9 ベンチャービジネスの事例研究
- 10 ベンチャービジネスの事例研究
- 11 事業プランの構築、情報収集
- 12 事業プランの作成
- 13 事業プランの作成
- 14 事業プランの発表
- 15 事業プランの発表、まとめ

#### <成績評価方法>

成績は①毎回出席時のレポート（基礎知識・発想力）を30%、②課題レポート、事業プランの作成・発表（情報収集・構想・企画・プレゼンテーション力）を70%

#### <教科書・参考文献>

毎回資料を配布する。必要に応じ、ビデオ、インターネット、図書を使って具体的な事例を紹介する。事例やテーマに応じて、参考となる文献・図書の情報源を紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

取上げる事例について、インターネット、新聞・雑誌等で自主的に情報を収集し、理解するように。グループ（2～3人）で事業プランを作成し、発表する。

#### <学習到達目標>

新たな事業、ベンチャービジネスや起業家の特徴と生み出す背景を理解する基礎知識を身につける（毎回出席時のレポート）。課題レポート、事業プランの作成を通じ、情報を収集する能力、発想する能力、構想・企画する能力を身につける（課題レポート・事業プランの作成）。  
（関連する学習・教育目標：I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	人工知能	2	後	中田豊久 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	人工知能			

選択

<授業目的>

人工知能とは、コンピュータに人間と同様の知能を持たせようとする技術である。コンピュータに知能を持たせるためには、人間の知識をコンピュータに覚えさせ（知識表現）、それを活用する方法（推論）を実装する必要がある。本講義ではこれらの技術について学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 人工知能入門

2. 問題解決（問題の表現）

3. 探索1（横型、縦型探索）

4. 探索2（分岐限定法、山登り法）

5. 探索3（最良優先探索、A\*アルゴリズム）

6. 記号論理1（命題論理）

7. 記号論理2（恒真、恒偽）

8. 記号論理3（命題の標準化）

9. 記号論理4（意味木）

10. 記号論理5（推論）

11. 記号論理6（述語論理）

12. 導出原理

13. 論理による問題解決1（解の抽出）

14. 論理による問題解決2（フレーム問題）

15. まとめと最終テスト

<成績評価方法>

レポート50%、最終テスト50%の比率で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書:「新 人工知能の基礎知識」、太原育夫、近代科学社、ISBN978-4-7649-0356-2

その他に講義資料をホームページによって配布する。

<受講に当たっての留意事項>

1年時の「情報論理」を履修していることが望ましい。

<学習到達目標>

・記号論理によって問題を定義し、解決する方法を理解する（最終テスト70%）。

・探索の手法を習得する（レポート30%）。

(関連する学習・教育目標:J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	データベース	2	後	槻木公一 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	データベース			

選択

#### <授業目的>

コンピュータによる情報技術として応用範囲の広いデータベースについて、利用される技術や仕組み、概念、モデルなどについて学習する。できるだけ理解を促すために事例や例題を多く使用する。特に関係データベースを中心に説明し、主キーや正規化を具体的に理解して、データベース設計、利用における基本技術を習得する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 データベースの基本概念
- 2 情報の表現と概念モデル
- 3 E R 図から関係データモデルへの展開
- 4 データモデルの種類と構造
- 5 関係データモデルの定義と表現
- 6 非正規形リレーションと正規化
- 7 リレーションスキーマ、キーの概念と主キー
- 8 一貫性の保証とキー制約
- 9 関数従属性
- 10 本質的な関数従属と導出された関数従属
- 11 高次の正規化の意義と情報無損失分解
- 12 1 NF、2NF、3NF の定義と正規化の方法
- 13 RDBMS とデータ操作
- 14 リレーションの集合演算
- 15 まとめとテスト

#### <成績評価方法>

- ・成績は期末試験結果（80％）で評価する。試験は各講義に沿った問題を数題出題し、全問の解答を求める。
- ・理解を促すためのレポート提出を授業中数回実施する。これも成績評価に加える。（最大20％）

#### <教科書・参考文献>

- ・参考文献は初回の講義の中で紹介する。
- ・適時、プリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・配布したプリントを授業中に充実すること。そのままでは理解できない。

#### <学習到達目標>

- ・情報システム領域の基本的な専門技術として、データベースの概念およびERモデルを理解する。（期末試験・レポート25％）
  - ・関係データモデルの基本的を理解する。（期末試験・レポート25％）
  - ・キーの概念、正規化の意義と方法を理解し、具体的なデータベース設計への展開方法を習得する。（期末試験・レポート40％）
  - ・データ操作の基本となる集合演算を理解する。（期末試験・レポート10％）
- （関連する学習・教育目標:E,J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	コンピュータビジョン	2	後	河原和好 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	コンピュータビジョン			

選択

<授業目的>

人間が外界の情報を得る手段のほとんどは視覚による画像情報である。この仕組みと同等の機能をコンピュータに持たせ、コンピュータに画像を処理・計測・認識・理解させる手法を学習する。主に画像処理、画像認識について学習する。

<各回毎の授業内容>

1

ガイダンス、コンピュータビジョンとは、応用事例紹介

2

画像処理1: デジタル画像、画像の表現方法、画像フォーマット

3

画像処理2: 画像処理、ヒストグラム処理、空間フィルタ処理

4

画像処理3: 画像の幾何変換、同次座標、補間処理

5

画像処理4: 二値化、二値画像処理

6

画像処理5: 画像の周波数解析

7

画像認識1: 画像認識の基礎、パターン認識

8

画像認識2: 応用事例（文字認識）

9

画像認識3: 応用事例（バイオメトリクス、リモートセンシング）

10

画像理解1: 立体認識

11

画像理解2: 動画画像処理

12

画像作成: コンピュータグラフィックス

13

応用事例1: ロボット

14

応用事例2: バーチャルリアリティ、拡張現実

15

まとめとレポート提出

<成績評価方法>

時間内に行う演習課題と数回提示する宿題の評価点の合計を60％、期末のレポートの評価点を40％として評価する。

<教科書・参考文献>

毎回、講義資料を配付する。参考文献は講義中に紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

オフィスアワー、参考文献等はウェブページに掲示する。<http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>

<学習到達目標>

・ 画像処理について理解しプログラミング等に応用できる（1～6回の演習課題で評価）

・ 画像認識について理解しプログラミング等に応用できる（7回以降の演習課題と期末レポートで評価）

（関連する学習・教育目標: J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	シミュレーション	2	後	白井健二 （情報システム）
16年度以前	専 門	3 年	シミュレーション			

選択

#### <授業目的>

数理科学では現象に対する数学的モデルを作り、これを数学的に取り扱うことによって現象を解明する。特に、確率的現象を理解するためには、離散および連続系に関する確率問題の理解が必須である。よって、確率問題を数学的に解析し、かつExcelを使って確率現象を体感することにより、確率現象に関するシミュレーションの修得を目的とする。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 確率的現象のシミュレーションについて
- 2 事象と確率
- 3 確率変数と確率分布
- 4 期待値と分散
- 5 共分散と相関係数
- 6 ベルヌーイ分布と二項分布
- 7 ポアソン分布
- 8 1次元連続確率変数
- 9 一様分布
- 10 指数分布
- 11 正規分布
- 12 金融工学（二項多期間モデル）
- 13 金融工学（ブラック・ショールズのオプションプライシング1）
- 14 金融工学（ブラック・ショールズのオプションプライシング2）
- 15 まとめと試験

#### <成績評価方法>

適時実施する小テスト（40％）と期末試験（60％）の成績で評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は使用しない。プリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・選択科目「オペレーションズ・リサーチ1」の内容を修得していることが望ましい。
- ・小テストを適時実施する。

#### <学習到達目標>

確率現象を理解するとともに定量的方法による問題解決能力を修得することを目標とする。また、Excelを使って確率現象を体感することを目標とする。学習到達評価としては、授業の中で適時実施する小テストが40％、期末試験が60％という配分で評価する。

# 文化演習・ゼミナール

基礎演習 1  
基礎演習 2  
国際研究ゼミナール 1  
国際研究ゼミナール 2  
国際研究ゼミナール 3  
国際研究ゼミナール 4  
国際研究ゼミナール 5  
国際研究ゼミナール 6

安藤 潤 (あんどう じゅん)

●教員の研究テーマ

大学院時代は80年代のアメリカ経済を中心に、軍事支出が経済にどのような影響を与えたのかについて研究していました。最近は労働と家事・育児の時間配分、結婚と女性の労働供給、結婚の経済分析といった家計経済学も研究しています。

●新入生への一言

入学おめでとうございます。昔、僕が小学生のころ、「6・3・3で12年」という学習機のCMがありました。僕の場合、振り返れば6・3・3の後にさらに2・4・2・6が付け加わります。まるで昔の大阪市内の電話番号みたいですね（と言ってもわからないか）。長いこと学生をやっていましたが、学生生活は本当に楽しかったです（30歳まで学割を使いました）。皆さんも4年後卒業するときに「楽しかった」と思ってもらいたいと思います。ただ、「楽しさ」といってもいろいろな「楽しさ」があります。大学生としての本当の「楽しさ」を見つけてください。

●ゼミテーマ・タイトル（本年度不開講）

「結婚」・「婚活」・「食」

●内容

前期においては、4年間この大学でゼミを受ける基本的な姿勢、技術、マナーを身につけてもらいます。具体的には、図書館の利用法、ノートの取り方、文章の読み方、文章の要約の仕方、小論文の書き方、レジュメの作成、参考文献・資料の使い方、プレゼンテーション、司会進行の方法などです。テキストは決めません。主に新聞記事を用います。

後期は、前期で身につけた技術を用いながら、私たちの「食」をテーマにした文献を読んだりビデオを見たりして、全員で議論したいと考えています。なお、この後期のテーマは2年の「国際研究ゼミナール1」、「国際研究ゼミナール2」でも扱います。時間に余裕があれば「国際研究ゼミナール1・2」や「国際研究ゼミナール3・4・5・6」のゼミ紹介も読んでみてください。もう少しイメージがわくと思います。

ゼミは教員が主役ではありません。皆さんが主役です。高校までの授業のように、あるいは大学での講義と違って板書されたものをノートに書き写している受動的な姿勢ではゼミにはなりません。ゼミ以外の空いた時間にいかに関心、準備するかが重要になってきます。つまり、皆さんが積極的かつ主体的に取り組まなければゼミは成立しません。教室を沈黙が支配するだけです。特に後期については教員はサポート役に回ります。

●使用予定テキスト

ありません。基本的に図書館でコピーしてもらいます。

●ゼミの進め方

前期は基本的な技術やマナーを身につけるまでは、どちらかといえば講義に近いかもしれません。前期の途中からそれを実践の場で生かすべく、テキストを選定し、レポーターにレジュメを作成してもらい、ゼミ員と教員に配布・報告してもらいます。担当者以外の参加意識を高めるために全ゼミ生共通の課題を課し、必ず提出してもらいます。そのうち代表者をコメンテーターとして指名し、同じ資料をもとにしてコメントをしてもらい、後に議論に移ります。担当者はさらにレジュメの中でそれに対する反論や問題提起、図書・資料による下調べをもとにした補足的説明を行ってもらいます。後期は学生に司会進行も行ってもらいます。

●成績評価基準

出席50%、ゼミでの発言や取り組む姿勢（レジュメの作成など）30%、課題の提出20%。ゼミ中の態度や遅刻があまりにひどい場合、前期・後期のタームレポート未提出者には、たとえ欠席がなくとも単位を与えません。原則として欠席は認めません。

●ゼミ選択上のアドバイス

国際交流インストラクターの活動で世界の食糧問題を扱いたい人や、「食」を通じて新潟、日本、アジア、世界の現状に目を向けたい人はぜひ。



### ●教員の研究テーマ

ヨーロッパ統合について理解するための社会理論、環境問題と民主主義の関係を問うエコロジカル・デモクラシーの思想、社会事象に付与される意味の発生・確立・伝播をアーケオロジカルに追跡するためのディスコース分析の手法、マイルス・デビスとジョン・コルトレーンとクリフォード・ブラウンとアート・ブレイキーとグレン・ゲールドとマルタ・アルゲリッチの音楽、カズオ・イシグロとドリス・レスリングと中上健次と安部公房と村上春樹と森絵都の小説、そしてモカ・ハラルのおいしい煎れ方。

### ●ゼミテーマ・タイトル：国際社会の法と政治について大学で勉強していくための準備トレーニング

#### ●内容

高校までの学習と大学からの勉強の間には大きな裂け目がある。これを越えるためにはそれなりにしんどいトレーニングが必要になる。その準備をなすこと、これをゼミの目的としたい。トレーニングのしんどさは必ずしもその後手に入れることができることからの価値を保障するわけではない。けれども、すでに大学という世界に足を踏み入れてしまった以上、ここを卒業するにはもうあとには引けない。トレーニングがうまくいった暁には、もしかしたら今まで想像もつかなかった世界が立ち現れてくるかもしれない。自分という存在の可能性をあらたな眼差しで見つめ直すことができるようになるかもしれない。考えてみれば、人はなんといっても世界のまっただ中に深く強くがんじがらめに埋め込まれてしまった存在である。自分自身の一挙手一投足がみずからの周りに立ちはだかる自分以外のありとあらゆる存在に影響を受けている。これは巨大で重厚な抗いえない現実である。しかもその力の発生源は、地球一体化時代の進展につれてますます広域化している。国際社会のあり方を認識する営みは、したがって日常生活世界の事象についての知見を獲得しようとする行為と、もはや本質的に相違するものではない。しかも、そもそも自分自身が埋め込まれた世界についてそれがいかなる場であるのかを認識していこうとする行為は、実は人間存在の価値を高めていく行為にもなりうる。大学で勉強を進めていくためのトレーニングとは、自らを時間軸と空間軸の一点にピンポイントで貼り付け押しつぶそうとするこの巨大な世界に対峙し立ち向かう態度を形作っていくための修行的な練習でもある。かりにこの態度が空間的にも時間的にもはるか遠く離れた場で生じたことがらをあたかも自分自身のもっとも大切な人々に関わる事件であるかのように捉え・理解し・認識していく構えをとるレッスンをともなうものであるとしたら、それはまさにかけがえのないすばらしい知的実践になるといえないであろうか。大学で学問を学んでいくことの意義のひとつがここにある。自己の日常生活世界の周りに広がりそれを覆いつくしそこに侵入してその潜在力を強烈に制約してしまう国際社会というデモニッシュな存在物、その成り立ちや仕組みやさらには構造的矛盾について認識を形成していくこと、これこそ大学と呼ぶべき場においてトレーニングをつんでいくべき価値ある実践である。

#### ●使用予定テキスト

山川の『世界史』の教科書      ミヒャエル・エンデ『オリーブの森で語りあう』      シュミット『ヨーロッパの挑戦』  
最上敏樹『いま平和とは』      町田幸彦『コソボ紛争』      緒方貞子『紛争と難民』

#### ●ゼミの進め方

前期は現代世界の全般的な特徴について基本的な知識を獲得する。まずユートピア（理想郷）の喪失という主題でエンデの書物を題材にディスカッションを行う。次にシュミットの本を読みながら、グローバル化した世界の政治経済の様相の基本を勉強する。その上で高校の世界史の教科書をひもとき、第二次世界大戦以降の現代史の部分に限定して、大学での勉強という眼差しでもって復習しておく。以上は教員からの講義でサポートされた学生自身のプレゼンテーションによって進められる。とくにこのゼミでは黒板を使ったプレゼンテーションの練習に力を入れる。これさえできるようになれば、レジュメを作成した報告にもパワーポイントを利用した発表にも、難なく取り組めるようになる。

後期は国際法と国際政治の入門ガイド的勉強をねらいとして、人道的介入とコソボ紛争というテーマで3つの論文を読み進めていく。大量集団虐殺が発生してしまったとき、国際社会はどのような対応をとるべきか。武力介入の是非はどう考えられるべきか。最初に最上論文で人道的介入の基本の構図を勉強したのち、事例として1999年のコソボ紛争を取り上げ、その事情や経緯について町田論文で学習する。その上で緒方論文を取り上げ、紛争に際して発生する難民問題について理解を深める。以上の勉強を通じて、政府組織の存在しえない国際社会のありうべきルールや現実のパワーについて想像力を喚起し、2年次以降の本格的な学習の準備としたい。

●成績評価基準

プレゼンテーションやディスカッションの際の発言をベースに（30%）、4000字ほどのターム・レポートのクオリティ（70%）で成績を評価する。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

ことばを読み書ける者は、世界でいかなる問題が生じているのか、知り・考え・訴える義務がある。幼稚で不躰な自分を一人前の人間に向けて成長させたいとねがう学生を歓迎する。

小澤 治子（おざわ はるこ）

●教員の研究テーマ

ソ連とロシアの外交を東アジアの国際関係の中で考察することが、私の主たる研究テーマです。特にベレストロイカ、ソ連解体を経てロシア外交がどのように変化し、またロシア外交の変化によって、今後の日ロ関係がどうなるかなどに関心をもって研究を進めています。

●新入生への一言

自分の心を偽らない素直さ、そして勇気をもってほしいと思います。それはわがままや自分勝手という意味とは全く違います。たとえ自分の意見が少数であってもそれを主張するには、時には勇気が必要です。皆さんには是非そうした勇気をもってほしいと思います。

●ゼミテーマ・タイトル：「政治、経済、社会の動きに関心を持とう」

●内容

「若者の政治的無関心」なんてことがよく言われますが、そんなことは私が「若者」だった頃から言われてきました。私自身は今の若者が特に「政治的に無関心」だとは思っていません。ただし若者の政治や経済、社会全体に対する関心を育てていく機会が少ないことは事実です。そこで、このゼミでは、政治、経済、社会の動きに大に関心を持って、時には怒り、熱くなって議論したいと思います。具体的には、新聞を題材にします。前期（基礎演習1）のゼミでは、政治、経済、社会問題を中心にそれぞれが関心を持った記事を選んで、毎回数名に発表してもらい、それについて皆で意見を出し合います。後期（基礎演習2）は、前期のゼミで各自が関心を持った内容をもう少し掘り下げて調べ、まとまった研究発表を各自に行ってもらい、それについて全員で議論しようと思います。

●使用予定テキスト

特に決まったものではありません。授業の中で必要に応じて参考文献を紹介します。

●ゼミの進め方

毎回の授業で2人から3人程度の発表者を決め、発表について皆で意見を出し合います。また司会についても、順番にゼミの受講者に担当してもらいます。

●成績評価基準

①欠席、遅刻をしないこと、②授業時間中の発表をきちんと行うこと、③提出物（レポートなど）を期日までに提出すること、④授業中積極的に発言し、議論に参加すること。以上4点を総合的に判断して、成績をつけます。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

ゼミの内容はもちろん重要ですが、担当教員との相性もけっこう大事です。ガイダンスの時には可能な限り多くの教員と話をし、選択することをお勧めします。

越智 敏夫（おち としお）

●教員の研究テーマ

政治学です。特にアメリカにおける現代政治理論が現実政治とどのように関連しているかという問題を思想的に研究しています。社会科学が厳密な意味で「科学」になりえないのは価値の問題が存在するからです。政治におけるその価値の問題について考えています。

●新入生への一言

真剣に勉強して4年間を過ごすのも、遊びながらバイトに明け暮れて4年間を過ごすのも、同じ4年間です。大学は不思議なところで、誰もが皆、後悔しつつ出て行くところです。皆さんも卒業するときには「もっと別の4年間を過ごすべきだった」と思うはずですよ。大学生活のなかでときどきその意味を考えてみてください。

●ゼミテーマ・タイトル：「社会を批判する力とは何か」

●内容

ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめます。当たり前といえば当たりのことです。しかしこれは大袈裟に言えば、共同で知的訓練をつむという作業です。中心になるのは議論をするということですから「黙っていても単位はもらえるだろう」と思う人はこのゼミには来ない方が良いでしょう。

ゼミでの議論がいくら盛り上がっても、各自の問題意識を欠いては、それは単なる「お遊び」でしかありません。そうした問題意識を基本にして現実の社会を批判することについて議論します。ですから「他はいつでもいいが、現代社会のここだけは絶対許せない」という野獣のような批判精神ある学生の参加を期待します。

●使用予定テキスト

斎藤美奈子『紅一点論』	ちくま文庫
石牟礼道子『苦海浄土』	講談社文庫
辺見庸 『もの食う人びと』	角川文庫
中島義道 『うるさい日本の私』	新潮文庫
大庭健 『やさしさの精神病理』	岩波新書

●ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

●成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

小山田 紀子（おやまだ のりこ）

●教員の研究テーマ

北西アフリカの旧フランス植民地であった地域（チュニジア・アルジェリア・モロッコ）の近現代史を勉強しています。この地域は、アラブ・イスラーム世界に含まれますので、中東やイスラームについても研究しています。今は、特にヨーロッパ（フランスやドイツ）のイスラーム系移民問題に関心を持っています。

●新入生への一言

大学という恵まれた自由な環境の中で、いろいろなことを学び考えて、自分の生き方を模索して下さい。先生や友人との交流を大切に充実した4年間を過ごしてほしいと思います。基礎ゼミもそういう場にしたいと思います。

●ゼミテーマ・タイトル：「国際社会を見る眼を養おう」

●内容

1990年代以降、世界的なイスラーム復興運動が注目を集める中、2001年の9・11事件（アメリカの同時多発テロ）が起きました。グローバル化の進む今日の世界では、このような大事件は直ちに日本にも影響を及ぼします。なぜ、どのようにしてこのようなことが起こるのか、を考えていくために、世界の動向を特に中東や第三世界（発展途上諸国）の側から検討していきたいと思います。

●使用予定のテキスト

授業の第1回目に文献リストを配布し、ゼミ学生の関心に沿ってテキストを選びます。例えば、入江昭『平和のグローバル化』（日本放送協会）、小熊英二『日本という国』（理論社）、スーザン・ジョージ『なぜ世界の半分以上が飢えるのか』（朝日新聞社）等を考えていますが、テキストは未定。

●ゼミの進め方

第1回目のゼミでテキストを決定し、これを全員で輪読します。毎回報告者は、担当の箇所を読んでレジュメを作成してきて発表します。それに対して、他の学生も質疑応答して議論に参加します。テキストを読み終えたらレポートを作成してもらいます。これらを通して、本の読み方、議論の仕方、レポートの書き方など、基本的な勉強の方法を学びます。

●成績評価基準

ゼミでの発表の内容、レポート、出席状況とゼミ活動に積極的に参加しているか等により評価する。

●ゼミ選択についてのアドバイス

大学生活をスタートさせる大事なゼミです。欠席は認めません。

熊谷 卓（くまがい たく）

●教員の研究テーマ

一応「法律学」について勉強をしています。

●新入生への一言

皆さんもご存知のように大学にはゼミという時間があります。ここでの主役は先生ではなくて参加しているすべての学生です。ですから、ゼミの時間を楽しくするもしないも、主役である皆さんにかかっているといってもよいでしょう。ゼミでどうか「スター」になってください。

●ゼミテーマ・タイトル：「法律学ってけっこう役に立つ!？」

●内容（目的やねらいも含む）

賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるでしょうか？「法」とか「ルール」という答えを想定することができるとは思いませんか。より細かく見れば、それぞれ民法（借地借家法）、刑法（刑事訴訟法）、憲法、国際法といった具合です。そして、わたしたちは実は様々な場面でこの法と関わっているということが出来ます。

ところで、ほとんどのみなさんは民事法そして刑事法的にみて、「未成年」の年に1年生ゼミナールに参加することになります。2年後には、およそすべての法律の適用対象となってしまいます。原則として、もう少年（少女）Aではありません。その前にできるかぎり、法というものの考え方に接しておくことは決して無駄ではないとは思いませんか。

そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めさせることを目的とし、また目標としています。具体的にいうと、死刑廃止の是非、男女区別の合法性（レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か）、美容整形に納得がいかないときの慰謝料、同性間の結婚、児童の権利といったトピックや問題について法というフィルターを通して検討してゆきたいと考えています。

●使用予定テキスト

松井ほか『初めての法律学』有斐閣

『わたしたちと法』現代人文社

円道祥之『空想科学裁判』宝島社

など

●ゼミの進め方

まずは、指定したテキスト（文献）をゼミ生全員で読み、それについて議論をしてみようということを考えています。その後、各ゼミ生が自分で選択したテーマを素材に、報告をし、それについてゼミ生全員で検討するというかたちでゼミを進めます。レポートの提出を求めることも考えています。

●成績評価基準

報告やレポートの良し悪し、ゼミへの参加度（単に出席しているという意味ではない）を基準に成績をつけます。

●ゼミ選択上のアドバイス

上にみた「内容」でとりあげたような諸問題に関心がある学生の参加を求めます。これらの問題について自分なりの意見をしっかりと提示できるよう、十分なリサーチをし、その上でなにか問題を解決・調整してやろうというやる気をもった学生を歓迎します。

佐々木 寛（ささき ひろし）

●教員の研究テーマ

平和学・地球政治学という新しい学問の枠組みで、戦争・環境破壊・貧富の格差などの国境を越えた「地球的問題群」の現実を全体的に把握し、この問題にたちむかう社会運動や国際組織の活動について研究しています。

●新入生への一言

大学はこれまでのつまらない「勉強」ではなく、よりよく生きるために必要となる「学問」を自分の思うまま存分にできる場所です。「勉強」が苦手だった人も、（むしろそういう人こそ!）「学問」のたのしさを是非味わってみてください。そのためのお手伝いができればと思っています。

●ゼミテーマ・タイトル：「知の旅への誘い」

●内容

身の回りのできごとや日常生活を掘り下げてゆく中から世界へと通じる回路を発見していくことができるような本当の意味での社会科学的センスを、それぞれが自分なりに獲得することを目標にします。新しい＜知＞と出会い、それに触発されて思考し、またそれを表現し、他者との相互対話を通じて自分自身が自由になってゆく、そんな「学問」の楽しさを分かち合いたいと思います。それゆえテキストは、「面白い」と思われるものならジャンルも年代もこえた多種多様なものを用います。高校や予備校までの、あるいは家庭や世間一般の知的なしがらみをいったん解きほぐしてみることで、専門知識を蓄積する以前の柔軟な知的土壌をそれぞれが作りあげることを目指します。

●使用予定テキスト（一例）

- ◎C. ダグラス・ラミス『考え、売ります。』平凡社（ファンタジー）
- ◎黒澤明『羅生門』（映画）
- ◎鷲田清一『ちぐはぐな身体』ちくまプリマーブックス（哲学）
- ◎井上ひさし『父と暮らせば』（演劇）
- ◎田口ランディ『根をもつこと、翼をもつこと』晶文社（エッセイ）
- ◎A. スピーゲルマン『マウス』晶文社（コミック）
- ◎阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』ちくまプリマーブックス（自伝）
- ◎G. オーウェル『1984年』ハヤカワ文庫（小説）
- ◎S. アレクシェービッチ『チェルノブイリの祈り』岩波書店（ルポルタージュ）
- ◎中江兆民『三酔人経綸問答』岩波文庫（政治思想） など。

●ゼミの進め方

基本的にさまざまなテキストを共同で読みこんでいきます。その他、ゼミ合宿（おそらく原子力発電所の見学に行きます!）や、戦争経験の聞き取り調査なども予定しています。さらに具体的な運営方法に関しては、参加者と相談して決めます。

●成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

佐々木ゼミの参加者は以下のいずれかを条件とします。

1. ゼミという「社会」を自分でつくりあげることに意欲のある学生。
2. 価値あるものには苦勞をいとわない学生。
3. おしゃべりが好きな学生。
4. 知的好奇心が旺盛な学生。

●ゼミテーマ

「生徒から学生へ」

みなさんは、すでに「学生」であることを要求されています。

もう「生徒」ではありません。

「生徒」のままでは授業をはじめとして大学のさまざま、かつ特有のしくみについていくことは難しくなります。私のゼミでは、この1年間で「生徒から学生へ」を目標に、これからみなさんが「学生」として大学でしっかり学んでいくうえで必要となることをいくつかの視点から考え、具体的に取組んでみようと思います。

●どんなことをするか

I. 導入

1. 大学進学 of 動機を確認してみよう  
・なぜ大学に進学したの？ ・大学生活。最も力を入れて取組みたいことは。
2. 大学を知ろう  
・大学とは何か ・大学とは何を教えるところか、何を学ぶところか。  
・大学教員とは ・本学の専任教員、非常勤講師
3. 大学で学ぶことの意義  
・「生徒」と「学生」 ・「高校までの学び」と「大学での学び」

II. 取組み

ここでは、大学の「学生」になるために必要となる「学び方」について、主に技術的な視点から、その方法やコツ、ルールとはどういうものかを考え、実践していきます。取り上げるのは以下の6項目です。学びや学問に技術（スキル）などいらないと考える人もいるかもしれませんが、それは大きな誤解です。技術は学んでいく上での土台です。

1. 基本編

- 1) 聴く・・・「聞く」のではなく「聴く」
- 2) 読む・・・マンガをよむのとは違う。「読む」とは考えること
- 3) 考える・・・覚えることではない。「なぜ」「どうして」それが考えることの基本。
- 4) 調べる・整理する・・・「なぜ」「どうして」自分だけで考えたってわかるはずがない。そこで調べる。調べただけじゃ意味がない。調べたことを整理する。整理が次の疑問を生み出す。世の中、問われるのは情報整理能力。

2. 応用編

- 1) まとめる・書く（レポート）・・・整理したことをまとめる。「まとめる」とはどういうことか。文章とはどのようなものか、どう書くものか。
- 2) 表現し、伝える（プレゼンテーション）・・・人を説得させるためにはどうするか。最後は全員パワーポイントにまとめて発表会。

●成績評価基準

原則全回出席。1回1回の取組み姿勢。レポート、プレゼンテーション。



高橋 正樹（たかはし まさき）

●教員の研究テーマ

わたしの研究分野は世界の不平等を考える国際研究とタイをはじめとする東アジア研究です。自分の研究によって、日本に住むわたし達の生活が、東アジアを初めとする世界中の人々の生活と深い関係があることを明らかにしたいと考えています。

●新入生への一言

新潟国際情報大学（略称、国情大）への入学、おめでとう。今日からあなた方は生徒ではなく「学生」です。いま、皆さんは大きな希望と不安を抱いていると思います。いまのこの新鮮な気持ちを大切に、感動と情熱にあふれた有意義な4年間を過ごしていきましょう。

●ゼミテーマ・タイトル：感動と情熱のワクワクするゼミです。

●内容

新聞や書物を通じて、現代社会の諸問題に対する関心をもってもらいます。前期は、日本で貧富の格差が拡大していることに注目します。後期は新聞を読みながら何か変だぞと感じたことを徹底的に調べ、議論していきましょう。さらに、それらの諸問題をどのように考えたらいいのかという視点から、大学の外や教室や図書館で問題について調査研究をしましょう。そして、最後に授業の成果として個人研究を発表し、研究レポートを作成してもらいます。学ぶということは、疑問をもちそれについての答えを探すことです。学ぶことは本来楽しいことです。そのことを感じ取ってください。

同時に、大学生活を生きぬき人生を生きぬくための能力である本の読み方、文章の書き方、議論の仕方、さらにはコンピューターの利用といった「学習作法」をしっかり身につけてもらいます。

●使用テキスト

山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房、2004年。

●ゼミの進め方

毎回の授業では、議論を重視します。授業では全員参加の議論をおこないます。授業ではわたしはできるだけしゃばらず、毎回順番の学生が司会者となり授業を進めてもらいます。わたしの出番は、司会が司会の役割を十分に果たさない時、議論の内容が支離滅裂な時、そして議論の最後のまとめの時に限定します。

●成績評価の基準

毎回、出席さえしてくれば大丈夫です。

●ゼミ選択に対してのアドバイス

充実したゼミですので、少しでも学習意欲のある人の参加を待っています。

松尾 瑞穂（まつお みずほ）

●教員の研究テーマ

文化人類学を専攻しています。特に、インドを調査地として、女性のリプロダクション（出産や避妊、不妊など文字通りの人と社会の「再生産」にかかわること）の近代化と変容について研究をしています。

●新入生への一言

入学おめでとうございます。大学4年間は長いようで、終わってしまえばあっという間です。昨今の社会状況を考えると、せっかく大学に入学したのに、何かに追われるように、もう次のことを考えなければならないという不安もあるでしょう。それでも、この4年間で何を学び、何をしたのかということは、みなさんの今後の人生にも大きな意味を持っています。どうかこの「狭間（in-between）」の時間を大切にしてください。

●ゼミテーマ・タイトル

「異なるもの」と出会う

●内容

自分が今まで知らなかったもの、出会ったことのない人、経験したことがないこと。よくよく周りを見てみると、世界は「異なるもの」であふれています。昔の人はそうしたことを「異界」「異人」と呼んできました。それは日常生活とは違う論理やルールが適用される存在ですが、じつは異界には異界の、異人には異人の論理とルールがあります。本ゼミでは「異なるもの」を学ぶことを通して、私たちの固定観念や既成概念を打ち破り、「他者」への想像力を鍛えることが目標です。とはいえ、まずは図書館での情報収集の仕方、文献の提示法、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方など、これから必要とされる学問的営みの基礎を徹底的に習得します。その後で、文化人類学のエッセイ・文献を読んでいき、本の読み方や議論の仕方を学んでいくとともに、上述の目標に向かって理解を深めていきたいと思っています。

●使用予定テキスト

川田順造（2008）『もう一つの日本への旅－モノとワザの原点を探る』中央公論新社  
石毛直道（2004）『食卓の文化誌』岩波現代文庫  
小松和彦（1995）『異人論－民俗社会の心性』ちくま学芸文庫  
原ひろ子（1979）『子どもの文化人類学』晶文社  
菅原和孝（1999）『もし、みんながブッシュマンだったら』福音館書店  
みなさんと相談しながら、興味のあるものから読んでいきたいと思っています。

●ゼミの進め方

決められた文献を全員が輪読します。その回の発表者がレジュメを用意して発表したのち、全員で議論をします。後期からは司会も順番に決め、すべて学生が運営できるようにしていきたいと思っています。また、文献発表のほかに、後半は各自が関心テーマに基づいて調べ物をして報告をします。

●成績評価の基準

授業への貢献度（50％）、レポート（50％）

●ゼミ選択に際してのアドバイス

外国の生活や文化に興味がある、大学生になったらぜひ外国を旅行してみたい、あるいは日本のなかにある外国やエスニックなものを知りたい！といった好奇心がある方を大歓迎します。日常生活のなかで感じる疑問や不満をトコトン考えたい、と思っている方も同様です。

安藤 潤 (あんど うじゅん)

●ゼミテーマ・タイトル

「食」から考える日本と世界 (後期は不開講)

●内容

私の育った街では毎日大量の食糧廃棄物が出ます。そしてゴミとなって捨てられた残飯はカラスとネズミが腹いっぱい食べています。これは学生時代を過ごした東京でも同じです。その一方で世界には干ばつや戦争・内戦で食べるものも食べられず、餓死していく人たちがいます。私たちの生活に欠かすことのできない「食」—この食について、ワイドショーなどでいろいろな人間が語っている家庭での食の「乱れ」、回転寿司に見られるような日本食のグローバル化とマグロに代表される海洋資源枯渇問題、生産者と消費者の間に存在する巨大なフードシステムといったことについて、以下のテキストやビデオを用いながらみんなで考えたいと思います。

このゼミを通じて特に「インターネット依存症」からの脱却を目指すべく、レジュメはワープロで作成してもらいますが、課題は自筆で提出してもらいます。

なお、内容は前期・後期とも同じです。

●使用予定テキスト

以下の書籍はテキストというより、参考文献です。購入してもらっても結構ですし、図書館に配架されていればコピーをしてもらっても結構です。これら以外にも新聞や雑誌の記事なども使います。

○時子山ひろみ・荏開津典生「フードシステムの経済学 (第4版)」(医歯薬出版)

○NHK放送文化研究所世論調査部[編]「崩食と放食」(生活人新書)

○長谷川啓之[編]、馬場正弘・辻忠博・安藤潤「現代経済政策論」(仮題、学文社)

●ゼミの進め方

事前にレポーターとコメンテーターを決め、担当テーマについて、そのテキストにおける筆者の主張を要約し、問題提起をレジュメにして発表してもらいます。司会進行役もゼミ生にお願いします。なお、夏休み(前期)と冬休み(後期)にはレポートを課題として出します。また、大学の食堂やスーパーの食品売り場などの調査もしてもらう予定です。

●成績評価基準

出席60%、課題(夏期・冬期休暇中の宿題も含む)の提出40%。欠席は3回まで。ゼミ中の態度や遅刻も考慮します。レポーター、コメンテーター及び司会進行役の欠席は認めません。

●ゼミ選択上のアドバイス

国際交流インストラクターの活動で世界の食糧問題を扱いたい人や、「食」を通じて新潟、日本、アジア、世界の現状に目を向けたい人、食べることが好きな人、料理するのが好きな人、食の安全に関心がある人、字を書くのが好きな人に向いているのではないのでしょうか。

白井 陽一郎（うすい よういちろう）

●ゼミテーマ・タイトル

国際法・国際政治入門——人道的介入とコソボ紛争

●内容（目的やねらいも含む）

国際法と国際政治の入門ガイド的勉強をねらいとして、人道的介入とコソボ紛争というテーマで3つの論文を読み進めていく。大量集団虐殺が発生してしまったとき、国際社会はどのような対応をとるべきか。武力介入の是非はどう考えられるべきか。最初に最上論文で人道的介入の基本の構図を勉強したのち、事例として1999年のコソボ紛争を取り上げ、その事情や経緯について町田論文で学習する。コソボ紛争は、それを契機に人権を守るための武力による人道的介入のあり方が国際社会の課題として国連や主要国の間で明確に意識されていくことになったという意味において、とても重要な事件である。しかも、コソボ紛争で敢行された武力介入は、国連の決議をとまわらないものであった。それゆえにこそ、コソボ紛争は人道的介入の法的かつ政治的な複合的構図について勉強していくための、格好の題材となる。こうして人道的介入の基本とコソボ紛争の事例について基礎的なことを勉強したのち、緒方論文を取り上げ、紛争に際して発生する難民問題について理解を深める。以上の勉強を通じて、政府組織の存在しえない国際社会のありうべきルールや現実のパワーについて想像力を喚起し、2年次以降の本格的な学習の準備としたい。

●使用予定テキスト

最上敏樹（2006）『いま平和とは』岩波書店。

町田幸彦（1999）『コソボ紛争』岩波書店。

緒方貞子（2006）『紛争と難民：緒方貞子の回想』集英社。

●ゼミの進め方

使用テキストの輪読を通じて、卒業論文の研究に進んでいくための基礎訓練を積んでいく。とくに（縮約とは異なる）要約の作成や、黒板を使ったプレゼンテーションの練習に力を入れる。コメントを加えていくための要約の作成は、先行研究を受容していくために絶対に必要な技能であり、またプレゼンテーションについては、黒板を使ったやり方にさえ慣れていけば、レジュメを作成した報告にもパワーポイントを利用した発表にも難なく取り組めるようになる。

●成績評価基準

プレゼンテーションやディスカッションの際の発言をベースに（30%）、4000字ほどのターム・レポートのクオリティ（70%）で成績を評価する。

●ゼミ選択上のアドバイス

ことばを読み書ける者は、世界でいかなる問題が生じているのか、知り・考え・訴える義務がある。幼稚で不躰な自分を一人前の人間に向けて成長させたいとねがう学生を歓迎する。

小澤 治子（おざわ はるこ）

●ゼミテーマ・タイトル

20世紀の国際政治を考えよう

●内容（目的やねらいも含む）

2001年9月にアメリカで起こった同時多発テロ事件によって、多くの人々が国際政治に関心を向けるようになったと思われます。あの事件は、20世紀の国際政治が新たな世紀に持ち越した様々な矛盾や問題点が、きわめて悲劇的な形で爆発したと考えます。その後もアメリカによるイラク攻撃や頻発するテロ事件など、21世紀の国際政治の行方は全く予断を許しません。21世紀に生きる私達が平和な国際社会を築くために何をするべきなのか、20世紀の国際政治から学ぶべきことは何か、そのことを考えることがこのゼミの目的です。

皆さんは20世紀というと、どのような世紀であったと考えているのでしょうか。2度の世界大戦とそれに続く冷戦、核兵器の存在、ロシア革命とソ連邦の誕生そしてその解体。社会主義体制の成立とその崩壊。第一次大戦後の国際連盟の誕生とその役割の限界。第二次大戦後の国際連合の誕生とその役割の変容など、様々なできごとが思い浮かぶことでしょう。

20世紀は確かに戦争の世紀でした。一般市民をも巻き込んだ不幸な戦争によって多くの人々が犠牲になりました。しかし同時に、そのような悲惨な戦争の体験を通じて、国家の役割や性格が変容し、さらに国家間の協力の枠組みが形成され、協力の枠組みは国際政治の中で重要な役割を果たすようになってきました。また国家以外のアクターが着目されるようになったという点も、20世紀国際政治の重要な特色の一つです。

このゼミでは、20世紀の国際政治を学ぶことを通して、21世紀の国際政治のあり方を考えていきたいと思います。

●使用予定テキスト

参考文献については授業の中で随時紹介しますが、テキストを特に指定することはありません。

●ゼミの進め方

国際研究ゼミナール1（前期）は、20世紀の国際政治について共通の認識を得るために、テキストを決めて、それを全員で読んで各章ごとに報告者を決めて発表してもらいます。テキストについては、授業の最初の時間に受講者の皆さんの関心に合わせて相談して決めたいと思います。

国際研究ゼミナール2（後期）は、20世紀国際政治に関するテーマを各自が決めて研究し、それについて授業の中で発表して皆で議論していきたいと思います。取り上げるテーマは、20世紀の国際関係に関連することであれば、内容、地域、時期は問いません。1900年代のできごとであっても、1990年代のできごとであってもけっこうです。ヨーロッパ、アジア、中近東など各自が関心を持った地域を取り上げてください。

●成績評価基準

正当な理由なく欠席をしないこと、決められた時にきちんと発表を行うこと、提出物の期限を守ること、以上は単位の取得にあたって最低限の必要条件です。加えて発表の内容や提出物の内容、また授業中の発言の質量などで成績を考えます。

●ゼミ選択上のアドバイス

一年次後期に、国際政治学を履修していることが望ましいです。

越智 敏夫（おち としお）

●ゼミテーマ・タイトル

「現代の社会問題と私たち」（前期・後期同一テーマ）

●内容（目的やねらいも含む）

国際研究ゼミナール1・2は基礎演習の延長線上にあると僕は考えています。ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめるという作業は基礎演習と同じです。しかしこのゼミで中心になるのは基本的な読解力を前提とした上での議論です。

今年度の細かいテーマは未定です。ただし「現代社会は多くの問題をかかえていて、その多くの問題と人間一人ひとりが生きにくいという事実は関連している」という基本的認識をはずれることはありません。特に先進資本主義国に特有の諸問題を取り扱う予定ですが、どんな事例を議論するときにも他人事としてではなく自分の問題として考えることを要求します。

たとえば現在、世の中で多くの人が殺されています。その「殺人」という行為には変わりがなくても、それら多くの殺人を私たちは細かく差異化していきます。テロリストによる虐殺、法治国家における死刑、正当な防衛行為、教育の「行き過ぎ」としての体罰、英雄的戦功、医療過誤、テロ根絶のための必要悪、反逆者の処刑、武装蜂起に対する秩序維持……など、呼び方はいろいろです。しかしすべての行為が「人が人を殺す」という点においては同じです。こうした呼称の差異という問題は、そのままそれらの人殺しという行為と私たちの関係を明らかにしていくはずで、その関係の総体が現代社会を構成していると考えられませんか。

こうしたことについて「そんなもん知るか。全部違うのは当たり前だろ」と言って開き直るのは、現在の社会のありかたをまったく批判していないということです。目の前の世界を「快適」だと思いこんでいるということで、それは実は何も考えてないということを表明しているだけです。酸素を吸って二酸化炭素を吐いているだけです。マレーシアの森林資源のためにはなっているでしょうが、人生の意義は限りなく低いでしょう。何かを考えて1日生きるのと、何も考えずに5万年生きるのを比較すれば、それは前者のほうがはるかに人間として意義深いと僕は考えます。

●使用予定テキスト（前期・後期で別種のものを講読予定）

田中克彦	『ことばと国家』	岩波新書
フロム	『自由からの逃走』	東京創元社
小倉千加子	『セックス神話解体新書』	ちくま文庫
杉田敦	『デモクラシーの論じ方』	ちくま新書
鶴見俊輔	『戦時期日本の精神史』	岩波書店

●ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

●成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

●ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこをところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

小山田 紀子（おやまだ のりこ）

●ゼミテーマ・タイトル

移民からみた現代の世界—国民国家を問う—

●内容（目的やねらいも含む）

いま日本では「ヒト、モノ、カネ、情報」の国境を越えた往来が活発に行われ、グローバル化が急速に進んでいる。われわれの身のまわりでも外国人の姿が目立つようになったし、また私たちが海外に行くチャンスが増えてきている。このようなグローバル化の時代にあつて「異文化」への理解、あるいは国際理解が必要になってきているといえよう。

しかし、外国の文化や社会を知るためには、まず自分の国を知る必要があるだろう。そこでこのゼミでは、まず第1に、「日本という国」の置かれた状況を、歴史的現在という視点から学ぶ。これを踏まえたうえで、近年議論になっている日本の外国人労働者問題について調べていく。第2に、日本と外国との比較の視点から、ヨーロッパの移民問題、とくに「フランスという国」を取り上げ、移民から見たフランス社会の問題を考えていく。以上のようなテーマは、3・4年ゼミでさらに発展させていきたい。

●使用予定テキスト（変更の可能性あり。）

小熊英二『日本という国』理論社、2006年

梶田孝道『外国人労働者と日本』日本放送出版協会、2001年

依光正哲編『国際化する日本の労働市場』東洋経済新報社、2003年

アジット・S・バラ、フレデリック・ラペール著、福原博之ほか監訳『グローバル化と社会的排除』  
昭和堂、2006年

桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年

樋口直人他『国境を越える—在日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007年

東長靖『イスラームのとらえ方』（世界史リブレット）山川出版社、2006年

宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年

本間圭一『パリの移民・外国人—欧州統合時代の共生社会—』高文研、2001年 他

●ゼミの進め方

第一回目のゼミで、テキスト輪読のための各自の報告分担を決める。毎回、報告者は担当個所のレジメを用意して配布し発表する。報告の当たっていない学生もテキストを読んできて、必ず1回は質問や意見を述べ議論に参加する。各テキストを読み終える毎に、レポートを作成し提出してもらう。

●成績評価基準

ゼミでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価する。

●ゼミ選択上のアドバイス

今世界で何が起きているのか、そしてそれは私たちの生活とどのように関わっているのか、この二つの問題を結びつけて考えたいと思っている人はこのゼミを選択してほしい。政治・経済・社会のあらゆる分野でグローバル化が進む現代にあつて、私たちは世界各地で起きていることに無関心ではありえないはずだ。毎日、新聞やテレビ、インターネットなどから送られてくる世界の情報を敏感にキャッチする眼を養い、私たちの生きていく道をひとりひとり考えてみよう。

熊谷 卓（くまがい たく）

●ゼミテーマ・タイトル

「法的な思考（リーガル・マインド）を深化させよう！」

●内容（目的やねらいも含む）

賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるだろうか？「法」とか「ルール」という答えを想定することができるとは思わないだろうか。より細かく見れば、それぞれ民法（借地借家法）、刑法（刑事訴訟法）、憲法、国際法といった具合に。そして、われわれは実は様々な場面でこの法と関わっているということができる。

ところで、ほとんどのみなさんは民事法そして刑事法的にみて、「未成年」最後の年に2年次生ゼミナールに参加することになると思う。その翌年には、およそすべての法律の容赦ない適用対象となってしまう。そのため、原則として、もう少年（少女）Aではない。その前にできるかぎり、法というものの考え方に接しておくことは決して無駄ではない、と思うのであるが、どうであろうか？

そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めてもらうことを目的とする。具体的にいうと、次の二つのテーマ、①性同一性障害者をめぐる問題および②死刑廃止の是非に関する問題について、じっくりと、深く検討する予定である。さらに、時間が許せば、男女区別の合法性（レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か）、美容整形に納得がいけないときの慰謝料、児童の権利などの問題についても検討したい。

●使用予定テキスト

別途指示する。

●ゼミの進め方

上記のテーマに関して、ゼミ生のなかから報告者とコメンターを決める。彼らの議論を土台としてその他のゼミ生はテーマにつき、理解を一層深め、議論を進める。

レポートの提出も適宜求める。

●成績評価基準

報告やレポートの良し悪し、ゼミへの参加度（単に出席しているという意味ではない）を基準に成績をつける。

●ゼミ選択上のアドバイス

「内容」からすると、「面白そうな」（気楽な）ゼミに見えると思いますが、「面白い」と感ずるかどうかは、皆さんの勉強量にかかっています。

「法律は面白い」と感ずるまでにはハードワークが要求されます。それでもよい、という人のみ歓迎します。



佐々木 寛（ささき ひろし）

●ゼミテーマ・タイトル

映画で観る——〈現代〉とはいかなる時代か

●内容（目的やねらいも含む）

1年生の基礎演習にひきつづき、専門的な勉強に入る前の知的な柔軟体操を行います。どんなに専門的な勉強を積んでも、社会科学の「センス」のない人は努力が空回りしてしまいます。当ゼミでは、身の回りのできごとや日常の生活を掘り下げてゆく中から世界へと通じる回路を発見していくことができるような真の意味での社会科学的な想像力を、それぞれが自分なりに獲得することを目指します。大学で学んだ個々の知識の断片は卒業すれば忘れてしまうかもしれません。でも、物事の本質的な側面を切り取る思考の技術（アート）は、どんな道に進もうとも古びたりしません。

ただ、2年生のゼミですから、基礎演習よりさらに進んで、〈現代〉とはいかなる時代か、自分たちは今どういう時代に生きているのかという、〈歴史的な自己認識〉との出会いを目指したいと思います。それゆえゼミでは、〈現代〉という時代を読み解くための視点や方法を獲得するために知的に面白いと思われるテキストなら何でも、分野を越えて縦横無尽に読んでいこうと思います。とくにできるだけ多くの映画を観る中で、このテーマを追求しようと思います。

また、当ゼミでは、〈オキナワ〉や海外での合宿研修を予定しています。たとえば〈オキナワ〉という土地は、日本の近代や平和の問題を考える上でとても重要な土地です。新潟との共通点も少なくありません。〈オキナワ〉の歴史や風土を身体で感じることによって、かならずや、それぞれの参加者が自分なりの問題意識をもつようになると思います。頭でっかちではなく、感性や身体で世界の問題を捉え、思考できるようになることも、このゼミの目標です。

「この際おもいっきり勉強してみたい！」と思う人向きのゼミナールだと思います。

●使用予定テキスト

一例です。

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| ・D. リーン『アラビアのロレンス』（映画）     | ・オルテガ『大衆の反逆』ちくま学芸文庫       |
| ・D. リーン『ドクトル・ジバゴ』（映画）      | ・E. H. カー『危機の20年』岩波文庫     |
| ・S. キューブリック『博士の異常な愛情』（映画）  | ・H. アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫    |
| ・F. トリュフォー『華氏451度』（映画）     | ・丸山眞男『現代における人間と政治』        |
| ・E. クストリッツァ『アンダーグラウンド』（映画） | ・栗原彬『いじめの政治学』             |
| ・A. ニコル『ガタカ』（映画）           | ・佐々木寛『グローバルな『全体主義』と新しい戦争』 |
| ・P. ワーナー『ノーマンズランド』（映画）     | ・大田昌秀『沖縄 - 戦争と平和』朝日文庫     |
| ・E. ホブズボーム『20世紀の歴史』三省堂     |                           |

●ゼミの進め方

基本的にさまざまなテキストを共同でじっくり味わっていきます。「内容」のところでも述べたように、沖縄や海外でのゼミ合宿も予定しています。さらに具体的な運営方法に関しては、参加者と相談して決めます。

●成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

●ゼミ選択上のアドバイス

いままでの経験から、「学生はおのれにふさわしいゼミしかもてない」と思います。能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生を歓迎します。価値あるものには苦労をいとわない学生を歓迎します。

澤口 晋一（さわぐち しんいち）

● ゼミテーマ・タイトル

「新潟の地理をしらべる」

● 内容（目的やねらいも含む）

ゼミや卒論指導で学生と接して毎年強く感じることは、今の学生（昔からそうだったのかもしれないが）は、「自分でしらべる」ちからが弱い、ということです。本をみんなで購読しても、書かれてある内容をほとんどそのまま言ってみたり、ひどい場合には字面をそのまま読んだりということが少なくありません。

原因はいろいろあるでしょうが、ひとつにはテキストに書かれてある内容を皆さんはそのまま鵜呑みにしてしまうということがあるように思われます。私のゼミでは、書かれてある内容に対して自分の意見を求めたり、批判的検討を行ったりということは特にしませんが、代わりにその内容が事実なのか、著者がどのようにしてその結論に達したのかを、関係する文献・資料等を使って調べ、場合によっては自分で分析してみるといったことを通じて、丹念に読み進めていくものとしたいと思っています。これによって、自分で調べるちからを養いつつ、書かれてある内容を吟味・確認していく習慣がつくようになればと考えています。

今年のゼミのテーマは、「新潟の地理をしらべる」としました。「地理をしらべる」だとなんとなく趣味的な感じもしますので、「新潟を地理学の観点から調べる」、と言い換えたほうがいいかもしれません。「国際化」はもちろん重要だけれど、ひとまずこの半期は、日常生活を営んでいる地元新潟のことを、まずは知り、じっくり調べ、考えてみることにしてはいかがでしょうか。

使用するテキストは以下の2点です。いずれもトピックテーマによって構成されますが、内容的には深く広がりのあるテーマもかなり含まれています。

● 使用テキスト：まだ未定だが、基本的には以下にあげるようなものが使用される。

- ・新潟もの知り地理ブック編集委員会『新潟もの知り地理ブック』新潟日報社、2007年。1400円
  - ・新潟地図ウォッチング編集委員会『新潟地図ウォッチング』新潟日報社、2006年。2940円
- （ゼミ員が決まり次第まとめて購入します）

● ゼミの進め方：

まず、地理学と地理学的調査手法について説明します。その後、何をどのように調べ、発表するかを解説し、またパワーポイント使用についての実習を行います。これらの後に、みなさんが興味を抱く事項を選択し、それについて資料をつくりプレゼンしてもらいます。最後に発表項目についてレポートを作成してもらいます。

● 成績評価基準：

出席、資料作成、プレゼンテーション、質疑応答などに基づいて評価します。

● 選択上のアドバイス

世界にも興味はあるが、まずは新潟のことについて知りたいと思っている人、歓迎。

高橋 正樹（たかはし まさき）

●ゼミテーマ・タイトル

大学生と格差社会

●内容（目的やねらいも含む）

ゼミの目的は社会的な問題に学生が関心をもつことと、本の読み方や文章の書き方や議論の仕方を学ぶことです。そして、より専門性の高い3・4年ゼミにつなぐ意味があります。

まずは、日常生活では気がつかない出来事に思いをはせてください。新潟に住んでいても、問題は色々見えます。さらに、私たちの住む社会から矛盾を押し付けられた、見えない問題にこころの眼を向けましょう。具体的には新聞や書物を通じて、現代社会の諸問題に対する関心をもってもらいます。

具体的内容としては、『希望格差社会』を読みながら、日本国内で所得格差が拡大し、そして若者が抱く将来への希望に大きな格差が生じていることの原因を探り、皆さんが直面する問題に迫りたいと思います。100円ショップが流行る一方で、新潟にも最高級車「レクサス」が登場し、「ベンツ」がたくさん走っています。なぜ、こんな格差ができたのでしょうか。そして、この格差は途上国ではずっと前から当たり前でした。

つぎに、本の読み方、文章の書き方、議論の仕方、さらにはコンピューターの利用といった「学習作法」を細かく丁寧に指導します。最後に授業の成果として個人研究を発表し、研究レポートを作成してもらいます。学ぶということは、疑問をもちそれについての答えを探すことです。学ぶことは本来楽しくワクワクすることです。そのことを感じ取ってください。

●使用予定テキスト

山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房、2004年。

●ゼミの進め方

毎回の授業では、議論を重視します。事前にリポートを準備してもらい、授業ではその内容について全員参加の議論をおこないます。授業ではわたしはできるだけしゃばらず、毎回順番の学生が司会者となり授業を進めてもらいます。わたしの出番は、司会が司会の役割を十分に果たさない時、議論の内容が支離滅裂な時、そして議論の最後のまとめの時に限定します。

●成績評価基準

毎回、出席を欠かさないことです。

●ゼミ選択上のアドバイス

楽しい、ワクワクするゼミです。厳しいゼミではありません。ゼミ生は皆、学習内容に満足して巣立ちます。

松尾 瑞穂（まつお みずほ）

●ゼミテーマ・タイトル

女性の身体変化—日本と世界

●内容

現代の日本では、99%以上の出産が病院などで医師の立会のもと行われていますが、そのような出産が当たり前になったのは、つい40年ほどの話です。今でも、自宅で産婆さんとともに、あるいは一人で産むというスタイルが主流を占めている社会も数多くあります。また、アフリカや中東社会のように、女性の性器を切除する FGM / 女子割礼という成人儀礼がおこなわれる社会もあります。我々は、とかくそうした慣行を「危険だ」「遅れている」と批判しがちですが、私たち自身の社会の性と生殖の営みが、近代化のなかでどのような変化を遂げてきたのかについては、知らないことも多いのではないのでしょうか。本ゼミでは、特に女性の身体に焦点をあてながら、近代化、グローバル化に伴う身体変化について考えていきます。

●使用予定テキスト

西川麦子（1997）『ある近代産婆の物語—能登・竹島みいの語りより』桂書房

吉村典子編（1999）『出産前後の環境—からだ・文化・近代医療』昭和堂

ロック、マーガレット（2005）『更年期—日本女性が語るローカルバイオロジー』みすず書房

波平恵美子（2005）『からだの文化人類学—変貌する日本人の身体観』大修館書店

松岡悦子編（2007）『産む・産まない・産めない』講談社現代新書

奥野克己ほか編（2009）『セックスの人類学』春風社

●ゼミの進め方

決められた文献を全員が輪読することが大前提です。担当者がレジュメを用意して発表したのち、全員で議論をします。司会とコメンテーターも学生が順番に担当してゼミを主体的に運営してもらいます。レポートは自分で聞き取り調査を行いまとめたものとしします。

●成績評価基準

出席（30%）、ゼミでの発表（30%）、レポート（40%）

●ゼミ選択に際してのアドバイス

文献を読むだけでなく、実際に自分で調査をしてみたい、話を聞いてみたいと思っている人に向いています。また、男だとか女だとか、身体や性について素朴な疑問を抱いている人、視野を広げて異文化について学んでみたい人を歓迎します。

安藤 潤（あんど う じゅん）

●教員の研究テーマ

防衛経済学、家計経済学、行動経済学

●教員の現在の関心：

夫婦間の家事分担、結婚の経済分析

●これまでの卒業研究のテーマ

参考までにゼミ卒業生の代表的テーマをいくつか挙げておきます。

「新潟県内女子学生の結婚行動に関する女性の経済的自立仮説からの一考察－男性の雇用形態と所得水準が与える影響－」

「婚活ブームの背景－拡大する未婚化、非婚化、晩婚化－」

「新潟県版『自給自足』型フードシステム確立への課題」

「現代日本における主要自動車メーカーの経営戦略に関する研究－トヨタ、日産、ホンダを中心に－」

「新潟における若年消費者の心理と行動に関する考察－アンケート調査結果から考える企業の販売戦略－」

情報文化学科のカリキュラムの中でこれまでに学んだ様々なことをベースに、仮説を構築・検証し、できればアンケート調査を行い、その結果から自分の頭で考えて結論を導き、自分の言葉で述べる－私のゼミではこういった卒論を書いてもらいます。

●ゼミテーマ・タイトル

現代の経済・社会と家族：家事労働と結婚を中心に

●内容

私は2010年度後期と2011年度前期に海外研修に行きますので、このゼミは3年前期と4年後期（卒論指導）しか開講できません。考えようによっては3・4年次に、私ともう一人の計2名の教員のゼミを体験できます。このことをふまえてゼミ選択をしてください。

具体的な内容は以下の通りです。3年前期には、下記テキスト、論文、雑誌記事を用いながら、日本社会における結婚と家事労働について考えます。なぜ「婚活」までしなければ結婚できないのか、あの「婚活」産業を私たちはどのように考えればよいのか、日本ではなぜ家事労働負担がこんなにも男女間で差があるのかといったことについて議論したいと思います。

4年後期は基本的に各ゼミ生の卒業研究のテーマがこのゼミのテーマになります。卒業研究のテーマについては幅広く「家族」、「生活」、「家庭」に関連していれば、そして私が指導できる範囲であれば必ずしもゼミテーマと一致させる必要はありませんし、対象国・地域も限定しません。「食」についてでも構いません。それ以外のテーマについては応相談です。

卒論は自分の選んだテーマを批判的に考察し、仮説を構築してそれを検証してもらいます。そういうこともあってか、最近、アンケート調査を行い、自らの仮説を検証し、結論を導くというスタイルで卒論を書くゼミ生が増えました。もしアンケート調査をするのであれば、「社会調査」もしくは「社会調査実習」を履修してもらえると幸いです。卒業論文執筆の際、必要最低限の表計算・グラフ作成、卒論中間報告でのプレゼンテーションの方法については指導します。

ゼミ合宿はゼミ生と相談の上で決めたいと思いますが、私としてはぜひ実現したいと考えています。

●使用予定テキスト（全部使用するわけではありません）

以下のテキストは必ず購入してください。

品田知美『家事と家族の日常生活 主婦はなぜ暇にならなかったのか』学文社、2007年、2,000円＋税

大家洋子『いま20代女性はなぜ40代男性に惹かれるのか』講談社、2009年、838円＋税

山田昌弘・白河桃子『「婚活」時代』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2008年、1,050円

大家（2009）と山田・白河（2008）については批判的に検証したいと考えています。品田（2007）には、一部かなり専門的な分析結果が出てくるところがありますが、それらについては私が解説します。そのほか、ゼミでの報告に使用してほしい文献を挙げておきます。図書館で借りるなどして、レジュメに反映させてください。

大橋照枝『未婚化の社会学』日本放送出版協会

川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房  
財団法人家計経済研究所『季刊 家計経済研究』各年各号  
重川純子『生活の経済』、財団法人放送大学教育振興会  
橋本俊詔[編著]『現代女性の労働・結婚・子育て』ミネルヴァ書房  
橋本俊詔『女女格差』東洋経済新報社  
橋本俊詔・木村匡子『家族の経済学 お金と絆のせめぎあい』NTT 出版  
野々山久也[編]『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社  
長谷川啓之[編]、馬場正弘・辻忠博・安藤潤『経済政策の理論と現実』学文社  
樋口美雄・太田清・家計経済研究所[編]『女性たちの平成不況』、日本経済新聞社  
松本保美[編]『平成不況』文真堂（2010年3月末発行予定）  
目黒依子『家族社会学のパラダイム』勁草書房

#### ●ゼミの進め方

担当者には、テキストを批判的に読み、考察し、その上でレジュメを作成して報告してもらいます。司会進行もゼミ生に任せます。

#### ●成績評価基準

報告・司会進行・質問・課題提出などゼミへの取り組み方全般で評価します。欠席は理由の如何を問わず前期後期各3回までですが、無欠席が大原則です。

#### ●ゼミ選択上のアドバイス

ゼミの内容はどちらかと言えば経済学（家計経済学）よりも家族社会学に近いかもしれません。1・2年次に私が担当している「経済学（マクロ）」、「日本経済論」、「現代アメリカ論」、「国際経済学」を理解できたか、履修済みか、単位を取得できたかということとはまったく関係ありません。真剣に取り組む意思のある学生であれば拒みません（上限を超えない限りは）。経営（学）関連の卒業研究も認めています。

臼井 陽一郎（うすい よういちろう）

●教員の研究テーマ：

ヨーロッパ統合・EU政治・EU環境政策・環境政治論・東アジア地域主義

●教員の現在の関心：

ヨーロッパ統合について理解するための社会理論、環境問題と民主主義の関係を問うエコロジカル・デモクラシーの思想、社会事象に付与される意味の発生・確立・伝播をアーケオロジカルに追跡するためのディスコース分析の手法、マイルス・デビスとジョン・コルトレーンとクリフォード・ブラウンとアート・ブレイキーとグレン・ゲールドとマルタ・アルゲリッチの音楽、カズオ・イシグロとドリス・レスリングと中上健次と安部公房と村上春樹と森絵都の小説、そしてモカ・ハラリのおいしい煎れ方。

●これまでの卒業研究のテーマ

鉄の女宰相・サッチャー、60年代ブリティッシュ若者文化、アフター・セプテンバー・イレブンのアメリカン・ロック、ユーゴスラビアのサッカー、ヨーロッパ・サッカー連盟の反人種差別政策、女性の身体美の歴史・平安から現代まで、ハンガリー民主フォーラムと円卓会議、ジャズの歴史・アフリカからアメリカへ、戦後日本社会とゴジラ、などなど。

●ゼミテーマ・タイトル

紛争と和解：国際政治研究へのいざない

●内容

紛争と和解をキーワードに、国際政治のありようについて深い思考を可能にしていくための準備トレーニングを行う。勉強するサブ・テーマとして、次の7つを取り上げる。

- (1) 欧州国際政治史の中の欧州統合
- (2) パレスチナ問題から世界を見る
- (3) シューマン・プランのねらいの普遍性
- (4) 東アジア共同体の建設が意味すること
- (5) 難民問題と UNHCR
- (6) 紛争解決と国際裁判
- (7) 国連安保理の歴史と国連平和維持活動
- (8) 紛争と和解から見た国際政治の歴史

●使用予定テキスト

田中孝彦「国際政治の秩序転換とヨーロッパ：衝突・和解・寛容」  
最上敏樹「絶望から和解へ：人を閉じこめてはならない」  
最上敏樹「隣人との平和：自分を閉じこめてはならない」  
緒方貞子「戦時と平時における人道活動」  
マーサ・ミノウ『復讐と赦しのあいだ』（第1～3章）  
プラヒミ・レポート  
ナイ『国際紛争』  
UNDP「人間の安全保障」

●ゼミの進め方

統一テーマ・紛争と和解をめぐる、文献の輪読と意見の交換を基本のスタイルとする。これを通じて文献の要約・パラフレーズ・コメントの三種の執筆技能を練習しながら、前期中あるいはおそくとも夏休みが終わるまでの間に、卒業論文のテーマを決定してもらう。共通文献の輪読・意見交換は、3年後期の途中から卒業論文のための個人研究報告へと移行する。なお、2009年度まで、卒論テーマは学生個人が決定するものとしていたが、2010年以降はその流儀を変えて、下記より選択してもらうことにした。ただし個別の事例については、学生と相談しながら決定したい。

- (イ) 国際紛争
- (ロ) 国際組織
- (ハ) 国際裁判

## (二) 地域統合

なお特定の映画、芝居、文学作品を取り上げ、そこで描かれている紛争と和解を題材とするのも好い。

### ●成績評価基準

出席20%、報告討論20%、ターム・レポート10%、飲み会や合宿の幹事、ゼミ生への連絡業務など、ゼミ内のお仕事50%。

### ●ゼミ選択上のアドバイス

たくさん勉強します。新聞毎日読んでスクラップブック作って、週に1冊新書本程度の読書して、飲み会も合宿も酒のお供は勉強の話題で、ボードに行ってもカフェ巡りしても温泉まったり旅行でも勉強トークしかしません。カーブドッチの庭をジェラート片手に散策しつつネコのたわむれをのんびり眺めながら、でもやっぱり勉強トークします。脳細胞はむりやり頂上に連れて行かされたボード初心者のアフターの筋肉痛のように激しく痛みます。でも勉強のやりすぎでドクター・ストップがかかることもないでしょう。とはいってもの勉強しすぎると体調の悪くなる人はこのゼミの選択を避けるのが良いように思います。といいつつ理想とする大学のあり方は空き地です。遊びたくなったらこの指止まれと仲間に合図して、疲れて休みたくなったら寝っ転がって休み、これまでを追想しこれからを想像するための、何にも存在しない空間、それが空き地です。大学はいつまでもそのような存在として、卒業生たちが羽を休めに帰って来ることのできる場所でありつづけるべきです。このゼミはしかしそんな理想の大学の例外的状況として、ただひたすらに勉強する場となるはずです。



區 建英（おう けんえい）

●教員の研究テーマ：

中国で生まれ育った私は、20年以上日本に生活している立場によって、日本の視線から祖国を見ると同時に、中国の視線から日本を見ています。双方向の異文化理解によって、自分の関心を寄せている中国の民主化と平等な多民族社会の構築の問題を研究しています。

●教員の現在の関心：

私の関心は一貫して、現代中国が抱えている民主化の問題と多民族社会の問題にあります。同時に、グローバル化と中国の発展における諸問題にも注目しています。

●これまでの卒業研究のテーマ

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1、戦後の日中民間友好交流   | 2、中国の NGO—環境保護と「扶貧」   |
| 3、日中のマスメディアの比較  | 4、台湾と大陸の兩岸関係問題        |
| 5、中国少数民族の言語・文字  | 6、中国における日本の漫画・アニメーション |
| 7、中国の大衆文化の移り変わり | 8、北京オリンピックがもたらす中国への影響 |

●ゼミテーマ・タイトル

「現地の視点を導入した中国研究」

●内容（目的やねらいも含む）

このゼミはミニ留学にしたい、つまり、留学済の学生に留学経験を保ち、未留学の学生に留学のような授業を少しでも体験してもらいたいです。語学の授業ではなく、研究の中で中国語を用い、よって中国語の使用能力を高めるのです。

研究テーマは私の研究分野に縛られず、なるべく学生たちの個性を自由に伸ばしてそれぞれの関心を学問に組み込みます。中国を国際研究の具体例として取り上げ、中国そのものを知ること、または中国を通じて日本を見、世界的な問題を見ることを目指します。

例えば、中国は急速な経済発展において貧富格差や環境問題も発生しており、どのように格差を縮め、環境を守るのか。中国には56の民族があり、どのように相異の文化をもって共存するのか。これらの問題は中国の問題でありながら、世界的な問題でもあります。また、世界の同時不景気の中で各国はどのように景気回復を図るのか、国家間の利益対立の中でどのように協力を図るのか。これらの問題は、中国の経済振興策や、中日関係を含む中国の外交関係および中国が作った各種の国際協力体制に対する分析を通じて考えることができます。また、華僑・華人と呼ばれる世界各地にいる中国移民のあり方と役割を考察することもできます。近年、中国は「和諧」（調和が取れている）という核心概念を打ち出し、国内政策では「親民」や「扶貧」を唱え、国際関係では「協和万邦」を唱えていますが、この理念はどのように現実に働きかけ、国家行為を制約するのか、これを実験することの意味は中国だけに止まらないです。

要するに、学生はそれぞれ自分の関心から、経済・政治・外交・環境・民族・文化などの分野にわたって研究テーマを選ぶことができ、私はそれに応じて研究方法を指導します。

このゼミの特色は外国を研究する時、現地の視点を導入する方法を重視する点にあります。外国研究において、対象国の言葉で理解することがとても重要です。また、私たちはふだん無意識のうちに、自分の生活環境やマスコミによって「与えられた」画一的な見解を持たせられがちです。これも国際理解を妨げる要因です。したがって、中国という異文化を研究するには、翻訳書や日本語文献のみに頼るのではなく、なるべく直接中国語文献を読むよう勧めます。異文化の中に入りそこからその文化を見つめるという方法によって、できるだけ既存の観念や常識に囚われず、自分の独立見解を形成するような研究を期待します。その手段として、ゼミでは、中国語を語り、中国語文献を読解し、自らの手による中国語資料の製作をも学びます。

●ゼミの進め方

中国の映像資料を見、中国語文献を読解し、討論を行ったりして、原語による研究の能力を身に付け、この能力によって研究を行います。具体的に、学生たちはそれぞれ関心ある原典を素材にして研究発表を行い、様々な角度から原典を学ぶことによって自分の真の関心を見つけ、卒業研究へと発展させます。3年次は主として、中国語による中国研究の技能を学び、自分の関心がある課題を見つけ、学術研究の基本的な方法を学び、卒業研究の基礎をととのえていきます。4年次は自分の課題に基づいて研究を進め、1つの成果にまとめるよう指導します。

●成績評価基準

ゼミの出席と発表・討論の状況によります。

●ゼミ選択上のアドバイス

このゼミは語学の授業ではなく、一定程度の中国語の修得を前提にして、中国語を研究に使用しますので、中国語使用能力の訓練を受け、その能力を駆使して研究を行いたい学生が望ましいです。したがって、ゼミに入るために下記の「条件」を設けています。

中国語履修者であること、中国語文献の読解や中国語使用の訓練に意欲あること。

小澤 治子（おざわ はるこ）

●教員の研究テーマ：

冷戦構造の崩壊過程でソ連外交はどのような変容を示したのか、そうした変容はソ連解体後のロシアの外交にどのように継承されたのか、さらには東アジアの国際関係や日本とロシアとの関係において、ソ連（ロシア）外交の変容がもたらした意味は何か、以上のことに関心をもって、これまで研究を進めてきました。

●教員の現在の関心

上記のテーマをさらに進めて、現在のロシアの連邦制度がロシアの外交にどのような影響を及ぼすのか、またそれは東アジアの国際関係にどういう意味があるのか、そんなことに関心をもっています。さらに1917年のロシア革命を日本、ロシア、中国、アメリカなど東アジアの国際関係との関連で考察するというのも、私の研究テーマの一つです。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

- ・「ソ連邦の形成と解体——民族問題を中心に」
- ・「資源をめぐる CIS 諸国の新たな挑戦——カスピ海資源開発を中心に」
- ・「稼動し続ける原子炉——チェルノブイリ原発の『必要性』」
- ・「南北統一問題と日朝国交正常化交渉」
- ・「国際経済における日本のコメ」
- ・「日本人シベリア抑留——未解決の補償問題を中心に」
- ・「東アジア国際関係史におけるハルビン——波乱の都市から友好都市へ」
- ・「人権保障をめぐる国際社会の取り組みと日本」

●ゼミテーマ・タイトル

「ユーラシアの国際関係——そして日本」

●内容

冷戦構造の崩壊、ソ連解体によってヨーロッパ、アジアの国際関係、また地域間関係は大きく変容しました。ヨーロッパとアジアは一つの大陸ユーラシアとして生まれ変わりつつあります。そこでは様々な形の協力や交流が生み出されてきていますが、同時に新たな紛争や摩擦の火種がおこっていることも、重要なポイントです。その中で日本はこれから国際社会でどのような選択を行うべきなのでしょう。

このゼミではそのようなことに関心をもっている皆さんに参加を呼びかけたいと思います。具体的には、以下3つの柱を掲げますので、①②③の中からいずれかに関連するテーマを自分でみつけ、研究を進めて卒業研究をまとめてください。

- ①20世紀における日本、アメリカ、中国、ロシア（ソ連）、朝鮮半島など東アジアの国際関係、また地域間関係について。  
東アジアであれば、二国間関係でも多国間関係でも、あるいは地域間協力についてのテーマでもかまいません。
- ②20世紀の日本外交。日本外交に関するテーマであれば、対象となる相手国や地域は自由に選んでください。第二次大戦前の日本外交の問題点、戦後日本外交の特色、これからの国際社会と日本、など様々な角度から研究することが可能だと思います。
- ③旧ソ連、中東欧関係。ソ連解体によって、ロシアを含め15のソ連構成共和国はそれぞれ独立し、今日新たな関係のあり方を模索しています。また冷戦期にソ連の支配下にあった中東欧諸国も独自の道を歩んでいます。それらの国や地域のいずれかに関連したテーマを考えてください。

●使用予定テキスト

特定のテキストを使用することは考えていませんが、以下の文献を参考図書として挙げておきます。

- ・増田弘・波多野澄雄編『アジアのなかの日本と中国——友好と摩擦の現代史』、山川出版社、1995年。
- ・細谷千博監修『国際政治経済資料集』、有信堂、1999年。
- ・石井修『国際政治史としての20世紀』、有信堂、2000年。
- ・小澤治子『ロシアの対外政策とアジア太平洋』、有信堂、2000年。
- ・長谷川雄一・波多野澄雄・五味俊樹編著『環太平洋国際関係史』、ミネルヴァ書房、近刊。以上のほかにも、それぞれの関心に応じて随時参考文献を紹介します。

●ゼミの進め方

3年次前期は、受講者それぞれが共通して関心を持つことができるようなテーマの文献を一冊か2冊、全員で読みます。その後各自で研究テーマを決め、3年次後期はそれぞれテーマに関連した内容を発表し、全員で質疑応答を行います。

●成績評価基準

授業を欠席しないこと。授業中積極的に発言すること。きちんと発表を行うこと。期限までにレポートを提出すること。以上を総合的に評価して、成績をきめます。

●ゼミ選択上のアドバイス

国際政治学、あるいは国際政治史を履修していることが望ましい。

越智 敏夫（おち としお）

●教員の研究テーマ：

現代政治理論の発展がアメリカ政治の現実的な変化とどのように関連しているかを研究しています。社会科学が厳密な意味で「科学」になりえないのは、対象と研究者のあいだに価値の問題が存在するからです。政治におけるその価値の問題について考えています。

●教員の現在の関心

現代世界において国民国家という枠組みはどのような機能を果たしているのか。またそれを超克する論理は可能なのか。そういう問題とポストコロニアルな状況はどう結びついているのか。人間の解放とは何か。そんなことに関心をもっています。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

国民国家形成における言語の機能

●ゼミテーマ・タイトル

「政治思想と現代社会」

●内容

卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。

ゼミナールでは現代の古典と呼ぶべき政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。

もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。

ゼミナールの具体的な内容として5人の政治思想家を考えています。マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーの5人です。このなかの一人の論理に限定して徹底的に議論します。一人を選んだらその他の者の著作は読みません。どの思想家にするかは一回目のゼミナールで参加者と相談して決めます。

こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。

●使用予定テキスト

ヴェーバー 『職業としての学問』	岩波文庫
ヴェーバー 『職業としての政治』	岩波文庫
ヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	岩波文庫
ベンヤミン 『複製技術時代の芸術』	晶文社
ベンヤミン 『暴力批判論 他十篇』	岩波文庫
ベンヤミン 『ドイツ悲哀劇の根源』	講談社文芸文庫
アレント 『人間の条件』	ちくま学芸文庫
アレント 『全体主義の起原』	みすず書房
アレント 『暴力について』	みすず書房
丸山眞男 『現代政治の思想と行動』	未来社
丸山眞男 『日本の思想』	岩波新書
丸山眞男 『忠誠と反逆』	筑摩書房
フーコー 『知への意志 性の歴史』	新潮社

フーコー 『監獄の誕生 監視と処罰』 新潮社  
フーコー 『言葉と物 人文科学の考古学』 新潮社

●ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

●成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

●ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

小山田 紀子（おやまだ のりこ）

●教員の研究テーマ：

マグレブ近現代史（マグレブとは、北西アフリカの西方アラブ圏諸国を指すアルジェリア・チュニジア・モロッコ三国）、アルジェリアの植民地史研究、フランス帝国主義研究、マグレブの脱植民地化の過程に関する比較研究、フランスのイスラーム系移民問題

●教員の現在の関心：

アメリカ大統領選挙とイラク戦争のゆくえ、フランスの移民問題、国民国家とアイデンティティ、アルジェリア独立戦争の記憶と歴史の書き方、ヨーロッパのサッカーとジダン

●これまでの卒業研究のテーマ（小山田ゼミで取り上げられたテーマ）

- 「フランスの移民政策とアルジェリア人移民労働者問題」
- 「ドイツにおけるトルコ系移民—国民国家への統合をめぐる—」
- 「フランスの移民問題—移民統合の危機と共生に向けて—」
- 「独立国家アルジェリアにおけるイスラーム復興運動の展開」
- 「日本におけるムスリム—東京モスク・新潟モスクの調査を中心に—」
- 「日本の無国籍者」
- 「シオニズム運動の思想とその時代背景」
- 「イスラエル・パレスチナ問題と中東和平の行くえ—イスラエル側からの視点—」
- 「クルド民族運動の展開」
- 「ケマル革命—トルコ近代国民国家形成に関する考察—」
- 「石油開発の歴史と環境問題—中東石油を中心に—」
- 「エジプト革命—ナセルの政治—」など

●ゼミテーマ・タイトル

人の移動から見た国際関係—グローバル化の中の国民国家—

●内容（目的やねらいも含む）

本ゼミでは、グローバル化にともなう人の移動に着目し、先進諸国における移民や外国人労働者問題を取り上げる。具体的には、ヨーロッパと日本の事例の比較研究を行う。例えば、フランスでは1960年代の高度経済成長の時期に旧植民地であった北アフリカや西アフリカからの移民労働者が多く流入したが、日本は先進国の中でも外国人労働者なしに高度経済成長を遂げた唯一の国である。しかし日本でも1990年代以降は合法非合法を問わず、多くの外国人労働者が確実に増えてきている。こうした中、日本の外国人労働者に関する議論も近年盛んになってきた。いずれにせよ今日、経済のグローバル化にともない活発化する人の移動は、受入れ社会である先進諸国において異文化接触—摩擦や対立、あるいは相互理解や友好—の機会を増大させている。

それではなぜこのように発展途上国から先進国に労働移動が起こるのであろうか。その歴史的背景を次に19世紀のヨーロッパの植民地主義の発展にまでさかのぼって探っていく。すなわち、イギリスを頂点とする資本主義市場経済が世界的規模で拡大する世界構造の中に、アジアやアフリカ地域がいかに組み込まれ、その中でどのように後進的経済群あるいは「周辺部」を形成することになったのか、また第一次世界大戦以降の植民地の民族独立運動はどのように展開され、第二次世界大戦後新興独立諸国が生み出されたのか、といった歴史を振り返る。その上で、独立後の第三世界を形成した発展途上国と先進国との関係を、新ためて人の移動という視点から捉えなおしてみたい。そして、今日の移民をめぐる問題—包摂と排除など—を考察し、グローバル化の現代世界において「国民国家とは何か」を問い直す試みを行いたい。

なお、ここで取り上げる移民や外国人は、イスラーム教徒（ムスリム）を多く扱うので、イスラームの基礎知識や中東・北アフリカの社会や文化についても学ぶ。

●使用予定テキスト（変更の可能性あり）

- 梶田孝道『外国人労働者と日本』日本放送協会、2001年
- 桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年
- 樋口直人他『国境を越える—在日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007年
- 宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年
- 内藤正典『アッラーのヨーロッパ—移民とイスラーム復興—』東京大学出版会、1996年

本間圭一『パリの移民・外国人—欧州統合時代の共生社会—』高文研、2001年  
東長靖『イスラームのとらえ方』世界史リブレット、山川出版社、2006年  
立山良司編著『中東』、自由国民社、2002年  
中岡三益『アラブ近現代史』、岩波書店、1991年  
新井政美『トルコ近現代史—イスラム国家から国民国家へ—』、岩波書店、2001年  
私市正年・栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と民主化』、東大出版会、2004年  
宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』大学図書出版、2008年  
その他、適宜指示する。

#### ●ゼミの進め方

3年次は上記のテキストを順次選び、全員で輪読する。報告者は担当箇所のレジュメを作成してきて報告し、それに対して他のゼミ生と議論を行い、理解を深める。このようにして国際研究の方法論を学ぶ一方、各自の関心に沿って、これらの地域が抱える諸問題の一つを取り上げて個別研究を進める。4年次には、それをさらに発展させて卒論に仕上げていく。3年次の夏休み（あるいは春休み）にはゼミ合宿を行う予定である。

#### ●成績評価基準

レポートと卒業論文の成績に加え、演習の出席状況・ゼミ活動に取り組む姿勢等により総合的に評価する。欠席は原則として認めない。欠席が続く学生はゼミをやめてもらうこともある。

#### ●ゼミ選択上のアドバイス

ゼミでは日本やヨーロッパ（とくにフランス）を舞台に、そこにおける異文化接触の問題を多く扱うが、これに限らず、中東地域の国民国家の問題（例えば、イスラエル・パレスチナ問題など）やイスラームをめぐるテーマを取り上げてよい。ただし担当教員のカバーできる歴史学や国際社会学等の分野のテーマであることが望ましい。また卒論テーマに関しては、先輩の扱ったテーマを継承し、その研究をより深めていくという方法もあるだろう。ゼミの卒業研究は自分ひとりだけのものではなく、ゼミのメンバーの相互交流によって深まっていくだろう。またゼミ（演習）は、教員からの一方的な指導によって進めるものではなく、ゼミ学生がその運営に積極的に参加して作り上げていく共同研究グループであるので、みんなと一緒にやっていくのだという気構えを持ってこのゼミに入ってほしい。今年はどうのようなメンバーが集まるのか楽しみである。



熊谷 卓（くまがい たく）

●教員の研究テーマ：

国際法(international law)、国際人権法(international human rights law)、国際刑事法(international criminal law)

●これまでの卒業研究のテーマ

分断国家における国民（市民）の意識のみぞとその克服—東西ドイツの事例を素材として

国際法における武力行使の意義と限界—イラク攻撃を素材として—

難民の保護と法

国際的な人権の保障に関する考察

従軍慰安婦問題と国際法—女性国際戦犯法廷を素材として など

●ゼミテーマ・タイトル

「法と人権」

●内容

本ゼミナールにおいては、自分が弁護士だったらどう訴訟するか、検察官だったらどう有罪を勝ち取るか、あるいは裁判官だったらどのような判決を下すべきかという視点から、検討することを目的とする。つまり、実際的な問題をとりあげ、これに法というスパイスを使って、取り組むことを内容とする。例をあげると以下ような問題である（これらに限らないが）。

- 武力紛争時に使用できる武器に制限はあるか
- いわゆる有事における人権の保護
- 多重債務者（ヤミ金被害者）と法
- 開発問題と人権—インドネシア ODA 訴訟などを素材に
- ジェンダーと法
- 家族法の比較法的考察 など

●使用予定テキスト（全部使用するわけではありません）

水上編著『国際法』（2002年、不磨書房）2800円

阿部浩巳『国際人権の地平』（2002年、信山社）2800円

『国際条約集』（2004年、有斐閣）2500円

『新六法』（2003年、三省堂）1600円

●ゼミの進め方

まずは、指定したテキスト（文献）を全員で読み、人権に関する法学の知識を深めてもらう。その後、ゼミ生が自分自身で選択したテーマを素材に報告し、それについて皆で検討をするという形でゼミを進める。レポートの提出も適宜求める。

●成績評価基準

研究報告やレポート、ゼミへの参加度（単に出席していても意味なし）を基準とする。

●ゼミ選択上のアドバイス

「法学なんてもういややー」という人には勧めない。

3年次の間に新潟地方裁判所の傍聴に行きそれについて報告してもらうことも義務である。

小林 元裕（こばやし もとひろ）

●教員の研究テーマ

近代から現在にいたる日中関係論。とくに近代中国における日本人の社会・経済活動

●教員の現在の関心

地球温暖化防止のための取り組みにおける日本、中国、米国の役割、日本と中国における格差社会の出現とその背景、少子高齢化と老いゆく東アジア問題。世界経済に果たす日中経済の役割、新潟の少子高齢化と人口流出、等々。

いま私たちの身の回りは様々な問題に満ちあふれている。人々は「豊かさ」、「快適さ」、「安心・安全」を求めて努力してきたはずなのに、世界では全く逆の事態が噴出している。明るい未来像を持てなくなっている私たちはこれから一体どう生きていったらいいのか。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

- ・「馬英九政権からみる台湾の将来－統一か、独立か、それとも“中華連邦”誕生か－」
- ・「戸籍制度から見る中国の格差問題」
- ・「中国の人口問題から見る教育格差－都市と地方の教育－」
- ・「映画『靖国 YASUKUNI』と靖国問題」
- ・「佐渡ヶ島の未来－観光・世界遺産から考える－」
- ・「毛沢東と大衆運動」

●ゼミテーマ・タイトル

「私たちが生きる世界は一体どのような世界なのか」

●内容

ゼミの最終的な目標は、学生が「自立」する力を身につけることである。「自立」とは、ある問題に直面したとき、その問題を解決するために自分で考え、結論を導き出す技術であり姿勢である。

私は世界がいま抱えている問題のほとんどは、少なくとも第2次世界大戦、多くの場合、近代にまでさかのぼって考えなければいけないと考える。そこでまず、学生が大学生として最低限身につけておかなければいけない基礎知識として日本の近代、現代史を学ぶ。次いでその基礎の上に、現在起こっている問題を取り上げ、その解決策を探究する。取り上げるテーマはゼミ生と話し合っただけで決める予定だが、地球温暖化防止問題、格差問題、少子高齢化問題等を考えている。

●使用予定テキスト：

- ・由井正臣『大日本帝国の時代』岩波ジュニア新書
- ・鹿野政直『日本の現代』岩波ジュニア新書
- ・園田茂人『不平等国家 中国』中公新書
- ・大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
- ・小西雅子『地球温暖化の最前線』岩波ジュニア新書

●ゼミの進め方：

3年前期は基本的な文献を読んで基礎的な知識を習得する。3年後期はテーマを決め、グループワークによって問題解決の提言を行う。4年は専門的な論文読解に挑戦し、各自の卒業論文作成につなげる。

●成績評価基準：

出席、報告の内容および学期末のレポートによる。

●ゼミ選択上のアドバイス：

積極的かつ自主的に行動できる学生を希望する。上級生、卒業生と接触する機会を多く設けるので、その中で社会性を身につけてもらいたい。中国語の能力は問わない。

佐々木 寛（ささき ひろし）

●教員の研究テーマ

平和学・地球政治学という新しい学問の枠組みで、戦争・環境破壊・貧富の格差などの国境を越えた「地球的問題群」の現実を全体的に把握し、この問題に立ち向かう国際組織や社会運動の取り組みや活動について研究しています。

●教員の現在の関心

現時点で思いつくもの。順不同。ー新潟の民衆史。沖縄や新潟のミクロな地域主義を含んだ「東アジア」のゆくえ。「グローバル化」というものの真の正体。「グローバル化」にともなう「人権」概念の再構成。原子力発電および核兵器をめぐる政治。遺伝子や臓器をめぐる政治。人間の生活を破壊する対人地雷や劣化ウラン弾、クラスター爆弾などの問題とそれにとりくむ各種の活動。民間軍事会社（PMC）や新しい軍事経済について。国際報道のしくみ。「国際世論」はどのように形成されるのか。無数のNGO活動の把握と分類。「ボランティア」型社会の可能性。戦後日本の平和運動の世界史的意味付け。フォルクローレの音楽史。子供の成長の様子。などなど。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

- ◎臓器売買から見える世界——あなたは買う？それとも…。
- ◎「慰安婦問題」の意味を考えるー歴史を学ぶということはどういうことか
- ◎「ナナムの家」からのメッセージ——暴力をこえて
- ◎環境問題に取り組むことの意味ー富山市を事例にして
- ◎構造的暴力としての児童虐待——歴史・現状・要因
- ◎死刑に関する一考察
- ◎イスラエル・パレスチナ問題を考える——現代戦争の構造
- ◎原子力と民主主義
- ◎戦争と情報
- ◎侯孝賢の映画と台湾社会      など

●ゼミテーマ・タイトル

平和のための地球政治学

●内容

当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおのおのが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまに展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策をとともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やNGOで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でNGOを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。

最終的に各自ゼミ論文（3年次）、および卒業論文（4年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じて調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、韓国・台湾・中国いずれかの地域に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争／平和記念館（韓国では「ナナムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。

当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。

●使用予定テキスト

- ◎H. アレント『暴力について』みすず書房
- ◎A. ギデンズ『近代とはいかなる時代か？』而立書房
- ◎U. ベック『危険社会』法政大学出版局

- ◎A.メルッチ『現代に生きる遊牧民』岩波書店
- ◎E.サイード『知識人とはなにか』平凡社
- ◎P.ブルデュー『メディア批判』藤原書店
- ◎日本平和学会編『平和研究26号—新世紀の平和研究』早稲田大学出版部  
——他に必要に応じて英語文献も読みます。
- ◎M.Shaw、Civil Society and Media in Global Crises.
- ◎D.della Porta et al.、Social Movements in a Globalizing World. など。

#### ●ゼミの進め方

ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。

#### ●成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

#### ●ゼミ選択上のアドバイス

能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。

澤口 晋一（さわぐち しんいち）

### ●私が指導できる分野と範囲

私が3年ゼミ～卒業論文として指導できる（本学で指導可能な）分野は、地理学（地球科学を含めた自然地理学全般と人文地理学の特定分野）および地球・地域環境問題、資源・エネルギーに関する分野です（詳しくは以下を参照のこと）。

#### ・地理学分野

自然地理学：地形学（高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、沖積平野等）

第四紀学（古環境変動）

気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等）

地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ）

人文地理学：土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、観光地理学  
地誌学

・地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性 等

・地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全 等

・資源・エネルギー分野：資源枯渇、自然エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題） 等

### ●指導方針

私は、たとえ卒業論文であってもそれは研究論文だと考えています。研究論文であるからには、どんな些細なことでもその分野に何か新しい知識をもたらすものでなくてはなりません。これをできる限り実現させるため、私のゼミでは、『各自が決めたテーマに基づいて、自分の手と足で資料やデータを集め、それを分析して得られた結果を解釈し考察すること』（テーマによってはレビュー研究も認めます）を基本原則としています。既存の文献資料の文章を引用と称して大量に“借用”して作成するようなことは私のゼミでは決して認めません。とはいえ、たがが1～2年の勉強で日進月歩の研究に新たな知識を付け加えるなどということはほとんど困難です。努力はしたが結局うまくいかなかったことのほうが圧倒的に多いのが現実です（私だってそうですから）。ではその努力はすべて無駄になるのでしょうか。決してそうではありません。新しい知識の獲得を目指して行った努力の過程にこそ、実は本当の意味があります。私はそこをみます。そこに最大の評価ポイントを置きます。完成度の高さなどは問題にしません。

### ●指導スケジュール

3年 前 期：文献検索等を通じ卒論で取り組みたい対象や分野を決定し、関係分野の概説書購読。

夏休み：取り組む対象・分野に応じて各自に課題を提示する。

後 期：前期で決めた対象・分野から卒論として取り組むテーマを具体的に絞り込み、それについての勉強を始める。最初は基本的知識を得るために概説書的な書籍の購読を繰り返す。後半以降は様子をみて、可能ならば論文読みにもチャレンジし、調査方法についての検討もおこなう。

春休み：文献・資料収集、論文読み、フィールド調査の必要なテーマならその調査も。

4年 前 期：関係する論文読みを通じて基礎知識をさらに固める（関係論文を最低でも5本は読みます）。同時に資料・データ収集、必要ならフィールド調査。さらに資料・データ分析。

夏休み：論文読み、資料・データ収集、必要ならフィールド調査。さらに資料・データ分析を自主的におこなう。

後 期：論文執筆（完成までに最低でも10回の原稿添削があります）

### ●これまでの卒業論文タイトル一例

人文系：『赤倉温泉におけるスキー観光地域特性』『リモートセンシング画像を用いた西川町周辺の土地利用調査』『新潟市における砂丘農業の特色と土地利用－新潟市赤塚地区を事例として』『環境と市民運動－長岡市のマイカーデーを事例に』『新潟県下におけるチューリップ球根栽培の動向』『新潟市鳥屋野地区における土地利用の変化』『古地図に基づいて復元した新潟市の堀の変遷と市街地発達過程』『地球温暖化と原子力発電』『新潟市における砂丘地農業の特色と土地利用－新潟市赤塚地区を事例として』

自然系：『新潟市およびその近郊における降水の酸性度観測と松枯れの実態調査』『気候景観からみた新潟県下越地方における卓越風とその影響範囲』『守門岳における地形と植生の対応関係』『新潟平野北東縁部・村松断層とそれとともなう変動地形』『新潟平野における地形と水害－7月13日五十嵐川堤防決壊に伴う水害を事例に』『会津朝日岳とその周辺の山地における多雪景観の分布特性とその形成要因』

申 銀珠 (シン ウンジュ)

●教員の研究テーマ

韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相について。特に日本統治期、韓国人作家によって書かれた<日本語文学>、戦後から現在までの<在日文学>、<中野重治>など、文学と政治、言語と表現という観点から研究を進めている。

●教員の現在の関心

<在日文学 (日本語文学)>。金石範・金達寿・李恢成・梁石日・李良枝・柳美里・玄月・金城一紀など、戦後から現在にいたるまでの在日作家の作品世界を探り、その特徴と変貌、表現媒体としての日本語のもつ意味について考えたい。さらに日本近代文学における<在日文学>の位置付けの問題を考えながら、ナショナリズム、国家と国民、同化と差別、国際化と地域化の観点からそれぞれの作家と作品世界を読み直したい。

●これまでの卒業論文のタイトルの一例

「日本統治下の朝鮮における皇民化政策と創氏改名」

●ゼミテーマ・タイトル

「文学で考える日本と韓国・朝鮮、アジアと世界」

●内容

日韓比較文化論の一環として、前期は、<在日文学>についていっしょに勉強したいと思う。<在日文学>というと、皆さんは「堅い」「地味」という印象をもっているかも知れないが、日本人・日本社会の他者として生きている<在日>の人々によって書かれた作品世界は、まさに日本社会の本質を映し出す鏡のようなものである。

朝鮮・韓国人作家が日本語による文学活動を通して日本の政治的文化的体制に深く関係付けられていたのは、戦前の日本の植民地政策が日本語政策とともにあったことと無関係ではない。日本の植民地政策の結果として、在日の作家は、戦後も日本社会において民族や国家や言語の問題を問いながら自らのアイデンティティを探っていかなければならなかった。同一性共同体といわれる日本社会において排除される存在として認識されていた<在日>の問題に、作品を通して近づいていく。そして祖国としての<朝鮮>とは<在日>の人々にとってどんなものだったのか、<韓国>と<北朝鮮>のそれぞれの現実を彼らはどのように受けとめ、あるいは反目し合ってきたのかを、小説、エッセー、評論などを通して探りたい。

3年後期と4年では、3年前期での内容を踏まえた上で、皆さん自身が選んだテーマについて発表してもらい、討論を行う形で進めていきたい。広い意味での日韓比較文化論という範囲で、日韓の伝統文化、生活文化、大衆文化、時事問題など、日韓相互理解のための<日本と韓国><日本人と韓国人>に関わる諸課題を積極的に取り上げる予定である。

3年・4年ともに、<比べる><調べる>という二つの言葉をキーワードにした、学習者自身が自主的で積極的に参加する<元気のいい>ゼミにしたい。特に3年後期のゼミでは、4年の卒業論文の前段階という意味においても、自分の問題意識をしっかりとつかんで自らの課題に近づいてほしい。

●使用予定テキスト

- ・金史良『光の中に』(講談社文芸文庫)
- ・金石範『新編「在日」の思想』(講談社文芸文庫)
- ・金石範『鴉の死 夢、草深し』(小学館文庫)
- ・金石範・金時鐘『なぜ書きつけてきたか なぜ沈黙してきたか』(平凡社)
- ・竹田青嗣『<在日>という根拠』(ちくま学芸文庫)
- ・李良枝『由熙 ナビ・タリオン』(講談社文芸文庫)
- ・柳美里『家族シネマ』(講談社)
- ・玄月『蔭の棲みか』(文芸春秋社)
- ・林浩治『在日朝鮮人日本語文学論』(新幹社)
- ・林浩治『戦後非日文学論』(新幹社)
- ・韓国挺身隊研究所『よくわかる韓国の「慰安婦」問題』(アドバンテージサーバー)
- ・小倉紀蔵『韓国は一個の哲学である』(講談社)

●ゼミの進め方

3年の前期では、参加者全員が事前にテキストを読み、ゼミでは一人か二人に内容をまとめて発表してもらったあと、皆で討論を行う。後期からは、毎回の発表者と司会者を事前に決め、ゼミの内容・進行等を学生が主導するものにしたい。

●成績評価基準

学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表の内容を評価に加える。

●ゼミ選択上のアドバイス

3年のゼミは4年の卒論につながるものだから、自分の興味・関心のある分野を積極的に選んでほしい。

高橋 正樹（たかはし まさき）

●教員の研究テーマ

現在は、グローバリゼーションが国家と社会にもたらす影響と、東南アジアを中心として東アジア地域主義について研究しています。

●教員の現在の関心

とくに、先進国でも失業者が増えていき、途上国では弱者にさらにしわ寄せがいく状況に関心があります。タイを中心にして、グローバリゼーションが途上国の国家と社会にそのような影響を与えているのかという課題に取り組んでいます。

もうひとつの関心は大学論です。グローバリゼーションによって先進国でも深刻な就職難が発生し、他方、社会はより一層の勉強が必要になる高度知識社会となり、また、同世代の若者の半分近くが大学に進学するというユニバーサル化が進んでいる今日、大学は変化を迫られています。60年代末に続く第2の大学危機の時代を迎えもう20年近くが過ぎようとしています。大学のどこを変え、どこを変えてはいけないのかを、大学人としてじっくり考え実行していきたいと思っています。

●これまでの卒業研究のテーマ

「戦争責任と戦後世代」「ビルマの民主化問題」「民族主義と国民国家」「中国の経済成長と農村問題」「コメ自由化と新潟のコメ農家の将来」「新潟における国際交流」「格差社会と教育」他

●ゼミテーマ

「グローバリゼーションと世界的な不平等、もしくは格差社会」「東アジア共同体」について  
こんな関心のある方は高橋ゼミへ

- (1) 世界の不平等問題に関心のある方。日本社会の格差拡大、途上国の貧困の問題、NGO…
- (2) 東南アジアに関心のある方。ビルマの民主化、タイの経済社会…
- (3) 東アジアと日本の関係に興味ある方。歴史問題、今後の中国、韓国、東南アジアとの関係…
- (4) 今後の日本や新潟の政治経済はどのようなになるのか…

こんなちからをつけたい方は高橋ゼミへ

- (1) 読み書き話す力をつけたい方。一緒に読み、文章を書き、議論をしましょう。
  - (2) 卒業後、仕事をバリバリやりたい方。一緒に社会力、人間力をつけましょう。
- 世界を少しでも公正で平和にしたい方。一緒に考えましょう。

●内容

内容は学生が「社会に出て役に立つ」ものばかりです。3年では、グローバリゼーションや格差社会等の共通のテーマに沿った文献を全員で読みながら、現代社会の論点について深く考察します。3年・4年を通して、新聞を毎日読み国内外の政治経済への関心と知識をもってもらいます。新聞は情報の宝庫ですので、みなさんの知識量と社会への関心は格段に広がるでしょう。このゼミを経験することで、毎日、新聞を1面から読むという生涯の財産になるような習慣がつきます。

また、毎回、論理的な短い文章を書いてもらいます。また、レポートや社会で役立つ仕事文の書き方を丁寧に指導しますので、ゼミを卒業するころには文章を書くのが全然苦にならないような力がつきます。これも生涯の財産になるでしょう。さらに、ゼミは基本的には学生を中心に議論・討論をやってもらいます。また、授業の最初に全員が「1分間スピーチ」で一週間を振り返ってもらいます。相手に考えを伝え、相手の言ったことを理解するコミュニケーション能力がばっちりつきます。自分を鍛え、社会に出る前に力をつけておきたい学生にぴったりです。

●ゼミの進め方

3年前期は格差社会とそれをもたらししたグローバリゼーションについての本を読み、一緒に調べていきます。3年後期は決まったテーマについてグループで調査研究をしてもらいます。3年の12月頃からは卒論研究が中心になっていきます。卒業論文のテーマに関しては、世界と日本の政治経済関係という範囲の中で学生の主体性を尊重します。

●成績評価基準

出席、ゼミでの議論、課題の内容を重視します。

●ゼミ選択上のアドバイス

和気藹々とした楽しいゼミです。充実した楽しい大学生活を送りたい学生は是非、高橋ゼミへ。



## グレゴリー・ハドリー

### ●教員の研究テーマ

The teacher studies cross-cultural issues、Niigata' s local history、Issues of War and Peace、and English Language education are studied.

### ●教員の現在の関心

The teacher has written a book on Niigata during the end of the Pacific War.

### ●これまでの卒業論文のタイトル一例

- \* Researching the Causes of Class Breakdowns in Junior High Schools
- \* A Study of the History of the Bible in Japan
- \* How to Write a Research Paper in English

### ●ゼミテーマ・タイトル

Studying Today' s International and Local Issues

### ●内容

Students and teacher will work together to choose a number of international issues and/or local themes which are of common interest and that we will study together. The goal is to encourage speaking skills、analytical thinking、and debate.

### ●使用予定テキスト

Field of Spears: Last Mission of the Jordan Crew (2007, Paulownia Press) , ¥3000.

### ●ゼミの進め方

Students will read a short assignment before coming to class、and will have prepared two questions based on the reading. The teacher will check to see if the student has read their assignments、and ask the students further questions. The teacher may lecture on certain themes to help students better understand the subjects that are discussed.

### ●成績評価基準

Grades are based on class participation、attendance、and writing assignments.

### ●ゼミ選択上のアドバイス

This is a seminar for students to practice English. Those who have finished CEP 2 and who have studied in the American Overseas Program are encouraged to attend. The main language of the seminar is English、and students are encouraged to write their graduation papers in English. The minimum TOEIC score to participate in this class is 500.

## アレクサンドル・プラーソル

### ●教員の研究テーマ

ロシアの大学・大学院の修了後、日本語と日本文化の研究を進めてきたが来日すると、ロシア語・ロシア文化の授業を与えることになった。現在、両方とも行っていききたいと思う。最近の研究テーマは「日本教育史」である。

### ●教員の現在の関心

ロシアの上代文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。

19世紀半ばのロシア詩人チュチェフは書いた

ロシアは頭では理解できぬ 並みの尺度でははかれぬ。

ロシアだけの特別の姿がある ロシアはただ信じるのみ。

この発言の背景にあるのはなんだろうか、ということをあきらかにするなめにロシア社会のもっとも大切な時代や歴史的な出来事や人物等について研究したり考察したりしたいと思っている。

### ●これまでの卒業論文のタイトル一例

M. プルガーコフ著の「巨匠とマルガリータ」における悪魔と並みの人

M. プルガーコフ著の「巨匠とマルガリータ」における人間としてのキリストの現象

ロシア民族音楽の変遷と伝承

ロシア語と比較してみる日本のオノマトペ

日本とロシアのユーモア文化の比較

### ●ゼミテーマ・タイトル

「ロシア文化のルーツ」

### ●内容

ロシア国家の起源から現代までのロシア史を探りながら、その文化と世界観等がどう形成してきたかと突き詰めるのが主な課題である。それと同時にゼミ学生の発言力がつくようにゼミ中の論争をあくまでも励ましたいと思う。そのために全員は毎回資料の読んだ部分をプリントにまとめてみんなに配付しなければならない。よくわからなかったまたは疑問に思ったところについては、ゼミの相手に答えてもらうことと他人の疑問に答えるのは義務づけられている。

### ●使用予定テキスト

岩間徹著 ロシア史 (増補改訂版) 山川出版社 1992

藤沼孝著 ロシア - その歴史と心 第三文明社 1995

### ●ゼミの進め方

ロシア史の一番画期的、興味のある時代を選んで以上を書いてあるように授業を進めたいと思う。学生の意見を考慮にいれて教材を選ぶつもりであるが、毎回の授業は全員の積極的な参加活動を必要とする。

### ●成績評価基準

出席率、発表の内容と形、討論参加度を考慮にいれて成績評価を行う。

### ●授業選択に際してのアドバイス

人の前で自分の見解等を発表し、意見交換の形で討論の進め方と高等レベルの基礎知識を身につけたい人を歓迎する。ロシア社会史を通じて異文化の理解を深めたい人なら、だれでもいい。

松尾 瑞穂（まつお みずほ）

●教員の研究テーマ

文化人類学（特にジェンダーと医療の人類学）を専攻。南アジア、インド社会をフィールドとして、女性のリプロダクション（出産や避妊、不妊など文字通りの人と社会の「再生産」に関わること）の近代化と変容過程について研究をしている。

●教員の現在の関心

身体とテクノロジー（科学技術に限らず広義の技法）との関わりに関心を持っている。たとえば、インドにおける代理出産や体外受精がもたらす家族関係の変容、家族計画・産児制限と優生思想、科学技術とカースト間の浄・不浄観念の変容など。

●これまでの卒業研究のテーマ

●ゼミテーマ・タイトル

近代化、開発とジェンダー

●内容

このゼミでは、開発や近代化などの社会変化とジェンダーに関する近年の民族誌を講読することを通して、開発がもたらす社会・文化的影響を多角的に議論する。本ゼミは必ずしも文化人類学の予備知識を必要とはしないが、何らかの「調査」に基づいて卒業論文を執筆することを強く推奨する（そのための指導とガイダンスは行う）。なお、「文化」「ジェンダー」「近代化・開発」のいずれかひとつでも関心があれば、広く指導するつもりである。

●使用予定テキスト（これらのうちから選択）

宇田川妙子・中谷文美（2004）『ジェンダー人類学を読む―地域別・テーマ別基本文献レビュー』世界思想社。

窪田幸子（2005）『アボリジニ社会のジェンダー人類学―先住民・女性・社会変化』世界思想社。

石井洋子（2007）『開発フロンティアの民族誌―東アフリカ・灌漑計画のなかに生きる人びと』御茶の水書房。

山本昭代（2007）『メキシコ・ワステカ先住民農村のジェンダーと社会変化―フェミニスト人類学の視座』明石書店。

速水洋子（2009）『差異とつながりの民族誌―北タイ山地カレンの民族とジェンダー』世界思想社。

●ゼミの進め方

3年生前期ではジェンダー人類学に関する民族誌を全員が読み、担当者がレジュメを用意して発表、全員で議論するという形式をとる。後期では、前期同様、文献の読解を進めるとともに、各自が卒業論文で取り上げたいテーマに関する基本文献のリストを作成したうえで、もっとも重要だと思われる文献を1本選んで発表する。4年次は各自が調査研究の結果を報告し、全員で議論する。なお、夏休み（または春休み）にゼミ合宿を計画しているが、これについてはゼミ生と相談したい。

●成績評価基準

ゼミへの貢献度と発表レポートから総合的に評価する。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

日本、外国に限らず、自分で調査をして卒業論文を書いてみたいと思う人に向いている。また、社会のなかで、「自明（当たり前）」だと思われていることに疑問を抱いていたり、批判的に問い直したいと思っていたりする学生を歓迎する。あるいは、身体にもジェンダーにも関心はないが、アジアのことを知りたい！だとか、インドに興味があるという場合も大歓迎である。なお、本ゼミ生は「文化人類学」（2年次）、「社会調査」（3年次）を履修していることが望ましい。

矢口 裕子（やぐち ゆうこ）

●教員の研究テーマ

女性作家を中心としたアメリカ文学研究。フェミニスト／ジェンダー／セクシュアリティ批評。

●教員の現在の関心

ヨーロッパに生まれ、アメリカに移住した女性作家アナイス・ニンの日記研究。彼女の日記には、生前出版された全7巻のシリーズがあるが、死後「無削除版」と銘打たれたものが続々と刊行され、それ以前のイメージを裏切る新しいニン像を提出している。無削除版第1弾となる『ヘンリー&ジューン』では、作家ヘンリー・ミラー、その妻ジューンとの特異な三角関係の中で、ジェンダー／セクシュアリティの実験者としてのニンが立ち現れる。新しいジェンダー／セクシュアリティ批評の成果を使い、アナイス・ニンを「読み直す」ことが現在の関心事。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

なし

●ゼミテーマ・タイトル

フェミニスト／ジェンダー批評入門

●内容

フェミニスト／ジェンダー批評とはいったいどういうものかを理解するとともに、実際にそれを使って文学や映画、あるいは音楽を読み解き、批評の実践をすることを目指す。

最近の若者は本を読まなくなるとよく言われるが、このゼミナールでは「読む」ことを学び、かつ楽しむことをめざす。だがむろん、ただ漫然と読むのではなく、一定の批評的視点をもって読むと、作品の表面から隠れている構造が明らかになったり、作者の意図を超えた問題が浮かび上がってきたりする。そうすると「読む」ことは単に受動的行為でなく、主体的に作品に関わり、切り込んでいく作業となる。そのさい、作品を読み取る視点を与えてくれたり、切り取る道具となるのが批評理論と呼ばれるものだ。

フェミニズムには、女性の権利拡張を求める社会運動の側面と、学問的批評理論の側面があり、このふたつは切り離すべきものではない。現実の女性をめぐる状況が理論を研ぎ澄まし、また、精緻な理論的活動が運動を背後から支えてきた歴史があるからだ。

本ゼミナールでは、批評言語としてのフェミニズムに注目し、それを道具として使いこなす批評的読み手、さらにはフェミニスト批評の書き手の養成を最終的な目標とする。

●使用予定テキスト

『文学を社会学する』朝日新聞社  
『男流文学論』筑摩書房  
『もう女はやってられない』講談社  
『ヒロインは、なぜ殺されるのか』講談社プラスアルファ文庫  
『ヒロインからヒーローへ』田畑書店  
『女が読む日本近代文学』新曜社  
『男性作家を読む』  
『女というイデオロギー』南雲堂  
『どうにもとまらない歌謡曲――70年代のジェンダー』晶文社

●ゼミの進め方

レポーターとコメンテーターを学生が担当する。レポーターの仕事はテキストの要約、資料情報の提供、自分の意見を述べることである。それを受けてコメンテーターが質問・意見等を述べ、他のゼミ生の発言や参加を促す。いずれにせよ、ゼミを動かし、回していくのは学生の役割である。

●成績評価基準

レポーターとしてのゼミへの貢献、普段の発言等授業へ取り組む積極性、そして無論レポートの成果を総合的に判断する。

●ゼミ選択上のアドバイス

3年ゼミは卒論に直結する重要なものなので、自分の興味・適正を熟慮の上選択してほしい。

吉澤 文寿（よしざわ ふみとし）

●教員の研究テーマ

朝鮮現代史、とくに植民地（支配）責任をめぐる日朝関係。

●教員の現在の関心

1) 1965年に実現した日韓国交正常化に至るまでの交渉過程について、日韓双方で新たに開示された外交文書を使って再検討を試みている。2) 「植民地責任」をキーワードとして、在日朝鮮人、植民地・戦争被害者などの視点から朝鮮及び日本の現代史、ひいては世界史を理解する方法を追究している。3) 新潟のなかの朝鮮の歴史にも関心をもって史料を集めたり、歴史の現場を訪れたりしている。

●これまでの卒業研究のテーマ

2009年度吉澤ゼミの学生による卒業論文のタイトルは以下の通りである。

- ・相対性理論のもたらしたもの—科学の倫理を巡って—
- ・現代韓国における葬制の変容について—葬制の簡素化・火葬の普及からみる死生観—
- ・韓国の大学における日本語教育

●ゼミテーマ・タイトル

歴史を考える。歴史学的に考える。そして、自主的に学ぶ

●内容

歴史学の基礎を学んだ上で、各自の関心に合わせた研究を自主的に進める。地域及び言語は問わない。ただし、講読文献及び史料、フィールドワークは主に私の専門である朝鮮史をテーマとする。

●使用予定テキスト

3年前期 韓哲昊他著／三橋広夫訳『韓国近現代の歴史』明石書店、2009年

3年後期 『京城日報』

●ゼミの進め方

3年次に卒業研究のために必要な学問的基礎、技術を習得する。具体的には、前期に韓国の検定高校近現代教科書を講読し、後期に植民地期の日本語新聞を史料として講読する。この講読を通じて、自分が知らないことを調べ、自分が調べたいテーマを追究するクセを身につけてほしい。

また、可能であれば、夏期休業中に朝鮮史関連のフィールドワークを行なう予定である。

3年次の終わりから研究テーマを模索しつつ、先行研究の整理、史料の所在確認などを進め、4年次から卒業研究に本格的に専念する。その際、各自で研究計画を作成し、自主的に活動することになる。

●成績評価基準

出席、司会・報告の内容、議論への参加状況などにより評価する。無断欠席は厳禁。とくに報告担当者で無断欠席した場合は、単位を与えない。

●ゼミ選択上のアドバイス

「歴史（学）って何だろう？」「一昔前の文章を読みたい」「歴史の現場を訪れたり、当事者の話を聞いたりしてみたい」という人、一緒に学びましょう。

# システム演習

基礎演習 1  
基礎演習 2  
情報処理演習 (F, U, C, W)  
情報システム演習 1  
情報システム演習 2  
専門演習 A  
専門演習 B  
専門演習 C  
専門演習 D

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	基礎演習 1（システム）	1	前	情報システム教員
			基礎演習 2（システム）	1	後	
16年度以前	専 門	1 年	基礎演習 1（システム）	1	前	
			基礎演習 2（システム）	1	後	

必修

#### <授業目的>

特定テーマについて少人数のクラス（1クラス16名程度）による演習を通して、プレゼンテーションやディベート（討論）の能力を養う。新聞記事や広告などからテーマを見つけ、自分の解釈・意見・提案をまとめたものや、グループ内で議論した内容などを各自が発表する。なお、各クラスを教員1名が担当し、学生と教員の密接なコミュニケーションをすすめる場としても活用する。「自ら考え、自ら行動すること」を重視する。

#### <各回毎の授業内容>

プレゼンテーション、情報の収集・整理（文章表現）、ディベートの内容を含んでいる。以下の内容は演習のガイドラインを示したもので、各クラスで内容や順序が変更になったりする。

##### 【プレゼンテーション】

- |              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| 1～2. 自己紹介    | 自己紹介のポスターを作る                |
| 3～4. 映画鑑賞    | 登場人物の話を整理しポスターに内容を表現する      |
| 5～6. OHP・PPT | 手書きのOHPやPPTを作成し、内容を紹介する     |
| 7～8. 新聞記事    | 新聞記事の内容を表現し、内容を紹介する         |
| 9～10. 広告     | 広告などを文字でOHPやPPTに表現し、内容を紹介する |

##### 【情報の収集・整理（文章表現）】

- |                 |                                 |
|-----------------|---------------------------------|
| 11～12. 情報閲覧室の利用 | 情報閲覧室にある資料をもとに情報を集める方法を実習により学ぶ  |
| 13～14. 情報収集の企画  | レポートの組立て方を理解した後課題を選択し情報収集計画書を作る |
| 15～16. 情報収集     | 図書館、聞き取り、現地調査、学外研修などで情報を収集する    |
| 17～18. 文章による表現  | 収集した情報を整理し、文書としてまとめる            |

##### 【ディベート】

- |                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 19～20. 賛成反対討論  | 賛成・反対グループに分かれてグループ間で討論する |
| 21～22. 論拠を収集   | 賛成・反対グループそれぞれ論拠を集める      |
| 23～24. 論点をまとめる | 論点を整理する                  |
| 25～26. 討論の進め方  | 賛成・反対・進行の役割を分担して討論する     |
| 17～28. 意見をまとめる | 問題解決のためのフリーディスカッションを行う   |

##### 【その他】

- 29～30. キャリア開発ガイダンス、クラス独自の課題による演習を行う

#### <成績評価方法>

適宜実施するプレゼンテーション、ディベート、OHP、PPT、レポートなどに点数を付け、合計点を100点換算して評価する。

#### <教科書・参考文献>

最初の授業時に配布する。参考書：「レポートの組み立て方」 木下是雄著 ちくま学芸文庫  
「ディベート入門」 北岡俊明著 日本経済新聞社

#### <学習到達目標>

- ・人前で自分の考えを説明し、他人の考えを聞いて意見交換することができる。（約50％）
  - ・情報を収集、整理して、問題点、解決策、考察をPPTやレポートに表現できる。（約50％）
- （関連する学習・教育目標：A）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門		情報処理演習（F,U,C,W）	2	前 後	情報システム教員
16年度以前						

選択必修

#### <授業目的>

コンピュータを用いてさまざまな情報を処理する手法を学ぶ。習熟度や希望コースに対応できるように、並列して各演習を開講するので、学生は各自の目的に合わせて学習モデルを作り、履修する。開講される演習は以下の通りである。

##### 1) 情報処理演習 F

コンピュータの基本操作に慣れることを目的とし、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、HTMLなどの演習を通して、コンピュータの基本的な技術を身につける。

##### 2) 情報処理演習 U1

実社会における問題などを解くために、Excel, SQL, Visual Basicを用いてアプリケーションの高度利用技術を習得する。

##### 3) 情報処理演習 U2

情報処理演習 U1を受け、さらなるデータ処理（Excelによる統計的手法及びシミュレーション）と、データベース（Access）について学習する。

##### 4) 情報処理演習 C1

コンピュータを使用して、情報処理の問題を解決するために必要な、プログラミング技術の基本をC言語により学習する。

##### 5) 情報処理演習 C2

情報処理演習 C1を受け、より進んだC言語のプログラミング技術を学習する。

##### 6) 情報処理演習 W

コンピュータの仕組みやOSについて体験的に学習した上で、ウェブプログラミングに関して学習する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・1,2年次前期後期に各演習を2科目以上履修する（選択必修）。
- ・1,2年次生が同時に受講する。
- ・あらかじめ開講クラス数が決まっているので、履修希望人数が多いときは履修できない場合がある。
- ・前後期の最初に説明会を行い、履修希望調査を行う。

各演習の授業内容、成績評価方法、教科書・参考文献、受講に当たっての留意事項、学習到達目標は次頁以降を参照すること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1 年	情報処理演習 F	2	前	岸野、吉田、上西園
16年度以前	共 通	1 年	情報処理演習 1			

選択必修

#### <授業目的>

コンピュータの基本操作に慣れていない学生および一から学習したい学生を対象とし、コンピュータの基本操作の学習を目的とする。ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、インターネット、ウェブページ作成などの演習を通してコンピュータの活用技術を身につける。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 パスワードの登録
- 2 ウェブブラウザ、ウェブメール
- 3 ワードプロセッサ 1
- 4 ワードプロセッサ 2
- 5 ワードプロセッサ 3
- 6 ワードプロセッサ 4
- 7 表計算 1
- 8 表計算 2
- 9 表計算 3
- 10 表計算 4
- 11 表計算 5
- 12 プレゼンテーション
- 13 HTML 1
- 14 HTML 2
- 15 HTML 3

#### <成績評価方法>

適宜レポートを提出させる。演習時間の評価（40点）、レポートの評価（60点）の合計点を100点とする。

#### <教科書・参考文献>

入学時に全学生に配布される情報システムガイドを使用する。

#### <受講に当たっての留意事項>

情報センター利用規則を守ること。

#### <学習到達目標>

コンピュータの基本操作を学習することにより、仕事や生活にパソコンやインターネットを活用する力をつける。

（関連する学習・教育目標:C）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1・2	情報処理演習 U 1	2	前後	高木、槻木、山下 竹並、大野、西山
16年度以前	共 通	1 年	情報処理演習 2 - 1		後	

選択必修

#### <授業目的>

実社会における問題などを解くためにアプリケーションの高度利用技術を習得することを目的とする。アプリケーションとしてExcel、SQL、VB（Visual Basic）を使用する。Excelは基礎的な内容を理解していることを前提に、文書の作成やデータの分析など、さらに進んだ内容を扱う。SQLは情報システムとして最も使用されているデータベースを扱う言語であるが、演習では主にリレーショナルデータベースのデータ照会について学ぶ。VBはWindows用アプリケーションを簡単に作成できるプログラミング言語であるが、演習では簡単ないくつかのプログラムを作成し稼働させることにより理解を深める。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 Excel ガイダンス、伝票や文書の作成、修飾機能、表示形式、計算式
- 2 “ Excelで作るデータベース
- 3 “ データ解析型の利用
- 4 “ データの分析
- 5 Excel理解度テスト
- 6 SQL データ操作言語（DML）の利用
- 7 “ データの照会 SELECT文によるデータの取り出し
- 8 “ データの照会 FROM節、WHERE節、GROUP BY節、ORDER BY節
- 9 “ RDB（Relational DataBase）の表に対する基礎
- 10 SQL理解度テスト
- 11 VB VBについて、プログラミングの基礎
- 12 “ 計算の仕方
- 13 “ コントロールの使い方
- 14 “ グラフィックスの使い方
- 15 VB理解度テスト、全体のまとめ

#### <成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、適宜提出させたレポートと理解度テストの評価点の合計を60%として成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

必要な資料は配付する。

#### <受講に当たっての留意事項>

情報センター利用規則を守ること。

#### <学習到達目標>

アプリケーションの利用技術を学習することにより、仕事や生活にパソコンやインターネットを活用する力を習得する。

（関連する学習・教育目標：C,D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1・2	情報処理演習Ⅱ	2	前 後	高木、白井、二瀬

選択必修

#### <授業目的>

ExcelやAccessのようなアプリケーションは道具であり、目的達成のための手段である。この科目ではソフトの操作の仕方よりも、目的の方を重視して学習する。Excelを使って、統計分析やシミュレーションを学ぶ。Accessを使ってデータベースの作成を学ぶ。このような学習によって対象とする分野の理解と共にレベルの高いアプリケーションの使い方が習得できる。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 オリエンテーション 担当 二瀬
- Excelによる統計分析 担当 二瀬
  - (1)基本統計量
- 2 (2)会社が求めている人材と 売れ筋商品
- 3 (3)顧客のランキング
- 4 (4)ファミリーレストランの印象
- 5 (5)同上及びテスト
- 6 Accessによるデータベースの作成 担当 高木
  - (1)Accessの概要
  - (2)オブジェクトの作成
  - (3)リレーションシップとコンボボックス
  - (4)クロス分析とデータベースの正規化
  - (5)同上及びテスト
- 11 Excelによるシミュレーション 担当 白井
  - (1)度数分布を求める。
  - (2)一様乱数発生方法について
  - (3)ゴールシークで方程式を解く。
  - (4)最適化とソルバー
  - (5)乱数で学ぶ確率法則

#### <成績評価方法>

- ・課題及びテストの成績による。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書を配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・Excelの基礎的事項を習得していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・専門科目の中でアプリケーションがどのように使われるかを理解させるとともに、アプリケーションの高度な技能を習得させる。

(関連する学習・教育目標:C,D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1・2	情報処理演習 C 1	2	前 後	桑原、石川、中田 河原、佐藤

選択必修

#### <授業目的>

コンピュータを使用して、情報処理の問題を解決するために必要な、プログラミング技術の基本をC言語により学習する。初めてC言語を学ぶ学生を対象に、データ型、入出力処理、演算、制御構造、配列、関数といったプログラミングの基本を学習する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス及びクラス分け
- 2 C言語プログラムの基礎、プログラミング環境について
- 3 データ型、入出力
- 4 演算
- 5 制御構造（分岐 if文）
- 6 制御構造（分岐 switch文）
- 7 制御構造（反復 do文）
- 8 制御構造（反復 while文）
- 9 制御構造（反復 for文）
- 10 制御構造のまとめ
- 11 配列の基礎
- 12 配列の応用
- 13 関数の基礎
- 14 関数の応用
- 15 まとめ、理解度テスト

注）受講する学生の理解度により、講義順序、分量を調整することがある。

#### <成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、宿題レポートの評価点の合計を30%、理解度テストの評価点を30%として成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書「新版 明解C言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ 2,310円
- ・参考文献はその都度紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・情報センター利用規則を守ること。

#### <学習到達目標>

C言語プログラミングに関する基本的な知識を理解し学習することにより、簡単な問題の解析を行うことができること（演習10%・宿題10%）。プログラム作成やデバッグができるようになること（演習30%・宿題20%・テスト30%）。

（関連する学習・教育目標:C,D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1・2	情報処理演習 C 2	2	前後	石井、中田
16年度以前	共 通	2 年	情報処理演習 2 - 2		前	

選択必修

<授業目的>

コンピュータを使用して、情報処理の問題を解決するために必要な、プログラミング技術をC言語により学習する。情報処理演習C1を受けて、さらにポインタ、構造体、ファイル処理を使用したプログラミングの応用方法を学習する。

<各回毎の授業内容>

1

ガイダンス及びクラス分け

2

復習:全般

3

復習:配列について

4

復習:関数について

5

ポインタの基礎

6

ポインタと配列

7

ポインタと文字列

8

ポインタと関数

9

構造体の基礎

10

構造体の応用

11

ファイル処理の基礎

12

ファイル処理の応用

13

応用問題

14

〃

15

まとめ、理解度テスト

<成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、宿題レポートの評価点の合計を30%、理解度テストの評価点を30%として成績評価を行う。

<教科書・参考文献>

・教科書

「新版 明解C言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ 2,310円

・参考文献

はその都度紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

・情報処理演習C1を履修し、C言語の基礎について理解しておくことが望ましい。

・情報センター利用規則を守ること。

<学習到達目標>

C言語プログラミングに関する全般的な知識を理解し学習することにより、さまざまな問題の解析を行うことができ（演習10%・宿題10%）、プログラム作成やデバッグができるようになる（演習30%・宿題20%・テスト30%）。

（関連する学習・教育目標:C,D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	1・2	情報処理演習W	2	前 後	近藤、石井、河原

選択必修

#### <授業目的>

コンピュータの基本構成やネットワークについての知識を体験的に学習した上で、ウェブプログラミングに関する基礎技術を学習する。前半では、コンピュータの仕組みを理解し、OS (Linux) をインストールして使い方を理解する。次にネットワークの設定を行い、ウェブサーバを構築する。後半では、CSS、JavaScript、CGI等のウェブプログラミング技術に関する基本的な学習を行う。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス
- 2 前半1 コンピュータの仕組み
- 3 前半2 コンピュータの組立て
- 4 前半3 OSのインストール
- 5 前半4 OSの基本設定、使い方
- 6 前半5 ネットワークの設定
- 7 前半6 ウェブサーバの構築・設定
- 8 前半7 まとめ
- 9 後半1 WWWのしくみ、ウェブプログラミングの基礎、HTML
- 10 後半2 スタイルシート (CSS)
- 11 後半3 JavaScriptの基礎
- 12 後半4 JavaScriptの応用
- 13 後半5 CGIの基礎
- 14 後半6 CGIの応用
- 15 後半7まとめ

#### <成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、適宜提出させるレポートと理解度テストの評価点の合計を60%として成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

- ・必要な資料を配付する。
- ・参考文献はその都度紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・講義や演習でHTMLに関して理解しておくことが望ましい。
- ・情報センター利用規則を守ること。

#### <学習到達目標>

コンピュータやネットワーク、ウェブプログラミングに関する演習を行うことにより、コンピュータの構成とネットワーク（前半の成績評価による）、ウェブの仕組み（後半の成績評価による）について理解できるようになる。

（関連する学習・教育目標:C）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	2 年	情報システム演習1・2	2	前 後	情報システム教員
16年度以前	専 門	2 年	情報システム演習1・2			

必修

＜授業目的＞

各自が主体的に"情報システム"を創造し、または情報システムを活用し情報を創造するために必要になるであろう、基礎的な方法・概念の取得を目的とした演習です。

＜各回毎の授業内容＞

情報システム演習1と情報システム演習2をあわせると30回の演習が行われます（前期:情報システム演習1 15回／後期:情報システム演習2 15回）。前期1回目は演習ガイダンスならびにこの演習の位置づけの説明を聞きます。15回目はまとめの演習を行います。後期1回目は総合演習として各研究室の研究内容を聞き、ゼミ選択の参考となる知識を得ます。15回目はシステム演習全体のまとめを行います。このほかに前後期あわせて26回の授業が行われます。それらは以下の4つのグループに分けられます。

1) 地域社会や企業を経済的・経営的視点から捉えるための種々の方法を学ぶ。新潟・日本・世界といった地域的な広がりに着目した経済的分析と、需要予測、金利と償却、在庫管理について学ぶ（No.1～7）。

2) 数量的なデータの解析の仕方を学ぶ。自らデータ分析ができるように、また既存のデータ分析の結果を評価し、利用できる能力を身につけるための基本的なトレーニングを行う。統計学を用いて1変量・2変量・多変量の解析の仕方の一部を学ぶ。さらにORの代表的な手法の中から線形計画法、待ち行列について学ぶ（No.8～15）。

3) 企業での業務を分析し、コンピュータを利用した情報システムを設計するための一連の方法を学ぶ。コンピュータによる情報システムを設計するために業務・情報の流れを図式化し分析すること、コンピュータに入力すべき情報を確定し、入力画面を設計すること、入力された情報をデータベース化する方法を修得する（No.16～21）。

4) コンピュータの中ではどのようにして演算が行われているのかということを理解する。まず論理回路の実験を行ない、電子による演算を体験する。次にマシン語によるプログラムの作成を行ない、演算の仕組みを学ぶ。また、制御用マイコンにプログラムを書き込み、その使い方を学ぶ（No.22～26）。

＜成績評価方法＞

半期ごと、演習時課題点40点、レポート点60点の合計100点満点で成績評価を行います。

＜教科書・参考文献＞

第一回演習時に配布します。

＜受講に当たっての留意事項＞

演習ですので、演習に参加しなければ、成績評価の対象となりません。

＜学習到達目標＞

1) 情報システムを分析し、設計するためのさまざまな手法を使って、問題解決に応用できるデザイン能力を身につける。

2) 情報システムを有効に活用するための基礎的な考え方を、演習を通して身につける。

（関連する学習・教育目標:E)

No.	演習項目	演習内容
1	需要予測	モデルデータのグラフ化、数式化、数式モデルによる需要予測の考え方を学ぶ。
2	金利と償却	金利について単利・複利の概念を解説し、実際の金利計算をおこないその違いを体験する。固定資産の減価償却の概念を学び、定額法と定率法償却計算の構造を理解する。
3	新潟県の位置付け	国内統計データより、各県毎の経済指標、生活指標を比較し、全国における新潟県の位置付け、特色を理解する。新潟県の情報産業データを分析し実態を理解する。
4	日本経済の動向	日本経済の GNP・GDP、産業構造の変化、個人消費構造の変化等のマクロ経済について学ぶ。ついで、GDP の変化と個人消費構造の変化と相関分析を行う。
5	世界経済と日本	世界主要国の人口および GNP per capita を求め、貿易収支と為替レートの関係を理解する。
6	在庫管理	発注時期や発注量は、在庫の基本的な意思決定因子であり、これらが一定か変化するかにより、種々の在庫管理方式が存在する。これらについて学習する。
7	財務諸表分析	財務諸表の数値を加工することによって、成長性、利益性、採算性、安全性、生産性などを測定する。過去の会計情報を分析し、将来に生かす方法を理解する。

No.	演習項目	演習内容
8	データの分布	調査や測定によってデータが得られたならば、どのような結果が生じたかを知るために代表値を算出したり図表を作成したりする。本演習では、実際に得られたデータを用いて度数分布図や散布図等を作成する。
9	サンプリング	偶然との付き合い方を学びます。一見すると偶然は予測不能のように思えますが、違うのです。偶然だから推定できるのです。なぜ“ランダムサンプリング”しなければならないのか、そのしくみを実験を用いて、実感していただきます。さらにこのしくみを用いて、推定することを学びます。
10	統計的検定と推定	推測統計学の代表的な手法である統計的検定について学ぶ。理解すべき概念は帰無仮説と対立仮説・有意水準・ノンパラメトリック検定とパラメトリック検定などである。具体的手法として2つの平均値の差の検定（t 検定）・2つの分散の検定（F 検定）を例題により演習する。
11	集計表分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集計表の作成—Excel の使い方の復習</li> <li>・単純集計表やクロス集計表の作成（COUNTIF 関数やピボットテーブルレポート）とグラフ化</li> <li>・適合度の検定（単純集計表による検定）</li> <li>・独立性・関連性の検定（クロス集計表による検定）</li> </ul>
12	相関分析と回帰分析	2つの特性の間の関係を知るための方法として、散布図、相関係数、寄与率を理解する。ついで回帰直線を求め、回帰係数、切片、残差などを理解し、一方で実測値からもう一方の値を推定する方法を学ぶ。
13	重回帰分析	目的変数 $y$ の値をもっともよく推定、または予測するために、1組の説明変数 $x_1, x_2, x_3, \dots, x_p$ の線形結合（1次式）を求める手法である重回帰分析を理解する。
14	線形計画	線形計画は、制約条件式と目的関数が1次式の最も基本的な数理計画法である。それを理解するために、実際に小型モデルを作ってコンピュータによって解き、最適解を求める。さらに最適解の周りの情報としてシャドープライスおよび感度分析を行う。
15	待ち行列	病院や銀行での「順番待ち」の問題、道路の交通渋滞の問題、コンピュータ・システムの情報フロー処理性能問題等を扱う「待ち行列理論」を理論的解析およびシミュレーションの両面から学習する。



No.	演習項目	演習内容
16	システム構造の理解と図式表現	業務（仕事）の情報システム化を考える時には、対象とする仕事の仕組みを調査し、その仕事は何を目的とし、どのように行われているかを理解する事が必要である。仕事の仕組みを誰でもが理解できる図表で表現し、仕事の内容を分析する方法を学ぶ。
17	情報の流れの分析	仕事の内容を分析し、機能（仕事の単位）に分解したら、各機能を実行するためにどのような情報が必要かを分析する。その結果を、機能と情報の関係を表現する図である、データフローダイアグラムに書き表す方法を学ぶ。
18	入力情報の分析	仕事を実行するために必要な情報（入力情報）の内容を分析し、必要とされる情報項目を明らかにする。そして、入力情報をコンピュータにインプットするための入力画面を設計する方法を学ぶ。
19	蓄積情報の分析	入力された情報をコンピュータ内に蓄積し、必要な時に利用できるようにするために、どのような情報を蓄積するべきかを考える。蓄積するべきいろいろな情報の内容と、それらの関連を分析し、エンティティリレーションシップダイアグラムに書き表す。
20	リレーショナルデータベース	コンピュータ内に情報を蓄積するための方法として、最も一般的なテーブル形式のデータベースであるリレーショナルデータベース（関係データベース：RDB）について、その設計方法と活用方法を学ぶ。
21	SQL（データベース照会言語）	リレーショナルデータベース（RDB）に情報を蓄積し、必要な情報を的確に取り出すためのデータベース操作言語であるSQL (Structured Query Language) を実習を通して学ぶ。

No.	演習項目	演習内容
22	論理演算	ロジックトレーナーを用いて論理回路を組み、電子による演算の仕組みを知る。
23	ワンボードコンピュータ	マシン語のプログラムを作成し、コンピュータの動作の基本を理解する。
24	PICマイコンによる制御	マイコンはコンピュータの機能を圧縮したもので、自動車や家電に広く使われている。ここでは、マイコンに簡単なプログラムを書き込み、その使い方を学ぶ。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	専門演習 A	2	前	竹並、槻木、高木、桑原 石井、石川、西山
16年度以前	専 門	3 年	専門演習 A			

#### 選択必修

#### <授業目的>

「情報とシステム」を専門分野とする学生を対象とし、オブジェクト指向型の情報システム開発手順と図式記述法（UML）を学び、具体的な問題を対象にオブジェクト指向による分析、設計、及び Visual Basic 言語による実装を行うことにより、実際の問題解決をコンピュータを使って実現する方法を体得する。

#### <各回毎の授業内容>

- |   |          |
|---|----------|
| 1 演習の進め方ガイダンス   | 桑原、竹並    |
| 2 オブジェクト指向分析、設計の概念  | 竹並       |
| 3 UML の概要と要件定義（ユースケース分析）                                  | 竹並       |
| 4 動的モデリング（シナリオ分析）   | 石井       |
| 5 静的モデリング（オブジェクト分析）                                       | 石井       |
| 6 Visual Basic による例題の実装 1<br>（オブジェクト指向設計による住所録システムのプログラム） | 石川       |
| 7 Visual Basic による例題の実装 2<br>（オブジェクト指向設計による住所録システムのプログラム） | 石川       |
| 8 予約システムの分析設計 1   | 槻木       |
| 9 予約システムの分析設計 2   | 槻木       |
| 10 予約システムの実装 1（プログラム作成）                                   | 桑原、西山、高木 |
| 11 予約システムの実装 2（データベース作成）                                  | 桑原、西山、高木 |
| 12 予約システムの実装 3（実装とデバッグ）                                   | 桑原、西山、高木 |
| 13 予約システムの実装 4（システムのテスト）                                  | 桑原、西山、高木 |
| 14 成果発表と評価  | 全員       |
| 15 まとめと理解度テスト   | 桑原、西山、高木 |

#### <成績評価方法>

- ・課題レポート、実習および理解度テストで、情報システムの企画、設計、構築の方法に関する理解度を評価する。（50％）
- ・オブジェクト指向技術を実際の問題解決に応用できる力を、システム実装結果の成果発表により評価する。（50％）

#### <教科書・参考文献>

参考書：ジョセフ・シュムラー著、長瀬嘉秀監訳 「独習UML」 翔泳社 3600円  
テキスト「専門演習 A」を配布する。

#### <学習到達目標>

- ・UMLを使ったオブジェクト指向分析、設計、プログラミングの方法を理解できるようになる。（50％）
  - ・簡単な問題に対し、オブジェクト指向モデルでの開発ができるようになる。（50％）
- （関連する学習・教育目標：G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	専門演習 B	2	前	小宮山、小野、上西園 白井、二瀬、藤瀬
16年度以前	専 門	3 年	専門演習 B			

選択必修

#### <授業目的>

この授業の目的は、グループで協力し、情報システムを活用して、科学的根拠をもって「人間と社会のしくみを考慮した問題解決案」を作成する能力を身につけることです。21世紀の新しい“情報化社会”においてもっとも重要視される能力のひとつです。

根拠をもって提案するために実験・調査の方法を学びます。そして実験・調査の結果を多くの方に伝え、解決案を実現するために発表の仕方を学びます。

今年度は“ストレス”に着目し、問題解決能力を身につけます。ストレスとは何か、どのように計測できるのか、そしてそのストレスを軽減するためにはどのような解決案があるのかを考える力を養います。

#### <各回毎の授業内容>

1. ガイダンス（講義および研究内容（ストレス）に関して）
2. ストレスに関する調査研究・質問紙作成方法
3. ストレスに関する実験研究・実験計画法
4. 血圧・心拍測定の意味およびその手法
5. その他の指標を用いた実験研究の意味およびその手法
6. 演習（班ごとにテーマにあった実験データ収集方法の決定）
7. 演習（質問紙作成および調査）
8. 演習（血圧・心拍測定）
9. 演習（実験データの収集）
10. 演習（実験データの収集）
11. エクセルを用いたデータ分析方法
12. 演習（班ごとにデータ分析）
13. 統計的仮説検定
14. 演習（班ごとに検定にかけ発表資料を作成）
15. 発表会

#### <成績評価方法>

毎回の実習課題にて成績評価を行います。

#### <教科書・参考文献>

各回に配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

演習科目なので、演習に「参加」し、課題に取り組んでください。

#### <学習到達目標>

「人間と社会のしくみを考慮した問題解決案」を作成するための以下の4つの能力を身につけることを本演習の到達目標とします。

- 1) 問いを見つける構想力、2) 斬新な仮説を導き出す独創性、
- 3) 検証方法に関する応用力、4) 結論を導き出す論理的思考力

この4つの能力は相互に関連しますので、各回の課題を通して総合的に判断します。

（関連する学習・教育目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	専門演習 C	2	前	岸野、高木、竹並、 吉田・佐々木、 大野、山下
16年度以前	専 門	3 年	専門演習 C			

#### 選択必修

#### <授業目的>

本演習では、企業経営における情報システムの利活用に関する基礎的な知識の習得を目指す。具体的には、経営組織や経営戦略、経営分析、マーケティング、流通と物流などを理論的に学習し、ビジネスゲームを通じて、より実践的な意思決定能力、データ分析能力、プレゼンテーション能力を養う。さらに、シミュレーションの技法を取り入れながら、企業経営における問題を発見し、解決策を立案し、問題解決に至るプロセスを学ぶ。所属ゼミナールを基本としたチームを構成することで、コミュニケーション能力の向上も充分期待される。

#### <各回毎の授業内容>

回次	主担当	内 容
1	岸野	オリエンテーション・ビジネスゲーム説明 ビジネスゲーム（練習）Ⅰ期、Ⅱ期
2	山下	財務諸表と経営分析
3	大野	経営組織演習 ビジネスゲーム（基礎）Ⅰ期、Ⅱ期
4	大野	経営戦略演習 ビジネスゲーム（基礎）Ⅲ期、Ⅳ期
5	吉田	マーケティング演習 第1回取締役会：株主総会の資料作成
6	吉田	第1回株主総会：発表会
7	高木	市場情報利用演習 ビジネスゲーム（応用）Ⅰ期、Ⅱ期
8	岸野	流通と物流演習 ビジネスゲーム（応用）Ⅲ期、Ⅳ期
9	竹並	企業経営と情報システム演習 第2回取締役会：株主総会の資料作成
10	竹並	第2回株主総会：発表会
11	佐々木	第2回株主総会の講評、ビジネスゲームからシミュレーションへ シミュレーション概要、モデリング演習
12	佐々木	システムシミュレーション プロジェクトチーム始動：問題提起、解決策の立案
13	佐々木	システムシミュレーション シミュレーションモデルの作成、報告書の作成
14	佐々木	システムシミュレーション 発表会
15	高木	総括

#### <成績評価方法>

- ・個人の達成度（60％）：小テスト、レポート等。
- ・チームの貢献度（40％）：経営力（事業内容の統一性、意思決定の妥当性）、プレゼンテーション能力（発表の分かりやすさ、質疑の対応の仕方）等。必ず出席し、レポートを提出することが重要。欠席、遅刻は減点する。

#### <教科書・参考文献>

- ・資料等は各担当教員が必要に応じて配布する。

#### <学習到達目標>

- ・理論を通じて、企業経営に関わる基礎的な知識を習得することができる（個人の達成度として60点の配点）。
- ・ビジネスゲームを通じて、企業経営における意思決定能力、データ分析能力、プレゼンテーション能力を養うことができる（チームの達成度として25点の配点）。
- ・シミュレーションを通じて、企業経営における問題発見、問題解決のプロセスを理解することができる（チームの達成度として15点の配点）。

（関連する学習・教育目標：I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
17年度以降	専 門	3 年	専門演習D	2	前	槻木、近藤、石井 石川、小野、中田
16年度以前	専 門	3 年	専門演習D			

選択必修

#### <授業目的>

情報システムを開発するために必要なコンピュータと通信技術について、演習を通して具体的に学習する。自由にプログラムを開発できるようになるために、まずOSの機能と操作を学び、次に実際に稼動する応用プログラムを作成する。通信技術については、ネットワークを実際に構築することによって、インターネットの仕組みを理解する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 OSの機能と操作・・・シェルの役割とプロセス制御
  - 2 OSの機能と操作・・・ファイルシステムとセキュリティ
  - 3 OSの機能と操作・・・正規表現、リダイレクション、パイプ
  - 4 シェルプログラミング・・・利用環境の設定とシェルスクリプト
  - 5 画像処理プログラミング・・・画像処理ソフトの活用方法
  - 6 画像処理プログラミング・・・濃淡画像処理とヒストグラム
  - 7 画像処理プログラミング・・・カラー画像処理
  - 8 Lispによるエキスパートシステム・・・基本設計とルール記述
  - 9 Lispによるエキスパートシステム・・・プロダクションシステムの作成
  - 10 計算機アルゴリズム・・・8クイーン問題プログラムの作成
  - 11 計算機アルゴリズム・・・最短経路問題プログラムの作成
  - 12 ネットワークおよびweb、mailサーバ構築実習・・・サーバとクライアントシステムの設定
  - 13 ネットワークおよびweb、mailサーバ構築実習・・・ネットワーク環境設定と接続テスト
  - 14 電子回路の製作・・・発光ダイオードを用いた光通信回路の組み立て
  - 15 まとめ
- 1～4の対象OSはUNIX (Linux)、5～7と10～11で使用する言語はC言語である。

#### <成績評価方法>

- ・毎回、時間内での演習課題の評価点50%、宿題レポート点50%として成績評価する。

#### <教科書・参考文献>

- ・演習テキストを配布する。
- ・参考文献は必要な都度紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・UNIXのコマンド、C言語やLispの文法、ネットワーク設定など演習中に理解不足と感じたら、指導教員に質問する、自ら進んで調べるなど積極的で自立的な学習態度が不可欠である。

#### <学習到達目標>

- ・情報システムを構成するコンピュータ技術とネットワーク技術を演習を通して体得し、情報システム開発に必要な技術的基盤を構築できる力と、実際の問題解決に応用できる力を育成する。
- (関連する学習・教育目標:J)

# システム卒業研究

卒業研究 1  
卒業研究 2  
卒業研究 3  
卒業論文

## 卒業研究（ゼミナール）の所属について

### 1. 専門分野と卒業研究（ゼミナール）指導教員

情報システム学科では、卒業論文の提出が必修として課されており、3年次より専門領域の学習・研究に着手することになります。学生諸君は、以下に示されたA～Dの4分野から研究対象としたい分野を選択し、さらにその分野に属する研究室の中から1つを卒業研究の配属先として選択します。なお、一度決定した分野および研究室は、原則として変更することができません。

分野	A 情報とシステム	B 人間と社会	C 経営と組織	D コンピュータと通信
研究室	石井忠夫※	小野陽子※	大野富彦	石井忠夫※
	石川 洋※	上西園武良	岸野清孝※	石川 洋※
	岸野清孝※	小宮山智志	佐々木桐子	小野陽子※
	桑原 悟	白井健二	高木義和※	河原和好
	高木義和※	二瀬由理	竹並輝之※	近藤 進
	竹並輝之※	藤瀬武彦	山下 功	槻木公一※
	槻木公一※	山口直人	吉田 博	中田豊久
	西山 茂			
数	8 研究室	7 研究室	7 研究室	7 研究室

分野と研究室を切り離して選択することはできません。希望する分野に属する研究室を選択する必要があります。例えば、A 分野（情報とシステム）を研究対象として希望しながら小野陽子研究室（B 分野）を選択することはできません。

※印のついた研究室は複数の分野に対応します。これらの研究室へ出願する場合は、志望する分野を確定しておく必要があります。所属決定後に分野を変更することはできません。例えば「A 分野の石井忠夫研究室」に所属した学生が後になって「D 分野の石井忠夫研究室」に変更することはできません。

### 2. 研究室の定員

各研究室の定員は9名を予定しています（ただし、状況によって変更になる場合があります）。

複数の分野にまたがる研究室（上表で※マークが付されている研究室）の定員は、分野毎の定員ではなくトータルで9名です。

志願者数が研究室の定員を超えた場合は、教員が採否を決定します。卒業研究は必修科目ですから、残念ながら選から漏れた学生は他の研究室を選択しなければなりません。

### 3. 選考方法

選考は原則として書類審査で行います。卒業研究選択説明会（2010年9月～10月に実施予定）にて配付する選考志願書に必要事項および志望理由を記入の上、期限までに提出してください。

各研究室の研究概要や研究計画は、本冊子の以降の頁に掲載されています。また、本学 HP の卒業論文データベース（<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/soturon/>）では卒業生の論文検索が可能です。また、関心のある研究室へは志願書を提出する前に必ず訪問し、自らの目指す方向性（研究内容など）と合致しているかを確認するようにしてください。





## 【石井研究室】 Aコース Dコース

### <授業目的>

世の中のいろんな物事について論理的思考の立場から、その振舞いや特性を記号論理学的手法を用いてモデル化する。  
また、このモデル化の正しさの検証を論理的またはプログラムの実現により確認する。

### <授業内容>

卒業研究1：卒業研究を進める上での基礎科目を輪講形式で学習する。

- (1) 記号論理学の基礎
- (2) プログラミングの基礎

また、各自の研究テーマを1月までに決定する。

卒業研究2：各自のテーマに沿って卒業研究に着手する。研究の流れは次の通り。

- (1) 研究の計画書を作成する。
- (2) 基礎調査および参考文献の調査と収集をする。
- (3) 研究の背景を纏め、目標を設定する。
- (4) 簡単な目標から順次に着手する。
- (5) 得られた結果を評価する。
- (6) 考察を加える。

卒業研究2では、上の(1)～(4)までを進めるが、その結果を順次に纏めて発表し議論する。また、9月に中間の成果報告会を行う。

卒業研究3：卒業研究2の流れの残り(5)と(6)に取り組み、卒業論文に仕上げる。

卒業研究3では自分の結果を評価し、また、考察を加えて研究を完了する。その内容について議論する。

### <成績評価>

- (1) 卒業研究1は、輪講担当の発表が50点／レポートが50点の100点満点で評価する。
  - (2) 卒業研究2は、途中結果の発表内容が40点／研究テーマの調査・検討結果が60点の100点満点で評価する。
  - (3) 卒業研究3は、自分の成果の発表内容が30点／研究テーマの成果が70点の100点満点で評価する。
- 尚、卒業研究1・2・3は独立に評価する。

### <学習到達目標>

自分で新しいテーマ（問題）を認識すると共に、その解決のために論理学または関連科目を習得し、対象をモデル化して自ら問題の解決を図る能力を養う。

(関連する学習・教育目標：F)

### <教科書>

・小野 寛晰著：情報科学における論理（日本評論社、1994年）3,300円

### <留意事項>

- (1) 予備知識は特に必要ないが、真剣に取り組める人を歓迎する。
- (2) 研究を進める上でプログラムの作成が必要となることがある。(Ruby言語など)

## 【石川研究室】 Aコース Dコース

### <授業目的>

情報技術者にとって必須である、ソフトウェア工学またはネットワーク技術に関連した分野から各自が興味のあるテーマを設定し、研究、開発、環境整備などを行う。その成果を論文としてまとめ、発表する。研究過程で必要になる情報、技術、環境については輪講、実習、各自の調査などで習得し、レジメを作成して発表する。

研究を通して、問題設定、問題解決、知識共有、知識伝達などの能力を養うことを目的とする。

### <授業内容>

限定はしないが、以下のようなキーワードに関連するテーマ設定を想定している。

#### Aコース

- ・ソフトウェア工学関連（Java、開発環境、オブジェクト指向、リファクタリングなど）
- ・形式仕様記述関連（モデルチェッキングツールによる検証作業など）

#### Dコース

- ・ネットワーク関連（サーバ設定、ネットワークプログラミング（サーバ・クライアント、サーバサイドなど））

### ◎卒業研究1

- ・卒業研究に必要な基礎知識の獲得（輪講、実習）  
Java 言語の習得、Linux のインストールやサーバの設定など
- ・卒業研究テーマの決定

### ◎卒業研究2

- ・卒業研究テーマに関するゼミ
- ・中間発表

### ◎卒業研究3

- ・卒業研究テーマに関するゼミ
- ・論文執筆、成果発表

### <成績評価>

◎卒業研究1：課題への取り組み方、輪講での発表内容、実習での到達度などを総合的に評価する。

◎卒業研究2：課題への取り組み方、ゼミでの発表内容、中間発表の内容などを総合的に評価する。

◎卒業研究3：課題への取り組み方、ゼミでの発表内容などを総合的に評価する。

◎卒業論文（成果物）：テーマ設定の具体性、完成度や達成度、有用性などにより総合的に評価する。

◎卒業論文（発表）：発表内容の正確さ、内容のわかりやすさ、質疑応答での対応などにより総合的に評価する。

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し計画を立てる、情報を集めて考察または製作する、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育目標：F）

### <教科書・参考文献>

- ・教科書  
卒業研究1：Java 言語の入門書、Linux 関連書籍（相談の上決定する）  
卒業研究2、卒業研究3：随時指定する。
- ・参考文献  
随時紹介する。

### <留意事項>

- ・情報やネットワークの資格取得（取得済みの場合はさらに上位資格）をめざす意欲的な人を歓迎する。

（関連する学習・教育目標：F）

## 【大野研究室】 Cコース

### <目的と研究対象分野>

経営学分野、特に、戦略論、組織論を中心に研究し、研究成果を卒業論文にまとめあげることが目的とします。本研究室では、経営学理論の習得を前提に、それに事例を取り入れていきます。理論は現実世界を説明するための分析枠組みです。理論そのものは、今後、実社会で活動するうえで即役立つといった保証はありません。しかし、理論をもとに自ら考え他の者と議論する時間を持つことで（つまり、ゼミ活動）、ものごとのあり様を「把握する力」、「様々に解釈する力」、そして「意思決定する力」を養うことができます。これが理論を重視する理由です。理論的な人間になって欲しいというのではなく、理論を通じて以上のような力を高めて、それを実社会に活かして欲しいということです。

理論の習得と並行して、研究方法についての講義および課題を行っていく予定です。その後、各自に研究テーマを選定してもらい、分析・調査などを通じて卒業論文を作成してもらいます。

### <研究内容>

#### ① 卒業研究1（3年後期）

- ・経営学関連の文献（経営学者による経営学の本）の輪読と事例を行っていきます。
- ・研究方法についての講義などを通じてその理解を深めていきます。
- ・卒業論文のテーマを決めます。

〔評価〕出席状況、レジュメ内容、ゼミ内の発言、課題（最低1回あります）などをもとに評価します。

〔留意事項〕卒業研究1は、輪読を中心に行い、それを補足するかたちで事例を行っていきます。進捗をみながら研究方法へと進めていく予定です。また、テーマの選定は一般論として時間がかかると思います。テーマ選定で相談したい人はゼミ以外の時間でも受け付けます。

〔目標〕卒業論文のテーマを決める。

#### ② 卒業研究2（4年前期）

- ・経営学関連の文献（経営者による経営学の本）の輪読と事例を行っていきます。
- ・各自、研究計画書を作成し、発表してもらいます。
- ・研究計画にもとづき、各自、研究を進めていきます。

〔評価〕レジュメ内容、卒業論文の進捗具合をもとに評価します。

〔留意事項〕卒業研究2からは、卒業論文に対する準備・作成への比重が高くなります。

〔目標〕論文のアウトライン（案）ができていること。研究の進捗について教員の確認を受ける（進捗によって夏休にやるべきことが各自で異なってきます）。

#### ③ 卒業研究3（4年後期）

- ・卒業論文のアウトラインおよび内容について、個別に指導していきます。
- ・卒業論文発表会を行います。

〔評価〕卒業論文の取り組み具合、卒業論文の内容によって評価します。

〔留意事項〕アウトラインを膨らませた内容を教員が確認します。論理的な構造になっていなければ執筆には進めません。

〔目標〕卒業論文を完成させる。

### <ゼミ活動についての留意事項>

- ・本研究室では、経営についての様々な現象に関心を持っている人、自分なりの考えを持ち他のゼミ生や教員と積極的に議論したいという人を歓迎します。
- ・ゼミに出席できない時は、教員に事前に連絡をしてください。
- ・研究内容は、場合によって変更する場合があります。
- ・ゼミ飲み会やゼミ合宿などのイベントはゼミ生の希望に応じて考えます。ゼミ生が主体となって積極的に提案してください。ただし、参加は強制ではなく、任意とします。
- ・研究室訪問では、質問を用意してきてください。教員が質問にこたえるかたちをとります。

### <学習到達目標>

自主的、計画的に情報を集め考察し、自らの見解を加えて論文を作成し、発表する力を養うことができる。

（関連する学習・教育目標：F）

## 【小野研究室】 Bコース Dコース

### <授業目的>

数式とコンピュータを道具として用いることで、「何か新しいもの・嬉しいと思えるもの」を作ることを対象とし研究する。嬉しいものの例としては、社会的有用性が得られるもの、もしくは、数学的美しさといった即時に役立つわけではないが物事の基盤となる理論構築などが挙げられる。ものを作るということは、代数の自動証明システム構築といった特定のシステム作成だけでなく、データ解析から理論整備までの統計学に関する研究も含むものとする。また、作成するだけでなく、客観的な評価尺度として数学的要素を導入し自らの成果に対し評価する。これらの基礎には、統計学を含む情報学と数学の一部を利用する。

### <各回毎の授業内容>

卒業研究1：研究テーマの基礎・周辺知識獲得

- ・研究テーマ検討
- ・基礎・関連知識習得
- ・基礎分野（統計手法、微積分、数理統計学など）の書籍を読み、要約を作成
- ・プレゼンテーションのまとめ方・論文の書き方習得

卒業研究2：研究着手

- ・研究テーマ決定
- ・既存研究の調査
- ・研究調査・分析もしくは構築
- ・研究進捗状況に関するゼミ発表（結果・過程）
- ・研究の概要と進捗に関する期末報告

卒業研究3：研究成果のまとめと発表

- ・研究に関するゼミ発表
- ・卒業論文要旨ならびに卒業論文提出

### <成績評価方法>

講義時間内での研究に関する発表、提出資料を基に評価する（100%）。

### <学習到達目標>

- ・テーマを自ら設定し、その研究を行う意義、研究の位置づけを明確にすることができること（50%）
  - ・適切なプレゼンテーション資料作成と発表ができること（30%）
  - ・問題解決のための手法・情報を入手し咀嚼することで、種々の課題に取りくむことができること（20%）
- （関連する学習・教育目標：F）

## 【上西園研究室】 Bコース

### <授業目的>

当研究室では、私たちの生活の中で<使いづらい>や<快適に使えない>と感じられる「モノやシステム」を取り上げ、どうすれば改良(=人の特性により合っている)できるかを人間工学の手法を使って研究する。研究の方法としては、実際に実験や調査を行ってデータ収集を行い、そのデータに基づいて研究を行う。さらに、各人の研究を通じて、全ての生産的な活動の基本である「PDCA (Plan, Do, Check, Action) の回し方」を徹底的に指導する。

### <授業内容>

卒業研究1：研究テーマの基礎・周辺知識の獲得

- ・研究テーマ検討
- ・基礎、関連知識の習得
- ・プレゼンテーションのまとめ方、論文の書き方の習得

卒業研究2：研究着手

- ・研究テーマ、研究目標、進め方の決定
- ・既存研究の調査
- ・実験・調査の実施、結果の解析
- ・中間発表

卒業研究3：研究成果のまとめ

- ・卒業論文の作成、発表

### <成績評価方法>

研究に関する発表、提出資料を基に評価する(100%)。

### <学習到達目標>

- ・課題発掘能力の獲得：自らテーマを設定し、「その研究を行う意義」と「研究の位置付け」を明確にすることができる。
- ・課題解決能力の獲得：自らの課題解決に当たり、「必要な情報入手」や「適切な手法(実験方法、調査方法など)の入手・実行」を通じて、問題解決が行える。
- ・コミュニケーション能力の獲得：わかりやすい資料で、適切なプレゼンテーションが行える。

(関連学習・教育目的：F)

## 【河原研究室】 Dコース

### <授業目的>

「画像」などの情報を「処理」「作成」するシステムについて研究する。人間がさまざまな情報を得るときには、主に目を使用している。このとき、目から得られる情報が「画像」となる。研究テーマは主に「画像」を加工する「画像処理」と、画像を作成する「画像作成」に分かれる。「画像処理」は画像を見やすくしたり、特定の情報を取り出したりする研究で、「画像作成」はグラフィックスに関する研究となる。また、これらを総合的に用いる「ウェブ」や「ロボット」に関する研究や、また、「画像」の次に人間が情報を得るときに使用する「音」に関する研究も行っている。

### <授業内容>

#### ◎卒業研究1

- ・卒業研究に必要な基礎知識を取得するための基礎ゼミ
  - ・画像処理、画像作成に関する演習
  - ・プログラミングに関する演習
  - ・ネットワーク、ウェブ技術に関する演習
  - ・ロボットに関する演習
- ・卒業研究テーマの決定
  - ・興味を持った分野に関する調査と報告
  - ・研究計画の作成とテーマ発表（プレゼンテーション及びレポート提出）
- ・就職活動に関する学習
  - ・4年ゼミ生との就職に関する懇談会、履歴書作成、演習問題

#### ◎卒業研究2

- ・卒業研究テーマに関するゼミ
  - ・進捗状況の報告と内容に関する意見交換
  - ・プログラム作成及び、参考文献や資料の調査
  - ・成果発表会（プレゼンテーション及びレポート提出）

#### ◎卒業研究3

- ・卒業研究テーマに関するゼミ
  - ・進捗状況の報告と内容に関する意見交換
  - ・プログラム作成及び、参考文献や資料の調査
  - ・成果発表会（プレゼンテーション及びレポート提出）
  - ・大学祭における成果展示
- ・研究結果の取りまとめ
  - ・卒業論文作成
  - ・卒業研究発表会のプレゼンテーション準備

### <成績評価>

卒業研究1は、基礎ゼミの参加姿勢、卒業研究テーマ発表会の内容と提出レポートの内容、就職活動に関する学習の参加姿勢により評価する。卒業研究2は、ゼミへの参加姿勢と成果発表会の内容と提出レポートの内容により評価する。卒業研究3は、ゼミへの参加姿勢、成果発表会の内容と提出レポートの内容、成果の展示内容により評価する。

卒業論文（成果物）は、新規性、独創性、妥当性、有用性の観点から評価する。卒業論文（発表）は、発表内容の正確さ、分かりやすさ、質問に対する回答の的確性により評価する。

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し計画を立てる、情報を集めて考察または製作する、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育目標：F）

## 【岸野研究室】 Aコース Cコース

### <授業目的>

複雑化・高度化した社会では、個人の経験や感覚だけで企業活動をコントロールすることは不可能となってきた。とくに、経済の国際化、消費者ニーズの多様化、生産技術の革新など急ピッチで変化する経営環境に対処するためには、経営を科学的に分析することにより、経営システムの課題を解決していく必要がある。

経営システムを学ぶことを通じて、時代とともに激しく変化する経営環境を多角的に分析し、問題をスムーズに解決できる基本的能力を培うことを授業目的とする。

具体的には以下の手順を進める。

- ① 企業の経営システム（経営戦略、マーケティング戦略、生産・流通・物流など）について、さまざまな企業のケーススタディを行いながら、経営に関する分析手法を身につける。
- ② 経営に関する分析手法を応用して、実際の業界・企業・製品・サービスについて分析し、課題や仮説を見つける。
- ③ 経営に関する分析手法により評価・検証を行い、解決策（新しい経営戦略、生産・流通・物流戦略、サービス、ビジネスモデル、コンピュータシステムなどの提案）を考える。

経営に関する分析手法としては、経営戦略・マーケティング分析、経営指標・生産性分析、定量的な分析（アンケートによる分析手法、スコアカードによる評価手法）、定性的な分析（RAカードによる問題構造化手法）などを用いる。

### <授業内容>

卒業研究1：経営に関する分析手法の習得、ケーススタディの実施、研究テーマ選定

・経営戦略・マーケティング分析に関するテキストの輪講、演習

使用テキスト「図解 わかる MBA」

・経営戦略・マーケティング分析手法の適用演習

・製造・流通分野におけるケーススタディによる問題点、解決方法の提案演習

・定量的な分析、定性的な分析に関するテキストの輪講

使用テキスト「卒業論文の作り方～複合領域分野における経営学研究の進め方」

・卒研テーマと研究の進め方を検討し、研究計画の作成と発表を行う。

卒業研究2：経営に関する分析手法の適用による研究活動

・各自の研究テーマに関する進捗状況の報告と内容に関する討議

・各自の研究テーマに関する先行事例・参考文献・資料の紹介と調査

・経営に関する分析手法の適用により自分独自の課題を明確にする。

・解決策（仮説）を構想し、データ収集などにより検証する。

・各自の研究上の課題と解決策の検討、研究会での報告の準備について個別に指導する。

卒業研究3：研究結果のまとめ

・研究の進捗状況の報告、途中結果の発表および内容に関して、個別に指導する。

・研究のまとめ段階では、卒業論文作成・PPT作成において、構成、内容、文章表現などについて個別に指導する。

### <成績評価>

自主的、継続的に学習できる能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力について卒業論文の作成過程、卒業論文の内容、卒業論文発表会の発表を総合して評価する。

- (1) 卒業研究1, 2, 3は、①日常の研究態度と研究への取り組み姿勢、②研究会における討論への参加態度、③報告・発表の出来具合により評価する。
- (2) 卒業論文（成果物）は、①問題設定の具体性、②論理の一貫性、③解決策の工夫・創造的なアイデア、④検証・評価の説得性、客観性、有用性などにより評価する。
- (3) 卒業論文（発表）は、①発表の起承転結の構成、②スライドの表現・解りやすさ、③発表の技術・態度、④質問への回答の的確性などにより評価する。

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育目標：F）

## 【桑原研究室】 Aコース

### <授業目的>

卒業研究の対象と範囲は次のとおりです。

研究対象：教育、産業（農業、工業、商業ほか）、地域（新潟県など）などに関係する情報システム

実施範囲：アプリケーションシステムの設計、作成（プログラミング）及び評価

注）上流の構想及び概要設計など、Cコースに近い内容は、研究室決定前の面談で学生から相談があり、教員が適当と判断した場合に限り、これを認めます。

その場合でも、学生は、Aコースの専門演習を受講します。

学生は、各自の研究の成果を記述、発表します。また、そのことを通じ、論理的な思考と考察を行い、情報システムの存在意義と位置付けについて理解し、自ら創造する或いは、自ら分析、考察し、妥当な成果を挙げることを体験します。

### <授業内容と成績評価>

#### 卒業研究 1

4年生からの本格的卒業研究、論文作成のための準備と位置付け、コミュニケーション技術を含み、一般的事項及び各人の研究テーマに個別に必要な事項について演習を行います。

専門演習の内容は理解している（単位を取得している）ものとして、指導、評価します。

成績は、各演習の成果の合計（満点100点）とします。

#### 卒業研究 2

卒業論文のための調査、設計、作成及び、それらに関する発表、中間報告の作成などを行います。

成績は、発表と中間報告（満点50点）及び研究テーマに関連する成果物（満点50点）とし、その合計（満点100点）とします。欠席、遅刻があるときは減点します。詳細は、初回授業時に伝えます。

PC設備と指導の都合上、5回程度の授業を中央キャンパスで行う予定です。また、卒論作成作業日誌の作成とその内容の妥当性及び提出が必須です。

#### 卒業研究 3

卒業論文作成のための追調査、実証、システムの改善、最終調整、評価の作業を行います。また、成果発表コンテンツの作成も行います。

成績は、成果物（満点80点）と中間発表を含む成果発表（満点20点）とし、その合計（満点100点）とします。PC設備と指導の都合上、5回程度の授業を中央キャンパスで行う予定です。また、卒論作成作業日誌の作成とその内容の妥当性及び提出が必須です。

#### 卒業論文

自分の研究を“論文”にします。また、当然ですが、それに関連する必要事項も行います。

論文に必要な要素は次のとおりです。

- ・構成の妥当性、記述の論理性
- ・結論の妥当性、有用性、新規性／独創性（学士論文のレベルを満たすこと）
- ・正しい書式、表現、表記、用語使用及び、文章としての完成度

※）これらに加え、情報システム学科の定める基準を満たすことが必要です。

成績は、卒業論文を、上の各要素に関して評価し、その作成過程も考慮して採点（満点100点）します。

### <学習到達目標>

妥当な課題を設定し、解決のために構想し、具体的計画を立て、情報収集及び準備を行い、創造又は分析し、妥当な成果又は結論を得る能力及び、それを記述し発表する能力を身に付けることを目標とします。

（関連する学習・教育目標：F）

### <その他>

基礎自由科目「数学リテラシー」を履修するよう指導された学生は、これを修得していることが望めます。

当研究室の希望者が定員を超えた場合は、面談などで適性をみて選抜します。



## 【小宮山研究室】 Bコース

### <授業目的>

人々の行動や考え方を“人と人との関係(社会)”に着目して“研究”することを目的とします。

「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する(=研究する)能力を身につけるところです。統計パッケージやデータベース等の情報システムを利用して研究を行います。2005年度の卒業論文から例を2つ紹介します。

例1：映画満足度の研究：現在、web上で、映画推奨サイトがあるが、主にユーザーの購入履歴や、ウォッチリストなどを利用している。しかし映画では、満足する要因の一つにその人の性格が大きく関係していると思われる。そこでこの研究では、楽観主義、悲観主義の人に着目し、気分が高揚しているときと、沈んでいるときについて研究をした。調査の方法は、対象者を新潟国際情報大学に在学している学生にし、アンケートによる調査を行った。

さまざまな仮説を比較検討した結果、気分が下降している時は、楽観主義の人ほど暗い映画で満足し、悲観主義の人ほど明るい映画で満足するということが明らかになった。この結果から、性格判断を取り入れた推奨システムを提案した。

例2：新規スノーボーダーの開拓：「なぜ、若年層の女性はスノーボードを始めたいと思っているのに始めないのか？」という問いのもと調査、分析を行った。人間関係要因、経済要因、身体要因の3つの要因から仮説の構築を試みた。調査は新潟市内の女子学生(2大学を調査)を対象にし、経験者、未経験者では普段の生活、友人関係等に相違はあるのか、また経験者はどのような契機でスノーボードを開始したか、未経験者の中でどのような人がスノーボードを行うことを希望しているか等に関して、自記式アンケート調査を実施した。分析の結果、男性指導者説と友人話影響仮説の人間関係要因の仮説が採択された。

この結果から、スノーボード開始希望の若年層の女性は、周囲にスノーボード経験者の男性が多いことと、スノーボードに関する楽しい話を聞くことによりスノーボードを始めることが分かった。経済的要因や身体的要因はスノーボードの関心に影響を与えないことが明らかになった。そこでスポーツ経験者に限らず、広く若年層女性を集めるイベント行いスノーボーダーと知り合う機会を設けることで、潜在需要を掘り越すことができると結論付けた。

どちらの研究も、自分の関心のあることについて、研究を検索するデータベースを用い、いままでの研究がどこまで進んでいるのか、何がまだ足りないのかを探し出し(問題の発見)ています。そして探し出した問い(映画の満足要因は何か、なぜ、若年層の女性はスノーボードを始めたいと思っているのに始めないのか)の原因について複数の推理(仮説)を考えて情報システムを利用し検証しています。そして得られた結果に基づき、企画・対策を提案しています。

### <授業内容>

卒業研究1：研究計画と履歴書の自己紹介文を執筆します。就職活動が本格化する3年次の2月までに終わらせておく必要があります。また研究計画・自己紹介文の執筆は論理的な文章を書く大変良い練習です。二つの課題を作成するために図書館・データベースの利用法・研究方法の習得、面接の練習を行います。卒業研究1～3までグループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。研究計画書が完成していると、研究のための総量が把握できているため、安心して就職活動ができます。さらに可能なところは論文を執筆します。就職活動も、卒業論文もはじめての長いスパンで成果をあげる作業でしょう。着実に進めることで不安を取り除き、実力を発揮できるようにします。

卒業研究2：必要な文献を読み進め、執筆を進めます。また検証のための計画・準備を終わらせます。8月末日まで、草稿を完成させ、分析結果を書き足せばよい状態にします(8月は就職活動があまりできない月です。ここで卒論を進めておきます。公務員試験受験者は試験日に応じて締め切りを変更します)。

卒業研究3：調査・分析等を行います。またお互いの草稿をテーマに、グループワークを行い、卒業研究を完成させます。また発表会の練習をとおしてプレゼンテーション能力を高めます。

### <成績評価方法>

卒業研究1は研究計画書・草稿(一部)と自己紹介文、卒業研究2は草稿、卒業研究3は卒業論文と発表会によって評価します。

### <達成目標>

情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。また自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。

### <教科書・参考文献>

研究テーマに応じて、各自が探します。

### <受講に当たっての留意事項>

- ・詳細はホームページ(<http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/>)で公開します。必ず参照してください。
- ・2年生の春休みにサブゼミ(1日程度)を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせます。
- ・2年次・3年次の卒業研究発表会には必ず出席してください。ゴールを理解することはたいへん重要です。
- ・無断欠席は認めません。欠席の場合、可及的速やかに連絡してください。

(関連する学習・教育目標：F)

## 【近藤研究室】 Dコース

### <授業目的>

近藤研究室では、通信、光に関係した分野について研究する。テーマを自分で見だし、論文としてまとめる。内容については必ずしも最先端の技術や研究にこだわらない。独自の新しい発想・工夫を展開して自主的に問題を解決することを目的とする。

### <授業内容>

#### 卒業研究1

研究するテーマを探索するために、輪講形式で、通信・光に関する基礎的な勉強を行う。また、無線レシーバ、スペクトルアナライザ、分光器等、機器の基本的な使用法を修得する。さらに、どのようにこれらの技術が実際に使われているかを知るため、工場見学等を行う。

#### 卒業研究2・卒業研究3

テーマを決め、それぞれの研究テーマを推進する。

研究テーマを推進する中から、問題点を見だし、どのように展開し解決するかについて学ぶ。

研究の進め方は、内容によりゼミ形式、小グループ、個別に指導する。

研究に付随する実験については、限られた資源（設備や測定器）をいかにして有効に使うか、研究生独自の発想や工夫を求める。

これらの実験や調査をふまえて、論文をまとめる。

4月にテーマ企画発表会を行う。

9月に中間発表会を行う。

### <成績評価方法>

- ・成績の評価は、論文の内容とともに、その過程を重視する。
- ・日常の研究への取り組み。
- ・テーマに関する議論。
- ・問題解決への自主的な工夫・創造的なアイデア。

### <教科書・参考文献>

- ・教科書 通信全体、移動通信、光ファイバー通信に関する文献（本）を開始に合わせて指定する。
- ・上記の文献や過年度の卒業論文を取りかかりとして、研究生自ら探索する。

### <受講に当たっての留意事項>

- ・テーマによっては長時間を要するもの、特別の気候、時間帯を必要とするものもあり、休業中や休日でも研究を行う場合がある。

### <学習到達目標>

・独自のあたらしい発想工夫により問題解決ができる。自らの問題について、論文をまとめ、発表することができる。  
(関連する学習・教育目標：F)

## 【佐々木研究室】 Cコース

### <授業目的>

様々なシステムをモデル化したり分析したりする手法を習得し、現実のシステムへの応用を目指す。具体的には、SIMAN/Arena シミュレーション言語を用い、各自興味のあるシステム（生産システム、物流システム、道路交通システム、病院システム、銀行業務システム、など）を対象に、データ収集、モデル化、分析を行い、卒業論文をまとめる。

### 卒業研究 1

#### <学習到達目標>

SIMAN/Arena シミュレーション言語の習得。

#### <授業内容>

1. ガイダンス
2. シミュレーションの概念
3. Arena 演習 (A T Mモデル①)
4. Arena 演習 (A T Mモデル②)
5. Arena 演習 (レジモデル①)
6. Arena 演習 (レジモデル②)
7. 発表会
8. Arena 演習 (道路交通モデル①)
9. Arena 演習 (道路交通モデル②)
10. Arena 演習 (道路交通モデル③)
11. Arena 演習 (道路交通モデル④)
12. 発表会
13. 現実のシステムへの応用①
14. 現実のシステムへの応用②
15. 各自研究テーマの決定、発表

#### <成績評価>

取組み姿勢、成果物（各モデル）、発表会等を総合的に評価する。

#### <受講に当たっての留意事項>

春休み期間中もゼミは継続して行う。期間中、上記内容以外にも就職関連の指導あり。

### 卒業研究 2

#### <学習到達目標>

研究対象分野に関する情報、および研究対象システムのモデル化に必要なデータの収集。

#### <授業内容>

- ・研究対象分野に関する文献の収集。
- ・研究対象システムに関するデータ収集。
- ・研究対象システムに関する調査。
- ・論文の執筆。
- ・月例発表会を実施。

#### <成績評価>

取組み姿勢、成果物（データ、論文等）、月例発表会等を総合的に評価する。

#### <受講に当たっての留意事項>

夏休み期間中もゼミは継続して行う。期間中、中間発表、合宿も実施する。

### 卒業研究 3

#### <学習到達目標>

研究対象システムのモデル化、分析を行い、卒業研究論文をまとめ、卒業研究発表会にて報告をする。

#### <授業内容>

- ・研究対象システムのモデル化。
- ・研究対象システムのシミュレーション実験。
- ・月例発表会を実施。
- ・論文の完成。
- ・成果を卒業研究発表会にて報告。

**<成績評価>**

取組み姿勢，成果物（モデル，卒業論文），月例発表会，および卒業研究発表会を総合的に評価する．

**<受講に当たっての留意事項>**

冬休み期間中もゼミは継続して行う．期間中，卒業研究発表会の練習を繰り返し実施する．

（関連する学習・教育目標：F）

## 【白井研究室】 Bコース

### <授業目的>

事業経営上問題となる諸問題について、モデリング数学、オペレーションズ・リサーチ（OR1）およびシミュレーションで取り上げた問題に対して、OR1では、テーマ毎に最適な解を求める手法を修得した。卒業研究では、経営工学に関することと金融工学について卒研のテーマとして取り上げることにする。また、これらの研究の検証ツールとしてオープンソース・ソフトウェア（Scilab/scicos, Gnuplot, Maxima, R など）を活用することとする。

### <授業内容>

#### (1)卒業研究主要テーマ

卒業研究1：経営工学に関するテーマ

卒業研究2：金融工学に関するテーマ

#### (2)以下のことを重視して授業を進める。

##### a. 問題解決能力特に問題発見能力

漠然とした問題を解決可能な問題に定式化すること。

##### b. 定量化の考え方

・リスクを考慮したバランスの取れたポリシーのもとに定量化する。

・不確実性の定式化、特に金融工学では重要である。

#### (3)その他

卒論の研究テーマは、経営工学・金融工学に関することであれば何を選んでもよい。

### <成績評価方法>

授業における発表に対して次の項目を評価する。

(1)経営工学・金融工学の考え方およびこれらの手法の修得すること。

(2)卒業研究が次の条件を評価対象とする。

a. 研究対象または研究方法が新しいこと。

b. 経営工学・金融工学上の問題に対する定量的モデルを扱うことにより事業経営上有益な提案であること。また、この提案はオープンソース・ソフトウェアによる評価結果を提示すること。

### <教科書・参考文献>

- ・モデリング数学、オペレーションズ・リサーチ1およびシミュレーションで使用した教科書および配布資料
- ・輪読にテキストを使用する。
- ・必要の都度資料を配布する。

### <受講に当たっての留意事項>

- ・モデリング数学、オペレーションズ・リサーチ1およびシミュレーションしていることが望ましい

### <学習到達目標>

自ら問題を発見し、問題を定式化し、データに基づいた計量分析ができること。さらにその問題を解決する能力を育成すること

（関連する学習・教育目標：F）。

## 【高木研究室】 Aコース・Cコース

### ＜授業目的＞

情報の人・物・金と同様に、重要な資源あるいは資産ととらえ、データベースの作成（A分野）や、企業や産業情報の収集／解析（C分野）など、企業や行政などの組織や一般社会に実態として存在する情報の利活用に関する研究を行います。どちらの分野でも、情報検索などにより現状把握を行ってマクロ的視野を持つことにより、大量の情報に振り回されず自分の意志で目的を設定し、自ら必要な情報を活用できるようになることをめざします。

### ＜授業内容＞

【A分野：データベースの構築】一定の条件に該当する情報を収集・整理・加工し、情報を必要な人に Web から提供できるようなデータベース（DB）構築を目指す。作成した DB は一般に公開しているので以下の URL を参照してください。栄養計算データベース、慣用句データベースは 1 日200件以上の閲覧があります。

<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/DB/DB.html>

【C分野：情報・知識管理】現状の調査情報にもとづいて自分の意志で設定したテーマに関する、基礎知識や最新情報・専門情報を収集し、目的規定文（主張点／仮説）を設定する。できる限り多くの情報を集め、それらを整理・加工した情報に基づいて、合理的（論理的）に主張点や仮説を説明できるようになることをめざします。先輩のテーマは以下の卒論DBで、「高木研究室」のキーワードを使って検索してください。

<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/soturon/>

### 卒業研究 1

A / C 分野共通で、情報の利活用能力の基本的な概念を理解するため情報リテラシーに関する論文を輪読します。また卒業論文の課題を設定するために必要な現状調査／情報収集方法の指導を行い、終了時までに仮課題を設定する。

A 分野を選択した場合は、DB に関する基礎技術を習得するため namazu、cgi、PostgreSQL などのサンプルを Linux 環境で稼動させる。

C 分野を選択した場合は、仮の題に基づき図書情報を中心とした情報収集を行い論文の目標規定文、主張点・仮説の作り方を学ぶ。

### 卒業研究 2・3

A 分野は卒業研究 1 で決めた DB の使用仮説を作成し、全体の構成とデータの列名・型、データベースの構成を決定しデータベースの作成に着手する。同時に著作権に触れないように対象となるデータの収集を行う。データベースが稼動したら、稼動状況の確認・評価と、収集した情報の解析を行う。

C 分野を選択した場合は目標規定文に従い情報収集に着手する。図書、新聞、雑誌記事、統計資料、官公庁の情報などを目的に応じて収集します。図書10点、雑誌記事5点、新聞記事1点、Web ページ0.5点として合計200点以上の情報に基づいて、個人の意見ではなく既存の論文やデータを使用して、目標規定文を論理的に説明できる論文を作成できることを目標とする。

### ＜成績評価＞

卒業研究 1・2・3

卒業研究課題に参画する態度、レポートの内容、最終報告書、中間発表会（卒業研究 2）、総合的な理解度（卒業研究 3）により評価する。

### ＜教科書・参考文献＞

必要に応じ資料を配布する。

### ＜学習到達目標＞

必要な原文情報の範囲を認識して収集し、収集した情報の整理／加工／分析ができるようになる（35%）

情報に基づいて判断を行う態度が重要であることを認識できる（35%）

基本的な情報技術を理解できる（30%）

（関連する学習・教育目標：F）

## 【竹並研究室】 Aコース・Cコース

### 授業目的と研究内容

情報システムの分析、設計、活用について研究する研究室です。情報システムの分析、設計について研究する人（Aコース）にとっては、分析対象であるビジネスの仕組みについて理解することが、良い情報システムを開発するための必要条件です。また、情報システムがビジネスのどのような場面で活用されているかを、組織と経営の視点から研究する人（Cコース）は、情報システムの作り方を理解していることが必要です。したがって、両分野の人が一緒に研究することに意味があります。C分野でも、システムやコンピュータに興味のあり人が向いている研究室です。

卒業論文のテーマは、各自の自由な判断をもとに決めますが、例えば、特定のビジネスを対象としたシステム設計、企業における先進的な情報システムの調査と提案、システム開発手法の研究、システムトラブルの事例分析、アンケートによる情報化社会の進展状況調査などです。具体的には、竹並研究室のホームページに過去のゼミ生のテーマ一覧があるので参考にしてください。

### 卒業研究 1

Aコース、Cコースに関係なくゼミ生全員が同時に以下の演習を行う。その間に各自が興味のある分野に関する情報を集め、教員と相談して卒業論文テーマを決める。

#### (1) 情報システムの分析、設計

システム化の対象となるビジネス業務を分析し、新しい情報システムを設計する代表的方法として、構造化分析、設計手法を理解し、習得する。ビデオによる学習と、実例を使ってDFD、ERD、データベースを作成する演習をグループで行う。

#### (2) ビジネスの理解

情報システムの適用の場であるビジネスの利益造出の仕組みを理解するために、簡単なビジネスゲームを行い、損益分析の方法を習得する。また、「情報システム特論」を履修し、最新の情報化社会の動向を外部講師から学ぶ。

**成績評価方法：**ビジネスプロセスを分析して、情報システムを設計する方法についての理解度を、4～5回の演習課題レポートの内容と演習への取り組み態度で評価する。

### 卒業研究 2

各自の卒業論文テーマに関する文献、書籍等を読み、要旨をまとめて毎週発表し議論する。各自のテーマに関する企業訪問調査やアンケート調査の実施結果報告、システム設計やプログラムの開発経過報告などを行っても良い。発表を通し、論理的な記述力、口頭発表力、コミュニケーション能力を身につける。

論文のまとめ方を指導し、各自の卒業論文の目次と、記述内容の概要を決定する。

**成績評価方法：**発表内容と発表回数、討論への参加度などを総合して、自ら問題を設定し、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解をくわえて記述し発表する能力を評価する。

### 卒業研究 3

卒業論文の記述原稿を章単位で提出させ、中間チェックし、記述内容と記述方法について指導する。論文を完成させるための追加調査、プログラムとドキュメンテーションの完成などを指導する。

**成績評価方法：**卒業論文の中間提出の状況とその内容で、自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解をくわえて記述する能力を評価する。

### 卒業論文

自主的、継続的に学習できる能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力について、卒業論文の内容（記述内容の理解度、論理性、独創性など）、作成過程、発表会での発表を総合して評価する。

### 学習到達目標

自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解をくわえて記述し発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育目標：F）

## 【槻木研究室】 Aコース・Dコース

### 1. 卒研の方針

A分野もD分野も、問題を解決する手段として自ら適切なプログラムを設計し作成する。プログラムの作成過程と実行結果から、提案した解決策を考察評価する。

具体的には

#### (1)新しい情報システムの提案とプロトタイプを作成

興味ある分野のビジネスにおいて新しい情報システムを提案し、そのプロトタイプ（プログラム）を作成する。

その実行結果を考察して提案システムを評価する。

#### (2)問題解決のためのプログラムの作成

ビジネスとは直接関係しなくても、自ら興味ある分野において発見した問題を、コンピュータを利用して解決する方法を考える。その解決策を実現するプログラムを作成し、実行結果から解決策を考察評価する。

(1)、(2)とも原則としてJava言語を使用してプログラムを作成するが、特に使用言語に希望があればできるだけ考慮する。過去のテーマに関しては、本学のホームページから「卒業論文データベース」に入り、“槻木”で検索して調べること。

### 2. 留意事項

プログラムは必ず動くものを作成することを要求する。プログラムが動かなければ、卒論を書くことができない。

卒業研究3の中間発表会では、各自が作成したプログラムのデモンストレーションを行う。

### 3. ゼミの選考方法

当研究室を希望する可能性のある人は、事前に必ず研究室を訪問すること。「プログラムを創る」ということを説明するので、自分として可能かどうかを十分に納得してから希望すること。

### 4. 卒業研究1

#### 【授業内容】

- ・オブジェクト指向技法とJava言語の学習として、Java関係の図書を輪講する。
- ・提示されたサンプルプログラムを模倣し、Javaプログラミングの基本を習得する。
- ・冬休みのHomeWorkとして、各自が個別にサンプルプログラムを作成して説明する。
- ・新しい情報システムや技術動向などに関わる参考文献を各自調査し発表説明する。  
改善点や疑問点などを討論し、新しい適用分野とか代替方式などを検討する。
- ・各自が卒業研究テーマを考えて全員で討論し、卒業研究1の終了時にはテーマ名を確定する。

#### 【評価方法】

ゼミにおいて討論等への参加態度、サンプルプログラム・HomeWorkの作成状況、輪講および参考文献の発表内容、卒研への意欲などを総合的に判断する。

#### 【受講に当たっての留意点】

プログラミングを忘れないようにするため、春休み中も継続してゼミを開く。

### 5. 卒業研究2

#### 【授業内容】

- ・設定したテーマに沿ったプログラムを作成する。必要に応じて提供されたサンプルプログラムを参考にして進める。
- ・プログラム作成は各自個別に進め、ゼミでは進捗状況、未解決のバグの有無、改善点などを全員で解決策を討論する。
- ・設定したテーマに関連した参考文献を調査発表し、自分のテーマに関しての足元を固める。

#### 【評価方法】

テーマ取組みの積極性、プログラムの進捗状況、参考文献の発表内容、討論への参加態度、卒研への意欲などを総合的に判断する。

#### 【受講に当たっての留意点】

夏休みにはグループ別に集中ゼミを2回ほど開き、プログラム作成の個別指導を行う。プログラム作成の進捗度の遅い人は必ず参加することを求める。夏休み終了時にプログラムがほぼ完成していないと間に合わない。

### 6. 卒業研究3

#### 【授業内容】

- ・各自、プログラムを完成させる。



- ・ 9 月末か10月初に中間発表の場として当研究室の3 年次、4 年次の合同ゼミを開催する。ここで、各自が作成したプログラムのデモンストレーションを行い、他のゼミ生から評価を受ける。
- ・ 評価の結果、必要なプログラムの追加、修正を行う。
- ・ 卒業論文を作成する。

**【評価方法】**

卒研テーマ取組みの積極性、プログラムの完成度、中間発表会の評価、卒論作成への意欲などを総合的に評価する。

**【受講に当たっての留意点】**

作成したプログラムをゼミ生全員の前でデモンストレーションすることにより、「動くプログラム」として認定する。

**【学習到達目標】**

自ら発見した問題の解決策や新しい情報システムの提案を、「実際に動くプログラム」を作成して検証、評価できる能力と、その結果を考察し自らの見解を加えて論文として記述し発表する力を育成する。

(関連する学習・教育目標：F)

## 【中田研究室】 Dコース

### ＜授業目的＞

人の様々な活動を支援するためのコンピュータシステム（またはプログラム）について研究する。まず自ら課題を見つけ、その課題を克服するためのシステムを設計し、構築する。そして構築したシステムが本当に課題を克服できているかを自ら評価する。また、自ら行ったことを他者に分かりやすく説明するために、論文を記述して発表することを学ぶ。

### ＜授業内容＞

卒業研究1: 研究テーマの検討, 基礎技術の習得

- ・ 研究テーマの検討
- ・ 既存研究の調査
- ・ プログラミング実習
- ・ 研究の進め方について

卒業研究2: それぞれのテーマに従って研究の実施

- ・ 既存研究の調査
- ・ 研究テーマの決定
- ・ それぞれの研究テーマの実施
- ・ 輪読

卒業研究3: 研究成果のまとめと発表

- ・ 研究に関するゼミ発表
- ・ 卒業論文の執筆, 提出

### ＜成績評価方法＞

プログラミング実習の進捗度合い, 輪読の文献に対する理解度, それぞれの研究の進捗度合い, 卒業論文, その発表を基に成績を評価する。

### ＜学習到達目標＞

社会や人に対する課題を発見し, その課題を克服するための方策を考案し, 実際にコンピュータを用いて解決する力を身につける。そして行った研究から得られる知見を整理し, 広く公知できるように論文を執筆し, 発表できることを学習する。

(関連する学習・教育目標:F)

## 【西山研究室】 Aコース

### <授業目的>

- ① 卒業研究の意義は、研究のプロセス（テーマの設定から成果の発表まで）自体を学習することにある。
- ② 本研究室の卒業研究の全体主題は、“人間活動とソフトウェアシステムの係わりに関する研究”とする。このテーマの下に各自サブ研究テーマを設定し、問題を分析し、その解決案を提案し、その有効性を検証するまでの一連のプロセスを実行する。
- ③ はじめに研究の共通基盤として、主として“人間活動とソフトウェアシステムの係わり”に関するさまざまな資料をベースに、人間活動にとって、ソフトウェアシステムとは何か、課題は何かを学ぶ。併せて、問題分析法、検討結果のまとめ方についても学ぶ。
- ④ 卒業研究のテーマは、全体主題の下に、自分のアイデアや問題意識から自由に選ぶことができるが、問題に対してさまざまな手法を用いて適切な分析・評価、整理を行うことが基本である。
- ⑤ 研究成果は研究論文（または新規事業開発の事業計画書）の形でまとめる。

### <授業内容>

卒業研究1：人間活動とソフトウェアシステムの係わりに関する調査・検討

- ① 各自がインターネットやその他のソースから人間活動とソフトウェアシステムの係わりに関するさまざまな資料を収集し、事例発表により課題などを洗い出す。また、統計的手法等さまざまな分析法についても学習する。
- ② 自己の研究関心テーマ探索・設定するとともに、自己のキャリアを構想する。
- ③ 研究テーマに関する課題分析と課題解決のアイデアを構想し、仮説の設定を行う。

卒業研究2：人間活動とソフトウェアシステムの係わりに関する課題分析・評価及び解決法の検討

- ① 各自の研究テーマに関する進捗状況の報告と内容に関する討論（研究計画～中間発表）を行う。
- ② 研究テーマに関連する先行事例・研究に関する文献資料を調査・評価してその結果を発表し、各自の独自の問題を明確に設定する。
- ③ 問題を生じさせる根本原因とそれを取り除く方法（解決案）を整理（仮説立案）し、発表する。

卒業研究3：人間活動とソフトウェアシステムの係わりに関連する各自の研究結果のとりまとめ

- ① 研究の進捗状況について報告し、途中結果についての発表および内容に関する討論を行う。
- ② アンケート調査、シミュレーション実験、あるいは試作を行って収集したデータを分析して問題点の所在を明らかにし、その解決案提示し（仮説）、さらにその有効性を実証的に検証する。
- ③ 各自の研究上の問題点とその解決策の検討研究会での報告の準備、卒業論文の構成内容、文章表現など、研究のまとめ方と成果の発表について個別に指導する。また、優秀な研究は、情報システム学会等の全国大会等への報告も考える。

### <成績評価>

1) 卒業研究1～3（演習）の評価要素：

- ・研究会への出席状況
- ・研究会における討論への参加態度
- ・日常の研究態度と研究への取り組み姿勢、および研究会での報告・発表の内容

2) 卒業論文（成果物そのもの）の評価要素

- ・問題設定の具体性：解決すべき問題が何であるかが明確に定義されていること。
- ・論理の一貫性：文章／表現が明快かつ構造的であること。
- ・新規性／独創性：自分の考え方／アイデア／事業コンセプトなどが提示できていること。
- ・有効性：調査アンケートや実験データの分析などにより、説得力をもって客観的に有効性や事業性が示されていること。

3) 卒業論文（発表）の評価要素：

- ・プレゼンテーションの構成スライドの表現、口頭発表の明瞭性、質問への的確な応答など。

### <学習到達目標>

さまざまな情報ソースから自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、あるいは実験・製作し・自らの見解を加えて記述し発表できる。（関連する学習・教育目標：F）

### <授業の進め方>

- 1) 卒業研究1～3の期間は、卒業後のキャリア形成の第一歩を決める大事な時期でもある。そこで卒業研究では「研究会」で演習を行いながら、各自の「卒業研究プロジェクト」と「進路・就職プロジェクト」を並行して指導する。2つのプロジェクトの遂行は、各人が自主的に自分の責任において行い、目標達成まで努力しなければならない。
- 2) 卒業研究3の研究会に卒業研究1の3年生が参加する機会を設け、研究の進め方テーマに関する討論を共有し 刺激を受けることができるようにする。

## 【二瀬研究室】 Bコース

### <授業目的>

本研究室では、広く“人間を理解すること”を全般的な目標とする。卒業研究1では、研究を始めるために必要な“文献を読む力”、“まとめる力”、“発表する力”を養うことを目的とする。卒業研究2、3では、上記の基礎能力に加え、“自分で問題提起し、解決方法を立案し、計画を立てその計画にそって継続的に研究を進める力”を養うことを目的とする。卒業論文では、これらの能力に加え、“自分の研究の意義および方法論、結果などをまとめる力”を養う。

### <授業内容>

卒業研究1：研究を行う上での基礎能力を養う

- ・研究法に関するテキストを輪読（担当箇所については発表）
- ・文献輪読（担当箇所についてはプレゼン）
- ・卒論テーマの検討

卒業研究2：それぞれのテーマについて研究

- ・卒論テーマ決定
- ・先行研究の調査およびまとめ
- ・研究計画書作成およびプレゼン（研究目的・研究方法などを明確にする）
- ・順次研究開始

卒業研究3：結果のまとめ（順次、ゼミにおいて進捗状況を報告）

- ・研究活動
- ・結果のまとめ
- ・考察
- ・成果報告方法（卒業論文、プレゼン）の指導

### <成績評価>

卒業研究：①発表及び報告50点、②研究に取り組む姿勢・態度30点、③ゼミにおける討論の参加態度20点

卒業論文：①卒業論文（問題設定の新規性および具体性、論理の一貫性、研究手法の妥当性、研究結果のまとめの客観性）50点、②発表30点（スライド構成、発表態度、質問に対する受け答え）③研究態度20点（研究の継続性、自主性）

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し、計画を立て、それにしたがって計画的に情報収集および研究を行う。さらに、その結果に自らの見解を加え、その成果を論文としてまとめ、発表する能力を養う。

（関連する学習・教育目標：F）

## 【藤瀬研究室】 Bコース

本研究室では、主に健康・スポーツ科学関連の分野について研究指導を行います。その内容は幅広く、人間にとって最も身近な身体の構造（形態・組成）や機能（基礎体力・競技力）の研究から、少子高齢社会における介護や医療システムの問題等についての研究にまで及びます。そういう中から選択されたテーマについての文献を精読して、関連するデータを実験・測定・アンケートなどによって収集し、統計的手法を用いて分析していきます。以下に主なキーワードを示しましたので参考にしてください。

（身体関連）肥満、隠れ肥満、体脂肪率、BMI、ウエスト・ヒップ比、ボディイメージ、痩せ願望  
（体力関連）1RM、VO<sub>2</sub>max、エネルギー消費量、トレーニング、競技力、スポーツシステム  
（健康関連）生活習慣病、運動不足、食事、栄養、睡眠、喫煙、性感染症（STD）、エイズ、HIV  
（その他）少子化、高齢者、介護、障害者、ノーマライゼーション、医療費、医療過誤

### <授業目的>

卒業研究1・・・健康・スポーツ科学関連の文献を読み、基礎知識を身に付ける。  
卒業研究2・・・卒業論文のテーマを決め、その研究目的及び研究方法を完成させる。  
卒業研究3・・・卒業論文の結果、考察、結語、及び要旨を完成させる。

### <授業内容>

卒業研究1・・・1) ガイダンス  
2～5) 抄読会（文献をまとめて報告：3人/回）  
6) ビデオ鑑賞（感想・意見等をレポートにまとめる）  
7～10) 抄読会（文献をまとめて報告：3人/回）  
11) ビデオ鑑賞（感想・意見等をレポートにまとめる）  
12) まとめ（主なキーワードについて解説する）  
13) 筆記試験（30点満点）  
14～15) 卒業研究計画書の作成（現時点での考えをまとめる）

卒業研究2・・・1～3) 卒業論文のテーマ及び緒言の作成  
4～7) 抄読会（論文テーマに関する文献をまとめて報告：3人/回）  
8) ビデオ鑑賞（感想・意見等をレポートにまとめる）  
9～12) 抄読会（論文テーマに関する文献をまとめて報告：3人/回）  
13～15) 卒業論文の研究手法の作成及びデータ収集の準備

卒業研究3・・・1～4) 第1回卒業論文経過報告会のための準備と経過報告  
5～9) 第2回卒業論文経過報告会のための準備と経過報告  
10～13) 卒業論文の作成（ゼミ合宿も予定している）  
14～15) 卒業論文発表会の準備と発表

### <成績評価方法>

卒業研究1・・・演習点40点、課題点30点、筆記試験30点（遅刻等による減点あり）  
卒業研究2・3・・・演習点60点、課題点40点（遅刻等による減点あり）

### <受講に当たっての留意事項>

課題やその他のゼミ活動に対して積極的・協力的に取り組み、無断欠席や遅刻をしない学生を望む。また、出席回数が2/3に満たない者や無断欠席を3回行った者には原則として単位を与えない。  
（関連する学習・教育目標：F）

## 【山口研究室】 Bコース

### <授業目的と内容>

この研究室のテーマは、『地域と社会における情報システムの設計』です、そして、地理情報システムと行政情報システム、これがこの研究室のキーワードです。

つまり、実社会の中で、実社会や組織のために使われる情報システムを設計することが大きな目標です。

さて、情報というものは、食べたり飲んだりすることはもちろん触ったりすることもできません。人間が日常生活と行動をするというのは、たとえば飲んだり食べたりするという、物理的に身体を動かすことです。そういう人間の行動が情報というものによってどのように行われるかという問題が認識できなければ情報化社会などというものは理解できないと思います。人間は、いわゆる五感あるいは六感というもので情報に接するわけですが、そういう情報は行動を左右するものであるわけです。つまり、情報は人々が何らかの行為・行動をするためのきっかけや動機となり、あるいは選択して決定するために頭脳の中で使われるものです。何らかの信号と考えたほうがいいかもしれません。こういう見方で、情報と人間の関わりを考えて行くことにしますが、個々の人間について個人個人の問題としてではなく、地域社会とか組織とかの大きな一つの集団として、情報が日常生活や行動にどのように影響しているのかという問題を根本的なテーマにしています。

平易な言い方に言い換えれば、道路の信号機や標識などが交通をうまく流れるようにしているように、人間社会や地域社会の中で、情報という信号が人々の間を伝わって行くことによって、人々の生活や行動が便利になったり楽になったり面白くなったりしているわけです。

要するに、その信号としての情報をどうやって伝えるか、それがどういう仕組みで行われているか、それを理解することが目標です。信号の伝わり方と言いますと、電線の中を電子が流れて行くようなことをイメージしますが、もちろん、そういう電気通信、つまりネットワークの理論や技術的知識も必要ですからそのことについてもテーマの一つとして扱っています。

しかしながら、情報というものはどこで発生してどこへ流れて行くのかという、最上流から最下流までの全体を十分理解することが重要で、その上で、流れ方について考えたほうが実社会の情報化問題というものは見えて来ると考えています。

今までこの研究室では社会における情報システムの役割や意義について、特に行政に関わる情報システムを扱って来ました。ただし、ソフトウェアやハードウェアといういわゆるコンピュータシステムとしての情報システムを分析するのではなく、そのコンピュータシステムは情報を流れさせることによって人間の何らかの行為・行動を支援するために存在するわけですから、人間社会の仕組みとコンピュータシステムの関わりということに焦点を置いています。

具体的にお話ししますと、役所の情報システムとは何かということで、行政におけるある一つの情報システムに着目してそのシステムは市民の生活や行動をどうしようとしているのか、つまり意義・目的は何か、そして構造・構成はどうなっているか、課題は何か、改善するためにはどうすればいいか、という問題認識から現場調査を行い考えます。ここでもその行政情報システムが扱っている情報の流れに注目して、最上流はどこか、最下流はどこでどのような流れ方をしているのか、その結果市民の生活や行動はどう変化するのかというような視点で研究をして行きます。

もう一つは、人間は地面の上や空間の中で日々行動し生活しているわけですから、地面や空間の情報というものは本来とても重要なものであるはずですが。その地面や空間の情報を扱うための情報システムが地理情報システム（GIS）と呼ばれて来たもので、地図を電子的に処理し位置情報を中心に動くために、専門の知識・技術が必要になります。この研究室では、地理情報システムの基礎的な理論や技術を勉強することはもちろん、現物の地理情報システムの操作方法を身につけて、そのシステムをどのように活用すればよいかということを考えて行きます。

### <卒業研究1の内容> 実習を中心とした地理情報システムの基礎理論・技術の理解

文献による行政情報システムの基礎的理解  
都市計画システムの基礎的理解

### <卒業研究2の内容> 事例調査・フィールドワークによる地理情報システムの適用可能性の理解

事例調査・フィールドワークによる行政情報システムの現況理解  
事例調査・フィールドワークによる都市計画システムの現況理解

### <卒業研究3の内容> 実社会に適合する情報システムの設計と論文作製

〔参考：今までの卒業研究論文の例〕

公共施設予約システムの現状と問題点に関する事例研究

地方自治体における公共施設の広域利用の実現可能性に関する事例研究

自治体における従来の適正都市規模論の再検討

行政の情報化におけるセキュリティーポリシーのあり方に関する基礎的研究

アンケート調査による電子メールの使い分けに関する基礎的研究

プライベート時間の電子メール生活の実態に関する研究

市役所のコミュニケーション手段としての電子メール活用の実際と問題点  
地方自治体ホームページの機能役割による評価  
固定資産課税業務における地理情報システムの現状に関する研究  
新潟市の消防緊急通信指令システム拡充計画におけるGIS活用の問題点  
システム思考によるタクシー配車システムの基本設計

<成績評価>

卒業研究1・2・3は、出席を前提として、発表（プレゼン）が60点、そのレジメの内容を含めたレポートが40点の100点満点で評価する。

<学習到達目標>

現実の社会事象・社会問題に対してシステム思考を行えるようになること  
システム思考を実証するために自ら現場へ取材、調査、データ収集に行くこと  
そのデータを分析する理論・技術を身につけること  
システム思考の結果として『物語』を書くこと  
(関連する学習・教育目標：F)

## 【山下研究室】 Cコース

### <授業目的>

山下研究室では、管理会計と原価計算を中心とした会計学について研究します。

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。管理会計は、企業内部の「計画と統制のための会計」と、「意思決定のための会計」に分けることができます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。

原価計算は、管理会計に関連が深い学問領域であり、物やサービスの原価を計算することが中心となっていますが、計算そのものだけではなく、原価管理も含まれることがあります。その他にも、簿記学、経営学、生産管理などが主な周辺領域として挙げられます。

管理会計で最も大切なことは、「会計情報を利用する」ことです。そして、企業の目標とは究極的には利益を獲得することです。ゼミでは、会計情報を利用してより多くの利益を獲得する方法について議論します。

### <授業内容>

#### 卒業研究 1

- ・管理会計のテキストを輪読して、基本的な知識を身につけます。
- ・卒業論文のテーマを検討します。

#### 卒業研究 2

- ・卒業研究 1 よりも発展的な内容のテキストを輪読します。
- ・事例研究（ケース・スタディ）の演習を行い、管理会計の実務について討論します。
- ・卒業論文の構成について検討し、中間発表を行います。

#### 卒業研究 3

- ・各自の卒業論文のテーマに関連した内容のテキストを輪読します。
- ・卒業論文の構成及び内容について、個別に指導を行います。
- ・卒業論文発表会を行います。

### <成績評価>

ゼミへの出席、討論への参加状況、卒業論文の内容、卒業論文発表会等、ゼミにおける活動全般について総合的に判断して評価します。やむを得ない理由でゼミを欠席する場合は、事前に連絡をしてください。無断欠席は好ましくありません。ゼミに毎回出席することが、管理会計に限らず、専門的な知識を身につけることの早道です。

### <留意事項>

山下研究室では、以下のような学生、またはこれからそのようになりたい学生を求めています。

- ・世の中の様々な現象に深く関心を持っている人。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。
- ・世の中の流行に惑わされない人。自分自身の考えを持つことが大切です。
- ・自動車・電機・機械などの製造業（物づくり）が日本の産業の中心であると考えている人。情報、金融、その他のサービス業、農業などももちろん重要なのですが、それらの産業は、製造業が築いた確固たる土台の上で成り立っています。そして、管理会計や原価計算の基本は製造業です。

山下研究室に配属が決定した後の留意事項は、以下のとおりです。

- ・研究室配属後に山下担当の情報システム演習がある場合は、必ず出席してください。
- ・卒業研究 1 が始まる前までの間は、日商簿記検定のテキストを使用して自習し、会計学の基本的な知識を修得してください。分からないところがあれば、個別に指導を行います。
- ・山下担当の講義科目である、財務会計（3年前期）と管理会計（3年後期）を履修してください。

### <学習到達目標>

管理会計について理解し、深く関心を持ち、大学の中だけではなく日常生活全般においても知的好奇心を絶えずはたらかせて、その中から自分自身が疑問に思っている問題点を明らかにし、それを管理会計の論文として表現できるようになることを目標とします。

（関連する学習・教育目標：F）



## 【吉田研究室】 Cコース

### <授業目的>

さまざまな企業・組織のマーケティング活動（モノ・サービスの企画開発、販売に当たっての流通・広告、企業・商品・サービスを伝える情報発信）及びマーケティングの対象となる消費者・生活者、マーケティングに影響を及ぼす社会・経済、技術等の外部環境に関する調査・研究を行なう。

具体的な事例の調査研究や文献・資料購読による学習を通じてマーケティングに関しての知識を修得するとともに、情報の収集分析、独自調査（現場でのフィールドワーク、アンケート）の実施・分析、企業・組織・ベンチャー・地域等に係わる具体的事例を対象にしたマーケティング計画・活動を考える演習を行い、実践に役立つマーケティング能力を身につけていくことを目的とする。

### <授業内容>

#### ① 卒業研究1（3年後期） マーケティングの知識修得、自主的な調査研究・グループワーク

マーケティングの基本知識・体系、調査方法を学習するとともに、具体的な企業・組織の事例を通じて、多様なマーケティング活動の実態と、そのとらえ方を理解する。

個人ないしグループ単位で企業・業界・市場・地域に関連したテーマを取り上げ、情報の収集・分析、論理的な思考展開、新たな企画・事業の立案、プレゼンテーション等（必要に応じて現場にて）を行い、マーケティングに対する知識と能力を身につける。

4年生の卒業論文の発表に参加し、卒業研究について学習する。

#### ② 卒業研究2（4年前期） マーケティングの理解、卒業研究のテーマ設定と情報収集

マーケティングの知識・事例研究を通じ、マーケティングに関する理解力と実践力を身につける。

卒業研究のテーマを決めるための情報収集を行い、テーマの決定、独自調査の実施を検討し、実施する場合は、アンケートや現地調査を行う。テーマに関連した文献、論文、資料、データを収集し、分析を行う。調査の実施、資料の収集・分析、研究のポイント・進め方等について個別に指導する。

#### ③ 卒業研究3（4年後期） 研究のまとめと卒業論文の作成

卒業論文のまとめ、執筆に取り組み、個別に指導する。ゼミ内で発表して、相互に議論し合い、内容を充実させていく。

情報の収集、研究の方向性、論文の作成、文章表現、プレゼンテーション等について、必要に応じて個別に指導する。

### <成績評価>

日常の自発的な学習態度、ゼミ内でのレポート・発言、グループワークでの活動、卒業研究の進め方、卒業論文の内容、プレゼンテーションにより評価する。

卒業論文については、「テーマ」のとらえ方、情報の収集、独自調査の実施、視点・分析の独自性、論理の一貫性、文章力、提案の内容などで評価する。

### <学習到達目標>

企業や組織におけるマーケティング活動を理解する能力や感度を身につけるとともに、具体的な事例研究、自身でのプラン・提案づくり、卒業論文の作成を通じて情報収集・分析能力、論理的思考力、企画力、プレゼンテーション能力を育成する

（関連する学習・教育目標：F）

### <留意事項>

取り上げるテーマについては企業のマーケティングの他に、まちづくり（行政や市民によるマーケティング）、ベンチャービジネス・起業、NPOをも対象とする。

研究室の選考にあたり、配属人数を超えた場合は、2年次の「マーケティング講義」の成績、志望動機（訪問時のインタビュー、志望書）に加え、ゼミでの議論や活動が活発化するよう、「自主性、積極性」、「グループワーク」を重視し、異なった能力・関心をもつ学生によって構成されるよう考慮する。

当研究室のホームページを参照してください（<http://www.nuis.ac.jp/~hyoshida/>）



MEMO

---



# Niigata University of International and Information Studies

